

2 0 2 3年度
事 業 報 告 書

社 会 福 祉 法 人
聖 隷 福 祉 事 業 団

2023年度 事業報告書 目次

2023年度事業報告	…	1
2023年度事業成績報告	…	6
聖隷三方原病院	…	8
聖隷おおぞら療育センター	…	12
三方原ベテルホーム	…	14
聖隷浜松病院	…	16
聖隷淡路病院	…	19
聖隷横浜病院	…	21
聖隷佐倉市民病院	…	23
浜松市リハビリテーション病院	…	25
聖隷袋井市民病院	…	27
＜保健事業部＞ 聖隷健康診断センター 聖隷予防検診センター 地域・企業健診センター 聖隷健康サポートセンターShizuoka	…	29
＜和合せいれいの里＞ 和合愛光園 和合愛光園和合サテライト 生活支援ハウスやまぶき 障害者支援施設みるとす 聖隷トライサポート和合 和合愛光園デイサービスセンター 聖隷放課後クラブはなえみ和合 聖隷こども発達支援事業所かるみあ和合 聖隷こども発達支援センター和合 聖隷チャレンジ工房和合 相談支援事業所くすのき 浜松市中障がい者相談支援センター 聖隷ヘルパーセンター 聖隷ケアプランセンター和 地域包括支援センター和合 訪問看護ステーション住吉	…	33
＜聖隷ケアセンター初生＞ 和合愛光園初生サテライト 聖隷デイサービスセンター初生	…	37
＜聖隷ケアセンター高丘＞ 訪問看護ステーション高丘 聖隷リハビリプラザIN高丘 地域包括支援センター高丘 聖隷ケアプランセンター浜松	…	39
聖隷コミュニティケアセンター	…	41
浜松市生活自立相談支援センターつながり	…	42
＜聖隷厚生園信生＞ 聖隷厚生園信生寮 聖隷厚生園まじわりの家 訪問看護ステーション細江 聖隷ケアプランセンター細江 聖隷ヘルパーセンター浜松北	…	44
＜聖隷厚生園讃栄＞ 聖隷厚生園讃栄寮 生活訓練事業所ナルド 地域活動支援センターナルド 障害者相談支援事業所ナルド 福祉共同住宅ファーストステップ	…	46
聖隷厚生園ナルド工房	…	48
＜浜松学園＞ 聖隷チャレンジ工房浜松学園 聖隷ワース工房浜松学園 聖隷ステップサポート	…	50
もくせいの里	…	53
＜いなさ愛光園＞ いなさ愛光園特別養護老人ホーム いなさ愛光園デイサービスセンター 聖隷ケアプランセンターいなさ いなさ愛光園在宅介護支援センター いなさ愛光園ヘルパーステーション ほのぼのケアガーデン	…	55
＜聖隷ケアセンターいなさ＞ 地域包括支援センター細江 聖隷リハビリプラザいなさ	…	57
＜聖隷ケアセンター三方原＞ 訪問看護ステーション三方原 聖隷ケアプランセンター三方原 聖隷デイサービスセンター三方原	…	59

【 対応する拠点区分（会計） 】

聖隷三方原病院
聖隷おおぞら療育センター あさひ 児童発達支援センターひかりの子
三方原ベテルホーム
聖隷浜松病院
聖隷淡路病院
聖隷横浜病院
聖隷佐倉市民病院
浜松市リハビリテーション病院
聖隷袋井市民病院
保健事業部 聖隷健康診断センター 聖隷予防検診センター 聖隷健康サポートセンターShizuoka
和合せいれいの里（介護） 和合せいれいの里（児童） 和合せいれいの里（障害）
聖隷ケアセンター初生
聖隷リハビリプラザIN高丘 高丘地区在宅複合事業（公益）
聖隷コミュニティケアセンター 浜松市生活自立相談支援センターつながり
聖隷厚生園信生寮
聖隷厚生園讃栄寮 聖隷厚生園障害在宅事業（浜松）
聖隷厚生園ナルド工房
浜松学園
もくせいの里
いなさ愛光園
聖隷リハビリプラザいなさ 引佐地区在宅複合事業
聖隷デイサービスセンター三方原 三方原地区在宅複合事業

2023年度 事業報告書 目次

聖隷訪問看護ステーション三ケ日 聖隷ケアプランセンター三ケ日	… 61
＜浜北愛光園＞ 浜北愛光園特別養護老人ホーム 浜北愛光園デイサービスセンター 障害者相談支援事業所浜松東 聖隷ケアプランセンター浜北 地域包括支援センター北浜 訪問看護ステーション貴布祢 聖隷チャレンジ工房浜北	… 63
＜森町愛光園＞ 森町愛光園特別養護老人ホーム 森町愛光園デイサービスセンター 聖隷ケアプランセンター森町 森町愛光園ホームヘルパーステーション 森町愛光園天宮サテライト 聖隷放課後クラブはなえみ森町	… 66
＜聖隷ぴゅあセンター磐田＞ 聖隷こども発達支援センターかるみあ 聖隷放課後クラブはなえみ磐田 相談支援事業所磐田みなみ 聖隷チャレンジ工房磐田 磐田市発達支援センターはあと 磐田市子育て支援総合センターのびのび 磐田市南部地域包括支援センター 磐田市南部障害者相談支援センター 磐田市地域活動支援センター	… 68
＜浅田地区在宅複合事業＞ 訪問看護ステーション浅田 聖隷ケアプランセンター浅田	… 71
＜浦安市高洲高齢者福祉施設及び 猫実高齢者デイサービスセンター＞ 浦安市特別養護老人ホーム 浦安市ケアハウス 浦安市高洲高齢者デイサービスセンター 浦安市猫実高齢者デイサービスセンター	… 73
浦安愛光園 障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ浦安	… 76
浦安ベテルホーム	… 78
聖隷訪問看護ステーション浦安	… 80
浦安市高洲地域包括支援センター	… 82
＜松戸愛光園＞ 松戸愛光園特別養護老人ホーム 松戸愛光園デイサービスセンター 松戸愛光園ケアプランセンター 障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ松戸	… 83
＜横須賀愛光園＞ 横須賀愛光園特別養護老人ホーム 横須賀愛光園デイサービスセンター 西第二地域包括支援センター 聖隷訪問看護ステーション横須賀 聖隷ヘルパーステーション横須賀 聖隷ケアプランセンター横須賀 聖隷看護小規模多機能横須賀	… 85
＜宝塚せいいれの里＞ 宝塚すみれ栄光園特別養護老人ホーム 宝塚すみれ栄光園デイサービスセンター 聖隷ケアプランセンターすみれ 宝塚市高齢者・障害者権利擁護支援センター	… 87
ケアハウス宝塚	… 89
結いホーム宝塚	… 91
宝塚栄光園	… 93
＜聖隷ケアセンター宝塚＞ 聖隷ヘルパーステーション宝塚 聖隷逆瀬川デイサービスセンター 聖隷ケアプランセンター宝塚 聖隷訪問看護ステーション宝塚 逆瀬川地域包括支援センター	… 95
聖隷逆瀬台デイサービスセンター 聖隷デイサービスセンターあゆむ	… 99
聖隷デイサービスセンター結い	… 101
聖隷コミュニティケアセンター宝塚店	… 102
＜花屋敷せいいれの里＞ 花屋敷栄光園特別養護老人ホーム 花屋敷デイサービスセンター 花屋敷地域包括支援センター 障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ花屋敷 聖隷訪問看護ステーション山本 聖隷ケアプランセンター花屋敷	… 103

聖隷訪問看護ステーション三ケ日
浜北愛光園
森町愛光園（介護） 森町愛光園（障害児者）
聖隷ぴゅあセンター磐田
浅田地区在宅複合事業
浦安市特別養護老人ホーム（特養） 浦安市特別養護老人ホーム（短期入所） 浦安市高洲高齢者デイサービスセンター 浦安市ケアハウス 浦安市猫実高齢者デイサービスセンター
浦安愛光園
浦安ベテルホーム
聖隷訪問看護ステーション浦安
浦安市高洲地域包括支援センター
松戸愛光園
横須賀愛光園
宝塚すみれ栄光園
ケアハウス宝塚
結いホーム宝塚
宝塚栄光園
宝塚第二地区中州在宅複合事業（社福） 宝塚第二地区中州在宅複合事業（公益）
宝塚第二地区逆瀬台在宅複合事業
聖隷デイサービスセンター結い
聖隷コミュニティケアセンター宝塚
花屋敷栄光園

2023年度 事業報告書 目次

ケアハウス花屋敷	… 105
聖隷訪問看護ステーション北神戸 聖隷ケアプランセンター北神戸	… 107
＜聖隷カーネーションホーム＞ 聖隷カーネーションホーム特別養護老人ホーム 聖隷カーネーションホームデイサービスセンター 聖隷カーネーションホーム デイサービスセンターうっこ 聖隷在宅介護支援センター淡路	… 108
＜淡路栄光園＞ 淡路栄光園特別養護老人ホーム デイサービスセンター淡路	… 110
＜聖隷ケアセンター津名＞ 聖隷訪問看護ステーション淡路 聖隷ケアプランセンター淡路 聖隷ヘルパーステーション淡路 聖隷ライフサポート津名	… 112
聖隷こども園夢舞台	… 114
＜奄美佳南園＞ 奄美佳南園特別養護老人ホーム 奄美佳南園デイサービスセンター 奄美佳南園在宅介護支援センター 奄美佳南園ホームヘルプ事業所 奄美佳南園訪問入浴事業所 奄美佳南園春日デイサービスセンター 聖隷チャレンジ工房カナン	… 116
春日保育園	… 119
のぞみ園	… 121
聖隷かがやき	… 123
聖隷こども園わかば	… 125
聖隷こども園桜ヶ丘	… 127
聖隷こども園ひかりの子	… 129
聖隷こども園めぐみ	… 131
聖隷浜松病院ひばり保育園	… 133
聖隷のあ保育園	… 135
こうのとり保育園	… 137
聖隷こども園こうのとり東	… 139
聖隷こども園こうのとり豊田	… 141
＜聖隷こうのとり富丘＞ 聖隷こども園こうのとり富丘 聖隷こども発達支援事業所かるみあ富丘 聖隷訪問看護ステーション富丘	… 143
野上あゆみ保育園	… 145
野上児童館	… 147
逆瀬川あゆみ保育園	… 149
御殿山あゆみ保育園	… 151
御殿山児童館	… 153
高齢者公益事業部	… 155
浜名湖エデンの園	… 157
宝塚エデンの園	… 159
松山エデンの園	… 161
油壺エデンの園	… 163
浦安エデンの園	… 165
横浜エデンの園	… 167
＜聖隷藤沢ウェルフェアタウン＞ 藤沢エデンの園一番館 藤沢エデンの園二番館 藤沢愛光園 聖隷デイサービスセンター藤沢 聖隷ケアプランセンター藤沢 聖隷ヘルパーステーション藤沢 聖隷訪問看護ステーション藤沢	… 169
奈良ニッセイエデンの園	… 173
松戸ニッセイエデンの園	… 179
明日見らいふ南大沢	… 181
法人本部	… 183
2023年度施設整備事業報告	… 188

ケアハウス花屋敷
北神戸地区在宅複合事業（公益）
聖隷カーネーションホーム
淡路栄光園
淡路地区在宅複合事業（社福） 淡路地区在宅複合事業（公益）
聖隷こども園夢舞台
奄美佳南園
春日保育園
のぞみ園
聖隷かがやき
聖隷こども園わかば
聖隷こども園桜ヶ丘
聖隷こども園ひかりの子
聖隷こども園めぐみ
聖隷浜松病院ひばり保育園
聖隷のあ保育園
こうのとり保育園
聖隷こども園こうのとり東
聖隷こども園こうのとり豊田
聖隷このとり富丘
野上あゆみ保育園
逆瀬川あゆみ保育園
御殿山あゆみ保育園
高齢者公益事業部 浜名湖エデンの園 入園金会計 宝塚エデンの園 入園金会計 松山エデンの園 入園金会計 油壺エデンの園 入園金会計 浦安エデンの園 入園金会計 横浜エデンの園 入園金会計 藤沢エデンの園一番館 入園金会計 藤沢エデンの園二番館 入園金会計
浜名湖エデンの園 施設有料 浜名湖エデンの園 施設診療
宝塚エデンの園 施設有料 宝塚エデンの園 施設診療
松山エデンの園 施設有料
油壺エデンの園 施設有料 油壺エデンの園 施設診療
浦安エデンの園 施設有料
横浜エデンの園 施設有料
藤沢愛光園 藤沢エデンの園一番館 施設有料 藤沢エデンの園二番館 施設有料
－
－
高齢者公益事業部
法人本部

2023年度 事業報告書 目次

法人の概要	… 190
実施する事業の概要	… 191
役員の状況／理事会、評議員会運営の状況	… 203
附属明細書	… 204

2023 年度 事業報告

理事長 青木善治

2020 年から始まった新型コロナ感染症は、5 月 8 日をもって感染症区分が 5 類に移行され、感染対策や行動制限が徐々に緩和され、平時に戻る一方、新型コロナやインフルエンザの感染が各地域、各施設で断続的に発生し、病院や福祉施設で一時的な運営制限による収入減だけでなくコロナに関する補助金も減額となり、難しい経営をすることとなりました。夏の第 9 波到来時には多くの職員が感染し、感染者が累計で 50%を超える施設もありました。このような中でも職員が協力し合い乗り越えてきたことに大変感謝しております。

5 月には浜名湖エデンの園が 50 周年を迎え、記念式典や写真展など様々なイベントが開催されました。これは有料老人ホーム事業としての 50 周年でもあり、2020 年に大規模有料老人ホームとして日本で初めて住みながらの大規模な建替え工事を完了した施設でもあります。また、同月に 13 年ぶりに新たな健診施設である聖隷健康診断センター東伊場クリニックを開設しました。

法人運営では在宅・福祉事業の組織改編を実施しました。地域課題が多様化、複雑化する中、全国の在宅・福祉事業を静岡、関東、関西、奄美の 4 つブロックに分け、利用者の「生活する地域」を軸に、より迅速な経営判断が可能となりました。一部管理機能に課題はありますが、地域の各事業とも連携を深め、多角的なサービス展開に努めております。

続いて、残念ではありますが保健事業において、新システム移行による長時間労働が原因で、2 度の労働基準監督署による是正勧告を受け、健康経営優良法人ホワイト 500 を返納することとなりました。再度、労働基準法の厳守並びにコンプライアンス遵守を徹底してまいります。

7 月には聖隷浜松病院 S 棟が竣工しました。地域に長らくご迷惑をおかけしている駐車場の渋滞は、大幅な改善につながっております。外来機能では、眼科と眼形成眼窩外科が一緒になったアイセンターを設置、手術室も拡充し、より質の高い医療が提供できる体制が整いました。

9 月には年々増加傾向にある医療的ケアが必要な子どもと、その家族の支援を目的に、「聖隷こども発達支援センター和合」が事業を開始しました。施設内には、医師も配置されている「聖隷こども家庭総合支援センター」が併設され医療と療育が連携する手厚いサービスを提供する施設を目指します。10 月には介護、生活困窮、障がい、子育てなど多様化した福祉的課題の一体的な相談支援を目的に「聖隷福祉総合相談センター和合」を開設しました。

「聖隷 DX」では、6 月に SEIREI アプリをリリースしました。駐車場情報、患者説明用の動画、人間ドックの予約、利用者への情報配信、高齢者福祉施設の入居申込システムなどの機能が備わっています。さらには、2022 年度に続き、見守りシステムの積極的な導入を行い、対象施設で 97%の導入率を達成しました。

「浜松市生活自立相談支援センターつながり」では触法者（法律に触れる行為をした方）の自立支援を通じた再犯防止活動が評価され、内閣総理大臣表彰をいただきました。

2024 年元日に発生した能登半島地震では、DMAT（災害派遣医療チーム）として聖隷浜松病院、聖隷三方原病院が 1 月 2 日より連携して支援を実施しました。この他、DWAT（災害派遣福祉チーム）を始めとする様々な団体を通じ支援を継続しました。出動した職員、それを支える職員が互

いに協力し、法人として活動できたことを大変誇りに感じています。今後も、我々は災害時であっても、平時であっても地域社会のセーフティネットの役割を担い、サービスが届きにくい方々に、支援が行き届く活動を継続していきます。

社会情勢が変化する中で、社会課題、事業課題に向き合い、質の高いサービス提供を目指し、取り組んだ結果、着実に実績を残すことができました。引き続き、地域の医療・福祉ニーズに貢献していくとともに、将来にわたり安定した経営基盤づくりを推進してまいります。地域の皆様をはじめご支援、ご指導をいただいた方々に厚く御礼を申し上げ、ご報告とさせていただきます。

基本理念

キリスト教精神に基づく

「隣人愛」

聖隷福祉事業団が事業を行う上で
根底にある考え方

使命

聖隷福祉事業団の
存在意義

- ・いのちと尊厳のために
- ・利用される人々のために
- ・地域社会とともに
- ・未来を築く
- ・最高のものを

Vision2025

2025年聖隷福祉事業団はこうなっている

地域連携体制の強化・デジタル改革・
経営基盤の安定化を実現し
未来につなげる地域共生社会をつくる

中期事業計画2021-2025

各事業中期事業計画

Vision2025へ到達するために
7つの重要課題およびテーマを
提示し5年間かけて達成を
目指す計画

事業団年度目標

各事業年度目標

事業団および
各事業の毎年度の
目標

職員行動指針

使命をもとに職員が共有し
実践する具体的な行動を示した指針

わたしたちは、ひとりひとりの命と尊厳を守ります

わたしたちは、サービスを求めるすべての人々に、誠実かつ献身的に仕え、その自立を支援します

わたしたちは、「保健・医療・福祉・介護」サービスを通して社会に貢献し、地域の人々との強い絆を育みます

わたしたちは、先駆的・開拓的精神で新たなニーズの発見に努め、常に課題に挑戦します

わたしたちは、ひとりひとりが専門職としての倫理と誇りを持ち、最高の技術を提供します

Vision2025

地域連携体制の強化・デジタル改革・経営基盤の安定化
を実現し、未来につなげる地域共生社会をつくる

A 2025 年、聖隷福祉事業団はこうなっている

B 重要課題

事業

質の高い事業を行う

地域共生社会の実現に貢献する社会福祉法人として、地域を支える新たな仕事を見出し、また先進的な医療の提供、健康寿命の延伸に向けた予防への関与やゲノムなど最先端の課題に挑戦し、最高の質を追求した事業を展開している。



1 社会福祉法人として最高の質を追求した事業を展開する

組織

組織力を活かす

地域課題の解決に繋がる事業部間連携や聖隷の質と規模を維持する人材の確保ができています。大規模広域法人に適した購入や物流、情報システムを構築し、大規模災害に対する連携の強化等、より一層の協働した組織となっている。



2 地域ごとの課題解決に繋がる事業部間の連携を構築する

3 人材の確保と育成を推進する

4 大規模広域法人としての強みを活かした仕組化を推進する

運営

生産性の高い運営体制を築く

ICT・AI・ロボット等を活用し、少人数であっても質の高いサービスを提供できる効率性の高い業務体制を構築している。外国出身者、高齢者、障がい者等を含んだダイバーシティが進み、働きがいのある仕事を推進している。



5 聖隷DX（デジタル・トランスフォーメーション）を推進する

6 ディーセント・ワーク（人生と両立できる働きがいのある仕事）を推進する

財務

財務体質を強化する

新型コロナウイルス感染症の影響による厳しい経営環境を学びにし、需要減少時でも安定する経営構造を構築している。また、予期せぬ経営環境の急変にも揺るがない骨太の財務体質となっている。



7 現有資源を有効に活用し経営環境の急変にも揺るがない財務体質とする

C テーマ

- ・地域共生社会の実現に貢献する社会福祉法人として、地域を支える新たな仕事を見出し挑戦する
- ・先進的な医療の提供、健康寿命の延伸に向けた予防への関与やゲノムなど最先端の課題に挑戦する

- ・事業部を越えた職員間で情報交換しやすい環境、検討する場を設ける等、地域ごとで事業部間が連携し、利便性の向上や課題解決に繋がる仕組みを構築する

- ・生産年齢人口が減少する中、需要拡大が見込まれる聖隷の事業を支える人材確保を図る
- ・聖隷の質を体現・継承できる「聖隷人」の育成を推進する
※聖隷人（せいれいびと）
基本理念および使命を理解し、職員行動指針を実践している人

- ・大規模広域法人としてのメリットを活かし、人事・資材・資金・情報システムなどの一層の効率性を追求する
- ・広域な大規模災害に対する BCP（Business Continuity Plan: 事業継続計画）対応と連携を強化する

- ・ICT、AI、ロボット等を活用して少人数であっても質の高いサービスを提供できる、効率性の高い業務体制を追求する
- ・事業部を越えた利用者情報の共有ネットワークシステムの整備、データヘルスサービスなど医療・介護・健康分野の情報化を推進する

- ・健康経営の推進、働き方改革等の制度へ対応するとともに、外国出身者、高齢者、障がい者等を含んだダイバーシティを推進する

- ・成長性：サービス活動収益の成長率 前年比 2%以上
- ・収益性：税引前当期活動増減差額 年 15 億円以上
- ・効率性：総資産に対し税引前当期活動増減差額率（ROA）年 1%以上
- ・安定性：純資産比率 45%以上（2025 年度末）

D 中期事業計画 2021-2025 における 聖隷福祉事業団と SDGs の関わり

事業 組織 運営 財務



事 生活困窮者支援などが当たります。



事 災害時の食事提供や健康寿命延伸に向けた栄養指導などが当たります。**組** 災害時にも安心して食事の提供ができる体制が必要です。BCP（Business Continuity Plan: 事業継続計画）策定など準備を進めます。



事 新たなニーズや制度の狭間など支援が届いていない方への支援、より質の高い医療福祉の提供を目指します。



事 健康、介護予防教育や生活困窮の負の連鎖に対する教育支援などが当たります。**組** 優秀な人材の確保、育成は事業の質を維持するうえで極めて重要です。今後も人材育成に注力します。



組 育児支援など女性が働きやすい職場をつくると共に女性の経営職の増加を目指します。**運** 職員へより良い雇用環境の提供、障がい者や外国人雇用の推進などにより、組織の成長に繋げていきます。



財 エネルギー使用量を削減する取り組みを継続します。



運 職員へのより良い雇用環境の提供、障がい者や外国人雇用の推進などにより、組織の成長に繋げていきます。**財** 地域に必要な事業は行わねばなりません。法人として健全な成長を目指します。



運 医療福祉の領域での DX をはじめとした情報化やロボットなど自動化を推進し、生産性の向上と新たな価値創造に繋げて強みにしていきます。**財** 強靱で、より持続可能な施設設備を維持する管理を推進します。また DX やロボットなど先進的な技術の導入を推進します。



運 地域共生社会の実現を先導する組織として、内部でも年齢、性別、障がい、外国人などに関わらず活躍できるダイバーシティを推進します。



事 住み続けられるまちづくりは地域共生社会の理念と同一であり、地域包括ケアシステムなどを用いて社会福祉法人に求められています。



組 環境への影響を配慮された物品の使用や電気ガス等の効率的な使用が求められます。**財** 将来にわたり社会を支えていける様に、事業の持続性を確立します。



組 台風や大雨の激甚化など温暖化による大規模災害が増加していますので、災害に対する準備が一層必要になります。



事 子ども達により良い環境を提供することも私たちの大切な事業となります。



組 各所との連携体制の構築は最も重要なテーマの一つです。内部の連携強化と共に、外部組織とも連携を強めていきます。

2023 年度 事業成績報告

常務執行役員 井上英樹

（１）事業の経過及びその成果

2023 年度は、5 月に新型コロナの感染症法上の位置付けが 2 類相当から 5 類に変更され、診療報酬上のコロナ特例や補助金の縮小等により収益構造が大きく変化した。各事業においてはこれらの変化に対応し、ポストコロナにおける利用者受入れ体制の整備に努めた。

（２）医療事業

聖隷三方原病院では、「外傷センター」を新設し、重症外傷患者への迅速な医療提供体制を整備するとともに救急応需率の向上、病診・病病連携による紹介・逆紹介の向上に積極的に努めた。税引前当期活動増減差額 4.3 億円を計上した。

聖隷浜松病院においては、新 S 棟が 7 月に竣工しアイセンターを中心とした外来機能、手術室、駐車場が整備された。また重症・中等症の救急患者や初診患者を積極的に受入れた。税引前当期活動増減差額 3.0 億円を計上した。

聖隷淡路病院においては、地域包括ケア病床に重点をおいた病床再編を実施するとともに「健診事業室」を立ち上げ、健診事業の拡大を図った。税引前当期活動増減差額は▲2.0 億円となった。

聖隷横浜病院においては、ケアミックス病院として検査目的紹介患者や救急患者を積極的に受入れ、ドック・健診事業においても企業健診の受入れを強化した。税引前当期活動増減差額は▲7.0 億円となった。

聖隷佐倉市民病院においては、救急患者受入れ体制の整備や病床再編による眼科手術受入れ強化を実施し、保健事業・訪問看護ステーション・ケアプランセンターでの需要増にも対応した。税引前当期活動増減差額は 8.4 億円を計上した。

指定管理病院である浜松市リハビリテーション病院では、えんげセンター外来、リハビリテーション外来の患者数が伸び、聖隷袋井市民病院では、耳鼻科を開設すると共に、入院判定の早期化および病棟間での患者調整に努めた。

（３）保健事業

保健事業においては、昨年度導入の健診システムの安定と作業の効率化に主眼を置き、事業の安定に努めた。5 月には「聖隷健康診断センター東伊場クリニック」を開設し、滞在時間短縮型のドックを開始した。アフターコロナとなり、人間ドック、施設内・巡回一般健診の受診者も増加した。税引前当期活動増減差額は▲1.7 億円となった。

（４）在宅・福祉サービス事業

在宅・福祉サービス事業においては、事業運営体制が７月より静岡、関東、関西、奄美の４ブロック制に移行した。新規開設施設としては、４月に「聖隷看護小規模多機能横須賀」、９月に医療的ケア児等の支援を目的とした「聖隷こども発達支援センター和合」、１０月にはこども、障害者、高齢者等多様な福祉相談窓口として「聖隷福祉総合相談センター和合」を開設する等、新たなサービス分野に取り組んだ。税引前当期活動増減差額は１１.１億円となった。

（５）高齢者公益事業

エデンの園事業においては、コロナと共存する施設運営を開始し、行事やイベント等を再開した。入居者募集については、広告、中小規模のセミナー、個別見学会・相談会等を組み合わせた募集活動を推進した結果、１４２件のご契約を頂き、契約金額は約４４.９億円を計上した。税引前当期活動増減差額は３.１億円となった。

（６）財務の状況

現預金は、期首より１９.８億円増加し、期末残高は１９９.２億円となった。設備投資については、事業団全体で５７.８億円の固定資産整備を実施した。有利子負債は期末残高が２６８.４億円まで減少し、サービス活動収益に対する有利子負債比率は２１.６％。純資産比率も４７.８％となり、経営基盤の安定を図ることができた。

《２０２３年度 事業区分別事業活動計算書》

（単位：百万円）

勘定科目	社会福祉事業	公益事業	収益事業	合計	内部取引 消去	法人合計
サービス活動収益	70,199	61,531	2	131,732	△532	131,200
サービス活動費用	69,172	59,705	2	128,879	△575	128,304
税引前当期活動増減差額	2,720	629	0	3,349	0	3,349

《中期事業目標の進捗状況》

指 標			2023 年度
サービス活動収益成長率	【年】	2.0%	0.1%
当期活動増減差額	【年】	15 億円以上	33.5 億円
総資産税引前当期活動増減差額率（ＲＯＡ）	【年】	1%以上	2.0%
純資産比率	【2025 年度末】	45%以上	47.8%

総合病院 聖隷三方原病院

2023 年度は過去 3 年にわたり猛威を振るった新型コロナウイルス感染症が「5 類感染症」へと位置づけが変更され、ポストコロナ時代に向け、大きく流れが変わった一年であった。当院としては感染対策には引き続き留意しながら通常医療を途切れることなく提供することができた。病院機能の充実に向けた取組みとして外傷センターを新設し、重症外傷患者への迅速かつ効果的な医療提供体制を整備した。

また 2023 年 7 月には荻野和功前病院長から山本貴道現病院長体制に移行するという病院にとっては大きな変化があった。医療安全と質向上の面では TQM (Total Quality Management) センターを発足させ、質改善に向けた院内の体制を整えた。また経営管理の面では BSC (Balanced Scorecard) を導入し、経営を可視化することで職員一人一人の経営参画を促した。

2024 年度は、「医療の安全と質」と「安定した経営基盤」の両輪で病院経営を推進していく。また三方原地区再開発を踏まえた病院の将来計画の検討を開始する。

	予 算	実 績	対予算	対前年		予 算	実 績	対予算	対前年
入院患者数	610 名	591 名	96.9%	102.6%	外来患者数	935 名	924 名	98.8%	100.2%
入 院 単 価	71,400 円	72,942 円	102.2%	101.5%	外 来 単 価	23,000 円	22,917 円	99.6%	97.9%
職 員 数	1,554 名	1,538 名	99.0%	99.4%	病床利用率	79.2%	76.8%	96.7%	102.7%

(注: 外来患者数、外来単価は歯科を除く)

1. 安全で質の高い医療の提供

(ア) 安全な医療の提供

①医療安全管理の見直しと強化

TQM (Total Quality Management) センターを新設し総合的な質改善の体制を整備した。患者誤認に対して発生した全症例聞き取りを実施して再発防止に努めた。

②感染管理体制の評価と更なる充実

新型コロナウイルス感染症対策や耐性菌の院内感染予防と院内発生時の拡大防止に努めた。また、抗菌薬適正使用支援チーム (AST) 活動の定着化をはかった。

(イ) 質の高い医療の提供

①各部門の専門特化した医療体制の確立

外傷センターを新設し、重症外傷に対する専門的な治療体制を整備した。

(ウ) 新たな病院機能の提供

①手術室機能の充実と効率的な運用

医師の働き方改革に対応し、日中の手術室稼働を強化した。

②病院機能の充実に向けた DX 推進

次期電子カルテ更新に向けた検討を実施。

2. ディーセント・ワークの推進と人づくり文化の継承

(ア) 「医師の働き方改革」への対応

①医師の勤務実態の把握と適正な労働時間の管理

働き方改革に関する医師向けの情報配信を毎月実施。また医師の超過勤務申請方

法、宿日直体制及び手当支給方法について 2024 年 4 月に向けた準備を進めた。

(イ) 職員教育の充実

①キャリア形成への支援

呼吸器疾患看護認定看護師 2 人目育成、特定看護師 11 名修了、診療看護師課程 2 名・専門看護師課程 1 名・認定看護師課程 1 名進学支援した。認定看護管理者教育課程セカンドレベル開講し院内 6 名含む 24 名が修了した。

(エ) 医師・看護師・介護職の人材確保と定着

①専門医・専攻医採用の強化

泌尿器科および精神科領域において連携施設の追加を行うことで専門研修プログラムの充実化を図り、泌尿器科においては専攻医の獲得に寄与することが出来た。

②看護師・介護職・看護助手の安定した確保

看護師採用数 55 名、看護助手採用数 3 名、介護職採用数 2 名となった。

3～5 年目の中堅看護師の定着のためのキャリア支援計画を策定した。

3. 地域より求められる病院機能の整備

(ア) 各種認定施設としての機能の充実

①高度救命救急センター

a 重症救急患者の受け入れ体制の充実

救急医療の実践を円滑に行うために地域医療機関や消防機関など関係各機関と継続した連携体制を維持した。

b 応需率の向上

受入状況や受入に至らなかった症例の状況など院内で情報共有し対策を検討した。

②地域医療支援病院

a 病診・病病連携による紹介・逆紹介の更なる向上

医師と同行して開業医訪問 近隣医療機関への定期訪問、新規開業医療機関への連携手続きの説明、病診・病病連携推進に取り組んだ。

b 地域連携クリニカルパスの推進

新規開業医療機関に対し、脳卒中地域連携パス、大腿骨地域連携パス、がん連携パスの運用説明を行ない連携医療機関としての参画を促した。

③地域がん診療連携拠点病院

a がんサポートセンターの継続的な運営

b がん地域連携クリニカルパスの活用推進

c がんゲノム医療連携の体制維持

2023 年度に実施したがん遺伝子パネル検査は 16 件。内訳は F1CDx が 10 件、F1LiquidCDx が 6 件であった。各部署間で連携をとり、スムーズな運用を行うことができた。また、当院のがん診療体制について e-learning 研修体制を整備した。

④聖隷おおぞら療育センター

a 障がい者医療の質向上

緩和ケアチームと連携し、施設で看取りとなった成人入所者が安楽にその人らしい生活を継続できるよう支援した。

b 医療体制の確立

医療体制については重度の障害児・者について専門診療科に理解と支援を受けることができるよう密にコミュニケーションを図った。

c 地域連携の推進

医療機関、相談支援事業所等と連携し、医療度の高いショートステイ、レスパイト入院の受け入れニーズに対応した。

⑤精神科病棟

a 西部精神科救急指定病院としての適正な病棟利用

休日や夜間に精神症状が悪化した患者について断ること無く受入れできた。

精神科身体合併症病棟に入院される方の地域支援者との地域連携会議を開催。

b 精神科デイケアの再整備

精神科デイケアを、利用者ニーズに合わせて小規模デイケア・ショートケアに変更した。集団レクリエーションの開始などプログラムの見直しを行った。

⑥災害拠点病院

a 大規模災害に向けた地域連携

令和6年1月に発生した能登半島地震では、県からの派遣要請に対して速やかにDMATや当院ドクターヘリチームを派遣した。

b 防災対策の強化（BCP含む）

院内で、事業継続計画に基づいた地震総合訓練を実施した。

c 災害派遣医療チームの更なる育成

静岡県DMAT-L（Local）研修に看護師・ロジスティック等が参加した。さらに、日本DMAT隊員養成研修に参加した。

⑦基幹型臨床研修病院

a 臨床研修医の確保

過去最高の採用試験エントリー数となり、臨床研修医の採用としても16名のフルマッチを達成することができた。

b 指導体制・プログラムの充実

新たな試みとして、臨床から一日フリーになり学習やシミュレーションに集中できる「レジデント・デイ」を月1回で開催し、研修医指導体制の充実を図った。

⑧基幹型認知症疾患医療センター

a 他医療機関との連携システムの整備

認知症疾患医療連携協議会とメーリングリストの活用した連携体制を整備。

b 地域包括支援センター、福祉・介護施設との連携

医療介護福祉情報交換会を定期的に開催した。

（イ）新型コロナウイルス感染症への対応

①新型コロナウイルス感染症重点医療機関としての役割検討

5 類移行の後も行政と協力しながら要請に対応。2024 年度に向けて第一種協定指定医療機関及び第二種協定指定医療機関指定に向けた準備を進めた。

（ウ）利用者サービスの向上

①地域のニーズに即した情報発信の強化

みどりの通信や市民公開講座の開催情報などの情報発信を継続的に実施。また病院ホームページの診療部の医師紹介をよりわかりやすい内容に更新を行った。

②利便性向上を目指した ICT の活用

次期電子カルテ更新に向けた検討を実施した。

(エ) 持続可能な社会への取り組み

照明 LED 化率は 80%を超えた。2023 年度のエネルギー使用量は昨年度比で 2.6%削減することができた。

(オ) 病院ボランティアの再開

10 月 23 日よりボランティア活動を再開し、ボランティア感謝会についても 12 月 18 日に開催した。

4. 地域完結型医療実現への取り組み

(ア) 地域医療構想への対応

①病床・外来機能の検討

特定入院料病床、精神病床の活用に向けた検討プロジェクトを発足。

②公的医療機関等 2025 プランの更新

更新に向けた実績集計と報告資料作成を進めた。

(イ) 地域包括ケアシステムの推進

①入退院支援の質向上

入退院支援クラウドを導入し、転院支援における ICT 活用を図った。

5. 安定した経営基盤の確保

(ア) 2024 年トリプル改定の情報収集と対策検討

情報収集と関係職場における対策検討の実施。

(イ) 施設基準の精度管理

経営分析ソフトの導入に向けた検討を実施。各種加算算定の向上や定義副傷病の適切な把握と算定に取り組んだ。

(ウ) 職員の経営参画意識の向上

①生産性向上への取組み強化

②コストパフォーマンスの向上

院内情報連絡会、経営戦略会議を新設し、職員間の情報共有と経営参画が促された。BSC による病院および各職場での目標管理体制を整備した。

《医療保護施設・無料低額事業・入院助産》

生活困窮者、無保険者、外国人労働者などに対する医療費・室料の減免を行った。

引き続き福祉施設などへの医師・薬剤師・理学療法士などの派遣協力を行った。

総合病院 聖隷三方原病院 聖隷おおぞら療育センター

「医療型障害児入所施設/療養介護(重症心身障害児施設)・短期入所 ショートステイ」

2023 年度の利用実績は、4 月時点の入所者は 117 人であったが、年度内の入所者 16 人(期間限定 12 人含む)、退所者 11 人(期間限定 7 人・ご逝去 4 人)で、2024 年 3 月末では 122 人となった。

医療型の障害児者入所施設として、更なる安全で質の高い医療提供と利用者の権利や生活の質確保という両輪のバランスを取りながら事業継続できる組織体制の在り方について様々な模索を行った。特に乳児期、小児期、成年期、高齢期まで幅広い診療域と様々な障害像を理解し対応できる組織体制作りと職員育成が喫緊の課題であり、聖隷三方原病院全体の組織枠の中でできる最善なものを模索した。

職員養成としては、多職場・多職種職員カンファレンスの継続実施に加え、アドバンス・ケア・プランニングも多職種研修会を実施して知識や情報共有を広める事に努めた。

感染管理では新型コロナウイルス対策が 5 類となったが、新興感染症という枠中では依然として対策を緩める事ができない重要課題であり、まん延防止対策を継続した。

働きやすい職場環境を整備では、職員の安全衛生やメンタルヘルス対策を継続した。カスタマーハラスメント等の苦情対応する体制は職員教育等で対応したい。

ICT の推進では、障害等による氏名確認が難しい利用者に対する本人認証のシステム化や介護ロボット等の導入検討を継続している。

在宅の重症心身障害児者支援では、今年度から状態変化等様々確認が必要な利用者にはサービス利用前の家庭訪問を開始した。また、地域の在宅利用者の家庭の事情により一時的な入所が必要と判断したケースで実施している期間限定の入所受け入れは 2023 年度 12 人であった。

退所時支援として共同カンファレンスや退院支援カンファレンスのオンライン開催を定期的に行い、かかりつけ医療機関や事業団内障害児者施設との連携強化や情報共有が図られ、利用者が安心して地域生活を継続できる施設として役割を果たすことができた。

あさひ(生活介護)

2023 年度は、利用登録者数 45 人でスタートし、年度内の利用開始者 0 人、利用終了者 1 人で、44 人で年度を終了した。利用実績は、1 日平均利用者数 27.2 人(定員 35 人)となった。重度の医療的ケアの必要な方への対応と、小グループ単位で日中活動に重きを置いたサービスを提供することができた。新興感染症対策を徹底し、感染拡大なく事業が実施できた。

看護・介護職員の育成では、職種別のラダーの継続した実施により、取り組むべき課題を明らかにして職員の技術向上を図った。

ICT の推進では、電子記録システムの導入がスムーズにでき、タブレット端末での記録によって、業務効率化がはかられた。また利用者の情報共有がしやすくなるなど、利用者のケアに有効に活用できた。

児童発達支援センターひかりの子

〈児童発達支援・放課後等デイサービス・保育所等訪問支援・障害児相談支援・特定相談支援〉

児童発達支援は、障害や発達に沿った遊びや保育を重視して実践した。2023 年度は、利用登録

者数 10 人でスタートし、年度内の利用開始者 3 人、利用終了者 0 人で、最終的には 13 人となった。利用実績は、1 日平均利用者数 7.5 人(定員 15 人)となった。新興感染症対策を徹底しながら事業を継続した。

地域拠点である児童発達支援センターとして、市内の他のセンターや行政機関、保育園、特別支援学校、訪問看護ステーション等との連携に努め、利用者の生活が充実するように、また、ご家族へ支援が充実するように意識して取り組んだ。

放課後等デイサービスは、特別支援学校に通う医療的ケアのある重症心身障害児を主な対象として事業を継続した。2023 年度は、利用登録者数 33 人からスタートし、年度内の利用開始者 1 人、利用終了者 0 人で、最終的には 34 人となった。利用実績は、1 日平均利用者数 3.7 人(定員 5 人)となった。今年度は、新興感染症対策等徹底しながら、事業を継続することができた。

相談支援事業所おおぞらは、児童を対象とした障害児相談支援と主に成人を対象とした特定相談支援を行っている。2023 年度は新規契約者 3 人、契約終了者 5 人で、最終的な登録者数は 181 人となった。

ICT の推進では、電子記録システムの導入がスムーズにでき、タブレット端末での記録によって、業務効率化がはかられた。また利用者の情報共有がしやすくなるなど、利用者のケアに有効に活用できた。

	入 所		短期入所		あさひ		ひかりの子	
	予 算	実 績	予 算	実 績	予 算	実 績	予 算	実 績
入院患者・利用者数	126 人	122 人	13 人	8 人	—	—	—	—
入院単価(医療)	31,000 円	31,464 円	—	—	—	—	—	—
入院単価(福祉)	9,700 円	9,814 円	31,000 円	32,630 円	—	—	—	—
外来患者・利用者数	22 人	22 人	—	—	36 人	31 人	14 人	12 人
外 来 単 価 (医 療)	4,800 円	4,466 円	—	—	13,000 円	12,989 円	15,940 円	16,433 円

(注:外来患者数、外来単価は歯科を除く)

聖隷三方原病院併設 介護老人保健施設 三方原ベテルホーム

2023 年度は、安定した事業継続とケアの質向上を図るとともに高まる医療ニーズに対応できる体制を整えることを目指して運営した。年度前半は在宅復帰やご逝去が重なり稼働率が 70% 台前半となることもあったが夏以降は 80% 台を維持し最終的には予算を達成することができた。また高まる医療ニーズに対応できるよう看護介護課内に看護係を創設した。こちらにより医療ニーズが高い方の当日受け入れがスムーズに行われるようになったことや新型コロナウイルスの感染にも重症者を出すことなく施設内で療養対応ができた。『隣人愛』の実践として、「困っている人を困っているそのときに支える」を掲げ、施設理念を継承するための講演会を行った。2024 年度は、介護老人保健施設に求められる地域包括ケアシステムにおける役割を果たすとともに、業務改善や ICT の活用等をさらに推進して、職員がより働きやすい環境を整えていく。

1. 地域包括ケアシステムのさらなる深化・推進

相談室・看護介護課・リハビリテーション課を中心に入所前後訪問や退所前後訪問、入所中の在宅生活をイメージしたケアの提供を積極的に行った結果、在宅復帰率は前年度を大きく上回る 78.5% となった。通所リハビリテーションでは若年層利用者の増加に対応するため送迎時間を柔軟にすることで家族へのサポートも行った。その他、地域医療機関との連携を推進し地域の診療所からの緊急入所や緊急ショートステイの受け入れや地域共生社会の実現に向け聖隷こども家庭総合支援センターからの見学受け入れを行った。

2. 安定的に事業継続できる体制の構築

10 月に看護介護課内に看護係を設置しどのフロアにおいても医療依存度の高い方に対応ができる体制を整えた。11 月にはケアプランデータ連携システムを導入し、地域のケアプランセンターとの連携強化と業務の効率化を図ることができた。また感染・災害 BCP（事業継続計画）を策定しそれらを取り入れた訓練を実施した。

3. 安全・安心で質の高いケアの提供

6 月より褥瘡マネジメント加算を算定しケアの質向上に取り組んだ。医療依存度の高い緊急入所、緊急ショートステイについては当日受け入れを含め、22 件の受け入れをすることができた。一方、見守りシステムの活用では、ナースコール対応の省力化等職員の負担軽減となった面はあるものの、転倒・転落件数はこれまで減少傾向にあったものが増加に転じたため今後の課題となった。ACP（アドバンスドケアプランニング）においては終末期ケア委員会を中心に利用者に『私の願い』の聞き取りを行い、それらにおける学会発表も行った。

4. 次世代を担う人材育成と働く支援

理念と経営方針の浸透では、全職員を対象に継続して事業計画説明会を行ったことと聖隷三方原病院の森田副院長を招き『聖隷理念の継承』として講演会を実施しそちらを踏まえグループワークを行った。職員の認知症対応力向上では、認知症ケアマッピングを継続的に行った。高い医療ニーズに対応できる人材の育成では、浜松医療センターの専門チームを招いて HIV に関する講演会を行い HIV 患者の受け入れについて考える機会を設けた。その他 ICT 化等事業費補助金の活用により、移乗介助ロボットを購入し、利用者が安全に移乗できる環

境づくりと介護職員の負担軽減に努めた。見守りシステムについても定期的に利用実績報告や情報共有を行った。

5. 地域社会に貢献できる施設づくり

地域貢献活動では、リハビリテーション課を中心に地域の自治会や施設内で、計4回の介護予防教室を開催するとともに、通所リハビリテーションでも地域交流会・家族会を行い、施設を知っていただく機会とした。また無料定額事業にも継続して取り組み生活困難者への経済的支援を行い生活自立に繋いだ。その他、学生実習や体験学習についても受け入れを続け地域との繋がりを継続した。

入所者 性別年齢別状況(%)

	男 (40.3)	女 (59.7)
65 歳未満	1.3	1.3
65 歳～	1.6	1.0
70 歳～	3.6	2.7
75 歳～	7.0	4.3
80 歳～	5.0	10.7
85 歳～	11.5	12.7
90 歳～	7.3	15.0
95 歳～	3.0	12.0

通所者 性別年齢別状況(%)

	男 (53.3)	女 (46.7)
65 歳未満	1.7	3.3
65 歳～	0.8	1.7
70 歳～	15.0	3.3
75 歳～	5.8	5.8
80 歳～	11.7	5.9
85 歳～	8.3	10.0
90 歳～	7.5	8.4
95 歳～	2.5	8.3

入所(短期含)利用状況 (定員 150 人/日)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
1 日平均(人)	116.0	107.8	108.6	117.5	128.1	129.0	117.3	125.9	128.9	126.8	128.4	128.6	121.9
延人数(人)	3479	3343	3259	3642	3970	3870	3638	3779	3995	3930	3724	3985	44,614
稼働率(%)	77.3	71.9	72.4	78.3	85.4	86.0	78.2	83.9	85.9	84.5	85.6	85.7	81.3
平均要介護度	3.0	3.1	3.2	3.3	3.2	3.2	3.3	3.2	3.2	3.2	3.3	3.1	3.2

通所リハビリテーション利用状況 (定員 50 人/日)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
1 日平均(人)	27.8	27.0	26.6	27.1	27.6	28.8	29.9	29.3	29.5	28.4	27.4	28.2	28.1
延人数(人)	694	729	692	704	745	749	777	762	708	682	685	704	8,631
稼働率(%)	55.5	54.0	53.2	54.2	55.2	57.6	59.8	58.6	59.0	56.8	54.8	56.3	56.2
平均要介護度	2.4	2.4	2.3	2.3	2.3	2.3	2.2	2.2	2.3	2.3	2.3	2.4	2.3

訪問リハビリテーション利用状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
延人数(人)	4	4	13	12	6	10	10	8	8	4	13	9	101
平均要介護度	1	1	1	1.3	1	1	1.2	1	2.8	1	3.8	2.8	1.7

総合病院 聖隷浜松病院

2023 年度は「Teaming」をテーマに、職員間の心理的安全性を高めることで変化に対応できるチームの構築を目指した。院内では全職員参加可能なイベントを開催し、コロナ禍において希薄化した職員間の交流を深めた。また、事務部・診療部においては聖隷三方原病院と合同研修を開催し、事業団内連携の新たなスタートを切ることができた。5 月からは新型コロナウイルス感染症が 5 類に移行したことに伴って院内での対応を大きく変更した。その結果、感染者が急増した第 9 波でも、職員一丸となって対応し、能力を発揮したことで制限することなく通常診療を継続することができた。また、7 月には新 S 棟が完成し、プロジェクト「CONNECT」が無事終了した。駐車場、外来診療機能、手術室が拡張され、特に長年の課題であった駐車場不足の問題が大幅に改善された。

患者の受療動向変化、看護師不足、引き続く不安定な世界情勢、物価高など、厳しい状況下での事業運営がこれからも続くことが予想される。新 S 棟の機能をさらに活用し、迫り来る変化に柔軟かつスピーディに対応しながら、地域の医療ニーズに応え、当院の目指す医療を実践する。

【病院使命】

人々の快適な暮らしに貢献するために最適な医療を提供します

【病院理念】

私たちは利用してくださる方ひとりひとりのために最善を尽くすことに誇りをもつ

【運営方針 2025】

私達は常に信頼される病院であり続けます

- 望まれる良質な医療を提供します ■地域とのつながりを大切にします
- 良い医療人を育てます ■働きやすい環境を作ります ■健全な経営を継続します
- 災害・感染対策を強化します ■環境に対する責任を果たします

【事業・運営計画】

「利用者価値」の視点（患者・職員の満足のために）

1. 利用者満足の向上

（ア）選ばれ続ける病院

- ①新入院患者数 1,800 人/月以上 (実績：1,757 人)
- ②患者満足度調査結果 6 項目（LINE2 回）
病院に満足している 肯定回答率 90%以上 (実績：84.5%)
- ③病院 BSC・ロールモデルに関する指標（職員満足度調査結果 2 問選定）
BSC のテーマを知っている 肯定回答率 90%以上 (実績：47.0%)

（イ）チームで目指す働き方改革

- ①職員満足度調査結果 5 項目（デスクネッツ年 2 回）
要望解決数 5 件/回以上 (実績：5 件)
- ②超勤時間（医師）80 時間超え 7 名/月以下 (実績：8 名)

「価値提供行動」の視点（病院機能・質の向上のために）

1. 高度・急性期医療の提供

（ア）特色ある医療の推進

- ①新規がん患者数 155 件/月以上 (実績:141 件)
- ②救急車搬送件数 重症・中等症件数 290 件/月以上 (実績:333 件)
- ③かかりつけ患者の当日紹介受入率 95%以上 (実績:98.9%)
- ④特定入院料の各病棟稼働率 80%以上
 - ICU (実績:82.7%) 救命救急 (実績:73.9%) MFICU (実績:82.9%)
 - C7 (実績:81.4%) GCU (実績:69.8%) NICU (実績:87.9%)

（イ）地域連携の充実

- ①初再診患者数
 - 初診患者数 125 件/日以上 (実績:111 件)
 - 再診患者数 1,525 件/日以下 (実績:1,523 件)
- ②DPCⅡ期以内比率
 - 退院 75%以上 (実績:73.1%)
 - 転院 30%以上 (実績:25.8%)
- ③事業団施設連携件数
 - 紹介初診患者数（同一開設者） 220 件/月以上 (実績:214 件)
 - 院外での検査実施人数 20 件/月以上 (実績:10 件)

（ウ）施設・設備の有効活用

- ①S4 病棟稼働率 80%以上 (実績:0%)
- ②平日の予定入院数の差異
 - 月～木の予定入院数差違 15 人/週以下 (実績:21 人)
- ③8:30～17:00 の手術室稼働率 中央手術室 68.5%以上 (実績:65.8%)
- ④17 時以降の予定カテ件数 10 件/月以下 (実績:6 件)

2. 医療環境・資源の充実

（ア）診療プロセスの見直し

- ①入院手続きに関する工程 工程数（4 月比）5%減 (実績:1.3%)
- ②外来終了時間 17 時以降終了数 184 件/月以下 (実績:177 件)

（イ）利用者目線の DX 推進

- ①電子問診票導入_診療科数 年度末時点 10 科以上 (実績:14 科)
- ②聖隷アプリダウンロード数 年度末時点 10,000 件以上 (実績:13,001 件)
- ③診療情報提供書の PDF 化率 PDF 件数/紹介件数 80%/月以上 (実績:91.6%)

3. 医療の質と安全の保証

（ア）安全で質の高い医療の推進

- ①患者誤認発生率 事象レベル 1 以上 0.27%以下 (実績:0.30%)
- ②麻薬・ハイアライト薬品関連の IA 発生率 事象レベル 1 以上 0.25%以下 (実績:0.37%)
- ③転棟・転落による負傷発生率 事象レベル 2 以上 0.85%以下 (実績:0.91%)
- ④RRS 件数 15 件/月以上 (実績:10 件)

- ⑤医師の IA レポート件数 50 件/月以上 (実績 : 50 件)
- ⑥手指衛生実施率 医師 55%以上・看護 81%以上・事務医技 83%以上
(実績 : 医師 45.5%、看護 82.0%、事務・医療技術 77.9%)
- ⑦職場防災訓練(実践型)実施率(机上ではなく実技) 100% (実績:100%)

「成長と学習」の視点(人材確保・成長のために)

1. 人財育成と活用

(ア) 共に育ち認め合う職場づくり

- ①心理的安全性を評価する指標(職員満足度調査結果 2 問選定)
肯定回答率 60%以上 (実績 : 63.5%)
- ②集合研修の職員満足度 人間関係づくりに関する項目 80%以上 (実績:98.2%)
- ③職員同士が交流できるイベント開催 4 回以上 (実績 : 1 回)

「財務」の視点(経営・運営の安定のために)

1. 安定した財務

(ア) 年度予算の達成※

- ①収益(サービス活動収益) 36,442 百万円以上 (実績 : 未達成)
- ②費用(サービス活動費用) 35,137 百万円以下 (実績 : 達成)
- ③利益(税引前当期活動増減差額) 500 百万円以上 (実績 : 未達成)
- ④S 棟事業収益(増収) 191 百万円以上 (実績 : 69 百万円)

※詳細数値は事業団本部決算書参照

【数値指標】

項 目	予 算	実 績	対 予 算	対 前 年
入 院 患 者 数	690 名	671 名	97.2%	102.6%
入 院 単 価	93,500 円	92,670 円	99.1%	99.3%
外 来 患 者 数	1,650 名	1,589 名	96.3%	98.9%
外 来 単 価	23,500 円	24,021 円	102.2%	105.3%
病 床 稼働率	92.1%	89.5%	97.2%	102.4%
職 員 数	2,212 名	2,176 名	98.4%	102.5%

(注 : 入院単価、外来単価は歯科を除く)

【地域における公益的な取組】

患者に対する支援活動では、治療と仕事の両立支援として、がんや脳卒中に罹患した長期療養者に対しハローワークの担当者や社会保険労務士らとともに相談会を定期開催した。また、がん罹患した従業員の対応に困難を抱える事業主に、浜松商工会議所と連携し当院の「がん相談支援センター」を相談窓口とした取り組みを継続した。

【助産施設 聖隷浜松病院併設助産所】

2023 年度は社会的経済的に困難を抱えた妊産婦の方 5 名が利用した。

聖隷淡路病院

2023 年度は“飛躍”を病院運営のキーワードとして掲げた。新型コロナウイルス感染症が 5 類に分類されたことを機に以前の医療提供体制に戻しながら、さらなる発展を目指した 1 年であった。当院の新たな柱である総合診療の提供により急性期から在宅医療まで幅広い領域を担う“地域密着型多機能病院”として地域包括ケアの中核の役割を果たすことを目標として事業を行った。

1. 疾病予防から急性期・回復期・在宅支援まで幅広く対応し地域医療に貢献する

病床の安定稼働に向けて再編を行い、施設基準の変更申請を 5 月に行った。3 階病棟（50 床）は地域包括ケア病床を全床対象として病棟単位での届出を行った。4 階病棟（51 床）は新たに 27 床を地域包括ケア病床に指定し、一般病床 24 床との混合病棟とした。病院全体で全 77 床の地域包括ケア病棟・病床は急性期治療を終えた院内の転棟患者や急性期病院からの転院患者を受け入れるだけでなく、在宅から状態が悪化した患者やレスパイト目的の患者など幅広く受け入れを行った。5 階病棟（51 床）は新型コロナウイルス感染症が 5 類移行後も途切れることなく陽性患者を収容する役割を担い、本来の病棟の機能である長期療養や緩和ケアを目的とした患者の受け入れも行った。全病棟の病床管理は毎週開催のベッドコントロール会議にて患者の状態や診療報酬の算定状況など多角的なデータを元に事務・社会福祉士・看護師・理学療法士らが多職種合同で行った。結果、年度の後半では常に 90%を超える病棟稼働の維持を達成することができた。

健診事業は今後の積極的な事業推進を目的として専従で業務をおこなう「健診事業室」を立ち上げた。2 階に事務機能を移し、健康診断業務を専用で行うスペースとして確立し、受診者の動線など運用全体の見直しを行った。近隣の企業 3 社と産業医契約を含む健康診断を全面的に受託する契約を締結するなど、事業の拡大を図ることができた。

2022 年に常勤 1 名体制で開設した総合診療科は 7 月に専攻医 1 名を加えた体制とし、名称も「救急・総合診療科」に改名した。日勤帯の救急患者受入れの窓口となり、淡路島全域から救急車の受け入れを行い、日中の救急車の断りはほぼゼロとなった。

在宅療養支援病院として認可されている強みを活かしさらに発展させていくため 2024 年度に在宅医療事業を専従で行う部署を立ち上げることを計画し、その準備を行った。

2. 職員の資質と組織力の向上に努め、安全で質の高い医療サービスを提供する

日本人間ドック学会の健診施設機能評価（パイロット版）を受審し、病院内で行う健康診断事業に対する第三者による質的な評価を受けた。評価結果は 2024 年度中に通達されるが審査当日のサーベイヤーからの評価は概ね良好であった。

2 年目初期研修医の地域医療研修は 2023 年度も月交代で 2～3 名の研修受入れを行った。さらに明石医療センター（社会医療法人愛仁会）と神戸掖済会病院（公益社団法人日本海員掖済会）の総合診療専門研修プログラムの連携施設として後期研修医（専攻医）の受入れを行い、4 名の専攻医が当院にて 6 ヶ月間の総合診療研修を行った。医師募集活動においては淡路島という立地に惹かれ、地域医療に貢献したい医師の募集を積極的に行い、救急・総合診療科に 2024 年 4 月採用予定の医師 2 名が内定した。整形外科は神戸大学の医局に籍を置く医師の交代人事

が行われ、2024 年 4 月より新体制となった。

高い技術・知識を有する専門職の育成においては認定看護師・特定看護師を目指す看護師や診療技術部の専門職の告示研修の受講を支援した。

3. 地域との共存共栄を図りながら持続的な成長を目指す

淡路市内の聖隷福祉事業団が運営する施設の看護師・リハビリテーション職・管理栄養士・相談員といった共通の専門職種との密なる連携をさらに推し進めた。欠員補充だけでなく人材育成を目的とした人事交流計画では 2023 年度も看護師と理学療法士の人事異動を行うことができた。また岩屋地区の旧病院近接地にあった聖隷の訪問看護・介護のサテライト事務所を当院内に移転することが実現し、利用者情報の共有や関連スタッフの直接的な交流の機会が増え、さらなる連携を推進する一助となった。今後も聖隷の質の高いサービス提供を淡路島内の地域住民に対して切れ目なく提供し続けることを共に目指していく。

地元企業と協働した新たな事業企画の推進についてはパソナグループと骨粗鬆症予防の啓発を目的とした日帰りツアーを開催した。淡路島内に活動拠点を置くサッカーチーム FC. AWJ と雇用パートナー契約を結び、採用困難職種である看護助手として選手 1 名をパート職員として雇用することができた。2024 年度はさらに追加して 2 名の選手と同様にパート雇用契約を結ぶ。

4. 経営基盤の確立

患者数・診療単価ともに予算目標に未達であった。地域包括ケア病棟・病床を活かした入院管理を徹底したが、コロナ禍時代に加算された診療点数を補うことができなかった。

新型コロナウイルス感染症の対応に対する国・県の補助金は 2023 年度も支給されたが、2022 年度から大幅に減額された。費用面では人件費が予算を超過し、収入のマイナスと合わせて赤字額を大きくする要因となった。

5. 地域における公益的な取り組み

無料または低額診療事業を行う施設として、行政や医療機関・施設の相談員など関係機関への周知を行い、「生計困難者」だけでなく「生活困窮者」が必要な医療を受けられるよう医療費減免を行った。無料低額診療事業は 2023 年度も国が定める減免基準 10%以上を超える実績となった。

【数値指標】

項 目	予 算	実 績	対 予 算	対 前 年
外 来 患 者 数	130 名	117 名	90%	96%
外 来 単 価	11,500 円	10,890 円	95%	95%
入 院 患 者 数	129 名	123 名	95%	104%
入 院 単 価	33,800 円	33,190 円	98%	99%
病 床 稼働率	85%	81%	95%	104%
職 員 数	200 名	205 名	103%	107%

聖隷横浜病院

2023 年度は、新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症へ移行した。日常診療の中で感染症対策を行いながら地域完結型医療を推進するケアミックス型の病院として、保健事業の充実、病病・病診連携、横浜市内救急隊などの行政と連携強化を行い地域貢献に努めた。保健事業については、関連施設の健診やドックの推奨を行った。また、地域住民への積極的な健診案内をおこない利用者を獲得し収益予算を達成した。病病・病診連携については、地域に開かれ・顔の見える医療機関として、診療部長が積極的に開業医へ往訪し、顔の見える関係を築く中で紹介数が過去最高となった。また、神奈川県で初となる Dual Energy CT の導入し、他施設との差別化を図り、検査目的の紹介を積極的に受け入れた。救急体制についても、地域の救急医療体制を支えるために、輪番日を週 2 回と固定することにより、整形外科を含めた疾患に対応できる体制を確立した。また、総合診療科・漢方科を充実させ、より多くの疾患に対応できる診療体制の構築を行った。入院治療については、病床管理センターを充実させ、入退院を管理することで入院患者数も過去最高となった。

病院長の「みんなで作る聖隷横浜」を合言葉に、今年度から診療部へ成果計算の資料を提示し、診療科毎に議論し、進むべき道を各診療科と共有する取り組みも行った。経営的には依然として厳しい状況ではあるが、病院一丸となって前に進む体制の構築ができた。

次年度も全職員の努力と取り組みに感謝するとともに、更なる質の高い医療サービスの提供を心がけて、地域から愛され続ける病院づくりを継続していく。

1. 安全で良質な医療の提供

(ア) 医療安全管理体制および感染管理体制の充実

新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に移行したのに併せて対策を緩和し、可能な限り患者が希望する診療体制を確立した。

(イ) 救急診療体制の充実

横浜市内の救急隊向けの勉強会である救急フォーラムの開催や救急隊への訪問活動などを継続的に実施し、救急車受入れ応需率向上に向けて病院全体で取り組み、4,484 件（目標:4,500 件）の救急搬送を受け入れた。また、輪番日を固定かつ整形外科医を配置する事で近隣病院との差別化を図った。

(ウ) 外来診療科体制の充実

内科当番制ならびに非常勤医師で運用していた総合診療科に常勤医師を招聘し内科診療の安定性を図った。

(エ) ドック・健診事業の充実

企業健診（協会けんぽ）の人間ドック受け入れ強化を実施し昨年度比 128.3%の成果となった。また病院利用者へのドック・健診の推奨を診療部と連携し利用者獲得を実施した。

(オ) 病院機能評価の認定更新

2023 年 12 月に病院機能評価 Ver. 3.0 を受審し認定され更新となった。

2. 地域包括ケアシステムの推進

(ア) 地域完結型医療の実践

ケアミックス病院として各機能病床の安定化を図ったが目標の 90%には達しなかった。(回復期リハビリテーション病棟 82.8%・緩和ケア病棟 82.4%・地域包括ケア病棟 83.3%) 次年度診療報酬改定に合わせて引き続き円滑な病棟運用を構築したい。

(ウ) 地域連携及び広報活動の強化

紹介状に対する即日返信を推進し、即日返信率 99.7%を達成した。また、病院長をはじめ各診療科医師と協働でクリニック訪問を行った。これらの取り組みにより、病・診連携強化を図り、紹介件数は 10,071 件(目標: 10,200 件)となった。併せて、保土ヶ谷消防署と連携し市民公開講座を行うなど行政との連携強化も実施した。

3. 多様な人材確保と育成

耳鼻科医師の常勤医師が不在となるため各医局と交渉を実施し非常勤医師確保に努めた。2024 年度内の常勤医師派遣にむけて連携していく。

4. 資源を最大限に活用した健全な経営の実践

診療部と協働で各科の診療の特性(処置・検査など)の分析結果を報告し診療方針改革の取り組みを推進した。人件費率は 58.9%(目標: 58.0%)と予算未達となった。医師一人当たりの入院患者人数増の推奨、外来人数の確保などを継続し生産性を強化していきたい。手術室運用の実態調査を行い、問題提起を行い、効率的な運用の構築を検討した。結果手術件数は 1,820 件(目標: 2,000 件)となった。耳鼻科手術の撤退が大きく影響したと思われる。

5. 最適な環境づくりの推進

2024 年 4 月に施行される働き方改革関連法の施行に向けてプロジェクトを立ち上げ、宿日直許可を取得した。併せて医師への啓発を実施し勤務変更を促した。インフラ(電子カルテ)の円滑な更新にむけて準備を行った。

<地域における公益的な取り組み>

低所得者に対し広く事業を実施し、国が定める基準 11.5%であった。

【数値実績】

	予算	実績	対予算	対前年
外来患者数	600 名	563 名	93.9 %	97.4 %
外来単価	17,300 円	18,560 円	107.3 %	107.3 %
入院患者数	310 名	306 名	98.8 %	103.1 %
入院単価	56,800 円	56,243 円	99.0 %	99.1 %
病床稼働率	84.5 %	83.5 %	98.8 %	103.1 %
職員数	701.3 名	692.2 名	98.7 %	100.3 %

聖隷佐倉市民病院

2023年度は、5月8日より新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが「5類感染症」に変更となったため、感染患者受入病床及び一般病床運用の見直しを行い、引続きコロナ診療と一般診療の両立を図った。また、7月には千葉県より「紹介受診重点医療機関」として認可され、8月には「がん医療支援センター」の開設など、診療機能の充実並びに地域における当院の役割強化にも取り組んだ1年であった。

病院環境においては、2024年2月の電子カルテシステム・部門システム更新及び2024年4月の健診システム更新に向けた準備を綿密に行い順調に稼働ができた。また、老朽化したフローヤや壁、トイレの整備をはじめ、外来待合ソファ、健診リクライニングチェアの更新、院内保育園の園庭整備など、アメニティー整備による利用者満足度向上にも寄与できた。

2023年度は開設20年の節目となる年度として、将来の当院のあるべき姿「将来構想」を毎回の管理会議にて検討を始めるとともに、20周年記念プロジェクトを発足し様々なイベントや広報などの企画準備を開始した。

経営面においては、3ヵ年経営改善計画の3年目（最終年）として、救急受入体制の整備や地域連携強化をはじめ、保健事業・訪問看護ステーション・ケアプランセンターでの需要増への対応により大幅に予算を上回る成果を出すことができた。

1. 地域医療に貢献し、信頼され、選ばれる病院づくり

コロナワクチン接種、発熱外来を継続した。救急医療においてはバックアップ体制強化により年間2,687台と対前年度130%（+619台）の大幅な救急車受入増加に繋がり、地域の救急要請に迅速に対応できた。また、ACP ワーキンググループの立ち上げやキャンサーボードの定期開催など、患者へのベネフィットに繋がる取り組みにも注力した。

2. 安心・安全で質の高いサービスの提供

医療安全ラウンドの強化や画像診断・病理診断における見落とし防止策の徹底のほか、職員必須研修の充実による研修受講者管理、看護師による膀胱・腸エコー実施など、人材育成による質向上や安心・安全なサービス向上に繋げる取り組みを実践した。また、院内見廻り隊による環境整備やフローヤ改修・外来ソファ整備などの各種施設整備を行った。

3. 院内外の連携を強化し、地域から信頼されるオンリーワンの病院になる

地域連携強化として、1週間以内返書の徹底を図り、ほぼ100%達成することができた。キャンサーレター配信や市民公開講座・腎臓病教室の再開などを通して、当院の強みをアピールできた。また、利用者の声に対して迅速かつ適切な対応を行ない、職員接遇面でのお礼の投書が大幅に増え、当院に対する利用者の信頼性を高めることに繋がった。

4. この病院で働きたい、働き続けたいと思える環境整備

職員ドック受診率向上や職員定期健診での腰痛健診の開始、要精密者への受診勧奨強化など、健康経営面での各種施策を講じた。看護部においては病棟でのロング日勤導入による超過勤務の削減、医師の働き方改革では勤務時間管理や宿日直許可に向けた取り組みを行った。また、職員に対する新たな表彰や認定制度を設け、対象者には毎月の朝礼で表彰を行なった。

5. あらゆる環境に対応できる持続可能な経営基盤の構築

診療体制として、眼科体制の充実を図ることができ、病床再編による眼科手術患者受入強化を図ることができた。また、日々の病床稼働状況や救急車受入状況の可視化や各職場による増収費用削減策の徹底など、戦略的な収益確保とコスト管理を継続して取り組むことにより予算達成に繋げることができた。

6. 地域における公益的な取り組み

市民公開講座や腎臓病教室の開催により、病気予防、健康寿命延伸に繋がるための情報発信を行った。

【数値指標】

〈病院〉

項 目	予 算	実 績	対予算	対前年	項 目	予 算	実 績	対予算	対前年
外来患者数	830 名	811 名	97.7%	97.5%	入院患者数	314 名	302 名	96.2%	103.1%
外来単価	15,200 円	14,982 円	98.6%	100.3%	入院単価	55,100 円	56,179 円	102.0%	100.4%
職員数	815 名	786 名	96.4%	100.8%	病床稼働率	83.3%	80.2%	96.3%	103.2%

〈健診センター〉

項 目	予 算	実 績	対予算	対前年	項 目	予 算	実 績	対予算	対前年
受診者数	192 名	212 名	110.4%	109.3%	単 価	18,300 円	16,902 円	92.4%	102.1%

〈せいのい訪問看護ステーション佐倉〉

介護保険	予 算	実 績	対予算	対前年	医療保険	予 算	実 績	対予算	対前年
利用回数	445 件	422 件	94.8%	128.7%	利用回数	175 件	144 件	82.3%	112.5%
単 価	8,600 円	7,725 円	89.8%	96.3%	単 価	10,550 円	10,729 円	101.7%	102.0%

〈せいのいケアプランセンター佐倉〉

項 目	予 算	実 績	対予算	対前年	項 目	予 算	実 績	対予算	対前年
利用回数	139 件	134 件	96.4%	227.1%	単 価	16,740 円	12,110 円	72.3%	116.5%

せいのい訪問看護ステーション佐倉/せいのいケアプランセンター佐倉

2023年度は地域に根差した支援が行えるよう人員体制を強化し事業拡大に繋げることができた。また、病院や行政機関との連携を強化し、よりシームレスな支援体制の強化を図ることができた。

＜無料又は低額診療事業＞

無料又は低額診療事業を行う施設として生活困窮者の支援を行い、減免実施率は21.2%であった。

浜松市リハビリテーション病院

2023 年度は浜松市指定管理者受託後 16 年が経過し、5 年契約の最終年を終えた。2024 年度より指定管理 5 期目を迎えるにあたり、指定管理に関する基本協定の内容について浜松市と綿密な協議を行った。聖隷が負担する減価償却費の減額に加え、健康増進や公衆衛生活動を業務範囲に加えた内容をあらたに協定書に盛り込んだ。2024 年度以降は地域住民の健康増進に向けた新たな取り組みを計画・実践していく。

2023 年 4 月は、藤島特別顧問より昆院長に病院長が引き継がれ新体制でのスタートとなった。これまで培ってきたものを、より「安全に、効率的に、継続的に」利用者に提供するために事業テーマを「調和」とし、職員がやりがいをもって主体的に役割を発揮し、利用者に信頼していただき、地域の医療介護従事者にも安心して頼りにしていただけるリハビリテーション病院を目指した。急性期病院から早期転院の受入を果たすべく、地域連携・患者サポートセンターを中心とした入退院調整の体制を整備し、待機日数の減少と安定した病床稼働の実現に取り組んだ。反面、重症患者の割合が高まり、ケアを実施する病棟スタッフにも高負荷の状態が続いた。間接業務の委託化や就労ボランティアの導入、リハビリテーションスタッフによるケア業務協働など、病棟スタッフの業務負担感の軽減と質を落とさないサービス提供を目指した業務効率化を図った。

日本医療機能評価機構の高度・専門機能（リハビリテーション回復期）の更新を 7 月に受審し、運用の適正化と質の高いリハビリテーション医療の提供が出来る体制を再整備した。

1. 効果的・効率的なチームづくり

院内の委員会や運営会議の構成人員の削減と会議運営の見直しを図ったことで、総会議時間を 2022 年度比で 72.8%短縮した。新型コロナウイルス感染症の影響が下がったこともあり、各種学会発表件数は 2022 年度比で 31.8%増加した。看護業務の細分化と切り分けを行い配分したことで、人員が 20 名未達の状況下で質を落とすことなくリハビリテーションサービスを提供した。日本医療機能評価機構利用者満足度調査において、満足以上の回答は、外来で 82.2%、入院で 76.3%となり 2022 年度の数値を上回った。

2. 質の高いリハビリテーション医療の実践と伝承

えんげセンターの外来患者数は 2022 年度比 115%と増加した。外来リハビリテーション実施件数もスポーツ整形外科の患者数に比例して 110%と増加した。ポストコロナ患者の受入については依頼のあった患者全員を受け入れることができた。入院後の二次感染は 3 件あったが、拡大を最小限に食い止めたことで、入院受入中止に至らず地域医療を止めない体制を維持できた。感染、医療安全、防災に関する研修会では、オンデマンドも活用し職員の 9 割以上の受講が出来た。加えて、電子カルテ障害発生時の対応訓練や防犯訓練など各種リスクを想定した訓練も実施した。

3. 地域連携の強化

急性期病院より早期転院を受け入れるために、入院判定会議を毎日実施する運用に変更した。依頼を受けてから 14 日以内に転院受けする割合は、大腿骨頸部骨折連携パスの患者さん 8 割、脳卒中連携パスの患者で 7 割に達した。MRI 画像撮影依頼を外部広報し、利用促進を呼びかけた。聖

隸浜松病院を中心に依頼件数が増加。月 15 件以上の依頼を受け、速やかな検査、診断に貢献した。障害者雇用率は 2.41%と目標値 (2.5%) には達しなかった。就労ボランティアからの就労移行を次年度以降促進していく。

4. 持続可能な経営基盤の確立

年度初めより病棟スタッフを中心に人員未達の状態が続く中、重症患者の増加もあり新規入院を積極的に受け入れられない状態が続き、年間の平均患者数 210.8 人と目標の 215 人に未達であった。療法士一人あたりの実績は予算通りであったが、産育休が予算人員以上であったこともあり、リハビリテーション全体の収益は予算未達であった。対して介護保険事業では引き続き需要が高く、訪問リハビリテーションでは言語聴覚療法において月 77 件 (予算 : 50 件) の利用実績があった。通所リハビリテーションの稼働率も 79.6% (予算 : 77%) と高い利用実績を示した。

5. 地域における公益的な取り組み

2011 年より実施している「市民いきいきトレーナー養成事業」では、経験を積んだ上級トレーナーであるアドバンストレーナーを 13 名育成した。今後、地域でリーダーシップを発揮したトレーナーの活動促進を図っていく。和合・泉町自治会との地域防災連携連絡会および防災訓練に 2023 年度も参加した。避難所における血栓予防の体操指導を実施するとともに、災害時の地域避難所との連携を確認出来た。

介助・介護法などリハビリテーションに有益な情報を動画編集したコンテンツをホームページに掲載しているが、年間の視聴数が 2022 年度比で 3 割減少した。患者、利用者に有効活用して頂けるよう、広報や周知方法を再考していく。

【数値指標】

項 目	予 算	実 績	対 予 算	対 前 年
外 来 患 者 数	139.0 名	145.8 名	104.9%	94.0%
外 来 単 価	9,900 円	10,510 円	106.2%	101.9%
入 院 患 者 数	215.0 名	210.8 名	98.0%	100.4%
入 院 単 価	41,200 円	40,535 円	98.4%	98.4%
病 床 稼 働 率	95.5%	93.7%	98.0%	100.4%
職 員 数	436.0 名	408.6 名	93.7%	97.8%

〈介護保険事業〉

項 目	予 算	実 績	対 予 算	対 前 年
通所リハビリ利用回数	737 件	808 件	109.6%	104.3%
単 価	4,770 円	4,808 円	100.8%	101.2%
訪問リハビリ利用回数	378 件	410 件	108.5%	129.3%
単 価	8,400 円	8,273 円	98.5%	101.3%

聖隷袋井市民病院

2023 年度、長く続いたコロナ禍は、感染症分類の変更に伴って日常生活の一部となり、人々の活動性も高まった。当院では『ふくろい 地域リハビリテーションをはぐくむ会』を立ち上げ、地域のケアマネジャーを招いて集合研修を実施したり、袋井市および掛川市の 3 病院合同市民公開講座を開催したりと、地域の方々と直接の関りを高めた。

5 月には開設 10 周年を迎えた。開院して以来、職員数を増やし、許可病床を段階的にフルオープンさせ、訪問リハビリテーションや訪問診療の提供を開始し継続できていることは、支えてくれている当院職員や袋井市職員、連携する事業所の方々、地域住民のおかげと感謝申し上げたい。

【事業・運営計画】 選ばれる病院『地域 No.1』を目指す episode2

1. 安全で質の高い医療サービスの提供

(ア)多職種で取り組む質改善活動の推進:「認知症ケアの向上」は、患者の生活情報収集方法を院内共通とし、院内デイケアも立ち上げた。「終末期患者への緩和医療や看取りケアの向上」は、『その人らしさを大切にしたケア』をあるべき姿とし、ホスピス見学や勉強会を実施した。「利用者の利便性向上」は、病棟トイレの環境を変更した。患者満足・職員やりがい度調査では、他施設とベンチマークが可能な医療機能評価機構の方法を採用した。

(イ)多職種による安全な医療サービスの提供:「医療安全管理」では、安全文化醸成のため Team STEPPS や確認会話研修を実施、ヒヤリハット報告を推進した。「感染管理」では、新型コロナ感染の院内発生があったものの、スタッフの感染対策の遵守により孤発にとどまり短期に収束できた。

(ウ)地域における特色あるリハビリテーション医療の充実:「機器を活用したリハビリテーション」や提供単位数の増加により、回復期病棟のリハビリテーション実績指数は 42.5 (目標 40 以上) となった。「摂食えんげ障害」に対しては、嚥下レントゲン検査を本格運用し 88 件実施した。嚥下造影や内視鏡検査は 2024 年 6 月に 2 枠増枠する。“食べる”を支援するため、食事介助ができるスタッフの育成も行った。「高次脳機能障害」患者・家族への支援運用を確立し、自主作成したパンフレットを院内各所に設置した。自動車運転再開に関する自動車学校との連携は 2 年目となり 2022 年度比で 200% (4 名→11 名) となった。

2. 地域共生社会への貢献

(ア)退院後生活を見据えた支援体制の強化:『ふくろい 地域リハビリテーションをはぐくむ会』では、地域のケアマネジャーとの合同研修を 2 回開催した。職種による思考プロセスの違いを共有でき、患者支援の向上に繋がる結果が得られた。訪問看護出向研修事業への参画も継続した (1 名)。2 年目となった訪問診療は延べ 45 名 (2022 年度 37 名)、訪問先でのボツリヌス療法も開始した。訪問リハビリテーションは延べ 878 回 (2022 年度 792 回)。

(イ)後方支援病院としての機能の強化:医師や看護師が急性期病院を 7 回訪問。情報共有や当院からの要望等が伝えられる関係性を構築できた。

(ウ)ACP (アドバンス・ケア・プランニング) の概念を基にした意思決定の支援

「こころのノート」を院内 6 か所に設置し、手に取った市民の方が約 250 冊を持ち帰った。

院外の説明会・講演会にも医師や療法士が参画し普及啓発に努めた。

(エ)袋井市の介護予防・日常生活支援総合事業への参画と提案：地域の他事業所の療法士とともに袋井市の総合事業の在り方を検討した。体操指導者として活動する市民に関わり、運動評価や二重課題の実施へと発展的に導くことができた。

3. 人材の確保・育成の推進

(ア)人材の確保と育成：事業団内連携により内科医 1 名、募集体制の強化により看護補助者 5 名の採用に繋がった。介護福祉士の役割の明文化、看護補助者教育の検討を開始した。

(イ)専門性向上の支援

職員に対し認定資格等の取得希望調査を行ったことで、積極的な情報提供が必要と分かった。「特定看護師」は 6 月から活動を開始、手順書に基づき述べ 10 名の患者の治療に関わった。点滴に至らないための全身管理、看護師の教育が中心的活動であり役割であった。

4. ディーセント・ワーク（人生と両立できる働きがいのある仕事）の推進

(ア)業務効率化の推進と労働環境の整備

情報収集に関する時間や方法の見直し、クランクの活用、記録の見直し等行い、各職場で取り組んだ。腰痛アンケートの結果による受診勧奨、腰痛予防体操の啓発等を行った。

(イ)両立支援制度（育児・介護・がん）の普及啓発、活用：男性職員への育休取得のための情報提供書を作成し運用を開始し、2 名の男性職員が育休を取得した。

5. 経営基盤の安定化

(ア)病床稼働の安定化：退院患者の可視化、病棟間での患者調整、急性期病院からの紹介後速やかな入院判定等に取り組み、過去最高の稼働率 年 89.4%（最大月 94.6%）となった。

(イ)災害対策の強化：発災後 72 時間以内に必要となる事柄を具体的に訓練した。炊き出し・食事搬送、防火水槽からのくみ上げ、災害対策本部の情報分析訓練など行った。

【地域における公益的な取り組み】

・認知症初期集中支援活動、介護予防・健康増進活動、「こころのノート」普及啓発活動、新型コロナウイルス感染症への対応（ワクチン接種、発熱外来）等、継続した。

【数値実績】

項 目	予 算	実 績	対 予 算	対 前 年
外 来 患 者 数	45 名	46 名	102.2%	106.9%
外 来 単 価	7,559 円	8,351 円	110.4%	93.6%
入 院 患 者 数	131 名	134 名	102.2%	107.2%
入 院 単 価	28,706 円	27,698 円	96.4%	99.1%
病 床 稼 働 率	87.3%	89.3%	102.2%	107.2%
職 員 数	197 名	191 名	96.9%	101.5%

〈訪問リハビリテーション〉

項 目	予 算	実 績	対 予 算	対 前 年
利用回数（月平均）	932 件	878 件	94.2%	110.8%
単価	3,377 円	3,318 円	98.2%	99.4%

保健事業部

聖隷健康診断センター 聖隷健康診断センター東伊場クリニック
聖隷予防検診センター 地域・企業健診センター
聖隷健康サポートセンター*Shizuoka* 聖隷静岡健診クリニック

2023年度は、組織再編による組織のシンプル化と指揮命令系統の明確化を図り、新たな組織として「運営管理センター」を設け、経営戦略立案、契約、予約、結果処理、請求、システム管理、保健サービスの品質管理等を一体的に管理できる体制を整備した。また、昨年度運用が不安定であった健診システムについては、機能追加、レスポンス向上等のカスタマイズを実施し業務の改善と安定が進んだ。労働環境については、職員休憩スペースの新設や巡回健診会場での熱中症対策等に取り組むと共に、業務効率化や必要人員の確保等により長時間労働の是正に努めた。その結果、超過勤務は昨年度に比べ減少したが、業務の繁忙期を乗り切るためのさらなる業務整理と効率化が必要である。

経営については、研究事業や非採算事業の見直しを図り、ドックおよび一般健診を主軸とする経営にシフトした。また新規施設として「東伊場クリニック」を5月に開設し、滞在時間短縮型のドックを開始した。事業部全体の増収策としては、契約団体訪問による関係性の再構築、Web予約の利便性向上、市町との協働による受診勧奨等を実施し、費用削減策としては、費目ごとの予算管理を徹底し、健診運用の効率化による備品整備計画の見直しを図る等費用のコントロールに努めた。しかしながら、税引前当期活動増減差額においては2年連続の赤字決算となってしまったため、今後は経営再建計画を基に経営の回復を目指していく。

一方、職員の努力により、CS アンケートにおいて約90%の方から「満足」もしくは「やや満足」の評価を頂き、外部評価団体からも複数の賞を受賞することができたことは、保健事業部にとっての今後の糧としていきたい。

2024年度においても、これらの取り組みをベースに、職員の健康を守る対策をとり、利用者本位の業務遂行に努め、高品質の保健サービスが提供できる健診機関として、利用者からのさらなる信頼回復に努めていきたい。

【事業・運営計画】

1. 顧客からの信頼回復 ～選ばれ続ける健診機関～

(ア) 安定した健診業務の運営

- ・当日のドック・健康診断業務および事前・事後業務の改善と安定が進んだ。
- ・次年度はさらに効率を高めていく。

(イ) 健診システムの精度向上・安定稼働・スケジュール管理

- ・カスタマイズによる機能追加、レスポンス強化等を実施した。

(ウ) 新規施設「東伊場クリニック」の安定経営

- ・滞在時間3時間半以内の「クイックドック」を実現した。2023年度稼働率は、ドック63%、一般健診56%。次年度はさらに受診勧奨を進めていく。

(エ) スムーズな予約体制の整備

- ・Web 予約枠拡大、Web 先行予約サービスの導入等、予約の利便性を高めた、

(オ) 営業戦略・体制の見直し

- ・経営戦略課を創設し、事業部全体の経営戦略立案ができる体制を整備した。

(カ) DX 促進によるサービス向上と効率化の両立

- ・Web 予約促進、オンライン特定保健指導等によりサービス向上と効率化に努めた。

(キ) 顧客のすべての接点での満足度向上

- ・CS アンケートの結果、約 90%の方が「満足」もしくは「やや満足」と回答され、「職員の対応」、「プライバシーへの配慮」の項目が特に高値を示した。

(ク) 新健診システム更新におけるアクシデント分析・共有から改善へ

- ・契約マスタ作成ルール、巡回健診統一台帳および工程表の改善等を実施した。

(ケ) 保健事業部の「強み」の拡大

- ・利用者個々に合わせた保健指導、精度管理、接遇力等の向上に努めた結果、外部評価団体より複数の賞を受賞することができた。

(コ) 山間過疎地等における健康診断及び予防接種等、地域の公益性が高い業務の継続実施

- ・静岡市山間過疎地域住民の送迎付き健康診断を実施した。

2. 労働環境の整備 ～健康経営・エンゲージメント向上・働き方改革～

(ア) 健康経営の推進

- ・施設内の職員休憩スペースの新設、巡回健診会場における熱中症対策として職員用ファンベルト等を整備した。

(イ) 労務管理の徹底による職員の心身の健康管理

- ・超過勤務事前申請、終業後のすみやかな退勤等を文書にて再通知すると共に、日々の超過勤務状況のモニタリングを実施し、職員の健康管理に努めた。

(ウ) Web 会議等 IT の活用による効率化

- ・会議・委員会の Web 実施を推奨し、拘束時間の短縮を図った。

(エ) スタッフの「やりたい」を実現するしくみづくり

- ・目標管理を通し、また課長主催の役職者研修を企画する等、スタッフの自己実現に対するサポートを行った。

3. 事業継続のための経営改善 ～事業の継続性・効率化・見える化～

(ア) 法定健診・団体契約を主軸とした経営への転換

- ・研究事業等の見直しを図り、法定健診や人間ドックを主軸とした経営に転換した。

(イ) 人員配置の見直し

- ・組織再編成による人員配置の効率化を図った。

(ウ) 健診の平準化

- ・巡回健診における小規模事業所の施設内誘導および期間短縮プラン等を策定し、2024 年度の実施につなげた。

- (エ) 新規顧客開発、リピーターづくり、未受診者勧奨等、対象ごとへの適切なアプローチ
 - ・健康保険組合・事業所等への訪問、受診当日の満足度向上、市町との協働による住民健診未受診者への受診勧奨等を実施した。
- (オ) 健診（検診）事業の個別評価と見直し
 - ・非採算事業の見直しを図ると共に備品整備後、増収策実施後の事後評価を行った。
- (カ) 成果計算による事業の見える化
 - ・個々の案件に対する成果計算はできているが、事業ごとの成果計算が未実施であるため、2024 年度に実施する。
- (キ) ヒト・モノ・情報の徹底した無駄の排除
 - ・システム化による手作業の軽減、健診運用の効率化による備品整備計画の見直し、組織の単純化によるスムーズな情報伝達等を図った。

4. 組織改革 ～課題へのスピード解決・役割明確化～

- (ア) 指揮命令系統と役割の明確化
 - ・組織再編を実施し、指揮命令系統を明確にした。
- (イ) 経営戦略を担う管理体制の強化
 - ・経営戦略課を創設し、予算管理、タスク管理、増収策立案等の機能を強化した。
- (ウ) 貢献意欲の高い組織風土づくり
 - ・管理会議でタスク管理表の進捗を共有することで、一体感のある組織風土づくりに努めた。
- (エ) 医師を積極的に活用するしくみ
 - ・各施設の読影、診察業務等における相互連携を図った。
- (オ) 事業計画指標の定期評価
 - ・各施設および運営管理センターのタスクの可視化と進捗管理を実施した。
- (カ) 職制ごとの役割と責務の明確化
 - ・組織図に即した管理規定・職務権限表の改定を行った。
- (キ) 情報の共有とコミュニケーションの改善
 - ・部門横断的な会議体（巡回健診コントロール会議、予約体制改善会議等）の開催により、情報の共有と課題解決の早期化が実現した。

5. 人材育成 ～プロフェッショナル育成～

- (ア) 「保健事業部人」の育成
 - ・会議体、研修を通して、事業部理念、組織、方針の浸透を図った。
- (イ) 事業部内教育の体系化としくみづくり
 - ・看護、コメディカル部門は体系化されているが、事務部門の教育体系づくりが課題であるため、2024 年度に継続して体系化を図る。
- (ウ) 他部署・他職種間の相互理解促進のしくみ検討
 - ・東伊場クリニック開設にあたり各職種間の相互理解が進み、看護、検査、放射線業

務のタスクシェアが実現した。

- ・運営管理センターの創設により、契約、予約、結果処理、請求部門等の相互理解を深めた。

6. 地域における公益的な取組

浜松商工会議所主催「いきいき健康フェスタ」に参加し婦人科検診の啓発を実施した。

【各施設の取り組み】

1. 聖隷健康診断センター、聖隷健康診断センター東伊場クリニック

- ・浜松市南部地域の拠点として東伊場クリニックを開設した。
- ・医療問診時、人間ドック利用者個々に対して個別のオプション提案を実施した。
- ・採血、眼底、血圧、肺機能検査において、各課で業務を相互補完するしくみを構築した。
(東伊場クリニック)

2. 聖隷予防検診センター

- ・スピードドックや経膈エコー検査等、利用者ニーズの高いサービス提供に注力した。
- ・胃バリウム検査の中止率低減に取り組み、検査実施率8%向上を果たした。
- ・日本人間ドック学会「人間ドック健診施設機能評価」優秀賞、日総研「接遇大賞」を受賞した。

3. 地域・企業健診センター

- ・袋井市と協同し、住民検診未受診者への受診勧奨を実施した。
- ・静岡型多目的コホート研究事業「ふくけん！」を実施した。
- ・巡回健診小規模事業所の施設内健診への誘導を図り、効率性を高めた。

4. 聖隷健康サポートセンターShizuoka、聖隷静岡健診クリニック

- ・顧客健保・事業所訪問により、関係の改善とニーズの把握に努めた。
- ・サンデーレディース健診を追加実施し、受診者ニーズに応えた。(静岡健診クリニック)

【数値指標】

■保健事業部合計

ドック	PET 健診	一般健診	特定保健指導	婦人科健診
68,607 人	282 人	480,610 人	16,996 人	91,012 人
特殊健診	精密外来	合計		
54,842 人	40,587 人	752,936 人		

和合せいれいの里

特別養護老人ホーム和合愛光園 和合愛光園和合サテライト 生活支援ハウスやまぶき
障害者支援施設みとす 聖隷トライサポート和合 和合愛光園デイサービスセンター
聖隷放課後クラブはなえみ和合 聖隷こども発達支援事業所かるみあ和合
聖隷こども発達支援センター和合 聖隷チャレンジ工房和合 相談支援事業所くすのき
浜松市中障がい者相談支援センター 聖隷ヘルパーセンター
聖隷ケアプランセンター和 地域包括支援センター和合 訪問看護ステーション住吉

2023 年 5 月 8 日から新型コロナウイルス感染症の位置づけが「新型インフルエンザ等感染症（いわゆる 2 類相当）」から「5 類感染症」になり、感染対策に取り組みながらも日常生活上の規制が緩和され人的交流の機会が戻り始めた。そのような状況下、2023 年 7 月に在宅・福祉サービス事業部が再編され在宅・福祉静岡ブロックが誕生した。和合せいれいの里では、地域実情に応じ、前年度から計画をしていた「聖隷こども発達支援センター和合」を 9 月に、10 月には 2024 年度以降の浜松市地域福祉計画を見据え「聖隷福祉総合相談センター和合」と、続けざまに新規事業の開設に至った。また、事業部再編を受け、静岡ブロック運営管理室も和合せいれいの里内に内包し、新たな運営管理体制の構築に至った。このように 2023 年度は、今までの価値観を刷新し、より地域に求められる新たな機能を獲得していくことを推し進めた 1 年であった。

和合せいれいの里は利用者や家族、地域の方々の「やりたいこと」とサービス提供主体となる我々の「やりたいこと」を合致させることができるよう、各事業所の特性や能力を繋ぎ合わせ、その方のライフステージに応じた適切な支援を切れ目なく提供できる体制を構築し、和合せいれいの里がこの地にある意義を見出し続けている。

1. ライフステージに応じた切れ目のない支援体制の構築

(ア) ・訪問看護ステーション住吉第二を休止し、訪問看護ステーション住吉のサテライトとして運用を変更。訪問看護ステーション住吉は馬郡サテライトも含め、大規模かつ広域的な事業所として運営を実施。予算を大きく上回る実績を計上した。

・2023 年 9 月 1 日に「聖隷こども発達支援センター和合」を浜松市（旧）中区初の児童発達支援センターとして開設した。センターには、児童発達支援センター、放課後等デイサービス事業、相談支援事業所が内包された。同時に、児童発達支援センターの定員も 20 名から 30 名に受入れ人数を増加し、療育、保育所等への訪問、相談支援等の機能強化を図った。

(イ) 和合せいれいの里内にある、高齢者、障害者・児、生活困窮者の相談支援事業所を集約し、複合的で重層的な生活課題への支援がワンストップで行えるように、2024 年 10 月 1 日に「聖隷福祉総合相談センター和合」を開設した。

(ウ) 単一事業所が情報を抱え込むことなく関連する事業所へ情報発信できるように、分野横断的な会議体を編成し、現在の課題解決だけではなく未来を見通した計画が立案できる仕組みづくりを行った。

2. 「安心して暮らし続けられる」取り組みの創出と定着

- (ア) サービス担当者会議、地域ケア会議等を通して、利用者・家族・地域の方々のニーズの把握に努め、都度、ニーズに合致するように各種事業の軌道修正を図った。
- (イ) 各種 ICT 機器の活用も功を奏し、介護者が原因となる事故や重篤な事故の発生は抑制できた。また、これまでは介護者の想像の域を出なかった事故分析も、システムデータをもとに分析が進み、より現実的かつ具体的な再発防止策を立案できた。
- (ウ) 支援困難な方等の緊急宿泊希望は、空床を活用しながら積極的に受け入れを行った。また、医療ニーズの高い方等の受け入れも関連職種と事前の協議を重ね、意欲的に受け入れた。結果、年度を通して高稼働率を維持できた。
- (エ) ICT 機器・介護ロボットの活用によって誕生した時間を、利用者の「やりたい」こと（趣味活動・外出等）の実現に還元できた。

3. 新たな働き方・やりがい・役割の創造

- (ア) 資格取得や研修に関する情報は都度発信し、資格取得の支援を行った結果、介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員の合格者を一定数輩出できた。
- (イ) 主に相談援助職は施設内外を問わず、認知症や制度等の理解促進のために地域ケア会議等へ効果的に参加した。
- (ウ) フロアリーダー等の役割を改めて見直し、配置人員も含め役割の整理を図った。
- (エ) 職員教育は指導者個人に任せるのではなく、インカムシステム等を活用しチーム全体で支えることで多角的な支援に努めた。また、OJT だけではなく各種 e ラーニング等を活用することで技術と知識との底上げを図った。
- (オ) 業務仕分けを継続することで、高齢者・障害者・外国人（留学生）等をケアサポーターとして雇用し、介護現場の業務省力化を図った。
- (カ) ケア記録システム、見守り支援システム、インカムシステム、移動・移乗用ロボット等の機器に加え、入浴介助業務を省力化する機器を実装し、専門職が専門職としての業務により注力できる環境を創造した。

4. 運営安定化の推進

- (ア) 「聖隷こども発達支援センター和合」・「聖隷福祉総合相談センター和合」の開設、在宅・福祉静岡ブロック運営管理室の統合に関する事務所改修等へ計画的な投資を実施した。
- (イ) 老朽化施設設備の計画的な更新、業務省力につながる新たな機器の導入等が計画的に行えた。
- (ウ) 積極的に新たな加算算定や取りこぼしがないように実践を続け、高単価の維持に努めた。
- (エ) 給食委託業者と業務省力・費用削減等につながる一体的な取り組みが評価され、委託費の急激な上昇は抑制できた。

5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 静岡 DWAT 登録員が能登半島地震被災地支援を行った。
- (イ) 介護に対する情報発信を地域の団体等に実践した。また、外部企業への足掛かりとして、聖隷福祉事業団法人本部職員への介護保険制度等の説明会を複数回実施し、理解促進、介護離職防止等に貢献することができた。
- (ウ) 聖隷キッチン和合の学習支援事業への弁当配食・困窮家庭へ支援を継続した。
- (エ) 河川里親制度に登録を継続し、隣接河川の環境美化活動を実施した。

【数値指標】

■高齢者入所・通所事業

	和合愛光園			和合サテライト	和合愛光園 デイサービスセンター			やまぶき
	特養入所		短期		通所介護			生活支援 ハウス
	従来型	ユニット型	従来型 (障害)		ユニット型	一般型 介護	予防	
利 用 者 定 員	62 名	40 名	20 名	29 名	50 名		12 名	5 名
利 用 延 数	22,812 名	14,265 名	6,454 名	10,352 名	8,223 名	262 名	2,033 名	－
一日平均利用者数	62.3 名	39.0 名	17.6 名	28.3 名	26.5 名	0.9 名	6.6 名	－
稼 動 率	100.5%	97.4%	88.2%	97.5%	53.1%		54.7%	－
稼 動 延 日 数	366 日	366 日	366 日	366 日	310 日		310 日	－
単価（一人一日）	12,485 円	15,107 円	12,723 円	15,117 円	10,953 円	6,868 円	14,585 円	－
正職常勤換算数	39.4 名	22.7 名	9.5 名	15.2 名	7.3 名		2.7 名	0.3 名
パート常勤換算数	10.0 名	4.4 名	2.0 名	5.7 名	10.8 名		3.4 名	0.9 名

■障害者入所・通所・相談事業

	聖隷トライサポート 和合		障害者支援施設 みるとす			相談支援 くすのき	中障がい者 相談支援 センター
	介護 予防	共生型 機能訓練 生活介護	施設入所 生活介護 Ⅰ	生活介護 Ⅱ	短期入所	特定 児童	浜松市 受託
利用者定員	40名(午前・午後・1日)		20名	20名	2名	—	—
利用者延数	11,996名	1,480名	7,134名	6,097名	1,086名	1,775名	—
一日平均利用者数	38.8名	4.8名	19.5名	19.8名	3.0名	—	—
稼働率	72.7%		97.5%	99.0%	148.4%	—	—
稼働延日数	309日		366日	308日	366日	—	—
単価（一人一日）	6,540円	9,104円	18,659円	15,028円	9,519円	—	—
正職常勤換算数	10.4名		13.0名	9.0名	—	5.0名	4.0名
パート常勤換算数	7.3名		5.0名	7.1名	—	0名	※3.0名

※他法人出向受入

■就労支援・障害児通所支援事業

	聖隷チャレンジ工房和合				はなえみ和合		かるみあ和合
	就労移行	就労継続 B	就労継続 A	就労定着	放課後等デイサービス 学校日 休校日		児童発達支援
利 用 定 員	10 名	15 名	10 名	—	20 名		20 名 9 月～30 名
利 用 者 述 べ 人 数	2, 207 名	3, 864 名	1, 551 名	134 名	3, 138 名	326 名	5, 667 名
一 日 平 均 利 用 者 数	8. 4 名	14. 4 名	6. 1 名	—	14. 4 名		23. 2 名
稼 働 率	83. 9%	96. 1%	60. 8%	—	71. 9%		90. 4%
稼 働 日 数 (延 べ)	263 日	268 日	255 日	—	241 日		244 日
単 価 (一 人 一 日 当 り)	12, 205 円	9, 515 円	7, 996 円	—	7, 060 円	7, 910 円	16, 678 円
正 職 常 勤 換 算 数	8. 5 名				6. 1 名		12. 1 名
パート常勤換算数	12. 0 名 (うち、A 型利用者 5. 2 名)				2. 1 名		3. 0 名

■訪問・居宅介護支援・地域包括支援事業

訪問看護ステーション 住吉	平均利用者数		月訪問件数		年訪問件数		単価		常勤換算職員数
	372 名		1, 913 件		22, 966 件		10, 533 円		32. 5 名
聖隷ヘルパーセンター	介護給付				予防給付		単価		常勤換算職員数
	平均利用者数	訪問件数		利用者		介護(時間)	予防(時間)		
		月間	年間	月間	年間				
	54 名	595 件	7, 137 件	21 名	250 名	4, 209 円	4, 124 円	9. 9 名	
聖隷ケアプランセンター和	年間請求件数				平均単価				常勤換算職員数
	介護	予防	予防 A	介護	予防	総合 A			
	2, 118 件	225 件	111 件	19, 302 円	4, 213 円	4, 298 円	6. 7 名		
地域包括支援センター和合	浜松市受託収入		予防プラン 請求件数		うち 再委託件数		予防プラン 単価		常勤換算職員数
	31, 728 千円		3, 553 件		3, 103 件		4, 471 円		6. 9 名
	日常生活支援総合事業の予防プラン								
	種別	ケアマネジメント 請求件数		うち 再委託件数		ケアマネジメント プラン単価			
	ケアマネジメント A	2, 076 件		1, 726 件		4, 471 円			
	ケアマネジメント B	88 件		0 件		3, 246 円			
	ケアマネジメント C	0 件		0 件		732 円			

聖隷ケアセンター初生

和合愛光園初生サテライト
聖隷デイサービスセンター初生

2023年度は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、感染対策を講じた上での行事の実施、面会や外出などコロナ禍以前の対応に近づけてきた。事業としては、デイサービスにおいて、栄養マネジメント体制の構築、利用者ニーズに合わせた短時間利用枠の創出、利用者の状態に合わせた機能訓練の見直し、記録システムの導入を行った。特別養護老人ホームにおいても、記録システム、見守り支援システム、インカムシステム、オンラインでの入所申し込みなどの整備を行った。利用者のニーズに応えるべく体制の基礎固めができたと言える。

【施設理念】

わたしたちは、住み慣れた地域でその人らしい“暮らし”や“生きがい”を支え続ける

【事業・運営計画】

1. 利用者、地域のニーズに沿ったサービスの見直しと再構築による質の向上
 - (ア) デイサービスにおける短時間利用枠を創出でき、利用者のニーズに応えることができた
 - (イ) 管理栄養士による栄養講座及び在宅利用者宅への訪問指導を実施し、栄養マネジメント体制を構築できた
 - (ウ) デイサービスにおいて、栄養マネジメントの取り組みを他事業所に発信し、連携に繋がった
 - (エ) 在宅利用者に対して、持ち帰り食の検討を行った。実施には至らなかったため、次年度への継続課題とする
2. 働きがいのある職場環境と人材育成の推進
 - (ア) 記録システムや見守りシステム、インカムシステムを導入した。導入に際し、リーダー職員が中心となり職員全員が主体となり、運用方法を検討できた
 - (イ) 記録システム、見守りシステム、インカムシステムの活用により、サービスの質向上に向けた検討を始めることができた
 - (ウ) ACPに関して、研修を実施することはできた。ACPの考え方をケア提供まで繋げることはできていないため、次年度への継続課題とする
 - (エ) 目標参画システムを進めていく中で、職員の事業計画への意識が高まり目標達成に繋がった
 - (オ) 福祉機器（泡シャワー）の活用により、利用者の満足度向上、職員の腰痛予防に繋がった
3. 感染症対応、災害時など、いかなる状況においても事業継続ができる体制を構築する
 - (ア) 繰り返し聖隷ケアセンター初生内で定期的な訓練、勉強会を実施することができた
 - (イ) 聖隷ケアセンター初生におけるBCPを整備することはできた。今後、訓練を継続する中で随時BCPの見直しを図っていく

4. 安定した運営の推進

- (ア) デイサービスにおいて栄養アセスメント加算を算定することができた
- (イ) SNS を活用した施設紹介を実施できた。特別養護老人ホームにおいて、ショートステイの運用に向けての検討を行い、次年度計画に繋げることができた
- (ウ) デイサービスにおける事業規模の変更、職員配置の見直しを行い運営状況の改善に努めた

5. 地域における公益的な取組

- (ア) 災害に関するBCPを作成し、施設の現状を把握できた。地域とどのように連携していくか、継続課題とする
- (イ) 地域包括支援センターと協力し、三方原小学校における認知症に対する取り組みを実施できた
- (ウ) 各専門職の実習、小・中学校からの福祉体験、特別支援学校の実習受け入れを行い、地域の社会資源として施設機能を提供できた

【経営指標】

	和合愛光園初生サテライト	聖隷デイサービスセンター初生	
		介護給付	総合事業
利 用 者 定 員	29 人	50 人	(50 人)
利 用 延 数	10,418 人	9,929 人	892 人
一 日 平 均 利 用 者 数	28.5 人	32.5 人	2.9 人
稼 動 率 (%)	98.1%	70.9%	
稼 動 延 日 数	366 日	305 日	
平 均 介 護 度	3.41	1.75	—
単 価	14,567 円/日	10,134 円/回	6,368 円/日
サービス活動収益 (千円)	153,238(千円)	106,706(千円)	
職 員 数 (正 職)	14.0 人	5.3 人	
職 員 数 (パ ー ト)	9.9 人	14.9 人	

聖隷ケアセンター高丘

訪問看護ステーション高丘

聖隷リハビリプラザ I N 高丘

地域包括支援センター高丘

聖隷ケアプランセンター浜松

2023 年度はフレイル予防のための散歩企画やサロンでの講話など地域での活動機会を多く持つことができた。また、センター職員全体で地域の強みや求められていることなどをディスカッションする時間を作り、職員個々が地域について考える機会となった。

これからも地域に根ざした施設運営を目指していく。

1. 地域の利用者特性をつかみ、ケアセンター高丘内の連携を強化することでセンター全体として地域の中で、質の高いサービスを展開できる
 - (ア) 訪問看護ステーション高丘はチームで協働し、利用者・家族の生活を支えてきた。高齢化や多問題を抱える利用者も増え、今後は病状の進行や急激な変化に柔軟に対応できる力を強化していく必要がある
 - (イ) 聖隷リハビリプラザ I N 高丘は難病に対する事例検討を行い、知識・技術の向上を図った。定期的な話し合いの機会を設け、ご利用者一人ひとりに合った対応を検討し、ケアの質の向上に努めた。入浴サービスは、ご自宅での入浴を目的とした訓練の一環として再開できた
 - (ウ) 地域包括支援センター高丘は「身寄りのない方への支援」について関係者にアンケートを実施、結果から見えた課題を市に問題提起した。また、小中学校をはじめ地域住民など 671 名に認知症サポーター養成講座を実施した
 - (エ) 聖隷ケアプランセンター浜松は根拠を整理しながら事例検討や事例共有を行いチームとしての実践力を高めた。神経難病の利用者 2 名に対する意思決定支援を関係者と連携し取り組んだ。人生会議手帳を希望する利用者 129 名に配布し周知に努めた
 - (オ) 共通利用者に対してケース会議等で情報共有を丁寧に行い、センター内で連携し、事業所の特色を生かしたサービス提供を行えるよう努めた。
2. 職員 1 人ひとりがやりがいを持ち、働きやすい職場風土を醸成する
 - (ア) 業務の効率化、業務負担の軽減を目指し、聖隷リハビリプラザ I N 高丘は入力支援システムの HIMVIT を活用。聖隷ケアプランセンター浜松は A I ケアプランの運用を 1 月から開始した
 - (イ) 各事業所体制を整え、有給休暇 72% 取得することができた
3. 地域における公益的な取り組み
 - (ア) 地域交流やフレイル予防を目的に、散歩教室を継続し年間 2 回実施ができた。センター内の専門職が地域のサロン等に出向き講話を実施した

- (イ) センターの所属する地域で実施している自主防災組織の勉強会に参加し、地域住民と情報交換を実施した
- (ウ) 聖隷クリストファー大学各専門学科の実習・看護学生実習、病院看護師（聖隷三方原病院、浜松医大、医療センター、）研修・職場体験、ボランティア等積極的な受け入れを行った。

【数値実績】

訪問看護事業（訪問看護ステーション高丘）

平均利用者	月訪問件数	年訪問件数	単価（円）	職員数 （常勤換算）
196 人	1,025 件	12,305 件	9,574 円	15.05 名

通所介護事業（聖隷リハビリプラザ I N 高丘）

介護給付			予防給付		障がい給付		職員数 (常勤 換算)
平均 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	
22 名	560 名	6,725 名	78 名	941 名	25 名	295 名	11.09 名
単価(円)	6,374 円		31,678 円		8,411 円		

地域包括支援事業（地域包括支援センター高丘）

浜松市受託収入（千円）	予防プラン 請求件数	うち 再委託件数	予防プラン 単価	職員数 （常勤換算）
41,400 千円	3,468 件	2,862 件	4,471 円	
日常生活支援総合事業の予防プラン				7.2 名
種別	予防プラン	うち	予防プラン	
	請求件数	再委託件数	単価	
ケアマネジメント A	2,184 件	1,531 件	4,471 円	
ケアマネジメント B	437 件	0 件	3,246 円	
ケアマネジメント C	0 件	0 件	2,195 円	

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター浜松）

年間請求件数		平均単価		訪問調査		職員数 （常勤換算）
介護	予防	介護	予防	年間件数	単価	
2,378 件	587 件	16,156 円	3,925 円	10 件	4,587 円	5.8 名

聖隷コミュニティケアセンター

2023 年度は、貸与では、利用者が在宅で安心して生活ができるよう定期的な点検モニタリングに力を入れ、居宅介護支援事業所と連携して支援することができた。また、介護保険外サービスを検討し、2024 年度から開始する新たな施設レンタルサービスの準備ができた。販売では、関東エリアの施設と良好な関係性が構築できた。今後も施設の要望に対応できる事業所を目指していく。

1. 利用者満足度の高いサービスの提供

(ア) 利用者が安全に在宅生活を送れるよう支援の強化

- ①居宅介護支援事業所ごとに担当者を配置していたが年度途中から職員の体制が整わずサービスの向上までは至らなかった。
- ②定期点検の訪問は大きく改善し、利用者ニーズや使用状況を居宅支援事業所に報告することができた。
- ③有償サービスの価格改定を行い、施設向け有償サービスの検討を行った。施設向け車いす、自動発電機のレンタルは 2024 年度から開始していく。

(イ) 店舗販売の充実と連携

- ①病院と連携し、自動販売機の一部導入や病院内のコンビニエンスストアとの連携を深めることができ、衛生材料等の販売ルートの整備をすることができた。
- ②WEB サイトの販売展開の検討を行った。2024 年中に開始できるよう進めていく。
- ③高丘配送センターに介護用品ショールームを開設できた。

(ウ) 年間計画通りに勉強会を開催し、専門性を向上することができた。

2. 事業運営安定化の推進

(ア) 法人内居宅介護支援事業所の平均紹介率 69%、1 件平均単価 12,800 円と目標は未達。

(イ) 予算に挙げた人員を確保することができず、人材の安定を図ることができなかった。

(ウ) 2 カ月に 1 度、関東エリアの施設へ赴き、ニーズを引き出すことができた。

(エ) 事業継続計画を作成することができた。2024 年度も事業継続計画に基づいた研修を行っていく。

3. 職員のやりがいと働きやすい職場作り

(ア) リーダーを中心に、職員間で困難ケースの同行訪問を積極的に行うことができた。

(イ) 長期休暇を取れる体制を整えた（有給取得率 64%）。

4. 地域における公益的な取り組み

(ア) 地域包括支援センターと共同で地域に向け計 6 回の啓発活動を行った。また行政からの依頼で展示会も開催できた。

浜松市生活自立相談支援センターつながり

2023 年度の相談件数は 722 件となり、新型コロナウイルス感染拡大前の相談件数に近づきつつある。新型コロナウイルス感染が感染症法上 5 類へ移行されたことにより経済活動が再開され生活困窮世帯が減少したと考えられる。しかし、新型コロナウイルス感染症が始まる前と比較すると相談件数は 1.2 倍と高止まりしている。離職に伴う減収、住居を失う恐れ、病気や障がい背景にあるなど、複合的な課題を抱える相談者が散見されている。また、食べ物が無い、ライフライン停止等の緊急対応が必要な相談も依然として寄せられている。相談者の年齢層についても、50 歳代が突出して多かったが、20 歳代～60 歳代の幅広い世帯の相談件数が増えている。今後も関係機関と連携を深めながら、複合的な課題を抱える、幅広い年齢層の生活困窮世帯への支援を実施していく。

【事業計画】

1. 地域における公益的な取組

- (ア) ・救護施設讃栄寮と定期的に支援対象者像や支援内容について連絡会を実施した。
 - ・相談者について讃栄寮指導員と合同で面談を実施し、支援方法について検討した
- (イ) ・無料低額宿泊所、日常生活支援住居施設の開設要綱の確認、行政担当課との打合せを実施。行政担当課と開設に向け取り組むことを共有した。
 - ・無料低額宿泊所を運営している法人へ見学に行き、対象者や支援内容、他施設との連携の在り方を学び、開設に向けたイメージ作りができた。次年度中に開設の必要性について判断する。
- (ウ) 年間 968 食提供実施した。一時的に教室に来ることができない子について、お弁当を持参して訪問し、子供とその世帯とのつながりを継続することができた。

2. 就労支援及び就労準備支援

- (ア) 年間 95 名となった。就労希望がある相談者全体の 81.2%就職率となった。
- (イ) 新規利用者 15 名、継続利用者 3 名の計 18 名の支援を実施した。その内 10 名の方が就職し就労定着となった。
- (ウ) 協力企業を活用し、年間 8 名が就職につながった。

3. 学習サポート及びキャリア形成支援

- (ア) 2023 年度卒業生及びその家族に対して、SNS（ライン）を活用した情報配信や相談の受付の仕組みを運用開始した。
- (イ) 年間 74 件訪問を実施。関係性が途切れることなく支援継続できた。

4. 地域との連携強化

- (ア) 毎月 1 ケース以上のケース検討の実施、ケース検討会へ参加した。また、浜松市における重層的支援体制による初回支援チームに参画しケース検討に参加した。

(イ) 民生児童委員の圏域会議にて、年間 6 ケース相談及び就労支援を実施したケースについて支援内容及び経過を報告した。

【数値指標】

	つながり				学習サポート 事業
	生活困窮者 自立支援事業	生活困窮者 一時生活支援事業	学習支援事業	ホームレス 巡回支援事業	
利 用 者 定 員	- 名	7 名	60 名	-名	-名
利 用 者 延 べ 人 数	5,465 名	1,534 名	1,385 名	128 名	492 名
一 日 平 均 利 用 者 数	22.6 名	3.8 名	9.2 名	3.6 名	3.5 名
稼 働 率	-%	75.7%	-%	-%	-%
稼 働 日 数 (延 べ)	242 日	1,383 日	150 日	35 日	138 日
単価(一人一日当たり)	-円	-円	-円	-円	-円
職員数(常勤換算)	17.4 名				0.3 名

聖隷厚生園 信生

2023 年度も引き続き医療と介護・福祉の連携強化を行い、利用者が住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう、一体的な事業展開を目指した。聖隷厚生園信生寮では、廃用性による身体機能の低下を予防するとともに、利用者の“やりたい”を支援する取り組みを行うことができた。感染防止対策が続き、利用者と職員がお互いの気持ちを分かち合う機会が減り、それが利用者・職員の情緒・感情的負担感を増大させている原因だと考え、コロナ過に適した新たな交流機会を作ることができた。在宅部門においては、利用者が望む地域生活が選択でき、地域の多様なニーズに対応することができるよう、介護保険、障害福祉分野との連携の継続ができた。

1. 利用者が楽しく安心して尊厳ある生活ができる支援を行う

- (ア) 身体機能の廃用性や生活意欲の減退を防ぐため、介護過程に基づいた利用者の“できる”を引き出す個別支援を多職種協同で行うことができた。
- (イ) 処遇困難ケースについて原因分析、共有を行い関わり方の模索とアセスメントを行った。
- (ウ) 虐待防止セルフチェックを年 2 回実施し、利用者の尊厳を守る取り組みを行った。
- (エ) 感染予防対策の上、外出企画を通じ利用者と職員が楽しい時間を共有することができた。
- (オ) 感染予防も踏まえた利用者、家族、職員がつながる新しい交流の機会を創造した。
- (カ) 咀嚼能力、口腔機能、栄養状態を把握し、食事の付加価値を向上させる取組を行った。
- (キ) 水光熱費、食材料費の価格高騰に考慮した運営を行うことができた。

2. 地域課題の解決に向けた取り組み

- (ア) 訪問看護ステーション細江では、聖隷三方原病院と連携し利用者支援を行った。なおとらシートを活用した ACP の継続と、末期の利用者が「地域でよりよく生きる」ことへの支援を行えた。
- (イ) 聖隷ヘルパーセンター浜松北では、細江、引佐、三方原、都田 4 地区を中心に引き続き地域ニーズに応えることができた。
- (ウ) 聖隷ケアプランセンター細江では、聖隷三方原病院等と連携し医療依存度の高い利用者のコーディネートをし、もくせいの里では、先を見通した生活のコーディネートができた。
- (エ) 在宅福祉サービス、通所、相談支援の各事業所等が合同カンファレンスを定期的に行い、支援困難ケースを通じて実質的に連携し、課題解決の糸口を見出すことができた。
- (オ) 聖隷厚生園まじわりの家では、感覚刺激を促す支援の導入により満足度向上ができた。
- (カ) 西部特別支援学校の実習を受入れ、利用者、家族が求める地域生活の提案ができた。
- (キ) シオンハウスの今後の事業の方向性を協議し、入居者の意向を確認することができた。

3. 利用者も職員も安心・快適に過ごせる施設環境の創造

- (ア) ノーリフトケア推進を継続し、職員が長く働き続ける職場づくりに努めた。
- (イ) ケアカルテのオーダー管理機能を活用し、ペーパーレス化、業務効率化ができた。
- (ウ) 感染対策マニュアルの整備、研修会、訓練を行い、施設内感染拡大には至らなかった。

(エ)職員が利用者のためにやりたいことが実現できる自発的な企画や活動ができた。

(オ)職員が働きやすい労働環境管理に努めた。

(カ)レクリエーション機会を通じて、職員同士の交流を活性化させることができた。

4. 介護人材の確保と育成の取り組み

(ア)各専門職ラダー、コンピテンシー評価を活用し、職員の人材育成を図ることができた。

(イ)人事企画部と連携し、EPA 介護福祉士候補生の学習支援の強化を図ることができた。

(ウ)福祉系学校と連携、協力し、将来の介護・福祉人材の育成に貢献することができた。

(エ)聖隷厚生園ナルド工房・聖隷ワース工房浜松学園と連携し、やりがいをもって介護の仕事ができるよう、障がい者雇用や就労継続支援の受け入れを積極的に行うことができた。

5. 災害時対策・地域における公益的な取り組み

(ア)大規模災害時や感染拡大時にも事業が継続できるように、BCP を作成した。

(イ)能登半島地震の際には地域の要請に応じて、DWAT の派遣を行った。

【数値実績】

■障害者入所・通所事業

	信生寮			まじわりの家	
	入所	短期	日中一時	生活介護	機能訓練
利用者定員	60 名	10 名	－	14 名	6 名
利用者延べ人数	22,369 名	3,868 名	3,298 時間	3,959 名	1,386 名
一日平均利用者数	61.1 名	10.6 名	－	15.5 名	5.4 名
稼働率	101.9%	100.7%	－	110.5%	90.2%
稼働日数（延べ）	366 日	366 日	366 日	256 日	256 日
単価（一人一日当り）	17,919 円	10,073 円	－	17,542 円	10,812 円
職員数（常勤換算）	55.3 名			13.3 名	

■訪問看護ステーション細江

利用者数		訪問件数		単価	職員数 （常勤換算）
年間	月平均	年間	月平均		
2,590 名	216 名	12,302 件	1,025 件	10,417 円	17.8 名

■聖隷ケアプランセンター細江

年間請求件数		平均単価		サテライト（三方原）	職員数 （常勤換算）
介護	予防	介護	予防	年間相談件数	
2,055 件	468 件	17,323 円	3,962 円	478 件	5.4 名

■聖隷ヘルパーセンター浜松北

介護給付			予防給付		単価		職員数 (常勤換算)
月平均 利用者数	訪問件数		利用者数		介護(回)	予防(月)	
	年間	月平均	年間	月平均			
42 名	4,415 件	368 件	234 名	20 名	4,208 円	22,248 円	4.9 名

聖隷厚生園讃栄

救護施設聖隷厚生園讃栄寮 生活訓練事業所ナルド
地域活動支援センターナルド 障害者相談支援事業所ナルド
福祉共同住宅ファーストステップ

2023 年度、救護施設では利用者が活躍し自信を再獲得することを目的に、主体的に取り組める自立支援に力を入れた。地域生活に向けた活動を意識的に促し、利用者が地域の中でできることを増やす仕組みづくりができた。在宅障がい部門では利用者ニーズの把握と連携できる機関と在宅での利用者の生活に視点を当て、その方の生活イメージを協働的に構築できたと考える。

1. 浜松市生活自立相談支援センターつながりと救護施設讃栄寮が連携し、制度の狭間で困っている方を支援する
 - (ア) 生活困窮者支援と救護施設支援を運営している大阪の施設を見学し、日常生活住居支援施設の運営方法を学び、モデルイメージを持つことができた。
 - (イ) 浜松市生活自立支援センターつながりから相談があった触法ケースを救護一時入所で受入れし、正式な入所受入れにつなぐことができた。
 - (ウ) 浜松市生活自立支援センターつながりと連携し、指導員が浜松市拘置所へ面会に伺い、出所後の利用者の生活イメージ相談や救護施設への入所相談に対応できた。
2. 失敗を恐れず、その体験を活かせるよう一緒に考え、ご利用者の自信を再獲得する
 - (ア) 地域生活を希望する利用者でグループワークを行い、居宅訓練事業を知る機会を設けた。グループワークでは地域生活をイメージしてもらい、食事や金銭管理、内服管理など学ぶ機会を設けることができた。
 - (イ) これまで職員だけで構成していた食事委員会に利用者もメンバーとして参加できた。利用者の意見を聞き取り、役割分担するなど食事企画を主体的に開催することができた。
 - (ウ) 河川清掃ボランティアに利用者も積極的に参加し、地域貢献に取り組むことができた。保護施設通所事業利用者に対してグループワークを行い、余暇時間の活用方法を考える機会を設けた。大河ドラマ館への外出や連休の過ごし方など学ぶことができた。
3. 専門職と連携し個別性に着目した個別支援プログラムの実践を図る
 - (ア) 個別支援計画作成時、専門職の見立てを反映し、計画書作成にあたった。計画に基づいた支援を実践できた。
 - (イ) 毎日昼食時に動画を活用した嚥下体操を実施できているが、嚥下機能低下がみられる利用者の嚥下体操が定着せず、窒息リスクの自覚を促すことを課題としている。歯科衛生士による口腔ケア講座の開催や個別での訪問歯科や地域歯科への通院など、口腔環境の改善に取り組んでいる。
 - (ウ) 特別支援学校からの卒業生受け入れは継続できている。生活での困りごとを聞きながら身につけたいスキルを個別に聞き取り、個別・集団の中で支援が提供できた。就労グループでは就労サービスへ5名移行することができた。
4. 幅広い利用者ニーズに対応できるよう多機関との連携と人材育成に取り組む

(ア) 障害者相談支援事業所ナルドでは、委託相談や法人内外サービス提供事業所と支援会議等を行い、困難事例に対し連携をすることができた。

(イ) 生活訓練事業所ナルドでは、グループホームや同居家族と話をする機会を設け、在宅時と通所時の様子の違いを共有することができた。

(ウ) 福祉共同住宅ファーストステップでは、一人暮らし移行の実績はいまだない。しかし、全利用者に一人暮らしの意向を確認し、相談支援事業所と連携しながらアパート内見をするなど支援を進めている。

5. 利用者に向き合う更なる時間を生み出すため、記録ソフトやインカムなどの ICT 機器を活用する

(ア) 記録ソフトケアカルテの導入と運用を開始した。

(イ) インカムの導入を検討したが、業者とのマッチングが進捗せず導入に至っていない。
 讃栄寮の施設の特性と機能性の精査を継続し、2024 年度導入を目指す。非常口のカメラ更新については、電子錠化を図り、防災時にも対応できるよう導入を進めている。

6. 地域における地域貢献など公益的な取組み

(ア) 感染拡大等での職員派遣応援要請はなかった。

(イ) 能登半島大震災時に職員応援要請に応じ申請したが、派遣にはつながらなかった。

【数値実績】

	聖隷厚生園讃栄寮				
	救護施設	救護通所	短期入所 (総合支援法)		
利 用 者 定 員	60 名	10 名	4 名		
利 用 者 延 べ 人 数	23,119 名	3,385 名	1,093 名		
稼 働 日 数 (延 べ)	366 日	366 日	366 日		
一 日 平 均 利 用 者 数	63.2 名	9.2 名	3.0 名		
稼 働 率	105.3%	92.5%	74.7%		
単 価 (一人一日当り)	10,184 円		8,116 円		
職 員 数(常 勤 換 算)	29.0 名				
	生活訓練事業所 ナルド		相談支援事業所 ナルド	福祉共同住宅 ファーストステップ	
	生活訓練	生活介護	障害者		障害児
利 用 者 定 員	10 名	10 名	-	-	13 名
利 用 者 延 べ 人 数	2,542 名	2,441 名	2,412 名	348 名	4,530 名
稼 働 日 数 (延 べ)	254 日	254 日	-	-	366 日
一 日 平 均 利 用 者 数	10.0 名	9.6 名	-	-	12.4 名
稼 働 率	100.1%	96.1%	-	-	95.2%
単 価 (一人一日当り)	10,256 円	8,943 円	-	-	4,667 円
職 員 数(常 勤 換 算)	4.1 名		7.4 名		3.4 名

聖隷厚生園ナルド工房

聖隷厚生園ナルド工房では、定員超過により新規利用者の受入が難しい状態が続いていたが、2023 年度に就労継続支援 B 型の利用定員を 25 名から 30 名へ変更し、9 名の新規利用者を受け入れることができた。

また、相談支援事業所や在宅サービス事業所と連携し、利用者が次のステップをイメージできるように、働くことへの安心感やモチベーションが高まる支援を行うことができた。

1. 利用者の働くことへの安心感やモチベーションが高まる取り組み

- (ア) 新たな作業として床ワックスがけ作業を開始し、5 施設から受注あった。利用者が施設外に出て仕事ができる機会を増やすことができた。
- (イ) 利用者が働くモチベーションを向上させるため、“日々のがんばり”や自身が決めた参加日の参加率を評価する仕組みを作ることができた。
- (ウ) 利用者の目標設定に際して、仕事の様子を動画や写真で撮影し、視覚的に成果を伝える仕組みを構築した。
- (エ) 利用者個々の状況に合わせて作業場所の調整やパーテーションを活用し、仕事環境への配慮を行うことで、安心感をもって働くことができた。
- (オ) 就職へのイメージが持てる目標設定支援を行うため、就労支援のグループワークで、就職を前提としない見学・実習先を開拓し、早期に企業見学や実習を行うことができた。
- (カ) 虐待防止セルフチェックを年 2 回(7 月・3 月)実施し、職員が利用者への関わりを定期的に振り返ることができた。職員の悩みや不安に対しても解決策を講じることができた。

2. 利用者のステップアップを支える多職種・関連機関と協働した取り組み

- (ア) 利用者が仕事をする際の身体の姿勢等による働き難さの軽減を図るため、専門職を招き、仕事の姿勢や身体の動かし方、休憩時間の過ごし方等の意見を踏まえた就労支援を展開することができた。
- (イ) 生活訓練事業所ナルドと協働し、利用者のステップアップとして 3 名を就労継続支援 B 型の利用につなげることができた。また、再チャレンジの提案として、就労継続支援 B 型の利用者から 1 名を生活訓練へつなげることができた。
- (ウ) 「就労パスポート」(厚生労働省推進ツール)を活用し、利用者が働く上で、自分の特徴や希望する配慮を自ら整理ができるように支援することができたが、就職活動時における企業担当者との情報共有という面では不十分であった。
- (エ) 特別支援学校の進路担当者と情報交換し、計画的な実習を受け入れることができた。卒業後の進路先として 1 名を利用につなげることができた。また、「浜松みをつくし特支援学校」から求人案内をもらい、2 名の就職者をつなげることができた。

3. 次世代を担う人材育成への取り組み

- (ア) 利用者の障がい特性の理解や職業指導スキル向上を図るために、eラーニングや外部研修を活用することができた。
- (イ) 法律や制度に則ったサービス提供を遵守するため、毎月の職場会議で勉強会を開催することができた。
- (ウ) 根拠に基づいた感染対策が行えるように、毎日の作業の中で利用者と一緒に感染予防対策に取り組むことができた。
- (エ) 新たに導入したケア記録システム(ケアカルテ)については、職員が一通り使用できるようになったが、慣れるまでに時間を要し、業務の効率化に活かすまでには不十分であった。

4. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 近隣の福祉施設に喫茶スペースを開放し、会議や交流の機会として提供することができた。

【数値実績】

	聖隷厚生園ナルド工房		
	就労移行支援	就労継続支援 B 型	就労定着支援
利 用 者 定 員	10 名	30 名	20 名
利 用 者 延 べ 人 数	2,276 名	5,705 名	131 名
一日平均利用者数	9.3 名	23.4 名	-名
稼働率	93.3%	77.9%	-%
稼働日数（延べ）	244 日	244 日	-日
単価(一人一日当り)	13,947 円	9,467 円	29,915 円
職員数（常勤換算）	10.8 名		

浜松学園

障害者支援施設 聖隷チャレンジ工房浜松学園
就労継続支援 A 型事業所 聖隷ワース工房浜松学園
生活介護事業所 聖隷ステップサポート

2023 年度は多様なニーズに応えることができるよう、それぞれの事業が地域で求められていることを捉え、できることを着実に実行する 1 年となった。その結果、入園選考会では例年より多くの方にご応募いただき、2024 年 4 月には 36 名の新しい利用者を迎える準備ができた。

就労移行支援では 2024 年 3 月現在で 2022 年～2023 年度の 2 年間で 6 か月就職定着者が 28 名となり、過去 3 年間の就労定着率も 95%維持できている。また就労継続支援 B 型では、年間平均作業工賃支給が 28,502 円/月となり、目標工賃を達成することができた。これらは地域社会の方々のご協力の上に利用者と職員がともに励み、ともに成長した結果であると考えられる。

1. 「働く」6 か月就労定着者 15 名以上、平均工賃 25,000 円/月を目指す

- (ア)仕事に取り組む姿勢や意欲を評価し、作業工賃支給に反映させる仕組みを作ることができた。
- (イ)職場見学や体験実習先を開拓し、利用者が就労する上での課題を見出せる機会を提供できた。
- (ウ)就労パスポートをケース担当者が中心に利用者、作業担当、就労支援員で共同して作成し、相手先企業へわかりやすく利用者の能力や特性を説明することができた。
- (エ)施設作業⇒実習⇒就職⇒定着支援の時期をサービス担当者会議で決定し、計画的に支援することができた。
- (オ)就職先企業担当者と意見交換するための協議会は、いまだ構想段階で実現することができていないため、次年度の課題とした。

2. 「暮らす」自己理解・他者理解を育む支援を行い、利用者の地域社会の中で生きる力を養う

- (ア)年度末に特別支援学校等の教育支援計画の内容を引き継ぎ、ケース担当者が利用者の障がい特性に基づくアセスメントを行い、“チーム”で課題解決できる支援ができた。
- (イ)利用者の日誌や生活環境 check シートを基に、ケース担当者が定期面接を月 1～2 回程度実施することができ、自己理解を引き出す支援をおこなうことができた。
- (ウ)体験利用者の心に残る浜松学園のオリジナル食事メニュー「ハマガクドック」を開発、オーブンキャンパスで披露し、参加者の好評を得た。
- (エ)利用者による自治会運営では、主に水道や電気の使用について節約をする方法などを話し合い、実際に行動に移せるように職員は側面的な支援を行うことができた。
- (オ)毎月行われているスポーツの日やハロウィン、クリスマス祝会など利用者主体で職員とともに楽しむことができ、支援基盤となる関係性を築くことができた。

3. 「学ぶ」「わかる」「できる」ことの喜びを利用者の自信につなげる

- (ア)生活支援講座（性教育、食生活、感染対策）を実施し、講座ごとに利用者同士のグループワークにて考えを深める支援を実施することができた。

- (イ)職場見学、職場実習の経験を基にグループワークを行い、利用者個々がどんな仕事に興味があるのか、どんな仕事なら自分にできそうかを考える機会を支援できた。
- (ウ)施設生活でのコミュニケーション課題を解決するための社会生活技能訓練を定期的に開催し、利用者が自分の気持ちと向き合い、理解し、相手に伝えることができるようになってきた。
- (エ)パソコン検定を希望する利用者が当該年度はいなかったため、実施に至らなかった。

4. 顕在化された各事業の課題解決への取り組み

(聖隷ワース工房浜松学園)

- (ア)生産活動、支援力の向上、地域連携活動を強化し、スコア値「130点」以上となった。
- (イ)法人内外の事業所から広く体験実習を受け入れ、2名の新規利用につなげることができた。
- (ウ)filo事業、事務、介護周辺業務、厨房業務などの業務委託で15名分の仕事を創出できたが、年間稼働率は77.3%で定員に及ばなかったため、新規利用者の獲得は次年度の課題とした。
- (エ)下半期に3名6カ月就職定着者を輩出することができ、次年度の報酬加算につながる実績を作ることができた。

(聖隷ステップサポート)

- (ア)五感を刺激するレクリエーションやリハビリテーションを取り入れ、重度の肢体不自由者が楽しめる活動を充実させることができた。
- (イ)西部特別支援学校の自立活動へ作業療法士の派遣依頼がなく、実施には至らなかった。
- (ウ)看護職員を中心に主治医等の医療機関と連携し、気管切開でたんの吸引がある利用者1名の受け入れを実現することができた。
- (エ)訪問リハビリテーション事業所とケースを通じての実質的な連携をとることができた。

(短期入所)

- (ア)土日祝日の開所を月2回行い、就職者がレスパイト目的で利用できる環境を整えた。
- (イ)(ウ)施設入所を検討していたみをつくし特別支援学校高等部の生徒3名が定期的に利用し、卒業後2024年4月から聖隷チャレンジ工房浜松学園の利用を開始することができた。

(全事業)

- (ア)オープンキャンパスを年間4回実施し、延べ269名の利用希望者が参加された。
- (イ)“浜松学園紹介動画”のQRコードをパンフレットや名刺に掲載し、障がいのある方が視覚的に理解してもらえるように広報活動を行うことができた。

5. 防災・感染対策・職員教育体制等の強化

- (ア)BCP(事業継続計画)の作成を行い、非常災害時に備えることができた。
- (イ)新型コロナウイルス感染拡大を防止するための利用者・職員研修を実施した。
- (ウ)eラーニングを活用し、障がい者就労支援の知識を全職員で共有することができた。
- (エ)研究論文発表で必要な知識を習得するためのグループディスカッション(浜学ゼミ)を月1回行い、2024年2月の静岡ブロック聖隷福祉学会では優秀賞を獲得することができた。

6. 地域における公益的な取り組みを行う

- (ア) 聖隷クリストファー大学の学生ボランティア受け入れを積極的に行った。
- (イ) 能登半島地震では、静岡県知的障害者施設協会の要請で被災した障がい者の受け入れの意思表示をしたが、結果的に受け入れ実績はなかった。

【数値指標】

	聖隷チャレンジ工房浜松学園				
	入所	短期	就労移行	就労継続 B	就労定着
利 用 者 定 員	60 名	10 名	30 名	30 名	一名
利 用 者 延 べ 人 数	12,275 名	772 名	7,845 名	8,328 名	277 名
一 日 平 均 利 用 者 数	35.0 名	2.7 名	29.8 名	31.6 名	一名
稼 働 率	58.3%	35.7%	99.3%	105%	－%
稼 働 日 数（延 べ）	350 日	276 日	263 日	263 日	一日
単価（一人一日当り）	2,281 円	8,096 円	7,925 円	7,123 円	33,741 円
常 勤 換 算 職 員 数	27.8 名				

	聖隷ステップサポート	聖隷ワース工房浜松学園
	生活介護	就労継続 A
利 用 者 定 員	20 名	15 名
利 用 者 延 べ 人 数	3,906 名	2,834 名
一 日 平 均 利 用 者 数	15.2 名	11.6 名
稼 働 率	76.0%	77.3%
稼 働 日 数（延 べ）	256 日	244 日
単価（一人一日当り）	12,587 円	8,481 円
常 勤 換 算 職 員 数	8.1 名	4.1 名

軽費老人ホーム もくせいの里

2023 年度もくせいの里は、入居者の「もくせいの里で安心して長く暮らしたい」との思いに添えていくため、「身体」「こころ」「社会性」のフレイル予防に取り組んだ。2023 年 5 月 8 日から新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症となり、より居室から外に出る取り組みが可能となり、買い物、遠足等の外出企画の充実や、地域幼稚園等との交流が再開された。また、「利用者主体」の具現化を図るため、利用者が使用する物品や遠足や外出の行き先は、利用者が決定していくという支援を行った。

運営面においては、光熱費や食材費について目標値を設けて取り組み、予算内で費用を抑えることができた。特に食材費については、取引業者の協力もあり日常の食事や配食サービスの質を落とすことなく取り組むことができた。

2024 年 1 月に能登半島地震が発生した。もくせいの里は旧耐震構造であり、大地震発生に関しては高リスク状態であると言える。現入居者や地域住民からのニーズもある中、施設としての在り方の方向性について具体的方針を決めていくことは急務である。

【事業・運営報告】

1. 質の高い「暮らしサポート」の提供

- (ア) フレイル予防のため、「ロコモ教室もくもく」を毎月 2 回開催した。平均 8 割を超える入居者の参加があった。
- (イ) 入居継続可能な基準（ADL・IADL）を設定した。概要について、入居者懇談会にて説明を行った。
- (ウ) 入居者の咀嚼・嚥下能力について、個々人の能力に応じた食形態の工夫を行った。また、2024 年度 4 月より、言語聴覚士の業務委託を得られるよう調整を行った。
- (エ) 新規入居時に、日常生活動作等を把握するため、基本チェックリストを活用して、状態確認を行った。
- (オ) 配食サービス利用者の安否確認時（配食時）の状況について、家族や地域包括支援センター等と情報共有を行った。

2. 健全運営の推進

- (ア) 光熱費や食材料費等の物価高騰に対し、光熱費、食材料費共に予算内に収めることができた。
- (イ) 待機者確保のため、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所への情報提供を行った。
- (ウ) 2023 年 2 月に入居者 5 名、職員 1 名の新型コロナ感染があったが、入居者の協力や職員の努力によって、感染症拡大は防止でき、11 日間で終息することができた。
- (エ) 通所介護利用者へ夕食の配食について、営業活動を行うまでには至らなかった。
- (オ) 設備点検等での不具合や居室の老朽化による設備工事に早期に対応した。

3. 職員の資質の向上

- (ア) 全ての正職員について、年間1回は外部研修に参加できた。職員会議にて研修報告を行い研修内容の共有化を図った。しかし、専門職ラダーやeラーニングとの連動には至らなかった。
- (イ) 高速道路を使った遠足企画を企画・実行した。また、遠足企画のルール作りも行い、職員に対して受益者負担の意識向上を図った。
- (ウ) 静岡県内の他の軽費老人ホームA型への訪問を行った。もくせいの里との運営の違いについて認識を深めることができた。

4. 地域社会への貢献

- (ア) 大きな事故なく、ひとり暮らし高齢者・重度身体障害者等配食サービスを提供した。
- (イ) 運動会やクリスマス会、卒園式等、高台幼稚園との定期的な交流を行うことができた。
- (ウ) 毎月開催される「湖東公民館サロン」の企画・運営に協力すると共に、地域住民と入居者の交流ができた。

【数値実績】

	軽費老人ホーム	配食サービス	計
利 用 者 定 員	50 名	—	
利 用 者 延 べ 数	18,147 名	16,381 名	
1 日 平 均 利 用 者 数	49.6 名	53.2 名	
稼 働 率 (%)	99.2%	—	
稼 働 日 数 (延 べ)	366 日	308 日	
単 価 (一 人 一 日 当 り)	6,273 円	700 円	
職 員 数	12.9 名	2.2 名	15.1 名

いなさ愛光園

特別養護老人ホームいなさ愛光園

いなさ愛光園デイサービスセンター(通常規模型・認知症対応型)

いなさ愛光園ヘルパーステーション(訪問介護/居宅介護)

ほのぼのケアガーデン(認知症対応型共同生活介護)

聖隷ケアプランセンターいなさ

いなさ愛光園在宅介護支援センター

ひとり暮らし高齢者等配食サービス

2023 年度、新型コロナウイルス感染症への対応方法を確立し、一定の条件下であったが、地域の方々によるボランティア活動や今まで休止してきたイベント等を再開することができた。

運営について、「引佐地域のまるごと聖隷」を掲げ、引佐地域で住む方達が安心して生活が営めるよう、地域の全事業で切れ目のないサービス提供体制を目指した。第一段階として、ケアセンターいなさ内にいなさ愛光園在宅部門のサテライト事務所を設置し、利用者情報や地域課題をタイムリーに共有、サービスに繋げる取り組みが構築できた。

収益については、入所稼働率が 100.8%と高稼働で維持できた。一方で費用については老朽化がすすみ、想定外での修繕が多かった。拠点として予算達成し、安定した運営ができた。

【年度事業目標・年度重点施策】

1. ICT 機器を効果的に活用した新しい介護業務の構築をする

- (ア) 見守り支援システムの効果測定を行い、特に夜間における職員負担の軽減ができた
- (イ) インカムの活用により、緊急時の応援などをタイムリーに実施できた
- (ウ) 2024 年 2 月に HIMVIT を導入し、利用者情報の共有に努めた
- (エ) HIMVIT 導入後の業務負担軽減に関して、検証期間が短く実施できなかった
- (オ) ICT 機器導入時の個人情報に関する勉強会を実施し、情報の漏洩防止を徹底した

2. 利用者の意向やこれまでの生活を尊重した支援をする

- (ア) 認知症実践者研修に 3 名、リーダー研修に 1 名参加し、認知症対応力の強化を図った
- (イ) 褥瘡予防の講習会を実施したが、皮膚損傷は 40 名(2022 年度 42 名)と変化がなかった
- (ウ) 看取りに関する情報シートを活用し在宅から入所までの情報共有に努めた
- (エ) 施設内の環境美化に努め、特に園内の庭園については利用者からも好評を得ている
- (オ) 新規入所者に対して、今まで関わった在宅職員も参加しての担当者会議が開催できた

3. 人材育成と働きやすい職場環境の整備をする

- (ア) e ラーニングを活用し、基本的な介護力を高めることができた
- (イ) 医療的ケアに対応すべく、喀痰吸引等研修に 2 名参加することができた
- (ウ) 就業前の腰痛体操を定着し 2023 年度の腰痛者は 1 名(2022 年度 3 名)と軽減できた
- (エ) 係長心得に 3 名登用。新たなチームリーダーも 1 名育成できた

4. 安定した施設運営をする

- (ア)介護報酬改定に向けて、役職者勉強会を開催し 2024 年度の対策を立案できた
- (イ)認知症リーダー研修修了者が要件に至らず（2023 年 3 名）新加算の算定ができなかった
- (ウ)業務継続計画を見直し、特に備蓄について整備した
- (エ)経年劣化による設備更新及び 2023 年度以降の空調・冷温水回路の更新計画を作成した
- (オ)感染対策委員会を中心に年 2 回の定期訓練を実施した

5. 地域における公益的な取組み

- (ア)地域のサロン活動に 6 回参加し、運営の支援をおこなった
- (イ)2024 年 2 月に地域の交流行事に参加することができた
- (ウ)地域の防災訓練に参加し、地域防災の理解を図った
- (エ)道路寸断等を想定し、利用者や職員、地域避難者に対する備蓄の見直しをおこなった
- (オ)社会福祉法人利用者負担軽減事業を継続できた

【数値指標】高齢者入所・短期入所・通所関係事業・訪問介護・居宅介護・居宅介護支援事業

	特養入所		短期入所	通常規模通所介護	
	従来型	ユニット型	ユニット型	介護	予防
利用者定員	30 名	40 名	20 名	35 名	
利用者延べ人数	10,928 名	14,894 名	5,976 名	7,715 名	1,107 名
一日平均利用者数	29.9 名	40.7 名	16.3 名	25.0 名	3.6 名
稼 動 率	99.5%	101.7%	81.6%	81.6%	
稼動日数（延べ）	366 日	366 日	366 日	309 日	
単価（一人一日当り）	13,651 円	15,074 円	13,775 円	9,979 円	
職員数（常勤換算）	48.1 名		15.1 名	13.3 名	
	認知症対応型 共同生活介護	居宅介護支援		認知症対応通所介護	
		介護	予防	介護	予防
利用者定員	9 名			12 名	
利用者延べ人数	3,252 名	1,826 名	738 名	2,919 名	4 名
一日平均利用者数	8.9 名			9.4 名	0.1 名
稼 動 率	98.7%			78.8%	
稼動日数（延べ）	366 日	366 日	366 日	309 日	
単価（一人一日当り）	14,129 円	16,245 円	3,910 円	12,981 円	
職員数（常勤換算）	8.5 名	4.4 名		8.2 名	
	訪問介護		居宅介護 （障害）	配食サービス	在宅介護支 援センター
	介護	予防			
利用者延べ人数	2,520 名	1,021 名	470 名	1,159 名	
一日平均利用者数	7.0 名	2.8 名	1.3 名	4.0 名	
稼 動 率				-	
稼動日数（延べ）	362 日	362 日	362 日	293 日	
単価（一人一日当り）	4,744 円		3,939 円	717 円	
職員数（常勤換算）			4.5 名		

聖隷ケアセンターいなさ

聖隷リハビリプラザいなさ

地域包括支援センター細江

2023 年度は 8050 問題で象徴されるような複合課題を抱えた世帯の増加に加え、団塊の世代からの相談の増加やコロナ禍の後遺症としての地域のつながりの希薄化などが進み、地域の困りごとの質の変化を実感した。地域の高齢化や介護や生活の担い手不足、医療機関の撤退などがより深刻さを増し、生活に困難さを訴える事例が多く見受けられた。地域実状に対応できるよう、拠点機能を活かし、法人内の病院、施設、サービス事業所を中心として介護分野、障がい分野等の地域の支援者などとの連携を強め支援を行った。

1. 住み慣れた地域での生活継続の支援体制づくり

(ア) リハビリプラザいなさ

- ① やりがいづくりや同じ目標を持った小集団の運動、それに伴うグループ作りの活動を取り入れ重度化予防の充実を図った。

(イ) 地域包括支援センター細江

- ① 複数の地域の小学校において地域事情に合わせた認知症サポーター養成講座及び認知症ひとり歩き（徘徊）模擬訓練を実施。

(ウ) 意思決定支援

- ① 引佐郡医師会及び地域の関係機関との協働による、意思決定支援をテーマとした市民フォーラムを開催。

2. 運営の安定化

(ア) リハビリプラザいなさ

- ① 継続的に新規利用者の受け入れを行った。また、適正な加算の算定（個別機能訓練加算Ⅰ・Ⅱ、個別機能訓練加算Ⅲ）を行った。
- ② サテライト三ヶ日の提供時間の延長を行った。
- ③ 職員の意見を反映した事業の実施によるやりがいを感じられる職場づくりの取組を行った。

(イ) 地域包括支援センター細江

- ① 増加を続ける介護予防支援及び介護予防マネジメントを滞りなく提供した。

3. 拠点機能の強化

(ア) いなさ愛光園との連携の強化

- ① いなさ愛光園との連携を進め、切れ目ないサービスの利用の提供を行った。
- ② 地域向け広報活動を協働して行った。

(イ) 高齢者分野以外の要援護者、多問題世帯への支援

- ① 地域ケア会議を開催し多問題世帯への支援を多機関で行った。

(ウ) 地域の支援者との連携の強化

- ① 北区支援者ネットワーク会議や北区情報交換会、医療機関との事例検討会等を開催し連携の強化を図った。

4. 地域における公益的な取組

- (ア) ノルディックウォークの自主運営サークルの支援。
- (イ) 学習支援教室継続へ会場提供を通じた支援。
- (ウ) 訪問看護ステーション三ヶ日・聖隷ケアプランセンター三ヶ日・いなさ愛光園と連携し、地域に向けた定期的な健康講座と相談会の実施。
- (エ) 地域のサロンやセミナーに出向き、介護予防講座や認知症予防講座を実施。

【数値実績】

地域包括支援事業（地域包括支援センター細江）

予防支援/マネジメント A・B	内再委託件数	予防ケアマネジメント 単価（円）	職員数 （常勤換算）
予防支援 4,554 件	3,550 件	4,471 円	8.9 名
マネ A 2,837 件	1,997 件	4,471 円	
マネ B 1,077 件	一件	3,246 円	
マネ C 1 件	一件	2,195 円	

通所介護事業（聖隷リハビリプラザいなさ）

介護給付			予防給付		単価（円）		職員数 （常勤換算）
平均 利用者数	月 間 利用者数	年 間 利用者数	月 間 利用者	年 間 利用者	介護 （月）	予防 （月）	
24.80 人	99.5 人	1,193 人	103.6 人	1,243 人	7,299 円	27,804 円	16.6 名

聖隷ケアセンター三方原

訪問看護ステーション三方原
聖隷ケアプランセンター三方原
聖隷デイサービスセンター三方原

2023 年度は、課題であった事務所、職員休憩室スペースの狭小化に対し、施設の改修工事を実施、職員の働きやすい環境づくりをすることができた。また、4 年ぶりに「健康秋祭り」も開催、利用者、地域の方々との交流を持つことができた。一方で、三方原地区の今後の支援体制の構築に向けて、聖隷ケアセンター初生との連携にも取り組めた 1 年であった。

【事業報告】

1. 近隣施設との連携

(ア) 聖隷ケアセンター初生との連携

聖隷ケアセンター三方原、初生合同での「事例検討会」を定期的に行い、双方共通のご利用者のみでなく、三方原地区での支援のあり方について意見交換ができた

(イ) 近隣の病院との連携

- ① 聖隷三方原病院外来リハビリテーション終了後の継続支援について研修会を実施し、ご利用者を聖隷ケアセンター三方原に繋げることができた
- ② 浜松医科大学附属病院消化器病棟で行われる退院支援カンファレンスに週 1 回参加した。顔の見える関係づくりができ、当該病棟での新規利用者が増える結果となった。

(ウ) 地域包括支援センターとの連携

「認知症高齢者声かけ訓練」に参加できた

2. 聖隷ケアセンター三方原 3 事業所の強みを活かし、質の高いケアを提供する

(ア) 利用者に対し、定期的な心身機能の評価を実施、生活機能の支援を行った

(イ) 認知症機能評価を実施することはできなかった

(ウ) 「その人の望む生活」を支援するために、定期的に合同事例検討会を開催した

3. 職員が生き生きと働くことができる環境づくりと経営の安定化

(ア) 事務所を改修し、職員の作業スペースを確保することができた。また、休憩室も広くなり働きやすさを向上できた

(イ) ボランティアを活用し、ケア周辺業務を振り分けることができた

4. 地域における公益的な取り組み

(ア) ロコモーショントレーニングサロン活動を継続することができた。

(イ) 地域包括支援センター主催の「認知症高齢者ひとり歩き声かけ模擬訓練」に参加し、近隣の小学校、民生委員等と交流することができた

(ウ) 4 年振りに「健康秋祭り」を開催、利用者や地域の方々、職員にも「楽しみの場」を提供することができた

【実績報告】

訪問看護事業（訪問看護ステーション三方原）

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価	職員数(常勤換算)
183 人	896 件	10,756 件	10,330 円	11.3 名

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター三方原）

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防			
2,013 件	460 件	16,117 円	3,846 円	5 件	4,400 円	5.48 名

通所介護事業（聖隷デイサービスセンター三方原）

介護給付			予防給付		単価		職員数 (常勤換算)
平均 利用者数	月間 利用件数	年間 利用件数	月間 利用者	年間 利用者	介護 (月)	予防 (月)	
105 人	816 件	9,790 件	69 人	824 人	6,656 円	29,885 円	13.47 名

通所介護事業／共生型サービス（自立訓練・機能訓練）

平均利用者数	月利用件数	年利用件数	単価	職員数(常勤換算)
6 人	41 件	491 件	9,071 円	13.47 名

三ヶ日地区在宅複合事業

聖隷訪問看護ステーション三ヶ日

聖隷ケアプランセンター三ヶ日

2023年度は、訪問看護ステーション単独事業所から聖隷ケアプランセンター三ヶ日が加わり、三ヶ日地区在宅複合事業として運営を開始した。入院入所が第一選択肢だった地域にも徐々に在宅療養が浸透し、利用者増に繋がっている。2事業所が迅速な連携が図れる利点を生かし、更なる在宅療養の浸透と早期にサービスが繋がる地域づくりを目指す。

【聖隷訪問看護ステーション三ヶ日】

1. 医療機関やサービス事業所と連携し、早期にサービスが繋がる基盤をつくる
(ア) 聖隷ケアプランセンター三ヶ日主催の事例検討会に出席し、地域の居宅介護支援事業所との活発な意見交換を行った。また、聖隷三方原病院の病棟ラウンドの継続と退院支援看護師と情報共有し、スムーズな在宅移行ができるよう努めた。
2. 意思決定支援の推進
(ア) 90歳以上の利用者や体調変化が考えられる利用者を対象に、人生会議手帳やなおとらシートを活用し、望む療養の聞き取りを開始。神経難病が多い地域でもあるため、対象者を広げ、利用者の望む療養ができる支援を継続していく。
3. 職員が元気に、やりがいを実感できる
(ア) システムを利用した訪問スケジュール管理へ変更し、スケジュール作成時間が短縮され、業務改善に繋がった。直行直帰ができるスケジュールを心掛け、超過勤務時間の削減に努めた。
4. 地域における公益的な取り組み
(ア) 聖隷ケアセンターいなさと連携し、地域住民に向けた健康講座を継続。オーラルフレイル予防の重要性を説明した。健康講座への参加人数も増えている。

【聖隷ケアプランセンター三ヶ日】

1. 地域で暮らし続けていくために必要な支援体制づくりの推進
(ア) 在宅支援サービスが手薄な地域においても、介護保険サービスを活用して自宅で暮らしていけるよう、特に訪問看護や病院（聖隷三方原病院、浜名病院、常葉リハビリテーション病院等）との連携を深めるよう、営業活動や事例検討会に積極的に参加した。また、地域の開業医や各サービス事業所との関係を、包括主催の研修等で深めていくことが出来た。

2. 運営の安定化

(ア)2022 年度を上回る利用者を受け持つことが出来た。終末期の方の対応も訪問看護と連携して積極的に受け入れ、ターミナル加算の算定も 2022 年度を上回ることが出来た。

3. 働きやすく、やりがいを持って仕事ができる環境づくり

(ア)AI ケアプラン（みるもプラン）を本格導入していくことで業務効率を図ったが、度重なる不具合で思うような成果は得られなかった。各種研修での気づきはその都度チーム内で共有している。

4. 地域における広域的な取り組み

(ア)聖隷ケアセンターいなさ、聖隷訪問看護ステーション三ヶ日、いなさ愛光園と連携して、地域住民に向けた聖隷健康講座の継続開催が出来た。

【数値実績】

聖隷訪問看護ステーション三ヶ日

利用者数		訪問件数		単価	職員数 (常勤換算)
年間	月平均	年間	月平均		
1,295 名	107 名	6,110 件	509 件	9,630 円	6.46 名

聖隷ケアプランセンター三ヶ日

年間請求件数		平均単価		訪問調査		職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防	年間件数	単価	
1,916 件	441 件	16,170 円	4,020 円	18 件	4,400 円	5.2 名

浜北愛光園

介護老人福祉施設 浜北愛光園	浜北愛光園デイサービスセンター
聖隷ケアプランセンター浜北	訪問看護ステーション貴布祢
障害者相談支援事業所浜松東	地域包括支援センター北浜
聖隷チャレンジ工房浜北	

2023 年度は、障害者(児)から高齢者まで分野を問わない多様なニーズへのサービスと対応力の向上を目指し、各事業が総合的なサービス提供を意識した取り組みや新たな人材確保に努めた。また、無理・無駄のない継続した事業展開が行えるよう既存のサービスの見直しを行った。設備においては、これまで未整備であった 3 号館に見守り支援機器の設置を行い、全館で見守り支援システムを構築することができた。その他、防犯カメラの設置等を行い、利用者が安全、安心して利用できるよう環境整備を行った。運営については、人材確保の苦戦に加え、物価の高騰や感染症の発生等から厳しい状況であったが、全体として収支も堅調に運営することができた。

1. 複合施設の強みを生かした、制度の枠にとらわれない支援体制の構築

- (ア) ワンストップ支援体制を構築することができており、カンファレンスを通しスムーズなサービス利用へ繋がることができた。
- (イ) 地域課題解決会議にて、相談事業が中心となり近隣の福祉ニーズ等を共有することができた。引続き、必要となる支援等の把握に努める。
- (ウ) 各事業種別を問わず会議、委員会に参画し、職員が各事業の内容や利用者の理解を深めることができた。

2. 利用される方々のニーズや想いが実現できる支援を行う

- (ア) 「人生会議手帳」の普及、定着は不十分であったが、情報共有シートを活用し利用者のニーズや想いを共有する仕組みを構築することができた。
- (イ) 就労事業において、「地域とつながる新たな仕事」の検討と試行を行ったが、新たな仕事として確立させることができなかった。
- (ウ) 外部の専門研修を受講した。認知症ケアや医療的ケアに必要な知識、技術を得した職員を増やすことができた。
- (エ) ICT 機器の活用と業務改善により、どの職場も横断して業務に従事できる職員を配置したことで、利用者の外出支援等を行うことができた。
- (オ) ICT 機器を活用した事故分析から再発防止に努め、2022 年度に比べ事故件数を減少させることができた。

3. 新しい働き方への創造力と質の高い専門性を備えた職員育成を行う

- (ア) 育成体制の再構築に至らなかったが、既存の人材育成体制について課題を共有した。
- (イ) 職員個々に応じた資格取得や研修参加を促し、スキルの獲得を支援することができた。
- (ウ) 見守り支援機器の導入により生まれた時間を活用し、横断的に業務に従事できる職員を

配置し、利用者ケアに還元できた。

(エ) 根本的な業務改善に至らなかったが、連絡ツールを変更し電話の取り次ぎがスムーズになり、待機時間の短縮を図ることができた。

(オ) サービス種別や職種を問わずカンファレンスに参加し、事例を交えた情報の共有だけでなく支援について振り返りを行った。

4. 運営安定化の推進

(ア) 居宅介護支援事業所へ SNS（ヒトメクコネクト・LINE 等）の活用した入所申込みの紹介やホームページの更新による広報活動を行った。

(イ) 適宜、相談支援事業所職員と各サービス事業担当職員間で予測されるサービスニーズを共有し、新たなサービスの創設やスムーズな利用調整を行った。

(ウ) 購入した物が適切に使用されているかを精査し、必要時類似品を提案するなど品質と費用のバランスを図った。

(エ) 防災や感染症対策物品等だけでなく、行事等で使用する物品等の共有や行事や事業の取り組みを協働して行い、連携を高めることができた。

5. 地域における公益的な取り組み

(ア) チャレンジ工房浜北が「浜北ふれあい広場」に参加した。菓子の販売とともに施設紹介を行った。また、地域包括支援センターと連携し、管理栄養士が「食事」をテーマにした出前講座を行った。

(イ) 感染防止の観点から地域活動等を自粛し、施設の防災設備や機器の点検整備、防災訓練に注力した。

【数値実績】

■高齢者入所・短期入所・通所・相談支援関係事業

	浜北愛光園				デイサービス		障害者 相談支援 浜松東
	特養入所		短期入所		通所介護		
					一般型	予防	
	従来型	ユニット型	従来型	ユニット型			
利 用 者 定 員	50 名	100 名	20 名	20 名	40 名		
利 用 延 数	18,272 名	35,409 名	6,143 名	5,717 名	7,683 名	524 名	
一日平均利用者数	49.9 名	96.8 名	16.8 名	15.6 名	24.8 名	1.7 名	
稼 動 率 （ % ）	99.8%	96.8%	83.9%	86.8%	66.3%		
稼動延日数	366 日	366 日	366 日	366 日	310 日		
平 均 介 護 度	4.0	3.8	3.2	2.9	2.2		
単価（一人一日）	12,662 円	14,780 円	11,863 円	14,448 円	10,573 円		
職員数(常勤換算)	35.7 名	62.0 名	9.2 名	10.1 名	14.5 名		3.0 名

■訪問看護事業（訪問看護ステーション貴布祢）

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価(円)	職員数 (常勤換算)
168 名	833 件	9,991 件	10,227 円	13.4 名

■居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター浜北）

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価(円)	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防			
1,986 件	396 件	17,680 円	4,005 円	10 件	4,400 円	6.0 名

■地域包括支援事業（地域包括支援センター北浜）

予防プラン 請求件数	うち 再委託件数	予防プラン 単価 (円)	職員数 (常勤換算)
4,554 件	2,955 件	4,471 円	6.3 名

■聖隷チャレンジ工房浜北

	定員	利用 延べ人数	稼働率	稼働日数	単価	職員数 (常勤換算)
就労移行	10 名	1,643 名	53.7%	306 日	8,998 円	10.0 名
就労継続	20 名	5,322 名	85.6%	311 日	8,043 円	
就労定着		121 名			29,892 円	
生活介護	10 名	2,723 名	111.6%	244 日	7,487 円	4.0 名

森町愛光園

2023年度の森町愛光園の運営は、感染症と共存しながらご利用者の「楽しみある暮らし」と「地域との繋がり」を取り戻すことに挑み続けた1年であった。また、職員にとってはICT等の導入が一気に進み、これまでの働き方や業務のあり方を変えていくための転換期の年であった。

施設サービスにおいては、感染症が蔓延する時期もあったが過去の経験を活かすことで感染拡大を一定の範囲に収めることができ施設としての成長を示すことができた。また、見守り支援システムやインカムを導入したことで、平面に広いがゆえの課題となっていた移動の負担感や職員間連携のしづらさを大きく改善することができた。また、地域の学生の職業体験やボランティアの活動も本格的に再開し、ご利用者や施設と地域の交流を以前の状況に戻すことができた。

在宅サービスにおいても、感染症により普段と異なる支援やサービスが必要なご利用者へも各事業が連携することで在宅生活を支えることができた。また、ご利用者への支援の質向上のために、知識・技術のアップデートや新たなアセスメントツールの導入など、さらに複雑・多様化する地域ニーズへの対応力をつけることにも弛まず取り組み続けた。

1. 働きがいのある組織と人材の育成の推進

- (ア) 職場長やリーダー層をリーダーシップが学べる研修へ派遣し、実践場面においてもリーダーシップの育成を行った。次年度もマネジャー、リーダーの育成を継続する。
- (イ) 見守りシステム、インカム、タブレット型記録システムを導入、活用することで職員負担の軽減と転記作業などの業務上のムダを省くことにつながられた。
- (ウ) チームケアのパフォーマンスを最大限に発揮するためのルールづくりには至らなかった。
- (エ) 各職場でそれぞれの利用者のため、職員のため、地域のためにやりたいことを提案し実施することができた。

2. 質の高い介護サービスの提供

- (ア) 現場の介護職員が利用者の望む暮らしと自立の支援に向けたアセスメントから支援計画を立案するよう取り組みを行った。職員個々のケアマネジメント能力は今後も育成が必要であり次年度への継続課題である。
- (イ) はなえみ森町において他事業所では受け入れ困難な特別支援学校等の児童に重点をおいて支援していく方針へ転換した。介護事業においては特色を地域の方々へ分かりやすく伝え、より安心してご利用いただけるよう努めていくことが課題として残っている。
- (ウ) 感染症対策の緩和に伴い面会制限を解除し、外出のレクリエーションを実施するなど、利用者の楽しみと幸せのための支援を実施することができた。
- (エ) 修繕は優先度の高いものから実施したが必要な修繕の全てを行うことはできなかったため次年度以降も計画的に実施していく。

3. いつ何時も途切れることなく安心して事業継続できる仕組みづくり

- (ア) 感染症対策に関する教育は実施したものの施設内で複数回に渡り感染症が発生し、蔓延

を防ぐことはできなかった。

(イ) 在宅事業を中心に他法人の事業所と連携した災害発生時に在宅利用者を支える体制づくりに取り組んだが体制の構築までには至らなかった。次年度も継続して取り組んでいく。

(ウ) 業務継続訓練は事業継続計画策定後に繰り返し実施できなかったため次年度への課題とする。

4. 地域における公益的な取組

(ア) 地域の小学校・中学校からの福祉体験、職業体験の受入れを行った。また福祉系高校、大学の介護福祉実習、社会福祉実習の受け入れを行った。

(イ) 地域ケア会議や近隣町内会の地域防災訓練等に専門職を派遣した。また公立森町病院主催の多職種カンファレンス等へも参加し地域の関係機関との連携強化に努めた。

(ウ) 静岡県災害派遣福祉チーム（静岡 DWAT）からの要請に基づき、能登半島地震の被災地支援のため職員 1 名を派遣した。

(エ) 災害ボランティア用倉庫内の資材を 6 月の豪雨災害時の復旧のために地域住民に活用いただいた。また、静岡県社会福祉協議会と協力して資材の管理訓練を実施した。

【数値実績】

	特養		天宮サテライト	短期入所	通所介護		
	従来型	ユニット型	ユニット型	従来型	介護	予防	
利 用 者 定 員	60 名	20 名	29 名	12 名	42 名		
利用者延べ人数	21, 295 名	7, 126 名	10, 399 名	3, 262 名	8, 175 名	813 名	
一日平均利用者数	58. 2 名	19. 5 名	28. 4 名	8. 91 名	26. 5 名	2. 6 名	
稼 動 率	97. 0%	97. 3%	98. 0%	74. 3%	69. 5%		
稼動日数（延べ）	366 日	366 日	366 日	366 日	308 日		
単価（一人一日当り）	12, 491 円	15, 498 円	13, 993 円	11, 549 円	9, 925 円		
職員数（常勤換算）	38. 1 名	11. 8 名	19. 9 名	4. 9 名	14. 0 名		
	在宅介護 支援センター	居宅介護支援		訪問介護			放課後等 デイサービス
		介護	予防	介護	予防	障害	
利 用 者 定 員	－	－	－	－	－	－	10 名
利用者延べ人数	－	2, 115 名	374 名	3, 479 名	978 名	295 名	2, 866 名
一日平均利用者数	－	－	－	9. 7 名	2. 7 名	0. 8 名	11. 8 名
稼 動 率	－	－	－	－	－	－	118. 0%
稼動日数（延べ）	366 日	366 日		359 日			243 日
単価（一人一日当り）	－	16, 165 円		4, 145 円	2, 903 円	10, 003 円	
職員数（常勤換算）	0. 1 名	5. 0 名		5. 0 名	0. 1 名	6. 1 名	

聖隷ぴゅあセンター磐田

聖隷こども発達支援センターかるみあ

聖隷放課後クラブはなえみ磐田

相談支援事業所磐田みなみ

聖隷チャレンジ工房磐田

磐田市発達支援センターはあと

磐田市子育て支援総合センターのびのび

磐田市南部地域包括支援センター

磐田市南部障害者相談支援センター

磐田市地域活動支援センター

2023年度は、新型コロナウイルス感染症の位置づけが変更となり、ぴゅあセンター祭りや認知症フォーラム、サロン等のイベントの再開ができ、人と人との結びつきを紡ぎはじめることができた。また、人との関わりを喜ぶ声が多く聞かれ、利用者や保護者、地域とのつながりの重要性を再認識できた。相談支援事業では、圏域自立支援協議会の声を受け、障害者相談（一般相談支援「地域移行・地域定着支援」）の事業を開始し、病院から地域移行への相談体制の拡充が図れた。ICTを活用した利用者支援では、ケアカルテやコードモンの導入により、利用者や保護者との情報共有のスムーズ化や職員の業務効率化に向けスタートができた。

【施設理念】

ご利用者が“その人・その家族らしく”「生きる力」を培い、地域の一員となるために、わたしたちはこどもから大人まで途切れの無い一貫した支援を提供します

【経営方針】

1. 利用者満足度の高いサービスを提供する
2. 働きやすい職場環境づくりと経営の安定化
3. 地域における公益的な取り組み

【事業・運営計画】

1. 利用者満足度の高いサービスを提供する

（ア） 聖隷こども発達支援センターかるみあ

- ① 新規アセスメントツール導入・施設内研修（職種・階層）にて支援力向上に努めた
- ② 面談時の聞き取り内容の統一や相談支援事業所、所属園との有機的連携にて、意思決定支援を行った
- ③ 保育所等訪問支援事業と児童発達支援事業の担当が定期的に情報共有し、必要時には他機関連携にて就園・就学支援を行った
- ④ センター機能の中核的な役割に対し磐田市と協議を重ね準備を進めた
- ⑤ 絵本給食と療育活動を連動させ「食」への関心や「食べる」楽しみに繋げた

(イ) 聖隷放課後クラブはなえみ磐田

- ① ICT や制作教材を活用した新しい活動を実施し、出来た喜びから達成感に繋がった
- ② 親子体験活動や見学会を通して、保護者同士の交流やこどもの成長を実感できたと保護者より高評価をいただいた
- ③ サービス担当者会議等 7 件実施し、学校や家庭生活・環境面の不安軽減へ繋がった

(ウ) 聖隷チャレンジ工房磐田

- ① 年間 5 名の就職者を輩出し、6 か月定着率は 100%であった
- ② SNS (インスタグラム) の活用を開始し、目標平均工賃 37,000 円/月を達成した
- ③ 卒業生の就職先見学ツアーにて、“働く姿”のイメージづくり支援を行った
- ④ 主治医を含めたサービス担当者会議を開催し安定利用に繋がった

(エ) 磐田市発達支援センターはあと

- ① 多職種にて家庭機能のアセスメントを行い、保護者の考えや想いを受け止めた
- ② 感情の言語化や共感方法等について、保護者や支援者へ助言した
- ③ 母子保健事業から相談受理までの流れを保健師と共に体制を整えた

(オ) 磐田市南部地域包括支援センター・磐田市南部障がい者相談支援センター・聖隷相談支援事業所磐田みなみ

- ① 医師や居宅介護支援事業所との連携を通して、利用者の想いを汲み取った在宅支援を行った
- ② 他機関と協働した継続的な関わりにて、引きこもりの方がサービス利用開始した
- ③ 事業所モニタリングの重要性を認識し、その人らしいサービスの利用に向けた相談支援を行った

(カ) 磐田市子育て支援総合センターのびのび

- ① こどもの発達段階や年齢に応じた遊び場の提供や職員と親子の関係構築を図った
- ② 低月齢親子を継続的にフォローするため、保健師や育児サポーターと連携し、のびのびの一時預かりや園の一時保育へ繋がった
- ③ 子育て親子の孤立予防のため、子育て支援団体との連絡体制を整えた
- ④ ファミリーサポート事業援助者へのフォローアップ講習会にて質の向上を図った

(キ) 磐田市地域活動支援センター

- ① 地域イベント参加や意見交換を通して、地域活動支援センターの広報を行った
- ② 利用者主催の活動は開催できたが、生産活動については課題が残った
- ③ 地域活動支援センターから福祉サービス（就労支援）の利用に 8 件繋がった

2. 働きやすい職場環境づくりと経営の安定化

(ア) 防災研修等に参加し知識習得と防災マニュアルや業務継続計画の見直しが行えた

(イ) 非常放送設備の設置による施設防犯の強化と小児蘇生、誤飲等における緊急時対応の勉強会から知識・技術向上に繋がった

(ウ) 事業所内での事例検討会の実施や職場間の巡視による相互チェック体制を整えた

(エ) 新システムとタブレット導入により、記録等の入力の手軽さから業務簡略化が図れた

(オ) ホームページ等を活用して施設情報の発信は行えたが、待機者等の管理には課題が残る

3. 地域における公益的な取組

- (ア) 研修講師派遣 3 件・施設見学 11 件・実習 7 件・ボランティア 430 件を実施した
- (イ) イベント参加 (20 件) や、ホームページやインスタグラムを通して情報発信を行った
- (ウ) 子育ての孤立感軽減のため、県外出身ママの交流会を実施し仲間づくりを行った
- (エ) 配慮の必要な親子に対し、当日予約や園行事に伴う開館時間前の受け入れに対応した
- (オ) ひきこもりの当事者や家族、支援者向けに「誰でも地活」を開催し 8 組の参加があった
- (カ) 定着支援終了者が働く企業への就労状況の確認と相談体制を整えた

【数値指標】

	かるみあ 児童発達	かるみあ 保育所等	磐田みなみ (特定)	磐田みなみ (障害児)	チャレンジ 就労移行	チャレンジ 就労継続	チャレンジ 生活訓練
利 用 者 定 員	30 名	—	—	—	14 名	15 名	6 名
利用者延べ人数	7691 名	524 名	378 名	661 名	3577 名	4567 名	933 名
一 日 平 均 利 用 者 数	31.7 名	—	—	—	12.4 名	16.2 名	3.7 名
稼 働 率	105.5%	—	—	—	88.4%	108.0%	62.0%
稼働日数(延べ)	243 日	243 日	366 日	366 日	289 日	282 日	251 日
単 価 (一人一日当り)	15,958 円	18,836 円	16,769 円	18,655 円	11,901 円	8,246 円	8,403 円
常勤換算職員数	21.4 名	1.6 名	2.5 名		5.6 名	5.4 名	1.2 名

	チャレンジ 定着支援	はなえみ 放課後デイ	はあと	のびのび	南部包括	南部相談	磐田市 地活
利 用 者 定 員	20 名以下	20 名	—	—	—	—	—
利用者延べ人数	162 名	5539 名	—	—	—	—	3338 名
一 日 平 均 利 用 者 数	—	22.1 名	—	—	—	—	12.8 名
稼 働 率	—	111.6%	—	—	—	—	—
稼働日数(延べ)	289 日	251 日	243 日	309 日	366 日	366 日	261 日
単 価 (一人一日当り)	30,078 円	11,829 円	—	—	—	—	—
常勤換算職員数	0.5 名	10.1 名	9.1 名	6.4 名	3.6 名	1.8 名	3.1 名

浅田在宅地区複合事業

訪問看護ステーション浅田

聖隷ケアプランセンター浅田

2023 年度、訪問看護ステーション浅田と聖隷ケアプランセンター浅田は、連携して困難事例やターミナルの利用者を支援できた。また働きやすい職場環境を目指して、超過勤務削減の取り組み、スタッフの新規雇用を実践できた。カンファレンスによる事例検討では他職種を招くことで利用者への関り方法などのスキルを深めることができた。

【訪問看護ステーション浅田】

1. カンファレンス、研修、勉強会、交流会などへの参加を通して、エリア内の関係機関に積極的に働きかけ連携していく。
 - (ア) 定期的に行われている病院カンファレンスや退院前カンファレンスには積極的に参加できた。
 - (イ) 南区の研修に参加することで近隣の関係機関と交流する機会を持つことができた。
2. 聖隷ケアプランセンター浅田と協働し、事例検討やケアの振り返りを実施することで質の高いサービスを提供する。
 - (ア) 聖隷ケアプランセンター浅田と共通利用者に対してカンファレンス内で事例検討やケアの振り返りができた。
 - (イ) 訪問診療医（主治医）と連携し、在宅看取りに力を入れタイムリーな関りができたことで、ターミナルケア加算の算定件数が 2022 年度比で 1 件増し 22 件となった。
3. 地域の特色を理解し、地域のニーズに沿ったケアを提供する。
 - (ア) ターミナルの事例検討で緩和認定看護師を活用することでスタッフのアセスメント能力の向上に繋がった。
 - (イ) 聖隷ケアプランセンター浅田と協働して地域のサロンへ出前講座を実施した。（地域における公益的な取組）
 - (ウ) 困難事例に対しては地域包括支援センターなどの他職種と連携できた。
4. 超過勤務の削減、防災・防犯・感染対策への取り組みを強化し、スタッフが働きやすい環境を作る。
 - (ア) 直行・直帰の活用、ゼストでのスケジュール管理、超過勤務の事前申請を行うことで超過勤務削減できた。
 - (イ) 職場内の防災・防犯訓練を実施した。AED を職場に設置し、地域に周知すると共に複合事業所として地域の防災訓練に参加した。（地域における公益的な取組）
 - (ウ) 複合事業所として利用者に対する災害時のトリアージについて検討した。

【聖隷ケアプランセンター浅田】

1. 障害、医療の知識を深め様々な利用者に ACP を意識した支援をする
 - (ア) 昨年に引き続き初回契約時に人生会議手帳を全員に配布し、早期から利用者の意思確認を

行った。

(イ) 必要時利用者や家族とともに記載を行う事が出来た。外来受診時に持参するよう声掛けをした。

2. 訪問看護ステーション浅田との協働により質の高いケアマネジメントを提供する。

(ア) 訪問看護ステーション浅田とセットの依頼は断らず受け入れた。

(イ) 担当利用者の障害事業所と連携を図ることで、介護保険外の制度の活用や就労家族支援に対して早期に対応した。

(ウ) 医療保険で訪問看護利用中の方や、障害の方などがスムーズに介護保険に移行できるように連携を図った。

(エ) 在宅医療機関との意見交換を実施する。往診時立ち合い、顔の見える関係作りを構築する事で、ターミナル加算を19件取得することが出来た。

3. 研修会に参加スキルアップを図る。

(ア) 研修会に参加し、ケアマネジャーの専門性を高める為、聖隷内外の研修に参加した。

4. 業務の効率化(AIの導入)やワークライフバランスを意識し、超勤削減、有給取得率アップを図る。

(ア) 業務の効率化を図る為、直行・直帰の活用をした。

(イ) 事務職と協力し、業務改善、効率化を図る事で、超勤の削減がわずかだが出来た。

(ウ) 職員が意識的に有給を取得することが出来た。

5. 防災・防犯・感染症・虐待に関する取り組みを実践する。

(ア) 利用者へ防災の啓蒙、個々の避難場所を確認、トリアージ・アセスメント票を引き続きバージョンアップした。

(イ) 複合事業所として利用者への災害時の対応を確立し、実践出来るように棲み分けを行った。

【数値実績】

訪問看護事業（訪問看護ステーション浅田）

平均利用者	月平均 訪問件数	年間 訪問件数	平均単価	職員数 (常勤換算)
167名	902件	10,826件	医療 11,995円 介護 9,445円	22.0名 (13.1)

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター浅田）

年間請求件数		平均単価（円）		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防			
1,725件	504件	17,812円	4,234円	15件	4,400円	5.0名 (4.6)

浦安市高洲高齢者福祉施設及び 浦安市猫実高齢者デイサービスセンター

浦安市特別養護老人ホーム・短期入所生活介護

浦安市ケアハウス

浦安市高洲高齢者デイサービスセンター

浦安市猫実高齢者デイサービスセンター

2023年度は、新型コロナウイルス感染症への対応と並行して、利用者一人ひとりへの個別ケアのサービスの質の再確認と提供すべきサービスを共有化し実践することができた。この取り組みで現場第一線の職員が利用者のために考え、行動することで「働きがい」を見出していることもよい結果であると考え。また、地域から求められている総合事業指定基準緩和通所事業デイサービスA型について、利用者のニーズに応えるよう営業日変更・送迎有りとして2024年4月より再開することができた。

人材確保と育成については、積極的に中途採用を継続して、経験の浅い中途採用者や新入職員に対して、係長が中心となって取り組んだ「介護育成3年プログラム」にて職場内で組織的に育成できつつある。今後は「離職防止」から「エンゲージメント向上」の取り組みへと更に新たな取り組みに挑戦したい。業務の効率化は大規模なICT化は予算を組むことが難しいこともあり、実現可能なICT化に取り組み、多様な働き方を進めることで業務効率化を着実に実施できた。

【事業・運営報告】

1. 入居者・利用者が安心安全に生活できるよう、個々のニーズに合ったサービスを提供する

(ア) 特別養護老人ホーム・短期入所生活介護

- ① 認知症プロジェクトを中心にセンター方式を使用しながら、認知症状のある入居者のアセスメント、プラン作成、実施まで行うことができた。
- ② 各フロア1名の入居者を対象に「もしもの時の話し合い」を進めてきた。入居者の思いを確認でき、本人の意向に沿った最期のケアの実践ができた。また、新入居の方には、浦安市で作成している「私の手帖」を事前にお渡しし、啓蒙活動も行っている。
- ③ 定期的な嚥下評価を実践することで、個々の嚥下機能の確認ができ、食事形態の見直しができた。また、誤嚥性肺炎での入院者に関しては、嚥下プロジェクトでも振り返りを行っており、退院時の対応に活かすことができている。

(イ) ケアハウス

- ① これまで行ってきたクリーンデイ・折り紙の会に加え、種まき隊から派生させた飾りづくりなどを行い、閉じこもり・フレイル予防に努めた。
- ② 退去要件のパスは未整備であるが、入居者個々の状況に応じ、退去に向けた取り組みを行った。
- ③ 体力測定結果の経年資料を基に、個々の状態に応じた声掛けや活動参加の促しを継続した。

- ④ 入居者とリスクを共有し、ケアマネジャーやサービス事業所、ご家族の協力を頂きながら予防に努めた。

(ウ) 通所介護

- ① 見学対応や新規受け入れ時に利用者、家族の希望するデイサービス利用の目的や支援内容を確認し、身体機能維持と入浴の希望が多く聞かれ、提供に力を注いだ。
- ② 独居老夫婦世帯で食事栄養の課題や服薬管理が必要な方に対して、朝食サービスの支援を実施した。
- ③ 在宅での生活動作が維持できるように個別機能訓練メニューとしてレジスタンス運動とリズム体操を新たに取り入れたプログラムを提供した。より細かな生活環境把握や現病歴の推移、体重増減等の情報を把握するため、個別機能訓練計画書式を変更、それを基に個別の身体機能維持計画を立案し、PDCA サイクルを経て身体機能を維持できるよう取り組むことができた。

2. 職員が専門職としてやりがいを持ち、魅力ある職場づくりを行う

- (ア) ラダー評価を実施し、自己の能力を客観的に把握するとともに、目標参画では、個々の職員の意識と取り組みを可視化することで、自主性向上の取り組みを継続した。
- (イ) 認知症プロジェクトと連携し、個々のニーズに沿ったプラン作成ができ、やりがいに繋がった。
- (ウ) 人材育成プログラムの実施と評価を行った。
- (エ) 施設ケアマネ研修・生産性向上のための外部研修に参加し、職員のケアの質向上に努めた。
- (オ) 障がい者雇用でのケアサポーターを 1 名採用し適正に配置することで、業務の見直しができる。入居者・利用者に関わる時間を増やすことができた。

3. 経営の安定化

(ア) 特別養護老人ホーム

- ① 相談員の相談スキル向上のため、マニュアル作成を行い役割の明確化と可視化ができた。
- ② 年間の退居者数を予測することはできていたが、利用待機者に対し計画的な訪問等を行うことはできていない。また、1 日平均利用者数は目標を達成したが、退去から新入居まで時間を要することとなり平均空床期間が 12.8 日間となった。

(イ) 短期入所生活介護

- ① 感染予防を継続しながら、個々のニーズに合ったサービスを提供し、リピーターを増やすことができた。
- ② 緊急受け入れ 8 件、措置利用 202 日間の受け入れを行った。
- ③ HitomeQ コネクト登録者（待機者）に定期的に情報発信することにより、ショート利用へ繋げることができた。

(ウ) ケアハウス

- ① 公募停止により待機者はないが、入居希望者からの問い合わせに対し、必要な情報提供に努めた。
- ② 入居者が安心できる生活継続と建物設備の有効活用について、浦安市との協議を継続し

ている。

(エ) 通所介護

- ① 市内 24 カ所の居宅支援事業所にパンフレットやホームページで空き情報の提供を実施。毎月の訪問等情報交換も細目に行った結果、毎月定期的な紹介があり、登録者の目標人数の維持ができた。生活支援サービスを継続的に提供できたので安定した稼働と経営が図れた。
- ② 栄養実態の調査と支援の必要性について把握し、夕食や栄養補助食品の支援体制についても業者選定や取り組み方法を模索したが提供までには至らず、課題として残った。

4. 防災体制の確立

- (ア) 法定研修の実施と、職場会で情報共有を行った。
- (イ) BCP、感染マニュアル等については各種訓練を通じ、都度マニュアルの確認とともに、行動様式への落とし込みを行った。

5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 実習・職場体験の受入れを行った。
- 介護福祉士実習受け入れ 3 名
- 社会福祉士実習受け入れ 2 名
- 歯科衛生士実習受け入れ 9 名
- 看護師実習受け入れ 20 名
- 職場体験 5 名（高校生・中学生）
- (イ) 地域交流の一環として浦安南高校の体育祭観覧の実施。毎月の公園清掃に参加した。
- (ウ) 関係機関と連携し 1 名の障がい者雇用を行うことができた。
- (エ) うらやす健康・元気コンソーシアムの活動は不調であったが、職員が南三支部推進員として活動した。また、社会福祉法人千楽と共同で花壇整備を行った。

【数値実績】

	特 養	短 期	ケア ハウス	高 洲 デイ	猫 実 デイ	総合計
利用者定員	100 名	50 名	50 名	25 名	25 名	250 名
利用者延数	36,202 名	15,305 名	8,975 名	5,564 名	6,433 名	72,479 名
一日平均利用者数	98.9 名	41.8 名	24.6 名	18.2 名	20.9 名	203.6 名
稼働率 (%)	98.9%	83.6%	49.2%	72.8%	83.6%	—
稼働日数 (延べ)	366 日	366 日	366 日	306 日	306 日	—
単価 (一人一日当り)	—	—	—	—	—	—
職員数 (常勤換算)	58.7 名	34.7 名	7.3 名	7.3 名	10.4 名	118.8 名

介護老人福祉施設 浦安愛光園

聖隷はぐくみ浦安

2023 年度は見守りシステムとインカムの導入、照明の LED 化といった大規模修繕を行った。工事完了時期が年度末になってしまったため、見守りシステム等の本格的な運用や評価については 2024 年度に実施する。照明の LED 化は物価高騰による水光熱費への対策として 2024 年度期待する。

新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に移行されてからは、感染予防対策を継続しながら徐々に制限を緩和していった。家族面会やイベントを再開することで、家族・地域との交流機会が増えた。

4 月に導入した HitmeQ コネクトの登録率が 8 割を超え、家族への迅速な情報発信と共有が可能となり、ホームページからの入居申込が増える等、家族や地域住民の利便性向上に努めた。

【施設理念】

私たちは、ご利用者の“暮らし”“つながり”“その人らしさ”を大切にします

【経営方針】

1. それまで大切にしてきた“暮らし”が続けられるよう支援します
2. 家族、友人、地域、社会との“つながり”が保てるよう支援します
3. 一人ひとりの意思・人格を尊重し、“その人らしさ”が実現できるよう支援します

【事業・運営報告】

1. 利用者一人ひとりに安全で質の高いサービスを提供する
 - (ア) 職員一人ひとりがケアプランを意識することで、個別ケアの実践ができた。
 - (イ) 3 月から見守りシステムの運用開始、運用方法や評価は 2024 年度生産性向上委員会では実施する。
 - (ウ) 行事企画チームを中心にユニット単位・フロア単位、全体で行う行事を実施、外出も少しずつ再開することができた。
 - (エ) ACP(アドバンス・ケア・プランニング)を実践するために、「私のノート」を作成し家族に説明と記入依頼を行った。具体的な運用や家族との関わり方は 2024 年度の課題である。
2. 多様な人材の確保・育成の継続
 - (ア) シニア世代のケアサポーター 2 名採用、障がい者雇用の継続ができた。
 - (イ) 認知症介護実践リーダー研修を受講した職員を中心に、各職場での事例検討を実施した。複数年継続して認知症研修が行われている。
 - (ウ) 3 月からインカムの運用を開始、情報共有や OJT の評価は 2024 年度実施。
 - (エ) 浦安地区内のダイバーシティについて係長を中心に活動したが、準備不足により成果

が上がらなかった。

(オ) 他職場との協力により、計画的に3連休を取得することができた。

3. 地域共生社会の実現

(ア) 障害福祉サービスから介護保険サービスに移行するケースが7件、介護保険課や障がい福祉課と連携を図り対応することができた。

(イ) 地域の事例検討会に5回、研修会に6回参加し、相談支援専門員としてのスキル向上を図った。

(ウ) サービス利用の緊急性の有無を確認し、当日中に障がい事業課や基幹相談支援センターとの連携を図り、緊急ショートステイの調整を行った。

4. 経営の安定と業務改善の継続

(ア) HitmeQ コネクトの待機者管理システムを活用し、入居調整や連携の精度が向上した。

(イ) 4階機械浴をシャワーミスト浴に入替え安全性が向上した。入浴時間が短縮された部分は爪切りや処置等、適切な対応を行うことができるようになった。

(ウ) 3月にLED照明への切替えが完了、今後節電効果をみていく。

(エ) HIMLIFEのマニュアルを更新し、ユニット毎の使用状況のばらつきの改善や中途採用者の指導にあてることができた。

5. 地域における公益的な取組みと地域貢献

(ア) 生活困窮者・生活保護受給者職場体験実習受け入れ実績なし。

(イ) 高洲中学校特別支援学級との交流はできなかったが、浦安市障がい福祉センターきらりあ(就労継続支援B型)で製造したお菓子の移動販売を月1回のペースで再開した。

(ウ) 浦安市高齢者福祉課と合同で福祉避難所設置訓練を実施した。

BCP マニュアルを更新し、それに基づいた訓練を実施した。

(エ) 継続して浦安地区の地域貢献プロジェクトに参加、毎月公園清掃等の活動を行った。

【数値実績】

	特養（ユニット型）	はぐくみ浦安	総計
利用者定員	74名	-	-
利用者延べ人数	26,109名	447名	-
一日平均利用者数	71.3名	-	-
稼働率	96.4%	-	-
稼働日数（延べ）	366日	243日	-
単価（一人一日当たり）	15,818円	14,821円	-
職員数（常勤換算）	47.2名	1.0名	48.2名

介護老人保健施設 浦安ベテルホーム

2023年度は、施設理念「私たちは、ご利用者の“暮らし”“つながり”“その人らしさ”を大切にします」から逸脱したケア行為が発覚し、10月以降、利用者の受入れを調整するという施設運営にとって、大変厳しい選択をして、ケア体制の再構築に取り組んだ。

「安心・安全なサービスを提供するために環境づくり、人づくりに注力する」という目標を掲げながら、それから逸脱する行為が起こった事実を前に、これまで何も取り組めていなかった現実から、私たちは、目を背けてはならない。

私たちは、不退転の覚悟を決め、日々、目の前の利用者、家族に向き合い、失った信頼を再度克ち得ていけるよう、全職員が一丸となって今できること、やらねばならないことに真摯に取り組んでいく。

【事業・運営報告】

1. エビデンスに基づく、利用者本位のケアの追及

アセスメントなしに、科学的な根拠を持ったケア＝利用者本位のケアは提供できない。

その場限りのケアに終始し、PDCAを意識することなく、漫然と業務をこなす職場風土になっていないかを検証しつつ、職員一人ひとりがその課題に向き合った。

2. 専門職としての自己実現の場と働きがい、働きやすさのある職場風土の醸成

一人ひとりの利用者を常に真ん中に据えて、望まれている自立生活実現のために職員が協働して支援できたのか、全職員が今一度振り返り、それぞれ専門職として、真摯に取り組む必要がある。まずは、必要な知識、技術について努力を惜しみなく学び、実践し続けるため、職場長を中心に、介護技術チェック表等を活用したOJTを見直した。

大規模修繕により、室内照明がLED化され、一定の環境改善は実現した。一方で、同時に導入した見守りシステム、インカム等、デジタル機器は、そもそも現状把握と課題設定が、明確化された上での導入だったのか早急に検証し、利用者、職員双方にとって有効的な業務オペレーションの改革を進め、導入した機器を十分に活用し“安心、安全な利用者本位のケア”実現に取り組まなければならない。

3. 地域の介護ニーズ・地域共生社会の実現を通じた経営安定化

クリニック跡地利用による通所リハビリテーションの拡張・改修を行い、定員を50人に増やしたが、年度後半、実利用者数も徐々に増えた半面、送迎サービス全般の負担も顕著になった。送迎支援ソフトの導入も年度内検討されたが、実現に至っていない。

4. 防災・防犯体制の強化

防災委員会を中心に、可能な限りシナリオをなくし、突発的な発災にいかにか的確に動くかを意識した訓練を年間実施した。今後、BCPに基づき、発災後の期間を定め、それまでの事業継続を意識した訓練をさらに実施したい。

5. 地域における公益的な取組と開かれた施設づくりの推進

地域貢献委員会を軸に、近隣公園での清掃活動を月 1 回、実施した。さらに地域に求められる活動については、アウトリーチが十分ではないため、専門職としてできる社会的な貢献活動として、今後、移転した高洲地域包括支援センターのサロン活動や、出前講座等へ職員が積極的に出向き、浦安市の地域のニーズに向き合う機会を増やしたい。

6. 社会福祉施設の役割遂行

生活保護の利用者の受け入れに積極的に対応し、無料又は低額老人保健施設の基準を満たす運営を行うことができた。

【数値実績】

	ベテルホーム入所	ベテルホーム短期入所	通所リハビリテーション	総計
利 用 定 員	100 名		45 名	145 名
利 用 者 延 べ 数	27,325 名	2,022 名	11,370 名	40,717 名
一日平均利用者数	74.9 名	5.5 名	37.0 名	117.4 名
稼 動 率	80.4%		82.2%	—
稼動日数(延べ)	366 日		307 日	—
単価(1人1日当り)	15,818 円	20,586 円	11,784 円	—
職員数(常勤換算)	58.4 名		19.8 名	78.2 名

聖隷訪問看護ステーション浦安

2023 年度は、サテライト稲毛海岸を 2023 年 3 月末に閉鎖し、訪問看護ステーション浦安の経営と運営を立て直す年であった。年度初めからの新入職員の育成をしながら、予算達成を目指し訪問件数を伸ばしていき、介護保険は一年を通して予算達成、医療保険は入院などで予算未達もあったが、全体として収支をみると安定した黒字経営を回復することができた。その要因としては医療保険の機能強化型訪問看護療養費 2 と介護保険の看護体制強化加算 I の取得ができ、訪問単価が上がったことと、訪問件数に応じた職員数のコントロールができたこと、指示医やみずたま訪問介護との連携ができたことである。2024 年度は、今後の事業拡大を目指して 7 月に事務所転居予定であるため、この黒字経営が維持できるように営業活動にも力を入れていきたい。

【事業・運営報告】

1. 聖隷訪問看護ステーション浦安の特徴を生かし、地域が必要としているニーズに柔軟に対応できる訪問看護ステーションの継続
 - (ア) ご利用者主体の自己決定支援は、自事業所が最も大切にしていることであり、職員の一人一人が心がけて実践してくれていた。
 - (イ) カンファレンスは、内容が充実してきておりご利用者主体の看護やリハビリについてケアの質向上に向けた検討がなされている。
 - (ウ) 東京海上日動ベターライフサービス株式会社とは、法人の枠を超えた連携が定着している。市内の訪問看護ステーション協議会で同職種のつながりもできている。
2. 聖隷訪問看護ステーション浦安の運営と経営が改善できる。
 - (ア) 地域の連携会議に参加しながら、病院・クリニック・居宅支援事業所と顔の見える関係を続けている。新規ご利用者受け入れの空き情報なども毎月送ることで依頼も来ている。
 - (イ) 職員の人員不足から松戸への訪問看護拡大は困難な状況という判断になっている。
 - (ウ) 年度初めに入職した正職員とパート職員の育成をしながら、訪問看護の質を維持するよう努めており、職員もその期待に応えてくれている。
3. 職員がやりがいを持つことができ、働きやすい職場を作る
 - (ア) スケジュール管理は、職員育成も含めた調整を考えると時間が掛かることが課題。記録の簡素化について再三検討しているが、職員によっては超勤に繋がっている。
 - (イ) 各職員の看護の質の向上への意識が高く、オンラインなど外部研修に参加している。
 - (ウ) HOPE LifeMark-WINCARE のトピクス機能は十分活用できている。
4. 地域における公益的取組
 - (ア) 順天堂大学、了徳寺大学の地域看護実習を受け、次世代の育成に努めている。
 - (イ) 地域で取り組む地域包括ケアシステムにつながる連携会議などには積極的に参加できている。

【数値実績】

	介護（予防含む）	医療（有償含む）	合計
利 用 者	535 名	491 名	1,026 名
訪 問 件 数	3,156 件	3,744 件	6,900 件
単価（1 件当り）	9,679 円	10,163 円	9,921 円
職員数（常勤換算）			平均 8.2 名

浦安市高洲地域包括支援センター

【事業・運営報告】

1. 地域における機能と役割の強化

- (ア) 近隣の大学や社会福祉協議会と共同でのサロン活動は、要援護者の介護予防や家族介護者支援、通いの場へつなぐという目的の下、予定通り開催できた。参加者も多く集まり地域ニーズに合った活動であるといえる。地域の祭りやイベントも、コロナ禍前の状況に戻りつつあり、出前講座依頼が7件あった。また、3月の高洲公民館への事務所移転時には、事前に、老人クラブ連合会の総会や地域のサロンにて周知活動を行った結果、オープニングイベントでは、多くの地域住民や関係機関の方を迎えることができた。
- (イ) 事例検討会や地域ケア会議も各4回開催、関係機関や地域住民と個々の課題共有やそれぞれの地域でのネットワークづくりを検討した。この取り組みは、地域の特性に合ったつながりの再確認や、住民主体の自助互助を考えるきっかけづくりとなったので、2024年度以降も継続的に行っていく。

2. 職員の資質向上のための取り組み

- (ア) 各職員の職種や経験値に合わせ、浦安市主催研修や権利擁護や認知症等の研修への参加と、参加者から他職員への伝達講習を実施した。
- また、処遇困難ケースをセンター内全員で振り返り、その対応のために必要となる制度理解や根拠法令の理解を深めた。この取り組みにより、各職員の相談職ラダーのレベル認定や目標の達成度の向上につながっている。
- (イ) 職員のやりがいと働きやすい職場づくりについては、日々、職員間で担当ケースの課題の共有を行い、支援方針の検討を行うとともに、処遇困難なケースにおいては、その支援経過の中での課題に全員が関わる機会を持ち、チーム全員での支援体制を整えることで、担当職員への精神的な負担が偏らないように取り組んだ。
- 一方で、年度途中で職員体制の変更があり、複数の処遇困難ケースへの対応等で超過勤務の削減には至らなかった。各職種の働き方改革、生産性の向上が言われる中で、センターの職員の負担を軽減し、業務を偏りなく分担しつつ、職場内で十分にサポートし合える仕組みづくりは、継続課題となった。

【数値実績】

市受託収入	予防支援等	内再委託件数	予防マネジメント単価	総収入	職員数 (常勤換算)
40,647 千円	予防支援 1120 件	180 件	4,800円	48,863千円	6.1名
	マネA 540 件	70 件	4,800円		

松戸愛光園

特別養護老人ホーム松戸愛光園

松戸愛光園ショートステイ

松戸愛光園デイサービス

松戸愛光園ケアプランセンター

聖隷はぐくみ松戸

2023年度の松戸愛光園は ICT、見守りシステムの活用をすすめ、サービスの質の向上に取り組めた。また、プロジェクト活動などを通して次世代リーダーなどの職員育成を実施することができた。松戸市と災害時における地域の医療的ケア児者受け入れに関する計画にも取り組むことができた。これからもサービスの質の向上と働きやすい職場づくりを進めるため ICT 活用を継続するとともに、地域ニーズや災害対策などにも職員一同取り組んでいく。

【事業・運営報告】

1. 地域のニーズに寄り添い、施設全体で見取りケアや障がい者ケア等の充実を図る

- (ア) 入所での空床を積極的に活用することができ、タイムリーな短期入所受け入れができた。
- (イ) 短期入所では高齢者の中長期間利用や障がい者利用を積極的に受け入れ稼働率向上が図れた。
- (ウ) ACPに基づく看取りを実施し、利用者・家族への充実した見取りケアを実施できた。
- (エ) 見守りシステムのデータを活用したケアプラン作成とケアへの取り組みを行えた。
- (オ) 入所・短期入所・通所事業の垣根を超えた相談体制で、地域の利用者を支援することができた。
- (カ) 共生型生活介護では、障がい者の積極的な受け入れを実施し稼働率向上が図れた。
- (キ) 居宅介護支援事業では、浦安地区と協働を行い、地域の利用者支援を実施できた。

2. 職員がやりがいをもって働ける職場づくり

- (ア) 職員モチベーションアッププロジェクトの機会を活用し、若い職員を中心に各職場で職員間のコミュニケーション促進と相互理解を深めることができた。
- (イ) 新任係長やユニットリーダーなどの次世代リーダー育成を行えた。
- (ウ) 各職場での清掃業務の可視化を実施し、整理整頓や環境整備の充実、労働環境の改善が図れた。
- (エ) オムツセンサーやインカムの試験運用を実施し、今後の働き方改革につながる結果が得られた。
- (オ) 新たな人材確保の仕組みを浦安地区と共同で検討できた。
- (カ) 介護学生の実習受け入れを継続でき、ICT や見守りシステムを活用した働き方についてのパンフレットを作成し求人者等に配布した。

3. 経年劣化した設備等の更新による安全性向上と安定した事業運営

- (ア) インカムの試験運用を入所とデイサービスで実施した。
- (イ) GHP の更新を実施し、エネルギーの省力化が図れた。
- (ウ) 経年劣化した電動ベッドや防災関係設備の更新を実施した。

4. 地域における公益的な取組

- (ア) 松戸ニッセイエデンの園と協働で、福祉学会、チャリティバザー、地域清掃活動については感染対策を図りながら実施した。
- (イ) 地域の二次福祉避難所として、松戸市と共同で防災訓練を実施した。
- (ウ) 松戸市緊急ヘルプネットワーク事業に参加し、緊急時の高齢者等の受け入れ体制構築が図れた。
- (エ) 松戸市健康医療部健康政策課と連携し、地域の医療的ケア児者の災害時における受け入れ計画作成を実施できた。

【数値実績】

	特養入所 (ユニット型)	短期入所		通所介護		
		介護	障害	介護	総合事業	障害
利用者定員	103 名	21 名		34 名		
利用延数	35,175 名	7,583 名	304 名	6,146 名	1,609 名	444 名
一日平均 利用者数	96.1 名	20.7 名	0.8 名	20.0 名	5.3 名	1.4 名
稼働率 (%)	93.5%	102.0%		78.3%		
稼働延日数	366 日	366 日		308 日		
単価 (一人一日)	15,536 円	14,977 円	10,428 円	11,194 円	4,122 円	10,171 円
職員数 (常勤換算)	70.5 名	11.4 名		13.2 名		

	ケアプランセンター		障害者 (児) 相談支援事業
	介護	予防	
利用者定員	—		—
利用延数	1,869 名	373 名	305 名
一日平均 利用者数	—		—
稼働率 (%)	—		—
稼働延日数	—		—
単価	17,429 円	4,391 円	15,236 円
職員数 (常勤換算)	6.2 名		1.0 名

横須賀愛光園

特別養護老人ホーム横須賀愛光園 横須賀愛光園デイサービスセンター
西第二地域包括支援センター 聖隷ヘルパーステーション横須賀
聖隷訪問看護ステーション横須賀 聖隷ケアプランセンター横須賀
聖隷看護小規模多機能横須賀

2023 年度は法人内で初めてとなる看護小規模多機能型居宅介護事業の開始と、大規模改修やシステム導入後のリニューアルした環境下でのサービス提供が開始できた。これらは部署や事業種別にとらわれず、我が事として一丸となった運営ができている拠点だからこそ成し得たことと考える。

新規事業を含め人員増が達成できていない状況での運営となったことが影響し、看護小規模多機能については予算を大きく未達の経営となったが、各事業の協力連携体制を行い、拠点全体としてカバーができたと考える。

【事業・運営報告】

1. 地域ニーズに合わせて、よりシームレスで柔軟なサービスの提供

- (ア) 計画通り看護小規模多機能型居宅介護を 4 月に開設できたが、人員未達の状況での開設となり、運営・経営面での体制構築については課題が残った。
- (イ) 各事業において ICT 機器の活用を前提とした業務変革の取り組みを開始できた。
- (ウ) 障がい者日中活動などの試行と積極的な実習の受け入れを行った。
- (エ) 事務職員を環境面で集約し、事務業務の効率化と役割分担を行った。

2. 人材の確保と育成を推進する

- (ア) リニューアル内覧会の企画実施、魅力発信動画の作成などに取り組んだ。
- (イ) 介護補助や障がい者雇用促進等、体制整備に取り組み、障がい者 1 名の雇用が達成できた。
- (ウ) 事業継続計画（BCP）について拠点としての作成と研修、訓練が実施できた。

3. 利用者一人一人に合わせた質の高いサービスの提供と経営の安定化

- (ア) 特別養護老人ホーム、短期入所
 - ① 各種システムによる業務変革に取り組んだが、効果検証、可視化の面で課題が残った。
 - ② 見守りシステムの活用をすすめ、転倒事故の減少は図れなかったが夜間巡視の削減など介護職員の負担軽減につながる対応ができた。
- (イ) デイサービスセンター
提供サービスの充実に関して課題は残っているが、リニューアルオープンにより稼働率の向上を図ることができた。
- (ウ) 西第二地域包括支援センター
生活支援コーディネーターの専任化に伴い、地域づくりや介護予防、権利擁護啓発活動の更なる推進に向けた取り組みを行うことができた。
- (エ) 聖隷ヘルパーステーション横須賀

けあピアノート等システム活用を促進し、勤怠管理の効率化も達成できた。

(オ) 聖隷訪問看護ステーション横須賀

限られた人員の中で看護小規模多機能型居宅介護との兼務体制を確立できた。

(カ) 聖隷ケアプランセンター横須賀

看護小規模多機能型居宅介護、地域包括支援センターとの連携会議を発足し、利用者状況やニーズに応じて柔軟な移行等の対応を行うことができた。

(キ) 聖隷看護小規模多機能横須賀

訪問看護との連動体制を構築し、医療ニーズへの対応や新規受け入れなど柔軟に行うことができた。

4. 地域における公益的な取り組み

(ア) 地域ボランティアセンター運営への参加を継続し、福祉バザールの運営協力と開催参加ができた。

【数値実績】

	横須賀愛光園		短期入所	デイサービス	地域包括支援センター
	従来型	ユニット型			
利用者定員	65名	40名	15名	30名	—
利用延数	23,168名	14,353名	4,542名	6,433名	—
一日平均利用者数	63.3名	39.2名	12.4名	20.8名	—
稼働率	97.4%	98.0%	82.7%	69.2%	—
稼働延日数	365日	365日	365日	310日	—
単価(1人1日)	12,858円	15,642円	12,831円	10,402円	—
職員数(常勤換算)	33.5名	26.6名	9.0名	6.4名	5.3名

	聖隷訪問看護ステーション横須賀		聖隷ヘルパーステーション横須賀			
	介護給付	医療給付	介護給付	総合事業	自立支援	有償等
月平均利用者数	100.3名	43.2名	64名	12.5名	22.3名	—
月平均訪問件数	552.1件	285.8件	644.3件	54.7件	190.6件	—
単価	11,072円/件	12,114円/件	5,183円/時間	3,960円/時間	4,845円/時間	—
職員数(常勤換算)	13.0名		4.9名			

聖隷ケアプランセンター横須賀						
年間請求件数		平均単価		訪問調査年間件数	訪問調査単価	職員数(常勤換算)
介護	予防	介護	予防			
1,781件	124件	16,804円	6,197円	54件	5,102円	5.0名

聖隷看護小規模多機能横須賀					
登録定員	平均登録者数/月	平均通い者数/日	平均宿泊者数/日	単価1人/月	職員数(常勤換算)
25名	12.25名	3.8名	1.06名	287,448円	8.8人

宝塚せいのの里

特別養護老人ホーム宝塚すみれ栄光園、短期入所生活介護
宝塚すみれ栄光園デイサービスセンター、聖隷ケアプランセンターすみれ
宝塚市高齢者・障害者権利擁護支援センター

2023 年度は、新型コロナウイルス感染症が 5 類へ移行する中、家族の面会、ボランティア参加の行事企画、家族懇談会の開催など、感染症流行前のかたちへ移行を進めた。3 年にわたる感染症の制限期間中に入居された方も多く、家族にとっては施設での暮らしを初めて見て頂くこともあり、伝える事の大切さと難しさをあらためて感じる事となった。退去された人数は 42 名と開設以降、最も多い人数となった。

2022 年度後半に介護職員の退職が多くあり、2023 年度は年間を通して非常に厳しい運営体制が続いた。人事企画部関西採用センター協力のもと、直接応募だけでなく人材会社を含めた募集活動を行い、2024 年度は定数職員数にまで戻して迎えることができた。

短期入所、デイサービスセンター、ケアプランセンターの在宅事業は、稼働率、紹介率といった数字への意識や、繋がらなかったケースの確認、サービス提供地域の拡充といった次に繋がる課題検討を行った。宝塚市高齢者・障害者権利擁護支援センターでは、各専門職団体の権利擁護・成年後見ネットワークの構築や市民後見人の養成講座が定着している。

地域自治会等との連携では、大規模な催しについては 2023 年度も見送られたが、定例会議には出席し、顔の見える関係性は継続されている。

【施設理念】

一人ひとりの想いを真心と愛で結ぶ。

【経営方針】

1. 思いやりの心、敬いの心をもって一人ひとりと“心でつながる関係”を大切にします。
2. “馴染みの関係”の中で一人ひとりの想いや個性を尊重した生活を支援します。
3. できる力に目を向け、“創造性のある真心をもったケア”で支援します。
4. ご家族や地域との“結びつき”を大切にします。
5. “挑戦する心”を持ち、人として成長するために常に研鑽します。

【事業・運営計画】

1. 「安心と穏やかに暮らせる」質の高いサービスの提供
 - (ア) 利用者個々の「できる力」に視点をおき、日常の支援に努めた。
 - (イ) ACP の考え方を共有し、看取りケアの有り方を考えるとともにプロセスをケアプランや日々のケアに反映し、施設にて 25 名を看取ることができた。
 - (ウ) 歯科医師等と協働したケア共有に努めたが、誤嚥性肺炎による入院者数は 2022 年度と同様であった。

(エ) 施設内活動の制限がある中でも、創意工夫を凝らし季節感のあるレクリエーションを提供することができた。

2. 施設や事業機能を活かした繋がりのあるサービスの提供

(ア) 第1・第2エリア共通の課題として、在宅サービス提供範囲について検討を始めた。

(イ) デイサービス作業療法士が入所・短期入所と連携したケアを行った。

(ウ) すみれ保育園跡地での障害者就労事業の計画準備までには至らなかった。

3. 専門職として実践できる人材育成と活躍できる環境づくり

(ア) 新たに1名の係長登用者を輩出した。

(イ) 介護福祉士資格1名取得

(ウ) 介護福祉士率は年間を通して70%を維持することができた。

(エ) 特殊浴槽導入にあたり、職員が福祉機器展視察、デモ体験研修のうえ機種選定を行った。

4. 運営安定化の推進

(ア) 施設の効率的運用を図り、水光熱費の低減を進めた。

(イ) 法人本部総合企画室と連携し、長期的施設運営のための設備修繕を検討した。

(ウ) BCP（事業継続計画）作成と並行し、感染症対策を行いクラスターは出さなかった。

(エ) 非介護パート、障害者雇用、学生パートなど、多様な働き方に対応した。

5. 地域における公益的取組

(ア) 地域コミュニティ等に参画し、防災・防犯活動等に参加した。

(イ) 研修室を地域住民や地域ネットワーク会議・研修等に開放には至らなかった。

(ウ) 施設周辺の環境活動へ地域住民と共に取り組んだ。

【数値指標】

	特養入所 (ユニット)	短期 入所	通所介護 (一般)	居宅介護支援		権利擁護 支援センター
				介護	予防	
利用者定員	100名	20名	30名			
利用者・請求延べ数	35,090名	6,982名	6,116名	2,789件	107件	
一日平均利用者数	95.9名	19.1名	20.0名			
稼働率	95.9%	95.3%	66.6%			
稼働日数(延べ)	365日	365日	306日			
単価 (一人一日・件当り)	15,997円	15,824円	11,740円	17,558円	4,336円	
職員数(常勤換算)	74名	14.1名	14.3名	9.4名		3.9名

宝塚せいのりの里

介護付きケアハウス ケアハウス宝塚

介護ロボットを活用した、夜勤 1.5 勤務体制による柔軟な勤務体制を目指してきたが、2022 年度後半より介護職員の退職が多くあり、職員への負担感が強くなってしまった。人事企画部関西採用センター協力のもと、人材会社を含めた募集活動を行い、2024 年度には定数職員数まで戻すことができたが、年間を通しては厳しい運営体制であった。なお、宝塚せいのりの里全体で、新卒採用者・中途採用者毎に座談会を行い、職員間の繋がりを作ることに取り組んだ結果、ケアハウス宝塚では介護職正職員の退職者は出さなかった。

新型コロナウイルス感染症の 5 類移行に合わせ、部屋での家族面会、ボランティアによる行事企画、家族懇談会など、これまでの制限解除を行えたことは、この数年で失われた利用者と家族、地域との繋がりが戻ったと実感される出来事であった。しかしながら、それでも活動は施設内が中心であったことから、生活の中で体を動かす場面を、機能訓練として楽しく充実させる目的で「TANO」（モーショントレーニングシステム）の導入を行った。

退去者 18 名のうちケアハウス宝塚で亡くなられた方は 11 名で、他の方は医療機関への入院となり、宝塚すみれ栄光園への住み替え者はこの 2 年間行われていない。安定的な運営のためにも、宝塚せいのりの里入居施設の特徴を明確にした運営が課題である。

【施設理念】

一人ひとりの想いを真心と愛で結ぶ。

【経営方針】

1. 思いやりの心、敬いの心をもって一人ひとりと“心でつながる関係”を大切にします。
2. “馴染みの関係”の中で一人ひとりの想いや個性を尊重した生活を支援します。
3. できる力に目を向け、“創造性のある真心をもったケア”で支援します。
4. ご家族や地域との“結びつき”を大切にします。
5. “挑戦する心”を持ち、人として成長するために常に研鑽します。

【事業・運営計画】

1. 入居者がより「自分らしさ」を実現できる支援に向けて
 - (ア) ACP の考え方を共有し、看取りケアの有り方を考えるとともにプロセスをケアプランや日々のケアにも反映し、施設にて 11 名を看取ることができた。
 - (イ) 「TANO」（モーショントレーニングシステム）を導入し、リハビリの充実を図った。
 - (ウ) 活動に制限がある中でも、介護予防や季節を感じられる活動を実施した。
 - (エ) 体調変化の早期発見と迅速な対応を心掛け、入院者数は 2022 年度より増えたものの、平均入院日数は減らすことができた。

2. 専門職として実践できる人材育成と活躍できる環境づくり

- (ア) 新入採用・中途採用職員座談会の担当として、職場へフィードバックを行った。
- (イ) 遠隔地や他事業部への異動など、広く活躍できる人材を輩出した。
- (ウ) 介護福祉士率は年間を通して70%を維持することができた。
- (エ) 介護職員、相談職員が福祉機器展にて視察を行い、必要な情報収集を行った

3. 運営安定化の推進

- (ア) シャトルバスの運行経路を変更し、燃料費の節減を行った。
- (イ) 法人本部総合企画室と連携し、長期的施設運営のための設備修繕を検討した。
- (ウ) BCP（事業継続計画）作成と並行し、感染症対策を行いクラスターは出さなかった。
- (エ) 非介護パート、障害者雇用、学生パートなど、多様な働き方に対応した。

4. 地域における公益的な取組

- (ア) 地域コミュニティなどに参画し、防災・防犯活動等に参加した。
- (イ) 研修室を地域住民や地域ネットワークの会議・研修等に開放には至らなかった。
- (ウ) 施設周辺の環境活動へ地域住民と共に取り組んだ。

【数値指標】

	介護付きケアハウス
利 用 者 定 員	70 名
利 用 者 延 べ 数	24,475 名
一 日 平 均 利 用 者 数	67.1 名
稼 動 率	95.8 %
稼 動 日 数（延 べ）	365 日
単 価（一人一日当り）	14,528 円
職 員 数（常勤換算）	39.6 名

宝塚せいの里

介護付有料老人ホーム 結いホーム宝塚

2023 年 11 月 1 日に開設 10 周年を迎え、記念イベントにて入居者と盛大に祝い、喜びを分かち合うことができた。また、面会や外出に関する制限を段階的に緩和し、敬老会や懇談会に家族を招くこともできた。家族や地域にも楽しんでもらえるイベント開催を 2024 年度に繋げていく。

運営面においては、見学者・申込者を確実に入居に繋げていくことで、予算を上回る稼働を維持することはできたが、2022 年度後半に続いた介護職員の退職の補充に時間を要し、必要な職員体制が整わず非常に厳しい 1 年であった。人事企画部関西採用センターの協力もあり、2024 年度を欠員なく迎えることはできたため、人材育成と 2023 年度導入した介護ロボットや ICT 機器の活用により、働きやすい・働きたい施設としていくことが課題である。

1. 入居者・家族の期待に応えるサービスの提供

- (ア) 面会や外出の制限を段階的に緩和し、面会時間を気持ちよく過ごせるよう居室環境を整えた。また、敬老会や懇談会に家族を招き、対面で行うことができた。感染症に対する標準予防策を徹底し、集団感染を発生させることなく経過することができた。
- (イ) 濃密で温かく身体全体を包み込む絹泡を生成するシャワーの導入、洗浄力と保温効果の高いシャワーポッドの導入により、入浴サービスの向上が図れた。
- (ウ) 定期的に特別感のあるイベント食を企画・提供し喜ばれた。
- (エ) 介護サポーターを増員し、居室環境整備に力を入れた。
- (オ) スタッフが企画し、エントランスロビーのカーペット貼り替えの調整が整った。

2. 職員一人ひとりを大切にできる職場環境・職員育成の推進

- (ア) インカムの導入が、心理的安全性の向上に繋がっている。
- (イ) 睡眠の質改善、排泄ケア、バイタル異常値からの早期診断、転倒事故の分析等、眠り SCAN のデータ活用の幅は広がっている。職員の分析する力を育成していくことが課題である。
- (ウ) 移乗介助リフトに関して、居室タイプを増数、特浴脱衣室に新設し、介護負担の軽減を進めることができた。
- (エ) ICT 機器導入後のタイムスタディ調査を実施し、夜勤を中心に書類作成の時間を生み出すことができていることが確認できた。個人差を埋めていくことが課題である。
- (オ) サポーターをフロア固定しないことで、急な欠員発生時にサポーターもフォローに入る体制が構築できた。

3. 安定した施設運営

- (ア) ブログに加え、インスタグラムのアカウントを開設。イベント情報を配信した。
- (イ) 丁寧な見学対応が入居申込に繋がり、予算を上回る稼働率を達成できた。
- (ウ) 法人本部総合企画室と連携し、長期的施設運営のための設備修繕を検討した。

4. 地域に信頼される施設運営と公益的な取り組み

- (ア) まちづくり協議会の定例会議への参加、サロン活動への講師派遣を行った。
(イ) 第4地区地域生活支援会議にて分野を越えた横の繋がりを作ることができた。

5. 環境活動への取り組み

- (ア) 水光熱の効率的運用を図り、ガス・電気は使用量を削減できた。
(イ) 地域清掃を地域住民と共に取り組んだ。

【数値指標】

	介護付き有料老人ホーム
利 用 者 定 員	100 名
利 用 者 延 べ 人 数	35,520 名
一 日 平 均 利 用 者 数	97.07 名
稼 動 率	97.07%
稼 動 日 数 (延 べ)	365 日
単 価 (一 人 一 日 当 り)	17,348 円
職 員 数 (常 勤 換 算)	60.38 名

介護老人福祉施設 宝塚栄光園

特別養護老人ホーム宝塚栄光園、短期入所生活介護

2023 年度、宝塚栄光園は、開設 44 年目を迎え、宝塚市で最も歴史の長い特別養護老人ホームとして、利用者の QOL の向上と業務改善による効率化に取り組むことができた。新型コロナウイルス感染症に対しては、日々の感染症対策は継続しながらも、安定した運営を行うことができた。特に短期入所事業については、利用者のニーズに合わせて受け入れを調整したことで高稼働となり、安定した経営を行うことができた。

1. 利用者のために

(ア) 導入した ICT 機器を最大限活用し、利用者へ安心・安楽・安全なケアの提供を行う。

①見守り機器（眠り Scan）については、更なる活用のために、データ解析方法の勉強会を行い、より睡眠や心拍数、呼吸数などのデータを活用した根拠あるケアを実践した。

②記録システム（HIMVIT）においても、フロアで入力を行うことを全職員に周知し、活用することで、記録時間の短縮により利用者に関わる時間が増えたことや、入力情報のタイムラグがなくなり、異常値が早期に発見できることから利用者の体調管理を行う上で有益であった。

(イ) 新型コロナウイルス感染症対策で希薄になっていた利用者同士や家族、地域とのコミュニケーション、心身機能の維持向上、QOL の向上のためのレクリエーションの充実を図る。

①ガラス衝立越しの面会からフロアの面会室での直接面会となり、また夏祭りや敬老会には家族を招待し、利用者と家族が貴重な楽しい時間を過ごすことができた。

(ウ) 利用者の自己決定支援や、心身ともに健康であり続けられるように、職員それぞれの専門性を生かし連携すること、また新たな連携先の開拓を行う。

①利用者の自己決定支援に関する勉強会を行い、日ごろから利用者の想いを聞き、情報を共有する大切さを学び、カンファレンス等で情報共有し、ケアの方向性を考えることができた。

②言語聴覚士の定期訪問を取り入れ、最後までおいしく口から食事が摂れるように、また誤嚥性肺炎予防のために、他職種で嚥下や姿勢等の評価を行うことができた。

2. 職員のために

(ア) ICT 機器を活用した客観的データ収集や福祉用具を積極的に取り入れて、業務改善により職員を守る。

①HIMVIT への直接入力により、今まで紙の帳票を使用し、そこからカルテに転記していた作業がなくなったことで、記録時間が短縮された。

②見守り機器（眠り Scan）のデータを解析することは学べたが、巡視の回数の削減には至らなかった。

(イ) 職員間の多様性をお互いに認め、自らやりたいことを発信し、それを実現できる職場風土作りを継続する。

①色々な職種、年齢層、特性を考慮したインカムでの連携の取り方もマニュアルを作成し、職員全員が協力して取り組むことができた。

(ウ) 宝塚地区での宝塚栄光園の存在価値、職員の役割を理解しモチベーションへと繋げる。

①施設職員が、在宅サービスの事業所へ研修として赴き、地域課題における宝塚栄光園の役割を理解し、入所や短期入所の積極的な受け入れの必要性を学ぶことができた。

②施設職員が、聖隷の他事業所の研修会に参加し、今後も同じ職種として研鑽を重ねたいと思うと同時に、宝塚栄光園でのその職種の役割を考えることができた。

3. 施設を守る

(ア) 入居・短期入所のベッドコントロールを図り、稼働率を維持することで経営を安定させる。

①入院者数が増えた時は稼働率が下がったが、入院となった経過を振り返り、予防的な関りと異常の早期発見を行うことで、下半期は入院者数を減らすことができ、稼働率を維持することができた。

(イ) 利用者・職員が心地よい環境で過ごせるよう施設内の改修を行う。

①突然の停電に繋がる劣化の進んだ高压受電設備の更新を行い、安全な施設環境づくりの一環となった。

4. 地域における公益的な取組み

(ア) 自治会の感染対策研修に講師として参加し、感染症の基礎知識や生活の場での手洗い（手指消毒）の重要性を伝えることができた。

(イ) 地区の自治会連合の「福祉ネットワーク会議」に参加し、テーマにそったグループワークで意見交換を行い、地域住民や市役所職員と顔の見える関係づくりのきっかけとなった。

【数値実績】

	介護老人福祉施設	短期入所生活介護	合計
利用者定員	70 名	17 名	87 名
利用者延べ数	24,660 名	6,589 名	31,249 名
稼働延日数	366 日	366 日	366 日
一日平均利用者数	67.4 名	18.0 名	85.4 名
稼働率	96.3%	105.9%	98.1%
単価（1 人 1 日当り）	13,414 円	13,227 円	13,384 円
職員数（常勤換算）	42.81 名	9.91 名	52.72 名

聖隷ケアセンター宝塚

宝塚第二地区中州在宅複合事業（社会福祉事業）

聖隷ヘルパーステーション宝塚、聖隷逆瀬川デイサービスセンター

2023 年度、「年を重ねても住み慣れた街に住み続けたい」「在宅で最期まで過ごしたい」という利用者の想いに寄り添い、聖隷ケアセンターがこの地域に根付いていくための取り組みを行った。

【事業・運営計画】

1. 「年を重ねても住み慣れた街に住み続けたい」その人の想いをかなえるために
 - (ア) 喀痰吸引、看取りケアなど、利用者のさまざまなニーズに対応ができるように、職員研修を実施した。利用者、職員双方が安心感を持ってケアすることができた。
 - (イ) 事業所内で標準予防策の徹底を図り、感染症利用者への対応を実施。事業所内感染をゼロにすることができた。
 - (ウ) 介護保険制度での生活援助サービス後に有償サービスを実施する新たな料金プランでのサービスを設定し提供した。
 - (エ) デイサービスでは、おやつレクリエーションの開催やリハビリを目的とした外出企画を実施し、利用者同士のコミュニケーションの促進につながった。
 - (オ) 宝塚地区デイサービス相談員に対し、契約時の説明など業務の質の均一化が図れるような研修会を開催した。
2. これからも「この地域」でサービス継続可能な体制づくり
 - (ア) けあピアノートを積極的に、登録ヘルパーを含めた職員の業務時間の短縮が図れた。
 - (イ) 災害が起こった際に、事業継続ができるように、また地域に対してケアセンター宝塚としてできることを踏まえた上で、事業継続計画の策定を実施した。
3. 多職種連携をより進め、利用者がこの地域で安心できるよう、職員の育成を行う
 - (ア) OJT や毎月のカンファレンスの場を活用し、アセスメント能力の向上に取り組み、一定の効果が見られた。質問を通して、情報を「言語化」することまでには至らず、コミュニケーション力を向上する取り組みが必要と考える。
 - (イ) 役職を担える候補者の目途は立てることができたが、登用までには至らなかった。
4. 地域における公益的な取組
 - (ア) 今年度、「あい会いサロン」を2回開催することができた。そのうちの1回は、企業や障がい者施設に協力を依頼し、幅広い年代の参加につながった。また、サロン参加者から困りごとの相談を受け、介護保険制度の利用や認知症支援につなげることができた。
 - (イ) 地域連携交流会（地域支援会議）を今年度3回開催した。高齢・障がい・児童分野、薬剤師、行政、社協、民生委員、自治会員など専門職と住民のネットワーク構築につながった。顔の見える関係性を築けたことにより、実際の利用者支援においても、多職種が協同することができた。

【数値指標】

訪問介護事業（聖隷ヘルパーステーション宝塚）

介護給付			総合事業		単価(円)		職員数 (常勤換算)
平均利 用者数	月間訪 問件数	年間訪 問件数	月間 利用者	年間 利用者	介護 (回)	予防 (月)	
94.8 人	826.9 件	9,923 件	43.1 人	518 人	4,961 円	16,384 円	14.4 名

通所介護事業（聖隷逆瀬川デイサービスセンター）

介護給付			総合事業		単価(円)		職員数 (常勤換算)
平均利 用者数	月間利 用者数	年間利 用者数	月間 利用者	年間 利用者	介護 (回)	総合 (月)	
29.5 人	760 人	9,121 人	17.5 人	210 人	10,089 円	35,789 円	17.7 名

宝塚第二地区中州在宅複合事業（公益事業）

聖隷訪問看護ステーション宝塚、聖隷ケアプランセンター宝塚、逆瀬川地域包括支援センター

2023 年度、「年を重ねても住み慣れた街に住み続けたい」「在宅で最期まで過ごしたい」という利用者の想いに寄り添い、聖隷ケアセンターがこの地域に根付いていくための取り組みを行った。

【事業・運営計画】

1. その人が望む「在宅で最期まで過ごせる」が実現できる地域へ
 - (ア) 医療依存度の高い利用者や看取り期の利用者など、在宅で本人が安心して生活できるようにケアセンター宝塚内で多職種が協同して支援を行った。聖隷訪問看護ステーション宝塚においては、機能強化型訪問看護管理療養費Ⅰを、聖隷ケアプランセンター宝塚においては医療介護連携加算をそれぞれ継続的に算定することができた。聖隷訪問看護ステーションでは、特定行為研修を受講でき、次年度、加算取得を予定している。
 - (イ) 地域の自治会やまちづくり協議会を対象に、聖隷ケアセンターの多職種で共同して ACP（アドバンスケアプランニング）の勉強会を開催した。
2. 職員同士で成長し合える環境作りと次世代の管理者候補の育成
 - (ア) 利用者支援やケアセンター宝塚内の委員会、勉強会を通して職員同士の交流を図ることができ、連携の強化や、事業所の枠を超えた人材育成を行うことができた。
 - (イ) リーダー職員の育成を実施し、二つの事業所から役職者を 2 名輩出することができた。
3. 資源の効率的活用と生産性の向上
 - (ア) 聖隷訪問看護ステーション宝塚において ICT（ZEST や MCS）を活用して、支援経過記録、連絡調整の業務に要する時間を削減することができ、年間超過勤務時間を約 8%削減することができた。
 - (イ) 聖隷ケアプランセンター宝塚において、Wincare のメニュー画面の整理、参照入力を充実させた事により、支援経過記録の入力業務に効率化を図ることができた。
4. 地域における公益的な取り組み
 - (ア) 今年度、「あい会いサロン」を 2 回開催することができた。そのうち 1 回は、企業や障がい者施設に協力を依頼し、幅広い年代の参加につながった。また、サロン参加者から困りごとの相談を受け、介護保険制度の利用や認知症支援につなげることができた。
 - (イ) 地域連携交流会（地域支援会議）を今年度 3 回開催した。高齢・障がい・児童分野、薬剤師、行政、社協、民生委員、自治会員など専門職と住民のネットワーク構築につながった。顔の見える関係性を築けたことにより、実際の利用者支援においても、多職種が協同することができた。

【数値指標】

訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーション宝塚）

	平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価(円)	職員数 (常勤換算)
医療	68 人	620 件	7,441 件	9,800 円	22.4 名
介護	116 人	597 件	7,158 件	9,350 円	
予防	17 人	44 件	530 件	7,630 円	

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター宝塚）

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価(円)	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防			
3,850 件	333 件	19,117 円	5,235 円	2,666 件	4,513 円	16.8 名

地域包括支援センター事業（逆瀬川地域包括支援センター）

年間請求件数		平均単価(円)		職員数 (常勤換算)
予防	予防(委託)	予防	委託(委託)	
4,617 件	3,350 件	5,004 円	787 円	14.7 名

宝塚第二地区在宅複合事業

聖隷逆瀬台デイサービスセンター

聖隷デイサービスセンターあゆむ

新型コロナウイルス感染症が継続的に流行するなか、安全性の確保、予防対策に尽力し、利用者へのサービスが途切れないように調整を行った。地域のニーズに対応し、中重度利用者だけでなく、軽度の利用者へのアプローチを行い、幅広い介護度へのサービスが提供でき、地域の在宅介護を支える役割を発揮できている。

[事業・運営計画]

1. 質の高い介護サービスを提供し、利用者が在宅生活を継続できるように支援する。
 - (ア) 利用者・家族が安心できる、安全な介護サービスを提供する。
 - ①要介護3以上の中重度利用者を30%以上確保しつつ、軽度の利用者の利用率を向上することができた。
 - ②介護機器の導入には至らなかった。厨房に完全調理品を導入し、業務改革を行った。
 - ③人材育成に向け、介護技術委員会を作り技術の向上を行った。
 - (イ) 関係機関とのシームレスな情報共有で医療ニーズへ対応する。
 - ①MCSを活用し、在宅医を含む関係機関とのタイムリーな情報共有ができた。
 - ②看護職と連携し、胃ろう、在宅酸素、見取りの利用者の受け入れをおこなった。
2. 認知症利用者が介護者と共に、自宅で穏やかに生活が続けられるように支援する。
 - (ア) 利用者それぞれが穏やかな時間を過ごせる個別ケアを提供する。
 - ①職員1名が認知症介護実践者研修を履修し、根拠をもった周辺症状への対応を行うことができた。
 - ②作業療法士と共同し、機能訓練やケース検討、情報共有を行うことで、在宅生活を長く続けるという実績を作ることができた。
 - (イ) 介護者が自宅介護のモチベーションを保てるように関わる
 - ①地域密着型サービスにおける運営推進会議並びに家族会をそれぞれ年2回開催し、家族の不安を聞き取る場を設けることができた。
3. 地域における公益な取り組み
 - (ア) 逆瀬台地域の高齢単身者・高齢者世帯へ、地域包括と共同し「助け愛デリ」として夕食弁当を配布することで、見守り活動をおこなった。
 - (イ) 施設の地域開放をおこない、喫茶、いきいき百歳体操、保育活動、グループ活動の場として提供することができた。

【数値指標】通所介護事業（聖隷逆瀬台デイサービスセンター）

介護給付			予防給付		単価(円)		職員数 (常勤換算)
平均利 用者数	月間利 用者数	年間利 用者数	月間 利用者	年間 利用者	介護 (日)	予防 (月)	
20.6 人	531 人	6,370 人	3 人	38 人	14,533 円	42,163 円	24.0 名

【数値指標】地域密着型サービス認知症対応型通所介護事業（聖隷デイサービスセンターあゆむ）

介護給付			予防給付		単価(円)		職員数 (常勤換算)
平均利 用者数	月間利 用者数	年間利 用者数	月間 利用者	年間 利用者	介護 (日)	予防 (月)	
5.8 人	149 人	1,793 人	0 人	0 人	17,320 円	0 円	6.1 名

聖隷デイサービスセンター結い

コロナの 5 類移行に伴い日常生活が戻るとともに、活動量減少により身体機能が低下した利用者のニーズが増えた。利用者の期待に応えるべく、個別機能訓練の充実し、利用者の痛みや思いに寄り添えるように、個別化を図った援助を強化することで、在宅生活継続への支援を続けることができた。今後も自立支援と要介護状態の重度化防止の為に、より質の高いサービス提供を目指し、一体化のサービスの提供を深く考える必要があると振り返る年度となった。

【事業・運営報告】

1. 自立支援につながる質の高い機能訓練の提供

- (ア) 利用者が、住み慣れた町、自宅で生活を続けたいにも、「自分でやりたい！」を促進できる取り組みができた。
- (イ) 「活動」「参加」の促進や継続ができる機能訓練を提供するため、セラピストを中心に多職種が連携して機能訓練を実施することができた。また、~~同~~法人内のデイサービスと連携し、継続かつ必要なサービス提供を大事にし、地域包括支援センターや聖隷ケアプランセンターとも協議をしながら利用者のデイサービス移行を行い、聖隷で利用者が長く在宅生活を送ることができる事例数が昨年度より向上した。
- (ウ) 他機関と連携・協同し、医療から継続性のある機能訓練の提供を目指し、生活機能訓練加算の算定を受けている利用者の継続的支援から卒業を目指す取り組みができた。

2. 地域における公益的取り組み

- (ア) 事業所の無料開放を数回実施し、地域包括支援センターと福祉用具貸与事業所と共同で福祉用具を展示し、状態に合う用具の提案や体験する機会を設け、運動機器で歩行・姿勢年齢の測定や、福祉施設を体感する場を作り、地域貢献活動に取り組みすることができた。

【数値指標】

介護給付			予防給付		単価		職員数 (常勤換算)
平均利用者数	月間利用件数	年間利用件数	月間利用者	年間利用者	介護 (日)	予防 (月)	
15.8 人	405 件	4,857 件	70.5 人	847 人	6,706 円	33,918 円	11.6 名

聖隷コミュニケーションセンター宝塚店

2023年度は6月に兵庫県の実地指導があり、運営に関する書類整備や利用者からサービスの同意を頂くタイミングなど指摘があった。指摘への対応に伴い、営業職員の書類作成や訪問回数が増えたため、指摘を踏まえた業務改善に取り組んだ。また、長い間総務、経理を担当していた事務員の退職により、事務処理を含めた運営方法を複数人でカバーできるよう見直しを始めた。2024年度介護報酬改定において、一部の福祉用具が販売か貸与かを選ぶ「選択制」が導入されることから、ますます価格競争が厳しくなることが考えられるため、原点に立ち返り、宝塚地区のコンパクトさを活かした「聖隷の在宅サービスとの連携」を強みとし、他社との差別化をはかっている。

【事業報告】

1. 福祉用具貸与を柱とした経営の安定化を図る

- (ア) 同じ営業職員が長く担当しているエリアもあり、担当エリアを一部変更した。丁寧に利用者やケアマネージャーへ説明しながら順次行っている。全ての営業職員がエリアに関わらず対応するよう意識が変わっており、今後機会損失を減らしていく。
- (イ) 貸与請求業務代行サービスの導入により業務の効率化が図られ、請求事務担当者が営業担当者のサポートを行う体制を構築した。求められる書類作成が増える中、営業職員との連携により業務の分業を行い、利用者への対応向上につなげる。
- (ウ) 相談事業会議への出席を行い、双方の要望や課題を共有できるようになった。
求められている事は何かを考え、主体性がある事業所となるためにも、依頼をし易く信頼関係が構築できるよう、電話対応を含め職員の意識が変わりつつある。

2. 障がい者事業に向けた取り組み

- (ア) 購入や自費貸与などサービスの幅が求められる状況で、今後就労支援事業で福祉用具の消毒・洗浄作業ができるよう、事業所備品のお試し用入浴用品の消毒・洗浄をパート職員で開始した。マニュアルの作成を行っていく。

3. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 宝塚地区の聖隷のデイサービスセンターや入所施設、地域包括支援センターと協力し、地域に向けた福祉用具の相談や紹介を行った。

【数値実績】

年 間 貸与件数	年 間 貸与収益	年 間 販売収益	年 間 住宅改修収益	職員数 (常勤換算)
8,774 件	95,882 千円	71,673 千円	17,176 千円	10 人

花屋敷せいのりの里

特別養護老人ホーム花屋敷栄光園
花屋敷デイサービスセンター
聖隷訪問看護ステーション山本
花屋敷地域包括支援センター
聖隷ケアプランセンター花屋敷
障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ花屋敷
宝塚市障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ花屋敷

2023 年度は、新型コロナウイルス感染症が感染症法上第 5 類に分類され、居室での家族面会、花屋敷せいのりの里行事等を実施し、積極的に地域開放を行った。そのため、家族・地域の方・ボランティアの来園が多くなり、施設全体に活気が入り入居者・職員ともに充実した 1 年を過ごすことができた。在宅事業では、訪問看護とデイサービス、ショートステイが協働し、リハビリテーションや医療ニーズの高い利用者の受入を継続的に取り組むことができた。このように安定した事業運営を継続できたことは、職員一人一人の努力の結果であり、利用者に関わりのある方々の協力のおかげである。

2023 年度に導入した ICT 機器は 2024 年度の評価実施に向けて、設備機器は修繕計画を具体的に作ることができ、利用者にとって安心・安全な環境の確保、職員にとってもやりがいと魅力ある職場へ繋げることができた 1 年であった。

1. 「安心して暮らせる」サービス機能を活かした繋がりある支援と定着

- (ア) 引き続き地域ニーズの把握に努め、必要なサービスを創造することを継続する必要がある。
- (イ) 通所介護では、短時間利用や中重度利用者の積極的な受入れを行うことができた。
- (ウ) 短期入所生活介護は緊急利用や医療ニーズの高い利用者の受入れを行うことができた。
- (エ) 地域の会に参加し、花屋敷せいのりの里の支援体制について周知することができた。

2. 利用者満足度の高いサービスの提供

- (ア) アドバンスケアプランニングの考え方を共有し、看取りケアに反映することができた。
- (イ) 多職種で連携し、ケアの共有を行い状態悪化の抑制に努めることができた。
- (ウ) 利用者が季節を感じられるイベントを実施し、利用者満足度の向上を図ることができた。
- (エ) 入浴機器を活用し、現状よりも安心・安全・安楽なケアの定着を図ることができた。

3. 職員が専門職としての成長を感じられ、自己実現の追求支援が行える職場づくり

- (ア) 各階層に応じた OFF-JT 研修の割り振りは行ったが実施することができなかった。
- (イ) 専門研修の受講や資格取得を促進し、効果的な職場配置を行うことができた。
- (ウ) 目標参画や各種ラダーによるキャリア支援を行い、モチベーション向上を図ることができた。
- (エ) 施設環境を踏まえ、新たな働き方を意識した福祉機器等の整備を行うことができた。

4. 運営安定化の推進

- (ア) 長期的施設運営のための設備修繕と更新を計画的に実施することができた。

(イ) 感染対策及び災害対策を見直し、BCP(事業継続計画)の作成を行うことができた。

5. 地域における公益的な取組み

(ア) 近隣の中学校等を対象に福祉体験等を通し、福祉に対する理解促進に努めることができた。

(イ) 地域コミュニティへの参画と地域とともに防犯・防災活動に取り組むことができた。

【数値実績】

高齢者入居・短期入所・通所関係事業・相談支援事業

		特養入所 ユニット型		短期入所 ユニット型空床型		通所介護		
						通常	予防	
利 用 者 定 員		108 名		12 名		35 名		
利 用 延 数		38, 259 名		4, 437 名		6, 874 名	1, 611 名	
一 日 平 均 利 用 者 数		104. 5 名		12. 1 名		22. 1 名	5. 1 名	
稼 動 率 (%)		96. 8%		101. 2%		79. 2%		
稼 動 延 日 数		366 日		366 日		309 日		
平 均 介 護 度		4. 0		2. 9		2. 3		
単 価 (一 人 一 日)		15, 700 円		15, 720 円		9, 920 円		
職 員 数 (常 勤 換 算)		70. 2 名		8. 6 名		13. 1 名		
		地域包括支援事業 (花屋敷地域包括支援センター)		障害者相談支援事業 (聖隷はぐくみ花屋敷)	障害児相談支援事業 (聖隷はぐくみ花屋敷)	宝塚市相談支援事業 (聖隷はぐくみ花屋敷)		
宝塚市受託収入(千円)		37, 786 千円		—	—	14, 915 千円		
年 間 請 求 件 数	予防ﾌﾟﾗﾝ 請求件数	3, 482 件		463 件	196 件	—		
	予防ﾌﾟﾗﾝ 委託件数	1, 462 件						
平 均 単 価	予防ﾌﾟﾗﾝ 単価(円)	4, 759 円		15, 140 円	16, 430 円	—		
職 員 数 (常 勤 換 算)		10. 1 名		4. 7 名				
	聖隷訪問看護ステーション					聖隷ケアプランセンター		
	平均 利用者数	月訪問件数	年訪問 件数	単価(円)	職員数 (常勤換算)	年訪問 件数	単価(円)	職員数 (常勤換算)
医療	54 人	341 件	4, 087 件	11, 270 円	15 名	—	—	—
介護	109 人	543 件	6, 521 件	9, 591 円		3, 492 件	19, 120 円	9. 8 名
予防	28 人	94 件	1, 128 件	8, 813 円		258 件	4, 440 円	

花屋敷せいのりの里

ケアハウス花屋敷

コロナがあけて、日常に戻していくこと、特に制限の大きかった「娯楽」、「楽しむこと」を大切に考え、色々な行事を催し実行することができ、入居者からも大きな反響があった。

また、二人部屋も改修により個室化することで、機会損失をなくし入居率の改善を図ることができた。年々入居者の介護保険要介護認定者が増えていく中で、身体機能の低下に至った際、どこでどのように過ごしたいか、入居者の考え・想いをしっかり受け止め、最良の選択をしていただけよう、多職種と連携し支援する形を深く検討する1年であった。

【事業・運営報告】

1. 自立した生活が困難となった時に希望される方が最期まで花屋敷せいのりの里内で過ごせるよう、ケアハウス花屋敷での対応強化と花屋敷栄光園、在宅事業との連携強化を図る。
 - (ア) 在宅・施設連携会議を定期開催し、他職種間で問題が共有でき連携を意識した対応策を講じることができた。
 - (イ) 急変時にも対応できるよう、BLS、ACPの研修に職員全員が参加できる。
 - ①BLS、ACPの研修に職員は参加した。
 - ②心肺蘇生、殴打法など、急変時の対応について研修を実施した。
 - (ウ) 状況によって入居継続支援会議を開催することとし、必要なサービスについて検討する仕組みを作った。
 - (エ) 入居者向けのACPの研修を実施したが、さらに理解を深めるため継続的に実施していく必要となった。
2. 生活の中で楽しむこと、心地よく過ごせる環境を入居者のアイデアや入居者との協働により創っていく。
 - (ア) 施設内の設えに心配りする。
 - ①ロビーの環境整備を行い、くつろげる空間を作った。
 - ②入居者の作品を定期的に展示し、楽しみややりがいにつながった。
 - (イ) 新型コロナウイルス感染状況に応じた行事の開催
 - ①ボランティアを再開し、バンド演奏や歌の会などを実施できた。
 - ②敬老会、クリスマス会、新年祝賀会を本来の形に戻すことができた。
 - ③外出レクリエーションを計画し、定期的に実施することができた。カラオケを導入し、入居者同士のふれあいの場を作ることができた。
 - (ウ) 喫茶コーナーの運営を職員が対応することで定期的に開催することができた。
3. 宝塚市内、周辺市町村在住の高齢者や介護者世代、地域包括支援センター、病院の地域連携室をターゲットにケアハウス花屋敷を知ってもらう活動を強化する。
 - (ア) 地域包括支援センターにケアハウス花屋敷の利用者を最期まで支援する仕組みについて説明の場を設けた。
 - (イ) 地域包括支援センターのサロン活動に参加し、地域の方々との顔の見える関係をつくる。

ことができた。

(ウ) 地域の方を対象にした施設説明会・見学会の実施不定期ではあるが実施できた。

4. 運営安定化の推進

(ア) 老朽化した設備の修繕と更新を計画的に実施した。

(イ) 二人部屋2室を個室4室に変更し、有効的に活用することができた。

5. 地域における公益的な取組み

(ア) 近隣の小・中学校等を対象に講演や福祉体験等を通し、福祉に対する理解促進に努めるには至らなかった。

継続した地域コミュニティへの参画と地域とともに防犯・防災活動に取り組めた。

【数値指標】

利用者定員	100 人	今年度実績	100 人
利用者延べ数	35,770 人		35,126 人
稼働率 (%)	98%		96%
単価 (一人一日)	4,329		4,587
職員数(介護:常勤換算)	7.0 人		5.2 人
(相談員:常勤換算)	1.0 人		1.0 人
(管理栄養士:常勤換算)	1.0 人		1.0 人
(宿直員:人数)	3 人		4 人
(運転手:人数)	1 人		なし

北神戸地区在宅複合事業

聖隷訪問看護ステーション北神戸

聖隷ケアプランセンター北神戸

2023年度は地域活動が活発になり積極的に活動参加した。住み慣れた地域で安心して暮らすことができるように多職種連携を強め、望む生き方を達成できるように取り組んだ。2023年度後半より職員の採用も進み、隣接の空事務所賃貸契約を行うなど、2024年度に地域で求められる事業展開を拡充する体制を整えることができた。

1. 専門性を強化し利用者のニーズに応じたサービスを提供する。

(ア) 対応できる人材を育成し利用者が望む在宅生活を支援継続する必要がある。

①小児専門病院、小児看護研修に参加し対応力向上を図ることができた。

②心不全療養者の再発重症化予防、血液悪性疾患の研修に参加し質向上を図ることができた。

(イ) 生活の質向上の視点を重視して多職種と連携、情報共有していく。

①アドバンスケアプランニング (ACP) に取り組み、意思決定を支援し暮らしたい場所で生き抜くことを支援できた。

②退院時や発症直後の早期介入、多職種連携で要介護状態の改善や悪化予防に取り組めた。

2. 資源の効率的活用と生産性を向上する。

(ア) ICT を活用し在宅医を含む関係機関とタイムリーな情報共有を図り、適切な対応ができた。

(イ) スケジュール作成ソフトの活用や、業務改善に取り組み、効率化をはかることで、超過勤務の削減や有給消化率を上げることができた。

3. 地域における公益的な取組

(ア) 神戸市北区地域小児在宅医療推進事業へ参加し地域の関係機関と協働できた。

(イ) 神戸市委託事業介護予防講座講師として派遣し地域住民の運動、社会参加へ協働できた。

【数値指標】

訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーション北神戸）

平均利用者数 (人)		月訪問件数 (件)		年訪問件数 (件)		単価 (円)		職員数 (常勤換算) (人)
介護	医療	介護	医療	介護	医療	介護	医療	
68	55	352	428	4,228	5,141	9,137	10,001	

14.2

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター北神戸）

年間請求件数 (件)		平均単価 (円)		職員数 (常勤換算) (人)
介護	予防	介護	予防	
1,249	480	17,322	3,686	

5.1

介護老人福祉施設 聖隷カーネーションホーム

特別養護老人ホーム聖隷カーネーションホーム

聖隷カーネーションホームデイサービスセンター

聖隷カーネーションホームデイサービスセンターうっこ

聖隷在宅介護支援センター淡路

2023年度の聖隷カーネーションホームは、新型コロナウイルス感染症の影響により、第一四半期は実績が低迷したものの、第二四半期以降ではほぼ回復した。感染症の影響を極力抑え、利用者の生活を安定状態に戻せたのは現場職員の不断努力と施設内外の支援体制の賜物である。また、ICT技術を活用した福祉現場改革を継続し、見守り機器の導入、ノーリフトケア推進、シャワー浴の導入など、仕事の自動化の促進、付加価値あるサービス提供体制づくりと職員のモチベーション向上、働きやすい環境づくりに注力した。SNSを活用した施設紹介、介護人材募集も新たな試みであった。理念に基づく質の高いサービスの提供が実践できる組織作り・人材育成とICT技術による現場改革を継続し、運営改善、経営改善、人材確保を2024年度に繋げていく。

【施設理念】

人と地域と未来のために『ともに咲き続ける』ことのできる事業所となる

～『ともに咲き続ける』ために私たちは、～

1. ご利用者、ご家族のみならず地域に信頼され続けるサービスを提供します
2. 現在だけではなく、過去を活かし未来を見据えたサービスを提供します
3. 私たちだからこそできる専門的で先駆的な質の高いサービスを提供します

【経営方針】

1. 利用者満足の向上のために、より安心・安全で質の高いサービスを追求する
2. 職員の働き甲斐や資質の向上のために、多様な人材の発掘・育成と、職員が成長・活躍できる環境づくりを促進する
3. 安定経営を継続していくために、サービス品質の改善と生産性向上の両立を推進する
4. 安心して暮らせる地域づくりに貢献するために、公益的な取り組みの継続と新たなニーズの開拓に取り組む

【事業・運営計画】

1. より安心・安全で質の高いサービスの追求
 - (ア) 記録支援システム HIMVIT による記録・情報共有、ペーパーレス化は浸透したが、利用者個々へのサービス提供の還元は途上のため、今後も引き続き取り組んでいく。
 - (イ) 利用者の重度化・寝たきり防止と QOL 向上のため、重度化防止研修への参加と施設内への伝達講習を実施し、知識、技術の向上と必要物品、機器等の環境整備を行った。
 - (ウ) 2023年度内に見守りシステム、インカム機器の準備はできたが、実装、運用にあたっては2024年4月以降となる。引き続き、設備・機器更新を計画的に進めていく。

2. 多様な人材の発掘・育成と、職員が成長・活躍できる環境づくりの促進

- (ア) 目標参画システムの定着により各職場や職員個々の目標達成に向けた支援ができ、中堅職員、役職者を含む、次世代リーダー候補者の育成に成果が出ている。
- (イ) ノーリフトケアの推進は継続中、移乗ボード・マットの活用は定着している。引き続き、移動式・固定式の介助機器の計画的な導入検討し、働きやすい介護環境の整備を行う。
- (ウ) EPA 介護福祉士候補生の認知症基礎研修への参加促進、また無資格入職者から介護福祉士国家試験合格など、職員に対する資格取得支援、スキルアップ支援で成果があった。

3. サービス品質向上と生産性向上の両立による経営改善

- (ア) HitomeQ コネクトによる入所者・待機者への登録推進と ID 付与、自動勤務表作成システムの導入、自動応答サービスなど ICT 技術を活用し、業務効率化が図れた。
- (イ) 排泄支援、褥瘡マネジメント、口腔衛生管理加算の算定により経営の安定化を図る。引き続き、栄養ケアマネジメント加算取得に向け管理栄養士の雇用形態の協議を行う。
- (ウ) 利用者と職員の感染症による安全・安全の確保のため、標準予防策の徹底と初動のゾーニングに努め、新型コロナウイルス感染症の発生を最小限に止めた。

4. 公益的な取り組みの継続と新たなニーズの開拓

- (ア) 淡路市地域包括支援センター、他法人事業所等と協働して、地域や一般企業に向けて認知症サポーター講座の開催と認知症家族支援として家族会、家族交流会を開催した。
- (イ) 東浦地区の福祉避難所として地区民生委員との防災に向けた机上訓練での協議を行い、地域防災における顔の見える関係性作りを行った。
- (ウ) 聖隷淡路病院との医療福祉連携会議の成果として、11 名の新規利用者の紹介と新たに 7 名の訪問診療と組み合わせた利用者確保ができた。

【数値指標】

	特養入所	短期入所	通所介護		
	従来型	従来型	一般型	総合事業	認知症対応型
利用者定員	54 名	18 名	25 名		12 名
利用者延べ人数	19,229 名	6,012 名	6, 224 名	489 名	2,284 名
一日平均利用者数	52.5 名	16.4 名	20.1 名	1.6 名	7.3 名
稼働率(%)	97.2%	91.6%	86.7%		61.0%
稼働日数(延べ)	366 日	366 日	310 日		312 日
平均介護度	3.90	3.30	2.45	—	3.16
単価(1 人 1 日当り)	12, 641 円	12, 064 円	9, 155 円	5, 508 円	11, 842 円
職員数(常勤換算)	31.5 名	8.2 名	9.0 名		5.6 名
	聖隷在宅介護支援センター淡路				
職員数(常勤換算)	1.2 名				

淡路栄光園

特別養護老人ホーム 淡路栄光園 短期入所生活介護

デイサービスセンター淡路

2023 年度、淡路栄光園は「利用者ケアの質向上」として、食を中心に日常生活動作や口腔状態の改善につながるケア体制の強化に注力した。誤嚥性肺炎予防につながる口腔状態の評価と口腔ケアの実践をはじめ、利用者の楽しみとなるよう「岩屋地域ならではの食事」をテーマにしたイベントも連動した企画が実践できた。昨今のスマートモバイル普及率を考慮し、これらの実践状況や施設のトピックスを、利用者・家族により身近に感じてもらえるよう施設ホームページの情報更新を行った。合わせて施設入所のインターネット申込み受付を開始できたことで波及効果も生まれている。新型コロナウイルス感染症の 5 類移行に合わせ、「家族を迎えての園内行事再開」、「地域のこども園や地元商店への外出行事」を実行できたことは、ここ数年で失われた利用者と家族、利用者と地域のつながりの再生に繋がる第 1 歩になったと実感している。これまでの重要課題であった見守り介護ロボットの設置が 2023 年度末に完了した。介護ロボットの見守り機能を活用した「新しい介護」が実践できるよう現場改革を図ることで、これからも地域に必要とされるサービスを提供し続けたい。

【施設理念】

「家族の心とまなざしでむかえる」

【経営方針】

1. 淡路栄光園の利用者がより快適に、楽しみがもてる施設になる。
2. 淡路栄光園の職員全員が、働きやすく、生き生きと仕事ができる施設になる。
3. 淡路栄光園が今後も安定、継続して利用者サービスができる施設になる。
4. 地域包括ケアシステムの推進とともに、地域の方々に貢献できる施設になる。

【事業・運営計画】

1. 淡路栄光園の利用者が安心して、より快適に暮らせる施設になる。
 - (ア) 利用者一人一人に寄り添った食の安全と充実を目的に、岩屋地域で昔なじみのメニューを味わえる食事イベントを定期開催、地元飲食店への外出が実施できた。
 - (イ) 口腔状態の評価と口腔ケアの実践強化により、通年での誤嚥性肺炎による入院を 1 名に抑えることができた。
 - (ウ) 多職種の協同による排泄支援のプロセスを見直し、排泄支援加算の取得を開始した。
2. 淡路栄光園の職員全員が、働きやすく、生き生きと仕事ができる施設になる。
 - (ア) 職員負担の軽減と利用者の安全安心を目的に、「見守りセンサー、インカム機器の導入」に向けて検討・準備を重ね 2023 年度末に導入に至った。

- (イ) 施設照明の全面 LED 化が完了した。事務費の削減ができていることに加え、明るい環境で気持ちよく仕事をすることで集中力アップ、業務効率アップを実感している。
- (ウ) 職員のキャリアアップを目的に、「認知症実践者・リーダー研修」等の外部研修へ積極的に参加調整した。認知症ケアのスキルアップにつながり利用者へ還元もできている。

3. 淡路栄光園が今後も選ばれ続け、安定、継続して利用者サービスできる施設になる。

- (ア) 施設情報の発信力強化を目的に、ホームページの内容刷新、HitomeQ システムによるインターネット入所申込みを開始した。
- (イ) 近年コロナ禍で実施できていなかった警察職員を招致しての「安全運転講習会」、消防職員を招致しての「防災訓練」を実施した。安全な施設運営に係る内容を職員間で共有できた。
- (ウ) 老朽化した厨房機器の交換、利用者浴室の天井窓修理を実施した。修繕については 中長期で計画し、計画的に実施できるよう調整していく。

4. 地域包括ケアシステムの推進ともに、地域の方々に貢献できる施設になる。

- (ア) デイサービス営業時間内に移動販売を誘致し、買い物困難者への支援を実施した。
- (イ) 岩屋地域のイベント「はぴくる祭り」、聖隷淡路病院「健康フェスタ」に利用者・職員が参加した。今後も地域ケア会議、民生委員協議会等を通じ、地域課題解決に向け関係機関と協働していく。
- (ウ) 兵庫県認定地域サポート型施設の活動として、岩屋地域の高齢者見守り活動を実施した。

【数値指標】

	特養入所	短期入所	地域密着型通所介護	
	従来型		一般	総合事業
利用者定員	60 名	19 名	18 名	
利用者延べ数	21,153 人	6,648 人	3758 人	21,153 人
一日平均利用者数	57.79 人	18.16 人	12.12 人	57.79 人
稼働率	96.3%	95.6%	70.7%	
稼働日数（延べ）	366 日	366 日	310 日	
単価（一人一日当り）	12,267 円	11,933 円	9,910 円	12,267 円
職員数（常勤換算）	40 人	5.6 人	6.8 人	

聖隷ケアセンター津名

聖隷訪問看護ステーション淡路

聖隷ケアプランセンター淡路

聖隷ヘルパーステーション淡路

聖隷ライフサポート津名

2023年度、聖隷ケアセンター津名は事業所間の協働体制を充実させ、医療ニーズへの柔軟な対応・看取り支援・リハビリテーションと協働した重度化予防等、高い地域ニーズに対応した。残念ながら大きな収益増には至らなかったが、居宅介護支援事業所の統合・看護と介護の協働・リハビリに特化した通所介護等、センターの特色を活かした事業体制を整えることができた。今後も地域における在宅サービスの拠点として積極的に活動し、運営改善を図っていく。

【事業・運営計画】

1. 人材育成を強化する

- (ア) 研修計画、定期的な勉強会を予定通り実施した。
- (イ) 職場会議等で利用者に関するケア内容等についての検討を頻回に行った。
- (ウ) 運営会議を毎週行い、職場の課題を早期に解決した。
- (エ) リスク・苦情事例は、課題発見・具体策実施・評価の上、業務改善に繋げた。
- (オ) 医療技術研修等職員のスキルアップを目指した学習のサポートを行った。

2. 協働体制の充実

- (ア) 多職種事例検討会を年6回実施し、共通の利用者支援を振り返った。
- (イ) ウインケア掲示板・デスクネッツ回覧板等で事業所間の情報共有を行った。
- (ウ) 訪問同行記録を活用し、ケアの統一化や振り返りが行えた。
- (エ) ホームヘルパーやケアマネジャーを看取り現場に同行させ支援の理解を図った。
- (オ) デスクワークの省力化に向けた検討や業務改善をスタッフと共に行った。

3. エリア内連携を強化する

- (ア) 聖隷淡路病院との「居宅・医療連絡会」「看護連絡会」を継続的に実施した。
- (イ) 訪問看護のサテライトを聖隷淡路病院内に移転したことで病院との連携が深まった。
- (ウ) 居宅介護支援事業所統合による広域活動で、法人内サービスへの繋がりが充実した。
- (エ) 聖隷淡路病院との人事交流で、地域が求めるサービスへの理解が深まってきている。
- (オ) 利用者や地域から得た悪い知らせは共有し、サービス向上や業務改善に繋げた。

4. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 在宅介護支援センターが行う地域活動に協力
- (イ) 市内の「健康祭り」等にボランティア参加

【数値指標】

訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーション淡路）

医療事業		介護給付		予防給付	
月訪問数	単価	月訪問数	単価	月訪問数	単価
297 件	11,067 円	788 件	8,946 円	56 件	8,941 円
		職員数(常勤換算)		21.2 名	

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター淡路）

月間請求件数		平均単価		訪問調査 月件数	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防		
158 件	44 件	17,235 円	4,795 円	4 件	8.8 名

訪問介護事業（聖隷ヘルパーステーション淡路）

介護給付		予防給付		障害(自立支援)		障害(移動支援)	
月訪問数	単価	月訪問数	単価	月訪問数	単価	月訪問数	単価
858 件	4,203 円	84 件	2,935 円	222 件	4,187 円	8 件	4,220 円
				職員数(常勤換算)		7.3 名	

通所介護事業（聖隷ライフサポート津名）

	介護給付		予防給付	
利用定員	延べ利用者数	5443 名	延べ利用者数	2185 名
25 名	1 日平均数	21.3 名	1 日平均数	8.6 名
営業日数	単価(1 人 1 日)	6,962 円	単価(1 人 1 日)	5,149 円
258 日			職員数(常勤換算)	8.8 名

聖隷こども園夢舞台

淡路島内においては、「特色で園を選ぶ」という概念より、校区内にある園を選ぶという地域特性があるため、「選ばれる園になるためには」という視点ではかなり難易度の高いものであった。その中で、多くの職員がキャリアアップ研修を積極的に受講し、スキルを上げ丁寧な保育を重ねることで、岩屋地区だけではなく東浦地域においても「よい保育をする」という声が多く聴かれるようになった。また、全国保育士会が作成した『人権擁護のためのセルフチェックリスト』を活用し、子どもを尊重する保育を確認、共有しながら保育に望むことができた。

1. 入所状況

4月に新入園児、0歳児3名、1歳児9名、2歳児4名、3歳児9名、4歳児0名、5歳児2名の27名を迎え計121名でスタートをする。

2. 質の高いサービスの提供

(ア) 保育内容

①インクルーシブ保育

発達が気になる児、療育手帳の有無、重篤なアレルギーの有無に関わらず、どんな背景をもった子どもたちも受け入れ「違い」を排除することなく共に育つ環境を提供することができた。子どもたちを「違い」が当たり前である環境に身を置くことで相手を思いやることや、相手の考え方を尊重するなど、経営方針の中にもある「お互いが大切な存在である」ということを自然と学んでいくことができた。

②資質の向上

処遇改善に関係なく、若手職員はキャリアアップ研修に積極的に参加した。

また、保育学会では研修を生かしスキルアップした細やかな保育を発表することができた。

(イ) 地域における公益的な取組

①次世代育成への貢献

積極的に近隣の中学生6名を中学生体験活動週間「トライやる・ウィーク」として受け入れた。また、高校生2名の職場体験を受け入れ、こども園を知ってもらうことができたことで、保育士になりたいという夢を抱く学生が数名いた。

②一時預かり

新規登録5名、年間のべ利用人数56名

10月にはイギリスから帰国した児、2、3月には他市より祖父母宅から登園している児を、家庭の事情に合わせ可能な限り保育希望を受け入れた。

③病後児保育

登録児童数(在園児13名 他園児・小学生34名 新規登録者10名)、受け入れ実績7名。市内の子育てセンターに毎月「ほけんだより」に、病後児保育についてのお知らせを掲載し配布している。

④子育て支援

職員が資格を取ったベビーヨガやバルーンアートなど新しいイベントを取り入れた。また、無償で行った給食試食会では入園説明会以前に行うことで、イメージしてもらいやすくなり評価も高かった。

⑤小中学校との連携

就学前の引継ぎを3校それぞれに行うことでスムーズに移行できるように行った。小学校での個別ケース会議に出席したり、園の保育参加に小学校教諭が参加したり卒園してからも子どもたちの個々の成長を共有した。

(ウ) 安定した運営

- ①仕事の生産性を高めるため連休5日間を推奨したことで、情緒の安定を図ることができた。今年度、取得できなかった職員も、いつかは取得できる日がくるのではとモチベーションがあがるとの意見がでた。

【数値実績】

①歳児別入所児童数(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	3	3	4	5	6	7	7	7	7	7	7	7	70	5.8
1歳児	14	14	14	14	14	13	13	14	14	14	14	14	166	13.8
2歳児	14	15	14	14	14	14	14	14	14	15	15	15	172	14.3
3歳児	32	32	32	32	32	31	31	31	31	31	31	31	377	31.4
4歳児	18	19	19	19	19	19	19	20	20	20	20	20	232	19.3
5歳児	40	40	40	40	40	40	40	41	41	41	41	41	485	40.6
合計	121	123	123	124	125	124	124	127	127	128	128	128	1502	125.1

②保育日数及び出席状況(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
延人数	1944	2079	2202	2055	2035	2099	2350	2216	2123	2008	2167	2141	25419
保育日	24	24	26	25	26	24	22	24	25	21	24	25	290
日平均	81	86.6	84	82.2	78.2	87.4	106.8	92.3	84.9	95.6	90.2	85.6	87.6
一時預り	7	4	6	7	11	9	21	20	23	20	29	25	182
一号預り	1	3	3	0	1	0	8	3	1	2	13	21	56
延長保育	132	140	166	158	143	127	124	113	130	129	134	128	1624
病後児保育	0	1	3	0	0	2	0	1	0	0	0	0	7

③職員の状況(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育教諭(正/限)	18	18	18	18	18	18	18	19	20	19	19	19
保育教諭(パ)	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
保育士(バ)	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
保育職	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育補助	3	3	3	3	2	3	2	1	1	1	1	1
看護師	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員(バ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計	32	32	32	32	31	32	31	30	30	30	30	30

奄美佳南園

特別養護老人ホーム奄美佳南園・デイサービス・ホームヘルプ事業所

・訪問入浴事業所・在宅介護支援センター・春日デイサービス

・聖隷チャレンジ工房カナン

2023 年度は新型コロナウイルス感染症の位置づけが変更し、これまでの日常生活へと移行する中、奄美大島内では年間通じて多くの島民が感染症に罹患された。さらに自然災害等によるフェリー運航が停止し、食糧品を含む物資の運輸が 2 週間滞るなど、島内の日常生活が厳しい条件のもとにおいても地域の高齢者や障害者へのサービス提供の継続、地域共生社会の実現に向け事業継続ができたことは、職員一人ひとりの努力の賜物である。

また、サービスの質の維持・向上・負担軽減のために導入した ICT 記録システムや特殊シャワー浴を活用によるこれまで継続した業務を改善し、OJT・OFF-JT 研修・勉強会を実施し、人材確保が厳しい中、介護サービスの質の維持・向上しながら職員育成や加算取得に努めた。

【事業実績】

1. 利用者の満足向上の取り組みとして

- (ア) 感染症と自然災害が続けて発生し、職員の勤務に影響が生じ、感染対策の徹底をするとともに BCP 計画の発動、計画に沿った職員応援対応を実施し、介護・障害福祉・地域福祉サービスを途切れることがないように努めた。
- (イ) 施設内において感染症が発生し、奄美内における感染対策物資が不足する中、法人内の他施設から物資等を配送し、感染対策・サービスの実施に努めた。
- (ウ) 感染症による制限が多い中、他職種が共同して利用者や家族の思いの実現に向け柔軟なサービスを実施するとともに、面会方法をパーテーション越しの面会方法から、居室内での直接面会に変更した。
- (エ) 見守り機器を導入し、安全なサービスの提供に向けた環境を整備した。
- (オ) 医療的行為が必要とする入所者への対応として、認定特定行為業務従事認定者 3 名増員し、夜間帯においても喀痰吸引等への体制整備を強化した。
- (カ) 外部講師による権利擁護研修を開催し、利用者個々がその人らしく過ごすことができるよう、適切なケアの実践に努めた。
- (キ) 聖隷チャレンジ工房カナンにおいて、珈琲ドリュップパック詰めやたんかんのドライフルーツづくりを実施し、新たな訓練業務を開始し、利用者の平均工賃向上（約 2,000 円）へとつながり利用者のやりがいに努めた。

2. 新たな働き方・やりがいの創造

- (ア) 介護や障害福祉サービスの記録業務において、これまでの記録業務から ICT 機器を活用した記録システム（HIMVIT、ケアカルテ）を導入・活用し、適宜記録や確認が可能となり、バイタルサインチェックにおいても Bluetooth 機能機器を活用し、記録時間の短縮や業務の負担軽減につながり、職員の超過勤務を短縮する結果へとつながった。

- (イ) 介護サポート職員の継続雇用や業務仕分けを継続し、介護現場の業務省力化に努めた。
- (ウ) 職員の基本的技術の確認や知識向上を目的としたイーラーニング研修を継続実施し、専門性の向上に努めた。
- (オ) 資格取得や研修に関する情報提供を実施し、資格取得支援の結果、介護福祉士 2 人・社会福祉士 1 人の合格者を排出することができた。
- (カ) ケア記録システム、介護ロボット・ICT 見守り機器、インカムシステム、移動・移乗用機器を実装し、専門職が専門職としての業務に注力できる環境を整備した。

3. 事業の運営の安定化の推進として

- (ア) 2 か所のデイサービス事業を利用者数の減少、職員採用不足の実態を踏まえ事業を一本化（サテライト化）した。
- (イ) 看護職員不足に対応するため、職員を入所・通所・訪問入浴と兼務し、地域福祉の継続実施に努めた。
- (ウ) 感染症の影響による入院者増や新規入居の滞りに対応する短期入所生活介護での活用を促進するとともに、積極的に取得可能な加算取得（科学的推進体制、褥瘡マネジメント、排せつ支援）に努めた。
- (エ) 聖隷チャレンジ工房カナンにおいて、利用者に基本的な生活習慣や労働習慣を身に着けることができるよう個別支援を行い、安定した利用につながった。
- (オ) 各種物価が高騰する中において、光熱水費消耗品を節約し、費用抑制に努めた。

4. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 介護者勉強会、認知症高齢者の徘徊等を想定した行方不明搜索訓練を地域住民と実施し、福祉拠点施設の機能を周知することができた。
- (イ) 新型コロナウイルス感染症区分 5 類移行後に地域の活性化に向けた行事（新川ふれあいまつり、秋祭り、子ども食堂等）の運営実施に職員が参画し、地域行事の開催へ職員派遣・備品等の貸し出し等に協力した。
- (ウ) 地域内の職員採用が厳しい状況において、地域の関係機関等と連携し「福祉・介護のお仕事ガイダンス」や「高校生向け企業説明会」を開催した。
- (エ) 鹿児島県 DWAT メンバーへの登録を実施し、出動要請に応じたメンバー調整に参画した。

【数値指標】

	特養		短期入所		奄美佳南園デイサービス		
	従来型	ユニット	介護	障害	介護	予防	障害
利用者定員	50 名	30 名	10 名		18 名		
利用者延べ数	16,006 名	10,673 名	3,965 名	84 名	2,334 名	345 名	564 名
稼働延日数	366 日	366 日	366 日	366 日	291 日	291 日	291 日
一日平均利用者数	43.73 名	29.16 名	10.83 名	0.23 名	8.02 名	1.19 名	1.94 名
稼働率	87.46%	97.20%	108.33%	2.30%	44.56%	6.59%	10.77%
単価（1人1日当り）	11,395 円	15,254 円	13,917 円	11,446 円	11,303 円	5,484 円	8,064 円
職員数（常勤換算）	31.2 名	20.6 名	6.2 名		7.3 名		
	春日デイサービス		訪問入浴介護		ホームヘルプ		
	介護	予防	介護	障害	介護	障害	
利用者定員	18 名		—	—	—	—	—
利用者延べ数	2,180 名	1,814 名	414 名	133 名	3,907 名	1,075 名	
稼働延日数	295 日	295 日	244 日	244 日	363 日	363 日	
一日平均利用者数	7.39 名	6.15 名	1.70 名	0.55 名	10.76 名	2.96 名	
稼働率	41.05%	34.16%	—	—	—	—	—
単価（1人1日当り）	10,411 円	4,808 円	16,320 円	12,603 円	4,639 円	4,014 円	
職員数（常勤換算）	5.1 名		2.1 名		5.5 名		
	ケアプラン		就労支援		在宅介護	一時生活	合計
	介護	予防	移行支援	継続 B	支援	支援	
利用者定員	—	—	6 名	14 名	—	—	
利用者延べ数	680 名	103 名	1,123 名	4,022 名	1,546 名	15 名	50,983 名
稼働延日数	232 日	232 日	307 日	307 日	237 日	366 日	—
一日平均利用者数	2.93 名	0.44 名	3.66 名	13.10 名	6.52 名	0.04 名	—
稼働率	—	—	60.97%	93.58%	—	—	—
単価（1人1日当り）	13,685 円	4,134 円	6,662 円	8,484 円	—	5,500 円	—
職員数（常勤換算）	2.0 名		7.4 名		1.5 名	—	88.9 名

春日保育園

近年、育児休業を1年以上取得する家庭が増加傾向にある中、2023年度は4月時点の乳児利用希望が少ないスタートとなる。クラス運営の様子を見ながら新規受け入れを計画的にすすめてきたが、想定外の退園も重なり、運営としては非常に厳しい年となった。また、新型コロナウイルス感染症区分が5類になり少しずつ元の生活に戻りつつある中、子どもの安心・安全が何より優先される保育現場であることを改めて保護者に発信し理解、協力を得ながら、一人ひとりを大切にする丁寧な保育、保護者支援に努めた。さらには、数年ぶりとなる近隣自治会との交流も再開でき地域連携を図ることが出来た。また、保育室・2階廊下床張り替え工事や設備修繕等の対応など環境整備を実施した。一方、保育士不足の深刻化する中、保護者の力を借りながら、子どもたちと一緒に行事等を楽しむ機会が増え開催に繋がったことに感謝する。今後も保護者と一体となり未来を担う子どもたちの健全なる育成に職員一同努める。

1. 保育園の機能強化と専門性の向上

- (ア) 個別目標を掲げ、成長発達に合わせながら子どもたちの心に寄り添うことで、何を伝えたいのか、何に興味を持っているのか、心に寄り添ってもらった経験を重ね安心して過ごすと共に好きな遊びを自ら選択できる環境作りに努めた。
- (イ) ランニングバイクやボルダリング体験、菜園作り等を通して、収穫する喜び、子どもたちの身体づくりに努め、出来る事が増えた事で自信や意欲へとつながる姿が見られた。
- (ウ) キャリアアップ研修受講（各1科目5名取得）後、職員自らが現場で実践に活かすことが出来た。
- (エ) 記録や会議の在り方など検討を重ねながら整備中である。引き続き職員同士のコミュニケーションを図り、保育や業務の在り方等考えていく。

2. 統合保育の実施と専門機関との連携

- (ア) 地域の児童発達支援事業所を利用する子どもたち（13名）を積極的に受け入れると同時に、個別支援計画を立案し保育を実践した。職員配置により加算が取得できた。
- (イ) 親子教室を定期的に開催し、親子の時間を大切にしながら保護者同士のつながりを深めることが出来た。また計画立案、進行など職員のスキルアップにつながる。
- (ウ) 他事業所との連携を積極的に行い、併行通園児の情報共有に努め、職員一体となり支援を行った。
- (エ) 奄美市保健師やのぞみ園との連携により、療育の必要な園児4名を2024年度利用へつなぐことが出来た。

3. 地域における公益的な取組

- (ア) 中高生の職場体験（5校14名）やボランティア（2名）を受け入れ、次世代育成へつなげるとともに保育の魅力を発信することに努めた。
- (イ) 地域自治会開催の夏祭りや敬老会へ参加し交流を図ることができた。

【経営実績】

① 歳児別入所保育児童数（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳	4	5	5	5	6	7	8	8	8	10	10	10	86	7.2
1歳	18	20	20	20	20	20	20	22	22	22	22	22	248	20.6
2歳	19	19	18	19	19	20	20	20	20	19	19	19	231	19.3
3歳	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	25	289	24
4歳	16	16	16	16	16	15	14	14	14	13	13	13	176	14.6
5歳	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	360	30
計	111	114	113	114	115	116	116	118	118	118	118	119	1390	115.8

② 保育日数及び出席状況（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ数	1932	2176	2211	2181	1652	2024	2314	2291	2239	1694	2035	2303
保育日数	22	24	25	25	23	24	25	24	24	23	23	25
一日平均	87.8	90.6	88.4	87.2	71.8	84.3	92.5	95.4	93.3	73.6	88.5	92.1

③ 職員の状況（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
園長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正.パ)	16	16	16.8	16.8	16.8	16.8	17.4	17.4	17.4	17.4	17.4	17.4
栄養士(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理員(パ)	2.7	2.7	2.7	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	2.7	2.7	2.7	2.7
看護師(パ)	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4
保育補助(パ)	2.2	2.2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計(換算数)	24.3	24.3	23.9	24.3	24.3	24.3	24.3	24.9	24.5	24.5	24.5	24.5

のぞみ園

児童発達支援センター

放課後等デイサービス

特定相談支援

2023年度はコロナ禍を乗り越え様々な制約が解消された年でもあるが、担い手不足の課題は大きく、子ども達の受入体制を見直しながら事業経営に取り組んだ1年であった。

その中、親子のサポート体制の充実と職員の学ぶ機会作りを目的に臨床心理士、大学の助教授との新たな連携体制の構築、業務効率化と生産性向上を目的にしたICT請求記録システムの導入に取り組むことが出来た。この取り組みは、事業所の機能強化につながっただけでなく、職員の働き方の見直しやモチベーション維持、定着促進にもつながった。

2024年度は、職員一人ひとりのエンパワメント向上と次世代リーダー育成を念頭に、実務経験を積んだ職員を地域支援へ積極的に派遣し、これまで以上に地域課題の解決に様々な職員が関与する体制作りを押し進めていく。この取り組みを通して、児童発達支援センターとしての機能強化と奄美ブロック子ども支援体制の更なる強化を図り、地域における聖隷の事業価値を更に高めていきたい。

【施設理念】

「今の時を喜びと感謝を持って生きる」

～子どもたち一人ひとりの育ちと保護者の願いに寄り添う支援～

【経営方針】

1. ライフステージに応じた継続性のある支援体制の構築と経営の安定化
2. 働きやすい職場環境作りと積極的な人材育成への取り組み
3. 地域共生社会の実現に向けた取り組みと公益的な取り組み

【事業・運営計画】

1. ライフステージに応じた継続性のある支援体制の構築と経営の安定化
 - ア) 日々の実践の振り返りや事例検討会、春日保育園との情報交換会を通して、子どもの発達課題と支援方法について理解を深め、発達特性に沿った支援をチームで実践できる体制作りに取り組むことができた。
(鹿児島大学助教授との事例検討会：年2回・自立支援協議会子ども部会での事例検討会：年6回・春日保育園との並行通園児情報交換会：年3回)
 - イ) 臨床心理士と委託契約を結び、学童期の発達相談や就学前児に対する発達検査を実施し、子どもの発達特性を保護者や支援者に理解してもらう取り組みを実施することができた。
(26名実施)
 - ウ) 鹿児島大学の助教授と連携して保護者向け勉強会（年2回：未就学期と学童期）を開催し、保護者の学びと交流する機会作りを実施することができた。
 - エ) 地域のインクルージョン推進を目的にした取り組みを、年間を通して実施することができ

た。(自立支援協議会子ども部会運営委員・教育支援委員・第7期障害福祉計画策定委員・奄美市親子教室職員派遣：年33回・乳幼児発育発達クリニック職員派遣：年4回・療育等支援事業施設支援講師派遣：年5回・関係機関視察研修受入：5施設)

オ) 見学や実習、職場体験を積極的に受入れ、次世代の福祉・保育人材の育成に協力することができた。(職場体験：2校、福祉・保育実習：4校)

カ) 感染症や並行通園先の行事再開などで稼働に影響を受けたが、待機児童の受入れ調整と、優先順位を付けた支出調整を行うことで安定した経営状態を維持することができた。

2. 働きやすい職場環境作りと積極的な人材育成への取り組み

ア) 資格取得研修の受講を積極的に推進し、専門性の向上と加算取得や事業に必須の資格取得支援を計画的に進めることができた。(主任相談支援専門員取得：1名・児童発達管理責任者取得：2名・強度行動障害支援者：3名・医療的ケア児コーディネーター：1名)

イ) 障害福祉サービス請求記録システムの導入とWi-Fi環境、タブレット端末の整備により、施設内外どこにいても効率的に記録が行える環境整備に取り組むことができた。

ウ) 働きやすい職場作りを目標に掲げ、職員が自身や家庭のことで必要な休みを調整しやすい職場風土づくり(有給消化率：67% 平均有給消化日数：16.05日)と職員交流(船漕ぎ大会出場・バレーボール大会C級優勝・職員家族交流会開催等)を実践した。

3. 地域共生社会の実現に向けた取り組みと公益的な取り組み

ア) 公益的取組みとして地域向け親子教室を無料で開催し、地域の子育て支援や保護者の「気づき」へのアプローチを実践した。(参加者延数：61名 内療育へのつながり：8名)

イ) 保護者会と合同で、有事に備える「ローリングストック」や住んでいる地域の防災環境などを学ぶ研修会を開催した。

【数値目標】

	児童発達支援	保育所等 訪問支援	放課後等 デイサービス	相談支援	障害児 相談支援
利用者定員	25名		20名		
利用者延べ人数	6,003名	23名	3,884名	20名	489名
一日平均利用者	24.9名		16.3名		
稼働率	99.6%		81.5%		
稼働日数(延べ)	241日		238日		
単価(一人1日当たり)	15,272円	14,782円	8,117円	21,200円	21,820円
職員数	17.6名	0.5名	7.2名	3.2名	

聖隷かがやき

児童発達支援センター
(児童発達支援・保育所等訪問支援・障害児相談支援)
放課後等デイサービス
特定相談支援

これまで積み重ねてきた「個別・集団」の支援や地域の保育所等へ提供する「親子遊びを通しての支援」が「困り感」を持った子ども、保護者の療育への理解促進に大きくつながり、今後地域に必要とされる施設としての位置付けが定着した。しかし北大島において、2つの地域をエリアとすることに感染症対策としての厳しさがあり、コロナ禍前の社会生活の日常が戻っても「自施設から感染症を広げない」ことを念頭に、職員一丸となって「安心、安全」に利用することを徹底した一年だった。

また、支援の向上として外部委託での心理士との取り組みやリモート研修の受講等により、支援者としてだけでなく、利用される保護者側の視点など、幅広い見識から学びを深められたことは、一人ひとりに寄り添った支援の大事さ、家族、地域の支援と職員が支援の質を高めることに繋がった。今後も利用者が満足できる支援を目指して施設としての価値を高めていきたい。

1. 療育施設としての機能の強化と経営の安定化

(ア) 子ども支援

- ①定期的な未就学児の「親子通園」、学童児の親子交流としての活動を行い、親子の触れ合いの時間を取り入れ、家庭、地域でも安心して過ごせる関係づくりの支援を努めた。
- ②丁寧な個別支援計画の説明を通じ、家族も同じ視点で働きかける事に努め、家庭の中でもスモールステップで出来ている事で家族が自信を持って関われるようになり、子どもの成長につながった。
- ③未就学から学童期への移行時のアセスメントを職員の連携した取り組みを行う事で、環境変化に児童、保護者と大きな不安なく移行ができた。

(イ) 家族支援

- ①ペアレントプログラムに6名の保護者が参加。保護者同士の横のつながり、子どもの理解に結びついた。
- ②保護者会主催の勉強会では心理士による研修、懇談会と保護者間同士の学び、悩みの共有ができ保護者の孤立感解消へとつながった。

(ウ) 地域支援

- ①公開療育、施設見学会では地域の感染症がまん延し、参加できる保育所、関係機関が限られた中であつたが「早期療育」の必要さの理解へとなり地域の支援者との顔の見える関係性ができた。
- ②県通連協議会との共同でリモートでの研修、勉強会へ地域の事業所、保育所への呼びか

けるものの、日程、時間帯の難しさなど課題が残った。

(エ) 経営の安定化

①早期療育の理解により低年齢児新規が増加した。

②健診後のフォロー体制が構築され、新規受け入れにつながってきた。

2. 働きやすい職場環境作りと人材育成への取り組み

(ア) 記録システムを活用し職員同士協力することで業務の効率化 UP へとできた。

(イ) リモートによる現任講習受講や資格取得に向けた取り組みができた。

3. 地域における公益的な取り組み

(ア) 地域の子育て支援として、親子遊びを自施設で9回提供した。

(イ) 隣接する地域の企業との災害時協定を結び協力体制を構築した。

(ウ) 専門学校1名、保健師養成2名、大学院生1名の実習、中学生の福祉体験を受け入れ、次世代の育成に寄与した。

【数値実績】

	児童発達 支援	保育所等 訪問支援	放課後等 デイサービス	障害児 相談支援	特定 相談支援
利 用 者 定 員	20 名		10 名		
利 用 者 延 べ 数	3,658 名	26 名	2,450 名	200 名	139 名
稼 働 延 日 数	244 日	244 日	245 日	244 日	244 日
一 日 平 均 利 用 者 数	15.0 名		10.0 名		
稼 働 率	75.0%		100%		
単価(1人1日当り)※	14,751 円	14,308 円	10,519 円	17,290 円	16,028 円
職員数(常勤換算)	8.3 名	0.2 名	5.4 名	0.9 名	0.3 名

※障害児相談支援、特定相談の単価は1人1月当り

聖隷こども園わかば

2023年度は乳児、幼児合わせて183名の園児を受け入れることができた。職員の急な退職等もあり、0歳児は定員24名までの受け入れを予定していたが、実際には20名となった。一時預かりについては、希望の多い乳児や長期休み中の幼稚園児等の受け入れを積極的に行なっていた。今後、確実に進む少子化に向けて、地域の枠にとられず、多様化する保護者のニーズに応えていく必要がある。2024年度より1号認定の定員数を増員し、積極的に園見学を受け、様々なニーズに対応していく。また、地域に信頼され、選ばれる園となる為にも子どもの育ちを継続させた保育を提供することができるよう今まで以上に保育の質の向上に力を入れていく。

保育支援システム（コドモン）が本稼働し、保育ドキュメンテーション等を通して子どもたちの様子や成長発達等を可視化して伝えることで保護者との共有、更なる対話のきっかけにつながっていた。今後も子どもたちの最善の利益を考え、子どもたちに対してより質の高い教育・保育の提供ができるよう、職員一人ひとりが専門職としての意識を持ち、保育実践にあたる。そして、職員にとって働きやすい職場環境の構築のために尽力していく。

【入所状況】

年間平均入所率は90.4%

途中入所は0歳児15名 2歳児1名 3歳児1名 転居により3名途中退園

【重点目標及び重点施策への取り組み】

1. より質の高い教育・保育を実践する

- (ア) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領、キリスト教保育指針に基づき、園児の発達の連続性を考慮して全体的な計画を作成し、年齢毎の計画を立てていった。今後の保育に生かすために子どもたちの発達に応じ、対応をしていく必要がある。
- (イ) ピアジェの構成論に基づいた保育実践の学びを深めていくことまでは十分ではなかった。子どもたち一人ひとりをよく理解し、保育者同士が語り合いながら保育の楽しさや面白さが実感できる機会を増やすためにも、日々の振り返りを丁寧にすることを意識した。皆で協力して共有の時間を有効活用できた。

2. 保育職としての専門性を高める

- (ア) 園内研修では保育の実践につながる内容を多く取り入れ、充実をはかり、職員一人ひとりが園の理念・目標を理解し、教育・保育の実践ができた。
- (イ) 保育職ラダーと自己評価の取り組みを通して、職員が自己の課題と役割を明確にし、業務に取り組むことで資質向上につながった。
- (ウ) 職員一人ひとりの専門性向上のため、外部研修等に積極的に参加できるような働きかけをしたが、多くの参加には至らなかった。
- (エ) 保育支援システム（コドモン）での記録や保育ドキュメンテーションの作成等を通して、職員一人ひとりが子どもの面白さ、保育の面白さを実感できるようになった。ドキュメンテーションの作成についてのスキルアップの為の勉強会等を今後行なっていきたい。

3. 様々な視点から保育環境の充実を図る

(ア) 食育では、日々の食事体験を大切にするとともに、管理栄養士を軸に子ども・保護者に向けた食への意欲・関心を育てていく取り組みを継続的に行った。また、厨房職員と保育者が一緒に「絵本献立」「全国の料理」の紹介を進め、保護者も一緒に給食（食事）への興味がさらに深まった。

(イ) 子育て支援ひろばでは、年間を通して多くの子育て親子が参加した。土曜日に講座を行い、託児もしたことで両親そろって参加をされる家庭が見られた。また、常設のひろば・妊婦支援・孫支援・発達に不安のある子どもへの支援、週1日は地域に出向いた出張ひろば等も行い、特に、相談事業に力を注いだ。

4. 地域における公益的な取り組み

(ア) 新型コロナウイルス感染症が5類となり、近隣施設との交流が積極的にできた。労作の学生や中高生の職場体験で多くの学生を受け入れることができた。支援ひろばでは、園庭の開放、出張ひろばでは近隣に住む利用者の利用・相談が多かった。

【数値実績】

① 歳児別入所児童数（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	5	6	8	10	12	15	17	18	18	18	19	20	166	13.8
1歳児	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	360	30.0
2歳児	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	408	34.0
3歳児	33	33	33	33	33	32	32	32	32	31	32	32	388	32.3
4歳児	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	420	35.0
5歳児	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	384	32.0
合計	169	170	172	174	176	178	180	181	181	180	182	183	2126	177.1

② 保育日数及び出席状況（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数	3037	2943	3215	3131	2796	3174	3533	3126	3273	2749	3319	3277	37573	3131
保育日数	24	24	26	25	26	24	25	25	24	23	23	25	294	24.5
1日平均	127	123	124	125	108	132	141	125	136	120	144	131	1536	128.0
一時預かり	1	12	13	12	15	16	11	9	10	14	23	21	157	13.1
病後児保育	5	10	8	17	10	2	3	1	8	2	8	25	99	8.3
延長保育	22	14	20	28	56	47	55	58	61	47	73	106	587	48.9

③ 職員の状況（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育教諭(正)	23	23	23	23	23	23	23	23	23	22	22	22
保育教諭(パ)	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13
看護師(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理師(パ)	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
管理栄養士(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
用務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士助手(パ)	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
計	49	49	49	49	49	49	49	49	49	48	48	48

聖隷こども園桜ヶ丘

2023 年度は、乳児・幼児で 165 名の園児を受け入れ年間を通して安定した利用者の確保ができた。今後も、園見学の問い合わせに真摯に対応し、聖隷のこども園・保育園の理念を柱とした保育内容を保護者に伝え入園につなげていく。

保育内容では、0 歳児クラスは、ゆるやかな担当制保育を取り入れ、一人ひとりの子どもをより深く理解して継続的に援助をしていくことにより、丁寧な保育の実践ができた。1、2 歳児クラスは、子どもの興味や関心が広がるコーナー遊びを設置してことにより子どもが遊びを選んで遊びだす姿がみられるようになった。また子どもの成長と共にコーナー遊びの見直しを行い改善していった。幼児クラスは、ホールを活用しランチタイムを導入したことにより、子どもが時間を意識し自分で考え選択し見通しをもって過ごせるようになってきた。引き続き、定期的に振り返りを行い保育の質の向上に繋げていく。

【入所状況】

4 月の新入園児 24 名、年度途中入所は 0 歳児 13 名、1 歳 4 名、2 歳児 2 名の計 19 名であった。また、転居等家庭の都合で 6 名の途中退園があった。年間平均入所率は 88.3%であった。

【事業目標及び重点施策への取り組み】

1. 教育・保育の質の向上

- (ア) 子どもの最善の利益を考え、施設理念や保育目標を理解し「一人ひとりを大切にする教育・保育」を実践した。
- (イ) 全体的な計画、教育課程、キリスト教保育指針に基づき「子ども主体の保育」を実践した。
- (ウ) 浜松市の「保育所等巡回支援事業」を継続利用し、個別配慮の必要な子の関わり方や専門知識を学び、保護者と共有した。また、障害のある園児の並行通園施設や地域の保健師と連携を図り、きめ細やかな保育を行った。
- (エ) 0 歳児クラスで「ゆるやかな育児担当制保育」を取り入れたことで、子どもの生活の流れが安定した。また、保育者が子ども一人ひとりを十分に理解することで遊びも広がった。
- (オ) 月 1 回の体操教室の指導を基に運動遊びを保育に取り入れ、子どもたちの体幹を鍛え運動遊びの意欲を育てた。

2. 保育職としての専門性の向上

- (ア) 保育の質の向上を目指して、園内勉強会を定期的に行った。また、積極的に WEB 研修やキャリアアップ研修を受講することで教育・保育の専門性を身につけることができた。
- (イ) 講師を招きピアジェの構成論に基づいた勉強会を行い、職員が乳幼児の知的発達を理解し、環境構成を変えたことにより子どもが主体的に遊びを展開するようになった。

3. 職員の働きやすい環境づくり

- (ア) 保育支援システム「コドモン」の有効な運用方法等について園内やエリア内で検討し、職員の記録業務の効率化を図った。

4. 子育て支援と地域における公益的な取り組み

(ア) 中高校生の職場体験や実習生の受け入れを行い次世代育成に貢献した。

(イ) 親子ひろばの園庭開放や企画を通して、地域の子育て家庭の支援する場を提供した。

(ウ) 都田南小学校の1年生と5歳児の交流を通し、授業参観や学校探検を行うことで就学に対する期待感が持てた。

【数値指標】

①歳児別入所保育児童数（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
0歳児	6	7	7	8	10	12	15	16	18	19	19	19	156	13.0
1歳児	28	29	30	29	29	30	30	30	30	30	30	30	355	29.6
2歳児	25	25	24	24	25	26	26	26	26	26	26	26	305	25.4
3歳児	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	396	33.0
4歳児	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	28	28	346	28.8
5歳児	30	30	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	350	29.2
計	151	153	152	152	155	159	162	163	165	166	165	165	1908	159.0

②保育日数及び出席状況（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
延べ人数(名)	2612	2643	2803	2723	2313	2871	3122	2775	2917	2673	2836	2846	33134	2761
保育日数(日)	24	24	26	25	26	24	25	24	24	23	23	25	293	24
一日平均(名)	108	110	107	108	89	119	124	115	121	116	123	113	1353	113
一時預かり(名)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0.08
延長保育(名)	62	59	65	57	30	59	69	61	60	61	66	60	709	59

③職員の状況(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育教諭(正)	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
保育教諭(パ)	13	13	13	13	12	12	12	12	12	12	12	12
看護師(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理員(パ)	6	6	6	6	6	6	6	5	5	4	4	4
管理栄養士(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
その他(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育助手(パ)	0	0	0	1	1	1	1	1	1	2	2	2
計	40	40	40	41	40	40	40	39	39	39	39	39

聖隷こども園ひかりの子

2023年4月にこども家庭庁が創設された。育成・支援の一元化をどのように理解していくかが今後も課題となる。改めて聖隷の理念に立ち返り、自分たちにできることに取り組みたい。

2023年度は、職員の働きやすさを追求するために、パソコンやタブレット端末などの整備をした。その結果、保育に向き合う時間を新たに見い出すことができ、職員同士の話し合いの時間の確保にも繋がった。そして、子ども一人ひとりが大切にされ、子どもの主体性を大事にする保育を目指し、グループワークや学習会を通して保育室の環境を見直すことができた。また、行事の開催を通して、保護者や地域の方との関わりを持つ機会が増えたことによって、自分たちの役割を改めて認識することができた。今後も地域に開かれ、信頼される園となるために、双方の顔が見える形での関わりを大切にしていきたい。

【入所状況】

年間平均入所率は91.5%。

途中入園のうち、在園児の下の子の入園が多かった。途中退園がいたが臨機応変に対応することで不足を補うことができた。また1号認定での途中入園を積極的に受け入れた。

【重点目標及び重点施策への取り組み】

1. 教育・保育の質の向上

- (ア) 教育・保育理念に基づき事例検討会を開催し、職員同士が意見を交わし合い理解を深めた。
- (イ) 子どもの非認知能力を培うための学びを深め、保育の形態を工夫することで、日々の生活や遊びの中で子ども自身が考える経験ができるようにした。
- (ウ) 「子ども主体の保育」を実現するために、会議にグループワークを取り入れ、子どもを多角的に観る力を養った。
- (エ) 保護者参加の園行事の在り方を見直し、園の教育・保育の意図やねらいが具体的に伝わるよう配慮した。また、日々の園児の様子を写真で配信する等可視化をすることで保護者との相互理解を図った。
- (オ) 各種自己評価等のチェックリストを基に子どもの最善の利益について確認しあい、職員が共有して保育実践ができるよう工夫した。

2. 教育・保育の専門性の向上及び働きやすい職場環境の整備

- (ア) 保育職ラダーや各種チェックリスト等を通じて、それぞれの課題を明確にし、経験年数に応じたキャリアアップ研修等に参加した。
- (イ) 職階・職務内容・役割に応じて業務の棲み分けを明確にし、組織的に役割を担える取り組みを実施した。しかしながら一部の職員に業務が集中する傾向もあり、職員育成のための支援等、組織として継続して取り組む必要性を感じた。

3. 地域・他機関との連携

- (ア) 感染状況により、園児と地域との直接的な関わりはできなかったが、学童保育事業等を通して近隣小学校と連絡を取り合うことができ、小学校との関係構築に繋がった。

4. 安全・危機管理に対する取り組み

(ア) 職員がリスク管理の重要性を理解するため、園内研修を実施した。同時に有事の際の連携体制の整理を行い、共有した。

5. 地域における公益的な取り組み

(ア) 親子ひろばでは、温かな雰囲気と対応を心がけ、職員や親同士が顔見知りとなり継続的に子育ての悩みや楽しさを共有できる場となった。

(イ) 感染対策を図りつつ、ボランティアや実習生の受け入れを行った。

【数値指標】

① 歳児別入所保育児童数(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0 歳児	9	10	12	12	16	16	17	17	19	21	22	23	194	16.2
1 歳児	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	420	35.0
2 歳児	36	36	36	36	36	36	37	37	37	37	37	35	436	36.3
3 歳児	40	40	40	40	39	39	39	39	39	39	39	39	472	39.3
4 歳児	41	41	40	40	40	40	40	40	40	41	41	41	485	40.4
5 歳児	39	39	39	39	40	40	40	40	40	40	40	40	476	39.7
計	200	201	202	202	206	206	208	208	210	213	214	213	2483	206.9

② 保育日数及び延べ出席(利用)状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数(名)	3516	3536	3950	3857	3224	3726	3985	3882	3845	3474	3712	3646	44353	3696.1
保育日数(日)	24	24	26	25	26	23	25	24	24	23	23	25	292	24.3
一日平均(名)	146	147	151	154	124	162	159	161	160	151	161	145	1821	151.8
一時預かり(名)	0	1	0	12	11	6	12	6	13	7	6	4	78	6.5
延長保育(名)	71	90	103	108	87	106	130	169	136	122	126	139	1387	115.6
学童保育(名)	343	303	316	332	344	263	279	244	248	205	239	184	3300	275.0
親子ひろば(名)	16	17	22	32	23	20	24	29	8	24	18	18	251	20.9

③ 職員の状況(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育教諭(正)	22	21	21	21	21	21	20	20	20	20	20	20
保育教諭(パ)	21	21	21	21	21	21	22	22	23	23	23	23
調理師(正・パ)	1・5	1・6	1・6	1・6	1・6	1・6	1・6	1・6	1・6	1・6	1・6	1・6
看護師(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
用務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育補助・アルバイト	2・1	2・1	2・1	3・1	3・1	3・1	3・1	3・1	3・1	3・1	3・1	3・0
計	56	56	56	57	57	57	57	57	58	58	58	57

聖隷こども園めぐみ

2023年4月よりこども家庭庁が創設され、子どもの最善の利益を第1に考え、子どもの権利を保障するため社会全体で支えるという体制が始まった。子どもを取り巻く多くの課題を背景に、国レベルで子どもに関する施策に力を注ぐといった流れの中、聖隷こども園めぐみでは保育の質の向上に重点的に取り組むとともに、保護者の子育てに寄り添った支援ができるよう努めた。地域のニーズに応え必要とされる園児の受け入れを積極的に行い、特に障碍児、医療的ケア児等の保育ニーズに少なからず貢献した。それには、2023年9月に開設された聖隷こども発達支援センター和合と連携し、並行通園につなげるなど個別の対応が出来たことが大きかった。また、多職種での合同研修会を開催したことは職員にとって学びの機会となった。今後も連携強化に取り組み、保育の質向上につなげていきたい。

また、職員がモチベーションを高く持って働くことが出来るよう人材確保・人材育成に取り組んだ。人材確保の点では課題が残るが、本格導入となった保育支援システム（コドモン）は職員の業務省力、利用者とのコミュニケーションツールとして有効なことが実感できた。またドキュメンテーション作りを学び、職員間でディスカッションを重ねた経験は、職員個人の保育のスキルアップにもつながった。今後も子どもたちの「最善の利益」を考え、より質の高い教育・保育の提供が出来るよう保育内容の充実を目指す。

【入所状況】

4月新入園 36名、年度途中の入園 9名 途中退園 7名 年間入所率は91.6%。

【重点目標及び重点施策への取り組み】

1. 保育の質の向上

- (ア) 「教育及び保育の内容に関する全体的な計画」をもとに、子どもの表現について年齢発達に応じたねらいをたて、担当する各クラスで保育実践を重ね、園内研修で学びを深めた。
- (イ) 「聖隷の保育の基本となるキリスト教保育」「子どもの育ちに視点を置いたフォトラーニング」の2点の課題について年間を通し、職員間でディスカッションする時間を継続的に作った。
- (ウ) 聖隷保育学会への取り組みを継続し、保育の質の向上につながるよう取り組んだ。
- (エ) 保育職ラダーで自己の課題を明確にし、キャリアアップ研修を中心に様々な研修への参加を通して保育力の向上を目指した。

2. 新設される聖隷こども発達支援センター和合との連携準備をすすめる

- (ア) こども園めぐみに隣接した聖隷こども発達支援センター和合が9月に開園し、職員間の連携体制に向け、お互いの施設を知る研修会や両施設職員合同での清掃作業等を行った。
- (イ) 発達に課題のある子ども・医療的ケアの必要な子ども等のニーズに対し、かるみあ和合と連携し、並行通園等で受け入れを開始し、両施設で情報共有を行った。

3. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 在園の保護者に対して懇談会、講演会などを開催し育児に関する発信を行った。また、地域の子育て家庭を支援する場所として親子ひろばや病後児保育室を継続した。

(イ) 中高生の職場体験の受け入れを行い、次世代育成の取り組みに貢献した。

4. 保育システムによる業務省力・働きやすい職場環境づくり

(ア) 新しい保育支援システム（コドモン）の本格導入に伴い、保護者との連絡ツールとして活用するとともに、職員の業務の省力化につながった。

(イ) 主任・副主任会を中心に職場内の問題解決に向けて取り組み、会議マニュアル作成、早遅番での職員体制を整理した。働きやすい職場づくりに向けた取り組みを継続したい。

【数値指標】

① 歳児別入所保育児童数(名) 入所率 91.6%

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0 歳 児	11	12	13	13	14	14	15	17	17	18	18	18	180	15.0
1 歳 児	35	35	34	35	36	36	36	35	35	35	35	35	422	35.2
2 歳 児	36	36	36	36	36	36	35	35	35	35	35	35	426	35.5
3 歳 児	40	40	39	39	39	39	39	39	38	38	38	38	466	38.8
4 歳 児	38	38	37	37	37	37	36	36	35	35	35	35	436	36.3
5 歳 児	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	444	37.0
計	197	198	196	197	199	199	198	199	197	198	198	198	2374	197.8

② 保育日数及び延べ出席（利用）状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数(名)	3554	3291	3744	3481	3180	3364	3645	3552	3519	3242	3368	3263	41203	3433.6
保育日数(日)	24	24	26	25	26	24	25	24	24	23	24	25	294	24.5
1日平均(名)	148.1	137.1	144.0	139.2	122.3	140.2	145.8	148.0	146.6	141.0	140.3	130.5	1683.1	140.1
一時預かり(名)	1	2	4	6	3	3	3	3	4	3	3	3	38	3.2
病後児保育(名)	1	2	2	0	0	1	0	0	3	0	4	2	15	1.3
親子ひろば(名)	3	4	2	2	4	8	6	6	4	3	4	8	54	4.5
延長保育(名)	118	109	91	98	74	86	69	117	96	91	119	87	1155	96.3

③ 職員の状況(名) 正規職4名育休中

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正)	30	30	30	30	30	30	29	29	29	29	29	29
保育士(パ)	8	7	7	8	8	9	9	9	10	9	10	10
保育補助	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2
看護師(兼務・パ)	1・2	1・2	1・2	1・2	1・2	1・2	1・2	1・2	1・2	1・2	1・2	1・2
管理栄養士(委託)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
用務	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	48	47	47	48	48	49	48	48	48	47	48	48

聖隷浜松病院ひばり保育園

2023 年度は、2022 年度から継続して職員体制を整え、聖隷浜松病院と連携を密に取ることで、更に入所率を上げることができた。今後も、事業所内保育所として、入園希望園児の確実な情報収集、調整等を行い、運営の安定化を図ることを継続していく。

質の高い保育の実践については、キリスト教保育を基盤とし、ピアジェの構成論を取り入れた、子どもの主体的な生活と遊びを支えるための保育展開を継続するために、園内勉強会や職員同士の保育の振り返りを定期的に行った。また、他園からの見学を積極的に受け入れたことも活かされ、実践が少しずつ言語化されつつあるが、引き続き職員一人ひとりの主体性が尊重され、一層言語化、可視化できるように支援していきたい。

保育支援システム（コドモン）が本格的に稼働し、業務省力、効率化を図ると共に、質の高い保育を実践することを目的に活用している。今後もシステムの活用の幅を広げていくことと並行して、職員が働きやすい職場になるように業務改善を進めていく。

1. 入所状況

年間平均入所率は 73.5%。4 月は新入園児 13 名を迎え 135 名でスタートし、3 月末には 154 名の在籍となり、4 月から 19 名の増となった。

2. 重点目標及び重点施策への取り組み

（ア）質の高い保育の実践

- ①子どもの生活や遊びを展開する空間の環境整備、サークルタイムや子ども会議を行うことを通して、子ども主体の保育を継続的に展開することができた。
- ②これまで継続してきた構成論に基づいた保育の実践を、職員自身の言葉で言語化することで、個々の保育観が養われた。
- ③保育支援システム（コドモン）の本稼働により、システムを活用することでの業務改善や保育内容の共有が図られたこと、保護者の保育理解の機会が広がったことが、保育の質の向上につながった。
- ④他園からの見学を積極的に受け入れたことで、自園の保育が互いに可視化された。

（イ）専門性の向上を図る

- ①研修計画に沿って WEB 研修を含めた園外研修への参加を促進し、学びの機会を増やすことができた。
- ②職員主体の園内研修の継続を通して、互いの保育を言語化し、共有できたことが専門性の向上につながった。

（ウ）職員の働きやすい環境づくり

- ①保育支援システム（コドモン）を活用することで、導入目的であった保育記録業務の省力化を図ることができた。
- ②業務改善委員会を 2022 年度に引き続き毎月開催し、職員が中心となって業務改善に取り組むことで園全体の意識も継続できた。

3. 地域における公益的な取り組み

(ア) ボランティアや学生の実習受け入れを実施し、次世代育成に貢献できた他、特別支援学校の職場実習も受け入れることができた。

【数値実績】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計	月 平均
0歳児	7	7	9	11	11	14	16	17	17	18	24	27	178	14.8
1歳児	24	26	25	26	26	27	28	28	27	27	27	27	318	26.5
2歳児	34	32	32	32	32	31	31	31	31	31	29	29	375	31.3
3歳児	27	28	28	28	28	29	29	29	29	29	29	29	342	28.5
4歳児	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	18	18	226	18.8
5歳児	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	288	24.0
計	135	136	137	140	140	144	147	148	147	148	151	154	1727	143.9

① 歳児別入所保育児童数（名）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計	月 平均
延べ人数（名）	2558	2505	2574	2628	2327	2634	2809	2657	2601	2245	2598	2579	30715	2559.6
保育日数（日）	24	24	26	25	26	24	25	24	24	23	23	25	293	24.4
一日平均（名）	107	104	99	105	90	110	112	111	108	98	113	103	1260	105.0
延長保育（名）	92	115	112	109	108	118	98	116	109	93	107	108	1285	107.1

②保育日数および延べ出席（利用）状況

③職員の状況（名）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士（正）	26	26	26	26	26	26	26	26	26	25	25	25
保育士（パ）	8	8	8	7	7	7	7	7	7	7	7	7
看護師（パ）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育補助	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
事務員/用務員	1/2	1/2	1/2	1/2	1/2	1/2	1/2	1/2	1/2	1/2	1/2	1/2
計	41	41	41	40	40	40	40	40	40	39	39	39

聖隷のあ保育園

2023 年度は開設から 5 年目を迎えた。過去 4 年の経験から 4 月スタート時の人数予測を行ったが、急な転園だけでなく少子化の影響も受け、スタート人数は見込みを下回った。しかし、年齢枠にとらわれず積極的に受け入れたり「余裕活用型一時預かり事業」を活用することで 2023 年 10 月以降は定員を上回る入所児童を確保できた。新事業として開始した「余裕活用型一時預かり事業」の利用者が予想以上に多く、運営の安定につながった。

地域性や小規模園の特性上、特定妊婦、要保護児童、要支援児童が多く在園するため、園児、家庭個々の支援を療育機関や行政と連携を図りながら支援することができた。

連携園である「聖隷こども園ひかりの子」と土曜日共同保育が円滑に行われているが、地理的に遠く、2023 年度は 3 歳児以降の転園者はいなかったが、保護者の意向に応じた支援を行った。

小規模園の利点を活かした保育が提供できるよう自園での保育研究を深めることとキャリアアップ研修への参加を促すことで職員のスキルアップを目指した。今後も子どもたちの「最善の利益」を考え、より質の高い教育・保育の提供ができるよう人材育成に努め、保育内容の充実を図ると共に、働きやすい職場環境を維持していく。

【入所状況】

4 月は 13 名でスタートし、10 月に定員越えとなる。年間入所率は 94.2%である。

【年度事業目標・年度重点施策】

1. 保育の質を向上し、質の高い保育と保護者支援を行う。

- (ア) 自園の強みである「子どもひとりひとりの成長発達に合わせた丁寧な保育」「特定妊婦」「要保護児童」「要支援児童」への支援を行うことができた。これらは、自園の子育て支援の柱となっている。
- (イ) 園内勉強会では「表現」に焦点をあて、自園の強みである子ども一人ひとりの成長発達に合わせた保育実践を実施し、職員のスキルアップにつながった。
- (ウ) 保育環境を子どもの成長発達と併せて考え、保育環境と保育内容を常に見直し改善できた。

2. 働きやすい職場環境づくり、業務省力化を目指す。

- (ア) 仕事の進捗状況を可視化し職員個々が意識することが業務省力につながった。休憩時間の確保や就業時間内に仕事を終える等が働きやすい環境につながった。
- (イ) 連携施設である「聖隷こども園ひかりの子」との協力体制は構築できた。

3. 地域における公益的な取組

- (ア) 地域の自治会（老人会）や近隣施設との交流が継続的にできた。
- (イ) 市との連携の中で、地域の子育て家庭の支援として、特定妊婦、要保護児童、要支援児童等の受け入れや支援が継続してできており、転園後にもつながっている。
- (ウ) 災害時に応じた「安全計画」の策定、非常災害訓練を実施し、洪水等の防災区域であるこ

とを発信し、地域との防災訓練に備えている。

【数値実績】

(ア) 歳児別入所保育児童数（名） 入所率 94.2%

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	1	1	1	2	3	4	6	8	8	8	8	8	58	4.8
1歳児	4	6	6	6	7	6	6	6	6	6	6	5	70	5.8
2歳児	8	8	8	8	8	8	7	7	7	6	6	6	87	7.3
計	13	15	15	16	18	18	19	21	21	20	20	19	215	17.9

(イ) 保育日数および延べ出席（利用）状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数(名)	198	186	228	252	247	266	319	350	332	276	298	331	3283	273.6
保育日数(日)	24	24	26	25	26	24	25	24	24	23	23	25	293	24.4
一日平均(名)	11	10	10	11	7	14	14	13	12	12	13	14	141	11.8
延長保育(名)	6	2	1	4	1	1	5	7	4	6	4	5	46	3.8

(ウ) 余裕活用型一時預かり事業 日数および延べ出席（利用）状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数(名)	6	9	21	10	10	4	11	1	0	0	0	4	76	6.3

(エ) 職員の状況（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
職場長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正)	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
保育士(パ)	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
管理栄養士	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10

こうのとりの保育園

新型コロナウイルス感染症が５類となったことで、園生活も以前の形を取り戻してきた。感染防止対策を講じながら工夫を凝らす中で学んだことを活かし、行事等は年齢の発達に合わせ、子どもを中心として少人数で楽しめる内容を心掛けてきた。次世代を担うすべての子どもの権利擁護が図られ、子どもの健やかな成長にとって重要な就学前教育の質の確認、向上を目指し、チームで関わる意識を高めてきた。子どもの命を守り、豊かな育ちを支えるために、保育の専門組織として、自らの人間性と専門性の向上に努めている。

1. 入所状況

(ア) ４月新入園児 26 名を迎え、年度途中入園児は 13 名、うち育休明け 0 歳児が 8 名、年間入所率は 118.7%であった。

2. 重点目標及び重点施策への取り組み

(ア) 保育の質の向上への取り組み

①全クラス流れる日課を取り入れ、子どもの生活リズムを大切にし、健康で情緒が安定した生活や自己を十分に発揮できる環境を整え、一人ひとりの個性や発達に合わせた関わりをしてきた。

②子どもが安心して過ごし、成長できる環境を理解し、子どもに対する尊重や人権擁護の意識を高めることができた。

(イ) 常に子どもの視点に立ち、自らの保育を振り返り実践を重ね、園内での対話や勉強会等へ積極的に参加したことで、子どもの姿から生み出す力を養うことが少しずつできるようになった。

3. 保育システムによる業務省力・働きやすい職場環境づくり

(ア) 保護者アプリの技術活用（ドキュメンテーション）の学びを職員全員で重ね、共有してきたことで、子ども達の心が動かされるような体験を提供できるようになった。

(イ) 子どもの育ちを保護者に解りやすく伝えることで、園と家庭との相互理解ができ、信頼感、安心感にもつなげることができた。

(ウ) 業務内容や会議体、新人指導の見直しを図り、記録業務時間の確保や語り合い、座談会等も取り入れてきた。主体性を発揮できる風土にはつながったが、職員間の共有、伝達には課題が残る。

4. 統合保育の実践

(ア) 障がい児を対象とした一時保育「こひつじ保育」では、日々の生活の中で在園児との交流を行い、保護者や子どものニーズを踏まえ計画的に保育を行う事ができた。

5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 幼児期から小学校へと子どもの発達や学びの連続性を保障するために、「アプローチカリキュラム」を作成・実践し、小学校との連携・接続を図ることができた。交流回数が増え、関わりが広がったことで保幼こ小の関係が深まった。
- (イ) 地域の敬老会への参加、定期的な中高校生との交流が再開し、体験学習を積極的に受け入れ、子育てに関わる機会をつくることができた。引き続き地域福祉に貢献できるよう取り組みんでいく。

6. 保育環境の改善、施設整備

- (ア) 修繕・・・厨房壁タイル修繕、園庭と園庭遊具の整備、修繕
- (イ) 購入・・・ノートパソコン3台、給食室ラピッドチャージャー、AED

【数値実績】

① 歳児別入所保育児童数（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	10	11	12	12	12	13	15	17	17	17	18	18	172	14.3
1歳児	22	22	24	24	25	24	25	25	25	25	25	25	291	24.3
2歳児	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	25	25	310	25.8
3歳児	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	312	26.0
4歳児	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	312	26.0
5歳児	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	312	26.0
計	136	137	140	140	141	141	144	146	146	146	146	146	1,709	142.4

② 保育日数及び延べ出席(利用)状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数(名)	2,464	2,403	2,783	2,596	2,172	2,494	2,758	2,623	2,564	2,447	2,589	2,312	30,205	2517.1
保育日数(日)	25	27	26	26	27	26	26	26	24	24	25	26	308	25.7
一日平均(名)	98	89	107	99	80	95	106	100	106	101	103	88	1172	97.6
一時預り(名)	41	48	55	58	72	62	76	80	84	66	61	56	759	63.3
延長保育(名)	44	33	44	38	42	68	52	57	64	68	47	66	623	51.9
学童保育(名)	63	21	16	87	192	1	2	6	14	1	1	48	451	37.5
休日保育(名)	19	15	9	17	19	24	22	31	10	22	35	24	247	20.6
病後児(名)					-	-	-	-	-	-	-	-	-	
支援センター(名)	276	342	389	381	412	284	429	364	257	297	317	377	4125	343.7

③ 職員の状況（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正・パ)	15・24	15・24	15・24	15・25	15・24	15・24	14・24	13・24	14・24	14・23	14・23	14・23
看護師(正)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
調理師(正・パ)	1・6	1・6	1・5	1・6	1・6	1・5	1・5	1・5	1・5	1・5	1・5	1・6
事務員(正・パ)	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1
補助他・アルバイト	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
計	52	52	51	53	52	51	50	49	50	49	49	50

聖隷こども園こうのとり東

放課後児童クラブ “オリーブ”

2023 年度は乳児の入園希望者が少なく、予算差異が生じた。少子化の影響もあるが、園として利用者の希望を待つのではなく、能動的に対策を講じていく必要がある。2024 年度計画へ反映させていく。教育・保育では、子どもの主体性の育ちを保障するために、専門知識の高い職員が実際に教育・保育を参観し、課題に対して改善方法等を共に考え実践へと繋げていく時を継続して行った。職員の資質向上の為に園内外での研修会にも積極的に参加し自己研鑽の場を設けると共に主幹保育教諭や副主任を中心に人材育成や職員間のコミュニケーション向上に向けて園全体で取り組むことができた。

放課後児童クラブについては、利用ニーズが高く定員を超えた受け入れを行った。落ち着いて生活できる環境を児童の姿を通して常に考えながら整えていくことができた。新型コロナウイルス感染症が 5 類となったことで、在園児との交流もできるようになりお互いに育ち合う姿が見られた。

1. 入所状況

- (ア) 4 月に新入園児 22 名を迎え 184 名でスタートした。年度途中入園児は 23 名、転居など家庭都合による途中退園が 11 名。最終的には 196 名となり、年間入所率は 89.0%であった。

2. 年度事業目標・年度重点施策への取り組み

(ア) 保育の質の向上

- ①保育者が保育理念と保育目標を理解し「一人ひとりを大切にする保育」を実践するため、『子どもの主体性を考える』を研究テーマとした学びを継続的に行い成長・発達に応じた教育・保育の環境を整え、子どもの姿を通して話し合い、実践を繰り返し行った。

子ども一人ひとりの尊厳を大切にした日常の保育活動を中心に、行事や異年齢保育について話し合い実践へと繋げた。

- ②保護者支援として日常的な子どもの姿や友達との関わりを園だよりや保育ドキュメンテーションを活用し教育・保育の連続性について可視化を行い理解へと繋げた。同時にブラジル国籍の家庭が多く在籍しているため、通訳職員が保育ドキュメンテーションを定期的に翻訳し保護者の安心へと繋げた。

3. 統合保育・他機関との連携

- (ア) 保育者が統合保育についての学びを得るために他機関（療育施設等）との定期的な連携を図り互いの情報を共有しながらこども園としての施設の特性を活かした支援へと繋げた。
- (イ) 家庭（保護者）支援などの配慮が必要な場合には、磐田市の子ども未来課や幼稚園保育園課等と連携を図りながら、個別に丁寧に対応した。

4. 食育の推進

- (ア) 新型コロナウイルス感染症が 5 類となり、コロナ禍では制限されていた教育・保育の中のクッキング等を栄養士、調理師、保育教諭が連携を図りながら行うことができ、子ども

の食への関心を高めることができた。

5. 地域における公益的な取り組み

(ア) 畑や田んぼ活動を通して、地域の高齢者とのつながり、世代を超えた交流の機会を持った。

(イ) 看護師による地域の住民への健康管理（血圧測定・健康体操指導）の機会を設けた。

(ウ) 園庭解放を月1回実施し、「こども園での生活」、「遊びの経験」、「身体測定」、「歯科講習」等を通して地域子育て世帯の育児相談の場を提供した。

6. 放課後児童クラブ“オリーブ”

(ア) 定員を超えての利用希望があり、地域ニーズの高さを感じた。長期休み期間は利用児童数が特に増加した。

(イ) 児童が主体的に学習や遊び、生活スケジュール等を決めて行動することができるような環境を用意し、職員の関わりを考えながら進めた。

【数値実績】

①歳児別入所保育児童数（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	5	5	6	6	8	11	14	15	15	17	17	18	137	11.4
1歳児	29	31	31	31	31	31	30	30	30	31	31	30	366	30.5
2歳児	35	36	34	34	34	35	35	35	35	35	35	35	418	34.8
3歳児	38	38	38	38	38	39	39	39	38	37	37	38	457	38.1
4歳児	41	41	41	41	41	41	41	41	41	41	41	41	492	41
5歳児	36	36	36	36	36	36	36	36	35	35	35	34	427	35.6
計	184	187	186	186	188	193	195	196	194	196	196	196	2,297	191.4

②保育日数及び延べ出席(利用)状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数(名)	3,355	3,134	3,608	3,115	2,811	3,450	3,754	3,354	3,396	3,003	3,381	3,226	39,587	3,298.9
保育日数(日)	24	24	26	25	26	24	25	24	24	23	23	25	293	24.4
一日平均(名)	140	131	139	125	108	144	150	140	142	131	147	129	1626	135.2
延長保育(名)	5	21	26	28	48	10	21	13	13	11	10	8	214	17.8
学童保育(名)	578	636	578	542	594	437	492	433	498	441	419	448	6096	508
病後児(名)	0	2	3	7	8	0	2	4	3	3	4	1	37	3.1
外国人保育(名)	24	23	23	23	23	23	24	24	22	21	21	20	271	22.6

③職員の状況（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正・パ)	21・17	21・16	21・16	21・16	21・16	21・16	21・16	21・17	21・16	21・16	21・16	21・16
看護師(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理師(パ)	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
事務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
補助・アルバイト	2	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3
計	48	47	47	48	48	48	48	49	48	48	48	48

聖隷こども園こうのとり豊田

2023 年度は、0 歳児の新規獲得が困難な状況が予想された。入園説明会の機会を待つだけでなく、磐田市や地域の子育て支援センター等と連携を図り、情報を得ると共に地域のニーズに応じた子育て支援等を行った。「0 歳児開放日」等を設け乳児の生活や育ち等についての理解を深め、相談に応じるなど、選ばれる園となるため積極的な働きかけを行った。地域の老人クラブの方々を園に招き、子どもと触れ合いの機会を持たせた。手作り手芸玩具、四季を通した花や野菜の苗付け、その他行事に参加してもらい子どもたちと園との関係を深めることができた。職員の資質向上では、教育・保育の目的を理解し自分の役割を担いつつ互いに支え合う関係を構築する中で園児が安心して主体的に生活できる環境を整えていく為の子ども理解に繋がる学びの場を雇用形態に関わらず全職員が定期的に参加する場を設けることができた。職員のワークライフバランスを保障するためノーコンタクトタイムを設けることで教育・保育の準備や記録業務・環境整備等の業務効率の改善に取り組み、事業時間内に完結するための仕組みづくりを行うことができた。

1. 入所状況

(ア) 4 月に新入園児 21 名を迎え 156 名でスタートした。年度途中の入園児が 13 名、在園していた園児 2 名が広域入所に変更となり、退園児は 0 名。最終的には 2 号・3 号認定が定員 140 名に対して 113.6%、1 号認定が定員 15 名に対して 66.7%の入所率であった。

2. 年度事業目標・年度重点施策への取り組み

(ア)教育・保育の質の向上

- ①乳児保育では、「ゆるやかな育児担当制保育」を継続する中、副主任・専門リーダーを中心に担当以外のクラスについても事例検討を行い共に保育を考えた。
- ②乳幼児の主体性を大切にした教育・保育を目指し、園児の成長や発達、興味や関心を子どもの姿より捉え、定期的に見直ししながら保育環境や日課等を整えた。
- ③子どもと保育者、子ども同士等の対話を大切にした「こども会議」等の手法も取り入れながら、こどもの理解を深めることができた。

(イ)家庭と連携して子育てを共有

- ① 保育 ICT システムを通して、子どもの学びの過程や育ちについて写真を用いて視覚的に伝えることで可視化に繋がり、保育や子育てについて家庭と共有することができた。
- ② 感染症対策を行いながら年間を通じて保育参加を推奨し保育の可視化や実施後の面談で園児について分かち合う機会を持つことができた。

(ウ)職員間で連携し保育の専門性を高め、働きやすい職場環境を作る

副主任が主幹保育教諭と共に業務改善の為の仕事内容等について見直しを行い、担当の業務内容を園全体に可視化することで担当（クラスや行事）の枠を超えて役割を担うことができた。その過程において職員間の協同性にも繋がった。

(エ)地域における公益的な取り組み

地域の乳児の子育て家庭を園に招いて「0 歳児開放日」を 2 月から 3 月に実施した。0 歳児の保育を見てもらいながら子育て等についての相談にも応じる事ができた。

(オ)環境整備・修繕

①購入：園児用椅子・机・棚、園庭物置、室内用鉄棒、室内用玩具、防災用ベンチ 他

②修繕：排煙窓、エレベーター、園庭総合遊具下ゴム舗装、クライミングウォール撤去 他

【数値実績】

①歳児別入所保育児童数(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	5	5	7	9	13	13	15	17	18	18	18	18	149	12.4
1歳児	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	288	24
2歳児	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	336	28
3歳児	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	396	33
4歳児	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	396	33
5歳児	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	396	33
(内広域)	0	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	18	1.5
計	156	156	158	162	166	166	168	170	171	171	171	171	1,986	165.5

②保育日数及び延べ出席(利用)状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数(名)	2,803	2,649	3,011	2,930	2,559	2,868	3,170	2,835	2,872	2,474	2,961	2,713	33,845	2,520.4
保育日数(日)	24	24	26	25	26	24	25	24	24	23	23	25	293	24.4
一日平均(名)	116.8	110.3	115.8	117.2	98.4	119.5	126.8	119.7	119.7	107.6	118.4	108.5	115.5	103.3
一時預り(名)	0	2	2	2	2	2	1	0	0	0	0	0	11	0.9
(内こひつじ)	(0)	(1)	(1)	(2)	(2)	(1)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(19)	(1.6)
一時預かり幼稚園型(名)	25	31	25	57	49	41	58	75	55	70	68	68	622	51.8
延長保育(名)	55	56	102	84	62	86	85	78	76	53	62	32	831	69.3
学童保育(名)	256	223	242	266	216	175	161	186	180	147	168	185	2405	200.4

③職員の状況(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育教諭(正)	23	23	23	23	24	24	24	24	24	24	24	24
保育教諭(パ)	17	17	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
栄養士(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
看護師(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理師(正・パ)	0・5	0・5	0・5	0・5	0・5	0・5	0・5	0・6	0・6	0・6	0・6	0・6
事務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
用務員・子育て支援員(パ)	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
計	53	53	54	54	55	55	55	56	56	56	56	56

聖隷こうのとり富丘

聖隷こども園こうのとり富丘

聖隷こども発達支援事業所かるみあ富丘 聖隷訪問看護ステーション富丘

開設から4年が経ち、組織運営も安定し、より質の高い乳幼児の教育・保育、療育を提供することに時間を費やしてきた。開設後初めて実施した施設開放では、3事業の特性を活かした取り組みを知ってもらう機会となり、地域交流の促進につながった。また、それぞれの専門性を活かし、多様性の中で育ちあう教育・保育、療育を提供できるよう利用者同士の交流が実現し始めた。引き続き、多様性を認め合い、だれもが人間らしく幸せに暮らせる社会を目指していきたい。

1. 施設運営

- (ア) 3事業がそれぞれの役割・専門性を活かし、より質の高い教育・保育・療育を目指した。2023年度から始まった「医療的ケア児保育支援事業」の推進会議にこども園の看護師が参加、訪問看護ステーションが事業に登録し、その役割を担っている。
- (イ) 2023年度も法人内外の研修・保育のキャリアアップ研修に積極的に参加し、園内にて研修発表を実施し、職員全体の学びにつなげた。3事業ワーキンググループでの取り組みが2年目となり、職種を問わず職員が自発的に連携する姿や利用者と子どもたちの交流へとつながった。

2. 聖隷こども園こうのとり富丘

- (ア) 4月に新入園児を迎え127名でスタートし、最終的には144名の児童を受け入れることができた。年間入園率は105.8%であった。
- (イ) お互いを見合う保育の実践、語り合える職場環境や職員間の関係づくりに取り組み、保育の質の向上につながった。
- (ウ) 『親が知っておきたい子どもの身体と性』のテーマで講演会を実施、園と家庭が共に生命(いのち)の教育について再考する一助となった。
- (エ) 保育参加の受け入れを開始し、家庭と連携を図りながら共に育ちに関わることができた。
- (オ) 取り組みの事例報告会を通して成果を共有し、職員の更なる意欲や期待へとつながった。

3. 聖隷こども発達支援事業所かるみあ富丘

- (ア) デジタルリハビリシステムを導入し、重症心身障がい児が持てる機能を生かし楽しむ機会を創出できた。課題や機能に合わせた効果的な活用となるよう運営会議を実施した。
- (イ) 体験活動を取り入れリラックスした雰囲気にて定期的に活発な保護者間交流を行えた。
- (ウ) 地域へ出かける機会を実施。保育所等訪問支援において、在籍園への全日通園につながった。施設内研修が自身の振り返り学びを得る機会となり、支援の質の向上につながった。

4. 聖隷訪問看護ステーション富丘

- (ア) 袋井市立聖隷袋井市民病院のカンファレンスに参加。訪問看護につながることは少なかったが、連携のための関係作りができた。
- (イ) 法人内事業所と事例検討会を継続。訪問看護や必要なサービスにつなげることができた。

5. 地域における公益的な取り組み

(ア) 地域に向けて施設だよりを年2回発行、また年2回施設開放を行い、施設を知ってもら
う機会をもつことができた。

(イ) 地域の中・高校生の受け入れを行い、子どもたちとの交流につなげることができた。

6. 保育環境の改善、施設整備

(ア) 修繕と整備…ネット遊具・築山の整備、駐車場の補修、門扉の鍵・ドアの修繕

(イ) 購入…園庭用フェンス、シュレッダー、パソコンスタンド（デジリハ）、iPad 等

【数値実績】

■聖隷こども園こうのとり富丘

① 歳児別入所保育児童数（名） 定員 129 名

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計	月平均
0 歳児	9	10	12	13	15	16	17	18	19	20	21	21	191	15.9
1 歳児	21	22	22	21	21	22	22	22	23	23	23	24	266	22.1
2 歳児	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	300	25.0
3 歳児	24	24	24	24	24	24	25	25	25	25	25	25	294	24.5
4 歳児	23	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	287	23.9
5 歳児	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	300	25.0
計	127	130	132	132	134	136	138	139	141	142	143	144	1,638	136.5

② 保育日数及び延べ出席(利用) 状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計	月平均
延べ人数(名)	2,291	2,206	2,528	2,217	2,200	2,407	2,591	2,452	2,385	2,256	2,556	2,397	28,486	2,373.8
保育日数(日)	24	24	26	25	27	25	25	25	26	26	23	24	300	25
一日平均(名)	95.5	91.9	97.2	88.7	91.7	96.3	103.6	98.1	91.7	86.8	111.1	99.9	94.95	94.95
一時預り(名)	7	3	0	17	15	9	17	10	13	30	14	4	139	11.5
延長保育(名)	28	32	32	32	35	30	41	22	19	19	26	14	349	29.0
病後児(名)	2	0	1.5	0	2	0.5	2	1	3	0	0.5	1	13.5	1.1

③ 職員の状況（名）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正・パ)	20・10	20・10	20・10	20・10	20・10	20・10	20・10	21・11	21・11	21・11	20・11	20・11
看護師(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理師(正・パ)	1・6	1・5	1・6	1・6	1・6	1・7	1・6	1・6	1・6	1・6	1・6	1・6
事務員(正・パ)	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1
補助他・アルバイト	0・0	0・0	0・0	0・0	0・0	0・0	0・0	0・0	1・0	1・0	1・0	1・0
計	40	39	40	40	40	41	40	42	43	43	42	42

■聖隷こども発達支援事業所かるみあ富丘

利 用 者 定 員	10 名
利 用 者 延 べ 人 数	2,738 名
一 日 平 均 利 用 者 数	10.9 名
稼 動 率	109.8%
稼 動 日 数（延 べ）	249 日
単 価	19,093 円
常 勤 換 算 職 員 数	8.2 名

■聖隷訪問看護ステーション富丘

平 均 利 用 者 数	73.8 名
月 間 訪 問 件 数	375 件
年 訪 問 件 数	4,503 件
単 価	10,837 円
常 勤 換 算 職 員 数	5.2 名

野上あゆみ保育園

野上あゆみ保育園 のがみっこくらぶ／にじっこくらぶ（放課後児童クラブ）

行事は、職員全員で一つずつ取り組みから検討することで活動の視野が広がり、保護者の協力のもと開催できた。隣接する高齢者施設との連携が再開し、子どもたちも楽しみながら交流することができた。乳児クラスの粗大あそびをさらに充実させることで空間認知につながる活動ができている。子ども同士の活動を職員間の自然な連携のもと、子どもの一人一人のやりたい思いから運動能力を引き出せる環境を整えることができた。どの場面でも子どもの思いを受け止められる職員集団となるよう職員同士やクラス間の連携を含め考えていきたい。

1. 入所状況

4月に0歳児9名、1歳児6名、2歳児2名、3歳児1名、系列園4歳児14名、計32名の新入園を迎え105名でスタートし、定員90名に対して116.6%の入所率であった。

2. 重点目標及び重点施策への取り組み

（ア）保育内容

- ①統合保育…3歳児1名・4歳児2名・5歳児2名が4月加配対象であり、11月より5歳児1名けいれん発作と発達遅滞により対象となる。医師と協議の上、退院から引き続き保育を継続するが、カンファレンスの内容と異なりけいれん発作が頻繁に起きたため、全体で協力しながらの見守りや保護者と連携を取って進めた。また、行政からは精神科医や臨床心理士による年間5回の巡回指導と職員知識向上の研修を受け、発達に悩まされていた2歳児の家庭を全体でフォローする等の配慮を行った。
- ②交流…聖隷の通所介護サービスを含め、他施設と花の日や収穫感謝祭の訪問で交流を図った。のがみっこくらぶとはなつまつりごっこやハロウィン仮装披露等で関わりを持てた。
- ③保護者に向けて…懇談会では保護者同士で親近感が持てるように保護者の話や子どもたちが楽しんでいる玩具の紹介を中心に進めていった。クリスマス祝会は、2歳児開催や幼児クラスの開催回数を増やすなど、理解や協力を得ながら子どもたちの気持ちに寄り添えた。
- ④動植物…土作りから野菜栽培に取り組み、クッキングに活用するなど各クラスで楽しめていた。クワガタムシの繁殖を試みるなど初めてのことに挑戦できた。昆虫を事務所に置くことで保護者の興味を引き出したり、送迎時に親子交流の楽しみの一つとなったりした。
- ⑤防災…防災委員会を中心に、緊急時にアレルギーや熱性けいれんなど個々の特性がわかるよう表を見直し、名札の作成を行った。

（イ）地域のニーズに対応

- ①一時保育…職員体制が整わず、職員1人で、登録面接を進めず保育を行う。完全に閉めてしまう期間が2か月あったが再開すると利用者は戻り、保護者同士の交流が持っていた。
- ②延長保育…19時まで平均6名の申請があったが全体的に早い迎えであった。
- ③行政との連携…けいれん発作で長期入院となった園児の受け入れ時には、病院との協議内容や特別支援を受けられるよう連携を取りながら進めることができた。

（ウ）職員研修

- ①年2回（9月・3月）あゆみ合同研修と年度末研修をweb開催にて行う。

②第10回宝塚保育学会は、分科会形式で開催し、それぞれが興味あるところでグループワークを行うなど、職員からは直接話を聞くことができて良かったと好評であった。

3. 地域における公益的な取組

(ア) 園庭開放、季節の製作、保護者向けの体験、積み木、伝統芸能・楽器を楽しむプログラムを取り入れ、在宅子育て世帯のニーズに対して幅広い内容で対応した。

(イ) 子育てにしんどさを感じている家庭を行政と連携を持ちながら一時保育にて対応する等、子育て支援につなげることができた。

4. 学童保育

西山小学校対象の2つのくらぶは、定員19名と25名に対して待機児童がいる状態で始まる。昨年度、育成会の待機児童であったのがみっこくらぶの子どもたちは、概ねくらぶを選択利用されていた。土曜日はにじっこくらぶで保育を行い、それぞれの指導員が1名ずつ勤務することで2つのくらぶの職員が互いを知る機会となった。

【数値実績】

①歳児別入所保育児童数（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	108	9.0
1歳児	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	180	15.0
2歳児	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	180	15.0
3歳児	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	180	15.0
4歳児	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	324	27.0
5歳児	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	288	24.0
合計	105	105	105	105	105	105	105	105	105	105	105	105	1,260	105.0

②保育日数及び出席状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ人数	1,870	1,846	1,986	1,850	1,655	1,765	2,115	1,912	1,858	1,708	1,805	1,838
保育日数	24	24	26	25	26	24	25	24	24	23	23	25
一日平均	77.9	76.9	76.4	74.0	63.6	73.5	84.6	79.6	77.4	74.2	78.5	73.5
一時保育	56	56	60	55	51	50	53	0	0	42	66	59

③職員数（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士	17	17	17	17	17	17	17	16	16	16	16	16
看護師	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
パート	11	12	15	14	14	15	15	16	18	18	18	18
計	31	33	34	34	33	34	33	33	33	32	32	32
調理(委託)	6	5	5	5	5	5	5	5	4	4	4	5

野上児童館

プログラムの内容を見直し保護者のニーズに沿える方法を検討した。体制の変更や職員の入れ替えの中、大切にすべき児童館の「役割」をきちんと伝えあいながら個々の思いを組みつつ同じ方向を見あえるような職員集団を作っていきたい。小学生の参加や中高生タイムが充実したものとなるよう、夕方の時間に簡単な遊びを取り入れたり食育としてクッキングを行ったりするなど通常とは違うプログラムを取り入れた。

1. 利用状況

乳幼児並びに小学生の利用は定着し、安定した来館者数がある。中高生の利用につながる方法として中学生の興味を引くデザインのチラシを用意し、毎月の利用を目指したが定着までは至らなかった。

2. 活動報告（地域における公益的な取組を含む）

（ア）乳幼児子育て支援活動

「ねんねちゃん」「はいはいちゃん」「よちよちちゃん」のグループでねらいを持ち、未就学児の親子を対象にプログラムを行った。安心して参加できる活動になるよう内容や距離感等対策を心がけた。例年行っているプログラムもその都度、内容や対応を検討したうえで行った。

（イ）小学生集団あそび支援活動

例年行う「児童館まつり」の開催方法を検討し、「春休みお楽しみに 2DAYS」とした。ボランティアの「おもちゃの診療所」「えほんのよみきかせ」の実施は参加者には好評であった。また各児童館が連携して行う大型児童館主催の事業（ミニたからづか）にも、地域から参加申し込みがあった。自然体験では「尼崎の森 中央緑地パークセンター」に行き、藍の葉を自分たちで摘み、たたき染めの体験をした。

（ウ）中高生の居場所づくり推進事業

中高生タイムの利用は定着とまではいかないが、声を掛け合って利用する姿もある。試みとして、周知が進むよう学校へチラシ配布をこまめに行った。運営委員会で学校長よりチラシ配布について良い意見もいただき、今後も継続していく。

（エ）実習生やボランティアの受け入れ

中学生の地域に学ぶ中学生・体験活動週間「トライやる・ウィーク」が再開し、館としても受け入れた。児童厚生員の実習生は例年通り受け入れを行った。

（オ）運営委員会の充実

運営委員会は、年間 3 回開催した。地域活動についての報告や意見交換の場となっている。

3. 職員の資質向上

新しい職員を採用したことで、それぞれが振り返る機会となった。伝え方一つ一つも丁寧にすることでスキルアップにつながっている。

【数値実績】

① 利用状況 本館（単位：名）

	就学前	小学生	中学生	高校生	こども計	大人	合 計	開館日数	一日平均
4 月	227	251	31	1	510	222	732	24	30. 5
5 月	201	85	12	0	298	192	490	24	20. 42
6 月	263	135	7	0	405	238	643	26	24. 73
7 月	254	400	9	1	664	304	968	25	38. 72
8 月	334	540	14	0	888	369	1257	25	50. 28
9 月	431	185	0	0	616	365	981	24	40. 88
10 月	368	184	7	0	559	323	882	25	35. 28
11 月	394	107	11	0	512	333	845	24	35. 21
12 月	357	209	16	0	582	310	892	24	37. 17
1 月	383	210	1	0	594	328	922	23	40. 09
2 月	383	2058	0	1	592	330	922	24	38. 42
3 月	568	323	11	2	904	432	1336	25	53. 44
計	4163	2837	119	5	7124	3746	10870	293	37. 10

※新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、消毒対応等閉館時間有り

② 利用状況 出前児童館（単位：名）

	常設 型				派遣 型				イベント型
	回数	就学前	小学生	大人	回数	就学前	小学生	大人	回数
4 月	8	43	2	40	0	0	0	0	0
5 月	7	46	0	41	0	0	0	0	0
6 月	9	63	0	46	1	2	2	5	0
7 月	8	61	3	52	0	0	0	0	0
8 月	8	65	0	56	0	0	0	0	0
9 月	8	64	0	56	1	0	86	0	0
10 月	8	62	0	54	0	0	0	0	0
11 月	8	63	0	55	2	2	112	4	0
12 月	7	45	3	41	1	0	141	0	0
1 月	6	44	0	39	1	0	131	0	0
2 月	8	63	0	56	0	0	0	0	0
3 月	8	59	0	47	1	0	125	0	0
計	93	678	8	583	7	4	597	9	0

※新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、常設型は消毒対応等閉館時間有り

逆瀬川あゆみ保育園

園長が交代し新しい体制となり、子どもを軸とした保育のねらいを職員と確認し、なぜそれを行っているのかを問いながら、進めてく1年だった。

逆瀬川あゆみ保育園は、常勤職員よりも非常勤職員数が多いため、非常勤職員の保育や仕事に対する意識の向上がとても重要だと感じたことから、会議の中で理念に触れることや、グループワークにより他者の考えを知る機会を作り、思いを共有する時間を大切にしたい。また、どのような園にしたいと思っているのかを言葉で伝えるように意識したことで、職員間に一体感が生まれてきていると感じている。

1. 入所状況

4月に新入园児0歳児9名、1歳児1名、2歳児1名、3歳児1名を迎え、計49名でスタートした。

2. 重点目標及び重点施策への取り組み

(ア) 保育内容など

①キリスト教保育

職員が心穏やかに保育を始めて欲しいという願いを込めて朝の祈りから一日をスタートすることを現在も実践している。また、乳児クラスは、育児担当制を行うことで、子どもとの信頼関係をより深め、安心感をもって園生活を送れるようにしている。発達に合わせた玩具の入れ替えなども、こまめに行う。

②防災・危機管理

職員が年間計画にそって、ねらいや訓練内容を組み立て、実践するようにした。内容を組み立てることで訓練のイメージをし、新たな気づきや課題も見えてきた。訓練日や時間は、防災委員以外の職員には知らせずに実施をした。

また、不審者訓練のDVDを、全職員視聴し、アンケートなどで気づきの共有も行った。

③食育

園庭で夏野菜の栽培を行い、収穫した野菜を使うことで、香りや音を子ども達が直接感じられるように、クッキングを数多く行った。3歳児クラスでは、枝豆ご飯、豚汁、さつまいものバター焼き、ホットケーキなど。2歳児クラスでは、大学芋、1歳児クラスも人参のグラッセ作りを行った。

(イ) 保育ニーズに対応

①延長保育

18時16分～19時の延長保育を行った。延長登録児は2名。

②一時保育

面接希望の問い合わせは多数あったが、なかなか思うように利用人数を増やすことはできなかった。利用児の中には、言語発達の遅れや、コミュニケーションが取りづらい児が複数いた為、児の状況に合わせた保育が必要となった。児の姿に合わせた保育の提供や関わり方

は、しっかりと考えてかかわることができた。

(ウ) 地域における公益的な取組

①毎年、地域に学ぶ中学生体験活動週間「トライやる・ウィーク」として市内2校の中学2年生を受け入れていたが、2023年度は希望のあった1校から3名を受け入れる。保育実習生は2名受け入れる。

②室内開放・園庭開放を行なった。室内開放時に足育、看護師や栄養士相談も実施し保護者支援を行った。前半は利用人数が少なかったが回を重ねるごとに増え、定員に達する日も多くあった。また、担当者との信頼関係ができることで、子育て相談なども増えていき、地域の子育て中の方の思いも知ることができた。

(エ) 保育室環境の改善、施設整備

園庭遊具の老朽化により、滑り台やハウスの入れ替えとテラスのフェンスを修繕する。

また、自動ドアも修繕予定。

【数値指標】

①歳児別入所保育児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	9	9	10	11	11	12	12	12	12	12	12	12	134	11.2
1歳児	12	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	155	12.9
2歳児	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	168	14.0
3歳児	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	168	14.0
合計	49	50	51	52	52	53	53	53	53	53	53	53	625	52

②保育日数及び

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ人数	874	850	952	900	865	931	991	956	970	830	933	951
保育日数	24	24	26	25	26	24	25	24	24	23	23	25
1日平均	36.4	35.4	36.6	36.0	33.2	38.8	39.6	36.5	40.4	36.0	40.6	38.0
一時保育	34	32	37	46	54	69	65	94	79	86	89	69

③職員の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
看護師	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
パート	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
計	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29
調理(委託)	4	4	4	4	6	5	4	4	4	5	5	5

御殿山あゆみ保育園

保育の利用状況は、すべての歳児において定員を満たした在園児数を確保した。乳児の長時間保育が増加している一方で、延長保育の利用は減少傾向にある。今後も長時間保育を念頭において、子どもが安心して過ごせる環境整備が重要だと考える。職員間ではディスカッション中心の会議を実施し、語り合う風土が保育士の主体性を養い、保育の質の向上につながった。子どもの思いを受け止め、子どもが主体的に過ごせるような保育や行事を実践した。また、親子一緒に慣らし保育や、おやじクラブの定期的な開催など育児家庭支援の充実を図った。以前のような地域との交流が進められていないため、次年度は計画的に進めていきたい。

1. 入所状況

4月に27名の新入園児を迎え、計131名（緊急枠含む）でスタートする。

2. 重点目標及び重点施策への取り組み

（ア）保育内容

①統合保育

特別支援児は、5歳児クラスに3名、4歳児クラスに1名、3歳児3名、2歳児クラスに1名が在籍した。年2回の専門医による巡回指導を受け、専門機関と連携を取ることができた。また保護者との面談も定期的に行い、情報共有を図った。発達心理相談員による年2回の巡回指導により、気になる子どもの対応について助言を受けた。講義にも参加し、内容は全職員に周知した。担当職員で月に1度ケース会議を実施し、状況の共有を行った。

②危機管理

危機管理委員会を月に1回行い、ヒヤリハットや危険個所の検証、職員への周知、など様々な取り組みを行い職員の意識向上に努めた。

③食育

季節ごとに旬の食材を給食で提供し、自分たちで育てた野菜に触れたり、食べたりすることで、食物への関心が高まった。みかん、いちご、ぶどう等の果物を品種ごとに食べ比べし、興味を広げた。食物アレルギー児へ個々に応じた対応を行い、年長児はアレルギー食材を使わずに楽しめるクッキングを定期的に行った。

（イ）地域のニーズに対応

①延長保育

18時16分～19時の延長保育を行う。リモートワークの家庭もあり、全体的に迎えの時間が早くなっているが、繁忙期に一定期間のみ延長保育を利用する家庭が増えている。

②子育て支援

室内開放、園庭開放、子育て講演会、保育士とあそぼう、給食相談会、離乳食試食会年6回、看護師によるミニミニ講座12回や子育て相談を行った。在宅保護者の悩みやニーズを聴く機会を設けた。離乳食はニーズが多かったため相談会から試食会へ変更した。

（ウ）保育環境の改善、施設整備

園庭に新たな遊具を設置し、その周辺に人工芝を敷いて子どもの遊びが広がるような工夫をした。各保育室は発達に合わせた定期的な保育環境の見直しを行った。

(エ) 職員研修

園内研修は、わらべうたを行い、理論を学びながら実践的な研修を受けた。「宝塚保育学会」に参加し、研究グループごとに学会や園内で発表した。リモートで外部研修へ多数参加し、園全体では「構成論」について研修を受け、学びを深めた。

3. 地域における公益的な取り組み

保育実習を2名、ボランティアは2名、地域に学ぶ中学生・体験活動週間「トライやる・ウィーク」として6名を受け入れた。地域の乳幼児親子と在園児が子育て支援プログラムに参加し、交流の場を持った。

【数値実績】

①歳児別入所保育児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	108	9.0
1歳児	24	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	299	24.9
2歳児	25	25	25	25	25	24	24	25	25	25	25	25	298	24.8
3歳児	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	300	25.0
4歳児	23	23	23	23	23	22	22	23	23	22	22	22	271	22.6
5歳児	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	300	25.0
合計	131	132	132	132	132	130	130	132	132	131	131	131	1576	131.3

②保育日数及び出席状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ人数	2248	2225	2415	2354	2031	2207	2441	2276	2305	1900	2119	2223
保育日数	24	24	26	25	26	24	25	24	24	23	22	26
一日平均	93.7	92.7	92.9	94.2	78.1	92.0	97.6	94.8	96.0	82.6	92.1	88.9
一時保育	89	76	64	66	80	87	94	93	88	94	85	89

③職員数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19
看護師	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
パート	17	17	17	17	17	17	18	18	18	18	18	18
計	39	39	39	39	39	39	40	40	40	40	40	40
調理(委託)	7	7	7	7	7	7	7	7	7	6	6	6

御殿山児童館

御殿山児童館は2003年に設立し、2023年で開館20年を迎えることができた。専任の館長を立て、気持ちを新たに運営に取り組んだ。児童館では、子育て支援、児童健全育成の両輪を基に、プログラムの実施、子どもたちの居場所作りを行った。子育て支援プログラムでは、子育ての大変さや、悩み等を共有しつつ、子育ての楽しさを伝えることを大切に、“仲間づくり”を行うことができた。また、個別に支援が必要な親子について職員間で共有し、きめ細かく接することを心がけ対応した。児童健全育成プログラムでは、“体験”をキーワードに、異学年交流や、仲間づくり、自主性を育てる様々なプログラムを実施した。年長児童健全育成プログラムでは、“サードプレイス”として児童館を第3の居場所としてもらえるように働きかけた。毎週木曜日実施の「中高生タイム」では、「自分で生きる力」を目標にクッキングを再開、調理や、防災を学ぶことができた。また、学校が異なる先輩と後輩が仲良くなり、受験や進路の話、学校の話などで自然と仲間づくりができるよう環境の整備を行った。様々な感染症が流行する中ではあったが、来館者も2022年度より大幅に増え、安心して過ごせる“地域の居場所”としてとして認識されてきたと感じる。

【事業・運営状況】

1. 地域との連帯の強化

(ア) 地域との関わりを深め、協力体制をとれるよう地域の会議に参加し、児童館での利用者の様子や気になる親子・児童についての情報共有と連携に努めた。

2. サービスの質の向上

(ア) 来館者が安心して遊ぶことができるよう、感染防止対策を講じ、環境作りを考えた。

また安全管理と事故等、有事の際に備え新規利用者は緊急連絡先等を登録し、管理を行った。

(イ) 乳幼児親子を対象とした子育て支援プログラムは、より成長に合わせたプログラム内容とし、発達年齢に応じた遊びや仲間作り活動を提供し「子育て」・「親育て」を支援した。

(ウ) 小学生を対象にした集団あそび支援プログラムについては、異学年との交流や体験ができるような仕掛けを考え仲間作りを行った。

(エ) 中高生を対象にした居場所づくり推進事業では、中高生クッキングを再開し、先輩、後輩の垣根を越えたかかわりができた。

(オ) 出前児童館事業として、児童館が近隣にない地域に出向き、地域住民のより身近な居場所作りと、地域の子育て力の向上に繋がるよう遊びのノウハウの提供や安全管理の指導を行った。

(カ) 利用者の声をより集められるように意見箱を設置した。寄せられた意見は職員会議等で共有し、検討が必要な案件は話し合いをして対応した。

3. 職員の資質向上

(ア) 宝塚市児童館交流研修に参加し、技術や実施プログラムの内容の向上に努めた。

(イ) 児童館事業に携わる職員全員が同じ方向性で取り組んでいけるように、月1回の職員会議や担当（乳幼児・小学生・中高生）ごとの部会を行い、話し合いの機会を持った。

4. 地域における公益的な取組み

(ア) 地域に学ぶ中学生・体験活動週間「トライやる・ウィーク」では3校11名を受け入れた。市内中学校に乳幼児親子が出向き、中学生に赤ちゃんに触れ合う機会を設け、延べ20組の親子が中学校を訪問し生徒との交流を行った。

【延利用者数】

	就学前	小学生	中学生	高校生	こども計	他大人	大人計	合 計	開館日	一日平均
4 月	543	643	183	17	1386	90	427	1813	24	75.54
5 月	490	510	150	9	1159	78	398	1557	24	64.88
6 月	649	483	154	9	1295	104	475	1770	25	70.80
7 月	605	1192	145	13	1955	124	588	2543	25	101.72
8 月	503	1262	193	20	1978	71	482	2460	24	102.50
9 月	759	615	139	2	1515	94	531	2046	24	85.25
10 月	1055	553	126	8	1742	156	636	2378	25	95.12
11 月	1030	760	134	0	1924	164	634	2558	24	106.58
12 月	890	871	125	2	1888	161	548	2436	24	101.50
1 月	874	595	93	2	1564	131	585	2149	23	93.43
2 月	1007	571	107	14	1699	142	659	2358	23	102.52
3 月	1053	843	153	10	2059	134	688	2747	25	109.88
計	9458	8898	1702	106	20164	1449	6651	26815	290	92.47

【出前児童館回数・利用者数】

	常 設 型				派 遣 型				イベント
	回数	就学前	小学生	大人	回数	就学前	小学生	大人	回数
4 月	8	71	0	64	3	2	0	2	0
5 月	8	52	0	50	3	2	72	2	0
6 月	7	76	0	69	5	3	141	3	0
7 月	8	76	1	72	4	2	41	2	0
8 月	7	51	0	48	3	3	0	3	0
9 月	7	66	0	63	4	4	27	4	0
10 月	8	93	0	87	5	5	85	5	0
11 月	7	59	0	64	5	3	75	3	0
12 月	8	93	0	92	4	4	44	3	0
1 月	6	63	0	60	4	6	23	6	0
2 月	7	76	0	78	5	7	35	7	0
3 月	8	116	0	108	4	11	34	8	0
計	89	892	0	855	49	52	577	48	0

高齢者公益事業部

浜名湖エデンの園は2023年5月1日に開園50周年を迎えた。記念式典には入居者、関係者とともに当事業部の全施設長が出席し、これまでのエデンの園の歩みを振り返り、存在意義、あるべき姿について改めて考える場とすることができた。浜名湖エデンの園をはじめ、各施設では開設50周年を祝う各種行事を開催した。

2023年5月8日以降、新型コロナウイルス感染症は感染法上の位置付けが5類に移行した。各施設では行事等を再開してコロナと共存する施設運営により、入居者、職員、関係者とのコミュニケーションの回復に努めたものの、コロナ前のエデンの園に戻るのには容易ではなく、各施設で感染対策とのバランスを考慮しながら試行錯誤する年度となった。

入居者募集では、広告出稿、中小規模のセミナー、個別見学会・相談会等を組み合わせた募集活動を推進し、直営施設はほぼ予算どおりの契約件数、契約金額となった。2023年度から東京都住宅供給公社より受託した明日見らいふ南大沢の入居者募集業務は目標に未達だったものの、エデンの園の募集ノウハウと組み合わせて、2024年度以降につなげる。

人材の採用・育成・定着では、採用力を強化するため事業部の採用ホームページを改修した。また、職員の定着率を高めることを目的として、ノーリフトケア®の導入に着手した。

サービスについては、各施設で見守りシステムのデータを活用したケアを実践した。浦安エデンの園では外部の専門家による接遇研修を通年でを行い、フロントサービスの質向上に取り組むことができた。

介護ロボット、AI（人工知能）を活用した新しい働き方を創造するため、テクノロジー検討会を開始した。職員の負担軽減をはかるため計画的な取組みをしていきたい。2025年度着工予定の宝塚エデンの園の建替え工事は、計画的に準備を進めることができた。

1. 聖隷理念の継承とエデン価値の進化

聖隷の理念、事業部の運営方針の浸透をはかり実践につなげるため、事業部長及び運営管理部長が各施設の役職者と対話形式による意見交換会を行った。

エデンの園開園100周年を迎えることができるよう、継承と進化を続けたい。

2. 経営の安定と永続性の確保

2023年10月から宝塚エデンの園、藤沢エデンの園一番館・二番館、2024年1月から浦安エデンの園の食費を改定した。引き続き物価高騰、人件費増を見据え収支均衡策を立案・実践し、健全な事業運営を確保したい。

入居者募集では、エデンの園開園50周年を積極的に広報して募集活動に活かし、入居契約は、契約件数142件、契約金額約44億9千7百万円となった。

2024年度の医師働き方改革に対応するため、医師の宿日直許可を取得し、医療サービス提供体制を整えた。2023年10月には外部の専門家を招聘し、全施設の施設長及び担当者が自然災害のBCP（業務継続計画）の机上型シミュレーション訓練に参加し、防災対策の強化をはかった。BCPの訓練は2024年度以降も継続する。

運営管理部に新たに 3 施設の給与・社会保険業務を集約した。2024 年度内に全施設の集約完了をめざす。

3. 人材の採用・育成・定着の強化

事業部の採用ホームページを改修して、求職者が「ここで働いてみたい」と思えるよう、給与を含めた処遇に関する情報を掲載した。各施設の運営管理課長が職員採用強化策を策定し、年度を通じて取組みを行った。採用活動量を増やすこと、対応スピードを上げることが今後の課題である。

健康経営を推進するため、外部の専門家によるカウンセリング体制を整えたほか、事業部として健康経営推進指標をまとめ、職員の働きやすさを数値で客観的に把握できるようにし、施設間の比較、経年変化を見える化した。

4. サービスの質・安全・効率の向上

特定施設入居者生活介護の相互監査を 6 施設で実施し、法令に基づき適切にサービスが提供できているか監査するとともに、互いの運用を学びあう場とした。

ETS2020（業務基幹システム）は、介護度別のサービス量を見える化する機能の実装が完了したため、2024 年度はこの機能を活用して、ケアの業務改善と質向上に取り組むたい。

見守りシステムは、定例会で各施設の運用・ノウハウを共有しながら、入居者の睡眠の質向上のため夜間巡視の適正化をはかるなどの成果を得ることができている。2024 年度以降は、見守りシステムと LIFE（科学的介護情報システム）のデータを連携して AI を活用し、看取りケア、転倒リスクの評価等につなげたい。

5. 新しい時代に向けた先駆的・開拓的な事業の発想

介護ロボット導入や DX 化（デジタル技術を活用し、業務改革等を推進すること）を計画的に推進するため、テクノロジー検討会を開始した。AI が勤務表を自動作成するシステムを 8 施設で導入し、勤務表作成の負担軽減を実現した。

6. 地域における公益的な取り組み

SDG s としての活動を念頭に置き、介護フェスタ、認知症講演会、地域の清掃活動、共同防災訓練等を継続している。能登半島地震では、介護職員計 5 名が被災地で支援活動に従事した。

【数値実績】

（直営施設）		浜名湖	宝塚	松山	油壺	浦安	横浜	藤沢 1	藤沢 2	計
目標件数		28 件	12 件	16 件	30 件	13 件	18 件	17 件	0 件	134 件
募集実績		36 件 45 名	12 件 14 名	24 件 27 名	28 件 35 名	11 件 15 名	18 件 18 名	12 件 14 名	1 件 1 名	142 件 169 名
入居率	期首	93.5%	85.8%	80.8%	94.6%	95.1%	80.0%	97.6%	82.0%	91.1%
	期末	96.7%	82.6%	91.1%	95.3%	93.3%	88.0%	98.1%	80.0%	92.1%

介護付有料老人ホーム 浜名湖エデンの園

開園 50 周年を迎えた 2023 年度は、5 月 1 日の開園 50 周年記念式典を皮切りに各種記念イベントを開催し、年間を通して華やかな空気に彩られた。青木善治理事長、元高齢者公益事業部長の長谷川新氏、静岡大学名誉教授の小和田哲男先生にそれぞれ特別講演をお願いし、いずれも 50 周年記念に相応しく入居者に大変喜ばれた。新型コロナウイルスが 5 類感染症へ移行したことから 4 年ぶりに飲食を伴うビアパーティーや納涼祭を開催でき、その他のイベントやコンサート等においても介護居室の入居者も多数参加できるよう趣向を凝らし、入居者と職員が笑顔溢れる時間を共有した。そのような中で、新型コロナウイルスやインフルエンザの感染者は若干発生したが、園内での大規模な感染拡大はなく、入居者の協力も得ながらリスク管理ができた一年であった。

サービスにおいては、「入居時から看取りまでその人らしく」を実現するために、各種カンファレンスを全職種の職員で実施し、入居者参加型の実施が増えたことでより個人の意向を反映したサービスが提供できる体制作りにつながった。また、介護予防においては外出やお散歩企画を増やしたり、パーソナルトレーニング（個別指導）を充実させることができた。

経営面では、エネルギーや物価の高騰と共に人件費も高騰し苦しい局面もあったが、電力会社の電気料金の据置と、期首より産休・育休者が多いことに加え想定外の退職者が複数人出たことで、水光熱費と人件費は大きな予算差異を生んだ。厳しい職員配置となり特に看護・介護職員への負荷は大きかったが、全職員の協力体制によりサービスの質を落とさず乗り切った。ただしこの人件費や全ての物価高騰は今後の経営に大きな影響を及ぼすことは必至であり、入居率 95%超を誇っても診療所を含めた当園の決算は黒字化が困難と判断し、新棟の建替工事を境に入居時期で差異のあった入居者の管理費を 2024 年 4 月から高い方に一律揃えることに決定した。2023 年度の決算は予算に対し有料老人ホーム会計で約 3,500 万円、診療所会計で約 390 万円、合計で約 3,890 万円の赤字削減ができ、予算を達成できた。

公益事業は例年の地域の清掃ボランティアや自治会への会議室無料提供の他、放課後等デイサービスと繋がりができたことで相互利益が実現した。

1. 個人の意思を尊重したエデンオリジナルサービスの確立と実践

- (ア) 入居者参加型のカンファレンスの回数を増やし意見交換ができた。
- (イ) 2022 年度からの継続目標である入居者情報の一元化は着実に進んでいる。
- (ウ) サービスの「適正化」の評価基準が難しく、評価について不十分だった。

2. 次世代を担う人材育成とキャリアを活かして働き続けられる職場づくり

- (ア) 50 周年記念講演もあり、理念の認識がより深まった。
- (イ) 2023 年度は人員が減少し、OJT や e-ラーニング等活用が職員教育の主となってしまった。
- (ウ) 「見守りシステム」「泡シャワー」「ミラバス」等、職員の負担を軽減する機器を導入した。
- (エ) 障がい者 1 名を採用することができた。

3. 安定した経営基盤の確立と事業の永続性の確保

- (ア) 「事業運営計画」の理解は進んだとを感じるが、全職員の参画は継続目標とする。
- (イ) 「全職員が入居者募集担当」の意識のもと入居率は目標の 95%に到達し 96%を超えた。
- (ウ) 課の役割分担や業務整理が進んだだけでなく、効果的に業務連携ができた。

4. 安全管理の徹底を図ったサービスの提供

- (ア) 各種感染症の単発的発生はあったが園内感染拡大は防ぐことができた。
- (イ) コンプライアンスに関する集合研修を実施し委員会においても適宜事象の確認ができた。
- (ウ) 実際に即した訓練の実施に加え BCP の教育・訓練の重要性を再認識した。
- (エ) 感染関連の備蓄品を増やした。また、停電対策備品の追加購入を行った。

5. 入居者と共に取り組む「新しい浜名湖エデンの園」づくり

- (ア) 開園 50 周年の特別企画は好評だったが一泊旅行は最少催行人員に届かず中止となった。
- (イ) トレーニングルームの大型テレビによる準備運動の映像化を開始した。
- (ウ) 感染症予防のため実施できていなかった飲食を伴うイベントの開催ができた。

6. 地域における公益的な取組

2018 年度に登録した「浜松市ささえあいポイント事業」のボランティア受入施設を継続した。放課後等デイサービスで使用する物品の製作・寄付に入居者が意欲的に取り組み、デイサービスの活動支援と子供たちの喜びに繋がる活動となった。

【数値実績】

表 1：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	415 戸（84 戸）	176 名	323 名	499 名

表 2：地域別契約状況

	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	計
人数	1 名	0 名	58 名	418 名	18 名	2 名	0 名	2 名	499 名
構成比	0.2%	0.0%	11.6%	83.8%	3.6%	0.4%	0.0%	0.4%	100.0%

表 3：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	35 名	71 名	90 名	105 名	79 名	76 名	28 名	15 名	0 名	499 名
構成比	7.0%	14.2%	18.0%	21.1%	15.9%	15.2%	5.6%	3.0%	0.0%	100.0%

表 4：平均年齢

平均	男性	女性
81.7 歳	79.9 歳	82.6 歳

表 5：入・退去状況

	入居	退去	(死亡退去)
男性	22 名	8 名	(7 名)
女性	23 名	19 名	(16 名)
計	45 名	27 名	(23 名)

表 6：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合 計	内 訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	133 名	29 名	9 名	39 名	15 名	19 名	17 名	5 名
期末人数	125 名	24 名	11 名	33 名	17 名	18 名	16 名	6 名
月平均人数	131.0 名	26.1 名	8.7 名	37.1 名	17.3 名	20.4 名	15.8 名	5.8 名

表 7：職員数

職員数（常勤換算）	129.3 名
-----------	---------

ウェル・エイジング・コミュニティ 宝塚エデンの園

2023 年 5 月に新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが 5 類に移行され、社会・経済活動が活性化されつつある中、当園においても多くの交流が深められる催し等を開催し、人と人との繋がりを大切にするエデンのコミュニティに活気をもたらすことができた。

建替え計画を推進していくため、住替え・仮住いの要望や不安・心配事などをお聞きするため全ての入居者に 1 回目の戸別訪問を行った。入居者がどの職員にも相談できる「全員コンシェルジュ」を目指すことに加え、建替えを含めた不安や心配事を軽減できるよう精神対話士の専門相談窓口を開設した。

職員の成長や職員間の連携を強化促進するため、上司と部下を始めとした職員間の「対話」の総量を増やすことに重点を置いた取組を行った。

自然災害の頻発・激甚化への対応は急務であり、4 年ぶりに入居者参加型の防災訓練を実施するとともに能登半島地震を教訓に確保すべき備蓄品の見直しを行った。

昨今の資源価格の上昇、原材料価格等の高騰が続き食堂運営に大きな影響を及ぼしたため、10 月より食費を改定させていただいた。また、医師の働き方改革により診療所宿日直体制の維持が難しい局面を迎えたが、監督官庁の許可を得ることで体制を維持することができた。今後もインフレ状況は続くと予想される。2023 年度の取組を各部署・各職員においてしっかりと振り返り、入居者の協力のもと職員一丸となりこの厳しい経営環境を乗り越えていきたい。

1. 入居者満足度の向上

- (ア) 入居者がどの職員にも相談できる「全員コンシェルジュ」を宣言し周知した。
- (イ) 「食べたくなる」「健康になる」食事提供を目指し、PR 動画の配信やベジチェックを導入した。
- (ウ) 情報発信を強化するため、館内テレビ放送のプログラム配信体制を整えた。
- (エ) 建替え計画に伴う不安や心配事軽減の一環として精神対話士専門相談窓口を開設した。

2. 職員満足度の向上

- (ア) 職員間の「対話」量を増やすために 1on1 ミーティング（1 対 1 の対話）を推進した。
- (イ) 部署間連携強化の一環として相互研修を企画したものの実施に至らなかった。
- (ウ) 人材確保策の一環として本部採用センターとの連携強化により採用力を高めた。
- (エ) 健康経営の取組一環としてストレスチェック組織分析後のアクションプランの策定及び実施を各部署において実施した。
- (オ) 売店の POS システム化による在庫管理、請求業務の効率化を図った。

3. 安定した経営基盤の確立

- (ア) これまでの収益構造を再点検し中期的収益構造改革の立案を行った。
- (イ) 診療所医師の宿日直勤務について労働基準監督署の許可を受け、体制を維持した。
- (ウ) 他法人との合同セミナーや見学会等新たな入居者募集活動を実施した。

4. 安全・安心な暮らしの提供

- (ア) 4年ぶりに入居者参加型の実践的防災訓練（地震、土砂災害）を実施した。
- (イ) 現実に即した行方不明対応訓練を実施した。
- (ウ) 防災訓練に合わせて防災フェアを開催し、入居者への啓発活動を実施した。
- (エ) リスク、苦情への迅速な対応を行うとともに管理者及び各部署での共有を図った。

5. SDGs としての活動を念頭においた、地域における公益的な取組

- (ア) (イ) 文化教養講座やコンサート、婦人科検診、介護予防講座などを地域住民に開放し、参加いただいた。
- (ウ) サステナブル活動の一環として、廃食用油のリサイクルや職員間でのリサイクル交流企画を企てたが実施に至らなかった。

表 1：契約状況

(2023 年度期末)

	戸数（複数入居）	男性	女性	一般居室	介護居室	計
人数	337 戸（43 戸）	91 名	289 名	296 戸/339 名	41 戸/41 名	380 名

表 2：地域別契約状況

	近畿	関東	東海	甲信越	中国	北海道	北陸	四国	九州	計
人数	326 名	24 名	16 名	2 名	5 名	1 名	2 名	4 名	0 名	380 名
構成比	85.8%	6.3%	4.2%	0.5%	1.3%	0.3%	0.5%	1.1%	0%	100.0%

表 3：年齢構成

(単位：名・%)

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	29 名	70 名	97 名	78 名	53 名	32 名	12 名	9 名	0 名	380 名
構成比	7.6%	18.4%	25.5%	20.5%	13.9%	8.4%	3.2%	2.5%	0%	100.0%

表 4：平均年齢

表 5：入・退去状況

平均	男性	女性
84.1 歳	82.3 歳	84.6 歳

	入居	退去	(死亡退去)
男性	4 名	7 名	(7 名)
女性	10 名	27 名	(25 名)
計	14 名	34 名	(32 名)

表 6：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合 計	内 訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	102.3 名	23.5 名	7.8 名	32.1 名	13.0 名	16.0 名	6.9 名	3.0 名
期末人数	110.4 名	23.0 名	8.0 名	34.3 名	16.7 名	17.7 名	8.0 名	2.7 名
月平均人数	97.5 名	21.2 名	9.8 名	26.4 名	17.3 名	12.7 名	8.0 名	2.0 名

表 7：職員数

職員数（常勤換算）	127 名
-----------	-------

介護付き有料老人ホーム松山エデンの園

2023 年度、松山エデン園ではコロナウィルスが 5 類に移行後、行事やサークル活動の再開により以前のような楽しみの機会を増やすことができた。ハード面では施設も 43 年目に入り所々老朽化が見られたため、壁面の補修工事、自動扉の新設、ロビー改修など計画修繕により環境整備を行う事ができた。運営面では新規契約者数、入居率ともに予算を上回ることができ、収支改善に繋がった。

2024 年度は引き続き入居募集を積極的に行い、入居率の向上と収支改善に取り組みたい。サービス面では、介護現場での ICT 化を推進し安心安全な介護を提供するとともに、生産性向上のための業務改善を各課で取り組みながら職員が働きやすい職場環境作りを行っていききたい。

1. 入居募集と経営の安定化

- (ア) 新規契約戸数 16 戸 18 名に対し 24 戸 27 名、入居率 85%に対し 90.4%と達成した。
- (イ) 医療依存度の高い検討者も受け入れることにより介護居室直接入居の目標 6 戸に対し 8 戸を達成した。
- (ウ) 食材等の高騰に対し仕入れ業者の見直しを行い、食材比率 50%をキープしながら、喫食率の向上にも繋がった。特に昼食は目標 56%に対し 62%まで向上した。

2. 人材の育成

- (ア) 短時間勤務の職員教育に力を入れ定着に繋がった。
- (イ) ラダーを活用した OJT を実践していくことは不十分であった。
- (ウ) 職員の強みを活かした委員会等の役割を持ってもらうことで、勉強会や行事の運営など主体的に行動できる職員が増えた。

3. よりよいサービスの提供

- (ア) 1 つの課に偏っていた行事運営を全課で取り組む事ができた。
- (イ) 見守りシステムを活用し、夜間の巡視回数の見直しや睡眠時間の確保ができるなど入居者に負担のかからないケアが行えるようになった。
- (ウ) 満足度調査やアンケートを行いながら、入居者の意見を取り入れたボランティア活動やレクリエーションの実施ができた。
- (エ) エデンで一番おいしい食事の提供を目指したが、料理対決で賞はもらえなかった。

4. 安心安全な施設環境作り

- (ア) 防災、感染の BCP は作成したが、引き続き見直しと訓練が必要である。
- (イ) コロナウィルス感染者は散発したが、集団感染には至らなかった。
- (ウ) 共用部のエアコン更新や園内外の設備を計画的に更新できた。

5. 地域における公益的な取組

- (ア) ペットボトルのキャップを社会福祉協議会に定期的に提供できた。
- (イ) 社会福祉協議会が行う認知症理解啓発事業の一環であるオレンジガーデニングプロジェクトに入居者と参加し、ガーデニングと花の提供を行った。

【数値実績】

表 1：契約状況 (単位：名)

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	132 戸（18 戸）	44	106	150

表 2：地域別契約状況 (単位：名・％)

	四国	近畿	関東	東海	九州	中国	計
人数	123	10	4	7	1	5	150
構成比	82	6.6	2.7	4.7	0.7	3.3	100.0

表 3：年齢構成 (単位：名・％)

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	11	35	23	40	16	9	12	4	0	150
構成比	7.3	23.3	15.3	26.7	10.7	6.0	8.0	2.7	0	100.0

表 4：平均年齢 (単位：歳)

平均	男性	女性
83.41	82.66	83.73

表 5：入・退去状況 (単位：名)

	入居	退去	(死亡退去)
男	5	6	(4)
女	22	5	(5)
計	27	11	(9)

表 6：介護保険利用者（介護保険請求者数） (単位：名)

	合 計	内 訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	50	14	3	8	10	7	3	5
期末人数	51	11	6	12	7	5	4	6
月平均人数	49.3	11.8	3.8	9.9	8.7	6.4	4.6	4.1

介護付有料老人ホーム 油壺エデンの園

2023 年度は基本的感染対策を継続しながら、コロナ禍前の運用に戻すことを前提に、一步前進するように目標に取り組んだ一年であった。長期にわたるコロナ禍により、入居者への情報提供も十分にできていなかったという課題から、生活援助サービスから介護サービス、看取り、そして退去に関する諸手続きまでの全 5 回シリーズで介護サービス説明会を開催、うみかぜテレビも活用し、多くの入居者（会場での視聴者延べ 406 名）に園のサービスを改めて知っていただく機会となり、定期的な情報提供の大切を実感した。

サービスについては、ケアサービス向上を目的に一時介護室を含む介護居室全室に見守りシステムを導入し、データの活用によりケアサービスの向上につながった。園内の各種行事は一部形式を変えるなどの工夫で再開ができ、入居者と職員が交流する時間も増えた。また、医師の働き方改革を見据え、附属診療所の医師の体制維持を整えることができた。

入居募集活動では、入居者の協力のもと食事モニターによる園食のアピール、セミナーの再開、丁寧な個別見学対応を行ったものの、予算未達であった。今後も光熱費の高騰、食材費の上昇など、厳しい経営状況は続くものと予測しているが、運営面も含め、入居者がその人らしく暮らせるよう、2024 年度を努めたい。

1 安心、安全を基盤としたサービスの質向上

- (ア) 入居者の意向も尊重しながら状態変化をケア会議等で情報共有と検討を行い、生活の質を向上させるためのサービスにつなげた。
- (イ) 基本的感染対策の徹底と発生時の適切で落ち着いた対応を行うなど、感染拡大に至らなかった。感染症 BCP の継続した訓練と、内容の見直しは継続が必要である。
- (ウ) 見守りシステムを導入、安定稼働により、ケア検討の際のデータ活用が定着した。
- (エ) 外出行事、秋祭り、クリスマスパーティー、クラブ発表会などの行事再開を実践した。
- (オ) ご当地メニュー、お米フェア等に取り組んだが、喫食率アップにはつながらなかった。
- (カ) 委員会、各課で接遇に関する課題点の改善等に取り組んだが、今後も継続課題である。
- (キ) 発生した事象の振り返りから、課題は小さな気づきを丁寧に取り扱うことを再認識した。

2 自ら考え行動できる職員の育成

- (ア) 各種研修で職員が講師を務める機会を増やしモチベーションアップにつなげた。
- (イ) 係長が企画し、各課の中堅職員 5 名を対象に育成研修と他課との交換研修を実施した。
- (ウ) 事前の職場見学・業務内容の説明を丁寧に行うなど職員募集活動を実践した。
- (エ) 職場内外の検討会を増やし、個々の役割を明確することでスキルアップにつなげた。

3 安定した施設運営・経営

- (ア) 光熱費の高騰、物価の上昇が影響し施設会計改善には至っていない。
- (イ) 1・2 号館の建物改修工事、介護共用棟エレベーター更新工事等の計画修繕を実施した。
- (ウ) 介護サービスへの適切な移行は行ったが、介護保険収益は予算未達であった。
- (エ) 基本チェックリストの実施により、介護予防活動参加の促しを継続した。
- (オ) 外部病院からの退院時の積極的受け入れを行ったが、予算未達であった。

4 SDGs を意識した環境・省エネへの取組みと地域との関わり

- (ア) 感染対策の継続と夏の暑さにより、省エネには至らなかった。
- (イ) 地域の子ども食堂等へ消費期限間近の備蓄食料を寄付した。
- (ウ) 働きやすい職場環境整備は継続課題である。
- (エ) 障がい者雇用の促進、及び高齢者雇用を継続した。
- (オ) 三浦市協力のもと介護フェスタ開催で20名を対象としたフレイル測定を実施した。

5 災害時の対策、防災教育の徹底

- (ア) 自然災害発生時のBCPの机上訓練を実施したが、精度を上げることが今後の課題である。
- (イ) 緊急放送の課題改善のため、ナースコールシステムを利用した訓練を実施した。
- (ウ) 三浦市との地域防災協定を継続している。

6 その他の公益的事業について

- (ア) 三浦市のフレイル事業（8回）にフレイルサポーターとして職員延べ8名を派遣した。

【数値実績】

表1：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	404名（90名）	171名	323名	494名

表2：地域別契約状況

	関東	近畿	東海	九州	信越	四国	北海道	中国	東北	外国	計
人数	454名	13名	16名	1名	6名	0名	1名	0名	2名	1名	494名
構成比	91.9%	2.7%	3.2%	0.2%	1.2%	0.0%	0.2%	0.0%	0.4%	0.2%	100.0%

表3：年齢構成

	95以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60未満	計
人数	44名	82名	102名	94名	70名	58名	37名	6名	1名	494名
構成比	8.9%	16.6%	20.6%	19.0%	14.2%	11.7%	7.5%	1.3%	0.2%	100.0%

表4：平均年齢

平均	男性	女性
82.8歳	80.9歳	83.8歳

表5：入・退去状況

	入居	退去	（死亡退去）
男	16名	11名	（11名）
女	19名	20名	（17名）
計	35名	31名	（28名）

表6：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合 計	内 訳						
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
期首人数	142名	20名	23名	37名	17名	10名	21名	14名
期末人数	137名	19名	23名	39名	15名	11名	19名	11名
月平均人数	133.0名	18.5名	20.1名	37.4名	13.6名	12.4名	18.7名	12.3名

表7：職員数

職員数（常勤換算）	136.4名
-----------	--------

介護付有料老人ホーム 浦安エデンの園

2023 年度は、長期化するコロナ禍での心身の不活発な状態を改善するために介護予防活動を中心とした各種活動の充実に努めた。その一環として、入居者の活動や入居者同士のふれあいが増加することを目指し中庭の改修を行った。以前より中庭に出る通路が狭く勾配がきつい、ベンチが古いなどの意見が寄せられていたことに加え、水はけや樹木の老朽化などの課題を解決するための改修となった。出入り口の手すりや各所にベンチを配置することで、杖や歩行器使用の方でも安心して中庭の緑を楽しめる環境を整えた。散歩に出る方が増え介護予防活動につながることを期待している。サービスの質向上については、入居者の平均年齢が高くなり、必要とするサービスが多様化している状況に対応するため、職員の専門性向上や導入した介護機器等を積極的に活用しサービスの質向上に努めた。また、安心して相談できる窓口機能の向上に向け、外部講師による接遇力向上研修を実施した。入居者の利便性の向上のため、2023 年 7 月より収納代行サービスを導入し管理費引き落とし銀行口座を自由に選択できるようにした。また、入居者の日々の脚として運行している園バスの運行時間やルートについてアンケートを実施し、現状の運行で問題ないことが確認できた。リスク対策では、新型コロナウイルス感染症について、感染症法上の位置づけが 5 類移行後も安全への配慮のため感染症予防対策を継続しクラスターの発生を防ぐことができた。防災対策強化のため備品の見直しを行い、ポータブル充電機器や寒さ対策物品の購入など災害時の備えを強化した。

経営面では、物価や光熱費高騰の影響を受け、経営努力だけではレストランで提供する食事の質の維持が難しいと判断し、2024 年 1 月より給食料金の値上げを行った。食事の質の維持に努め、選ばれるレストラン経営を進めていく。安定した収益確保に向け、物価や光熱費高騰の影響を最小限にするための経費節減に取組み、サービス活動費用を抑えることができた。

1. 良質なサービスの追求

入居者サービスの幅を広げるため、各種相談会の充実に向け、コロナ禍以前に実施していた相談会の再開と入居者の要望の多かったスマホ、パソコン教室を新規に開始した。介護予防活動では、部屋でできる数独や漢字書き取りなどのプリントを自由に選び持ち帰れるよう週替わりで提供した。また、運動習慣を定着させる一助になればと口腔体操と座位で行う体操の DVD を作成しひのでチャンネルでの放送を開始した。

2. 働きがいのある職場風土の醸成

職員のスキルアップのため、看護・介護職のオンライン研修システム e ラーニングや外部研修の活用や個人の目標管理を実施し専門性の向上に向けた支援を実施した。各職場で業務改善の取組みや職員アンケートの結果をもとに働きがいのある職場風土の醸成に努めた。

3. 安心・安全な施設づくり

隣接するマンションの放火事件を機に園の防犯体制を見直し、防犯カメラの増設や中庭通用口のカードキーの導入等を実施した。また、老朽化に伴う設備更新を計画的に実施しエントランス屋根などの改修に着手した。災害時及び感染症発生時の BCP（事業継続計画）を策定し、有事の際に入居者の生活が確保できるよう訓練を実施した。

4. 安定した施設経営の実現

積極的な募集活動を展開し入居率向上に努めた。結果は新規契約件数 11 件と目標件数 13 件には届かなかったが、空室なしの状況となっており迅速な募集活動を継続する。喫食率向上については、様々な取組みを行ったが結果に結びつかなかった。今後も更なる取組みを検討していく。環境・省エネへの取組みについては、厨房を中心に節電につながる機器の更新や増築棟廊下の照明点灯プログラムを更新しタイマー制御を導入した。

5. 地域における公益的な取組み

保育園との津波・高潮時の避難場所提供の協定の継続、学童クラブとの季節ごとの交流を継続した。また、地域交流のため、近隣大学からの学生実習の受け入れ回数を拡大した。新たな取組みとしてフードドライブを実施し、入居者からの寄付物品を地域に生かすことができた。また、地域の子ども食堂への消費期限間近の災害備蓄食品の寄付を継続し地域貢献に努めた。

【数値実績】

表 1：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	209 戸（35 戸）	83 名	161 名	244 名

表 2：地域別契約状況

	関東	近畿	東海	九州	中国	東北	北陸	計
人数	227 名	7 名	2 名	2 名	0 名	5 名	1 名	244 名
構成比	93.0%	2.9%	0.8%	0.8%	0.0%	2.1%	0.4%	100.0%

表 3：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	24 名	32 名	63 名	54 名	42 名	21 名	6 名	2 名	0 名	244 名
構成比	9.9%	13.1%	25.8%	22.1%	17.2%	8.6%	2.5%	0.8%	0.0%	100.0%

表 4：平均年齢

平均	男性	女性
84.2 歳	82.0 歳	85.3 歳

表 5：入・退去状況

	入居	退去	（死亡退去）
男	8 名	10 名	（9 名）
女	7 名	8 名	（6 名）
計	15 名	18 名	（15 名）

表 6：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合 計	内 訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	69 名	15 名	10 名	17 名	6 名	5 名	7 名	9 名
期末人数	71 名	15 名	14 名	16 名	7 名	6 名	5 名	8 名
月平均人数	69.2 名	15.4 名	12.6 名	16.5 名	6.1 名	5.1 名	5.8 名	7.7 名

表 7：職員数

職員数（常勤換算）	67.3 名
-----------	--------

介護付き有料老人ホーム 横浜エデンの園

2023年度はケアの在り方として、介護や医療が必要になっても「自分らしく暮らし続ける」ことを支えらえるケアの推進を掲げ、聖隷横浜病院との連携を図った。特に専門看護師や認定看護師による感染管理、緩和ケア、皮膚トラブルケア等の具体的なアドバイスは、入居者の安心できる暮らしを支える大きな要因になったと考える。また ICT 化や介護ロボットの導入により専門職が「人にしかできないこと」に注力できる環境作りと、業務改善や効率化・負担軽減に取り組んだ。AI による勤務シフト作成システムや動画マニュアルシステムの導入は、業務の効率化や負担軽減に加え、業務の「属人化」を解消することに繋がった。

入居者募集活動では、横浜エデンの園のケアの特徴を知ってもらう機会としてケアサービス課職員がセミナーで見守りシステムやリハビリテーション等の事例紹介をする機会を持った。平均入居率は目標達成には至らなかったが、新規入居者 18 件の獲得、年間を通して短期利用特定施設入居者生活介護の定期的な利用者確保ができた。

1. 「自分らしく暮らし続けられる」ことを支えるためのケアの推進

- (ア) 見守りシステムデータを活用し睡眠サイクルに合わせた排泄介助、巡視方法へ変更した。
- (イ) 聖隷横浜病院の医師、専門・認定看護師と連携を図り、タイムリーな支援が行えた。
- (ウ) 入居者が生き生きと暮らせる活躍の場や機会を持てる取組みとして、作品展の開催や入居者の強みをアクティビティで発揮できる関わりを持った。
- (エ) 入居者の個別性に応じたリスクマネジメントは、個人・環境因子に着目した原因分析・対策立案に課題が残った。
- (オ) 入居者満足度調査の結果に基づきアクティブティ、献立、食事の温度等改善を図った。

2. 働きがい重視した人材の採用・育成体制の構築

- (ア) 介護専門職のやりがいに着目したエデン版キャリアパスモデルを作成することができた。
- (イ) 役職者のマネジメント能力の向上をねらいに、キャリアパスモデル作成と運用イメージ化に取り組んだ。
- (ウ) 他施設、病院との学習会や共同研究の実施等による専門職育成は継続課題とする。
- (エ) デジタル技術を活用した教育ツールとして動画マニュアルシステムを導入した。マニュアルは動画で確認できるため業務前後の予習・復習が可能となった。
- (オ) 多様な働き方に対する雇用機会の創設として、短時間、介護補助業務、介護項目を限定して採用した。

3. 経営基盤の安定と持続性の確保を図る

- (ア) 平均入居率 95%を目標のところ 83%と未達であった。新規契約数は目標達成した。
- (イ) 入居検討者向けのセミナーでケアサービス課職員が見守りシステムやリハビリテーションの取組事例を紹介し、参加された方の具体的なイメージができたとの感想であった。
- (ウ) 稼働率・入居受け入れ期間を意識した速やかな受け入れ体制が取れるようになった。
- (エ) 短期利用特定施設入居者生活介護の実績 7 件 88 日で 1 件は緊急利用から入居に繋がった。

(オ) 感染症・自然災害に関する BCP に基づきシミュレーション訓練を実施した。

4. 新たなサービスの創造

(ア) AI による勤務シフト作成システム、動画マニュアルシステム等を導入した。

(イ) 完全調理品の導入、全国エデンの名産や郷土料理を献立に盛り込んだ。

(ウ) ICT 化やシステム導入した結果、導入時の準備や調整等に時間を要したものの業務改善や効率化を図ることができた。

5. 地域における公益的な取組み

(ア) 地域防災連携の構築については実施できず継続課題とする。

(イ) 社会福祉協議会と協同し地域住民向けの講座は実施できず継続課題とする。

(ウ) 入居相談時に介護相談窓口の機能を果たす取組として、募集職員や介護支援専門員は当園の入居適用外でも相談内容を聴き、適切な相談窓口を紹介することができた。

【数値実績】

表 1：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	44 戸（0 戸）	14 名	30 名	44 名

表 2：地域別契約状況

	関東	近畿	東海	九州	中国	東北	北陸	計
人数	42 名	1 名	0 名	0 名	0 名	0 名	1 名	44 名
構成比	95%	2.5%	0%	0%	0%	0%	2.5%	100%

表 3：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	7 名	19 名	9 名	5 名	1 名	3 名	0 名	0 名	0 名	44 名
構成比	16%	43%	21%	11%	2%	7%	0%	0%	0%	100%

表 4：平均年齢

平均	男性	女性
89.0 歳	89.8 歳	88.6 歳

表 5：入・退去状況

	入居	退去	（死亡退去）
男	11 名	6 名	（5 名）
女	7 名	9 名	（9 名）
計	18 名	15 名	（14 名）

表 6：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合 計	内 訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	42 名	1 名	2 名	6 名	12 名	5 名	6 名	10 名
期末人数	44 名	1 名	1 名	4 名	6 名	9 名	14 名	9 名
月平均人数	42.1 名	1.1 名	1.1 名	4.7 名	7.3 名	6.6 名	11.0 名	10.3 名

表 7：職員数・サービス活動収益

職員数（常勤換算）	47.4 名
-----------	--------

聖隷藤沢ウェルフェアタウン

2023 年度は新型コロナウイルス感染症の 5 類移行に伴い、入居者の生活や支援を見直す機会となった 1 年であった。園内生活の制限の緩和をはじめ、地域との交流、外出企画や季節行事等を新たな方法を模索しながら開催することができた。ICT 化の推進では、見守りシステムの増設、予約面会管理システムの導入、キャッシュレス化に向けたエアレジの設置等を行った。物価高騰や光熱費高騰に対しては、食事料金の改訂や愛光園の LED 化を図った。また、人材定着の一環として、職員休憩室のインターネット環境の整備や事業部と協力してハラスメント防止体制を構築できた。2024 年度は、複合施設ならではの施設全体が連携したサービス提供方法の見直し、住宅型有料老人ホームである一番館で少しでも長く暮らしていただけるように、2023 年度の取り組みをさらに前進させ、二番館や在宅部門との連携を強化していく。

1. より良いサービスの追求

感染対策を状況に合わせて柔軟に変化させ、外出企画や有観客でのコンサート等を開催した。また、二番館および愛光園で睡眠等の生活の質の改善等を目的とした見守りシステムの増設、予約面会管理システム、キャッシュレス決済導入に向けた AIR レジへの入れ替え等を行った。

2. 安心・安全の施設づくり

外部の専門家を招いて職員向けの各種訓練やマニュアルの見直しを実施した。また、感染症や自然災害に対する BCP の机上訓練を行った。2024 年度も災害に備えた訓練を継続して行い、有事に対応できる職員の育成、環境整備に取り組んでいく。

3. 安定した施設運営と持続性の確保

食材料費や水道光熱費の高騰に伴い、10 月に一番館・二番館・愛光園・デイサービスの食事料金を改訂した。また、愛光園全体を LED に切り替えた。今後も開設して 10 年以上が経過したため、計画的に設備更新や環境整備を進めていく。

4. 人材確保と職員育成の強化

休憩室等のインターネット環境の整備やパート職員の賃金引上げ等を行ったが、必要な人材を確保することは年間を通して困難を極めた。職員育成では、研修のグループワークを再開し、知識習得の促進を図ることができた。また職員向けのハラスメント研修や各種マニュアルの見直し・作成を行ったが、2024 年度も継続して取り組んでいく。

5. 地域社会における公益的な取り組み

2021 年度より参加している『フードバンク藤沢』の活動を継続し、食品の提供や搬送を行った。地域住民対象に家族介護者教室を、藤沢市より委託を受け 3 回開催することができた。

【藤沢エデンの園一番館】

契約金額は1年プランから終身プランへの切替が進み、予算額を超えることができた。2023年度の新規契約戸数は実績12件（予算17件）となったが、二番館への住み替えが進んでも入居率は98.0%を維持することが出来た。災害対策については、BCPの策定に伴い職員の机上訓練の実施、フロア毎の入居者向け「防災のしおり説明会」を開催した。

【数値実績】

表1：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	205（50戸）	89名	166名	255名
職員数（常勤換算）	48.7名			

表2：地域別契約状況

	関東	近畿	中部	九州	中国	東北	四国	計
人数	221名	7名	21名	0名	3名	2名	1名	255名
構成比	86.7%	2.7%	8.2%	0.0%	1.2%	0.8%	0.4%	100.0%

表3：年齢構成

	95以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60未満	計
人数	4名	34名	63名	69名	44名	34名	6名	1名	0名	255名
構成比	1.6%	13.3%	24.7%	27.1%	17.2%	13.3%	2.4%	0.4%	0.0%	100.0%

表4：平均年齢

平均	男性	女性
82.2歳	82.5歳	82.0歳

表5：入・退去状況 *退去数には二番館への住み替え数を含む

	入居	退去	（死亡退去）
男	8名	4名	（3）名
女	6名	3名	（2）名
計	14名	7名	（5）名

【藤沢エデンの園二番館】

2023年度は一番館からの住み替え者を10名、直接入居は1名を受け入れ、入居率は2023年度末に入居率80%となった。また、職員が働きやすい職場環境を構築のため、業務改善活動を行った。今後は見守りシステムなどのICTを活用し、入居者が安心して入居、住替ができるようサービス提供を行っていく。

【数値実績】

表1：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	40戸（0戸）	4名	36名	40名
職員数（常勤換算）	41名			

表 2：地域別契約状況

	関東	近畿	中部	九州	中国	東北	計
人数	35 名	0 名	4 名	1 名	0 名	0 名	40 名
構成比	87.5%	0.0%	10.0%	2.5%	0.0%	0.0%	100.0%

表 3：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	8 名	12 名	12 名	6 名	2 名	0 名	0 名	0 名	0 名	40 名
構成比	20.0%	30.0%	30.0%	15.0%	5.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

表 4：平均年齢

平均	男性	女性
89.5 歳	86.5 歳	89.8 歳

表 5：入・退去状況 *入居数には一番館からの住替数を含む

	入居	退去	(死亡退去)
男	2 名	5 名	(5) 名
女	9 名	7 名	(7) 名
計	11 名	12 名	(12) 名

表 6：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合 計	内 訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	40 名	0 名	1 名	8 名	12 名	7 名	4 名	8 名
期末人数	41 名	0 名	1 名	7 名	10 名	10 名	7 名	6 名
月平均人数	41.5 名	0 名	1 名	7.9 名	10.6 名	9 名	7.2 名	5.8 名

【藤沢愛光園】

2023 年度は 10 月に食事料金の値上げを行い収益増加に繋がったが、入所の退去が 34 名となり、稼働率は 95.9%にとどまった。短期入所においては、新型コロナウイルス感染症の影響はあったものの、稼働率 91.9%となった。2024 年度は介護報酬改訂に伴う体制の整備と見守りシステムの運用、ノーリフトケア®を進めていく。

【数値実績】

	特養入所		短期入所		合計
	既存	ユニット	既存	ユニット	
利 用 者 定 員	名	100 名	名	20 名	—
利用者延べ数	名	35,094 名	名	6,731 名	—
稼 動 延 日 数	366 日		366 日		—
一日平均利用者数	名	95.9 名	名	18.4 名	—
稼 働 率	%	95.9%	%	91.9%	—
単価 (1 人 1 日当り)	15,470 円		15,524 円		—
職員数(常勤換算)	65.2 名		15.1 名		80.3 名

【聖隷訪問看護ステーション藤沢】

2023 年度は、新規依頼が伸びず、赤字となってしまった。BCP の作成や研修は職場内で行うことができた。2024 年度は施設内のケアプランセンターとさらに連携を図り、迅速に新規受け入れができる体制や人材育成に取り組む。園内外の連携を強化し、質の向上に努める。

	月間 利用者数	月間 訪問数	年間 訪問数	単 価	職員数 (常勤換算)
実績	104.6 名	575.2 件	6,902 件	9,171 円	8.1 名

【聖隷ヘルパーステーション藤沢】

2023 年度は訪問介護記録システムを導入し、運用することができた。また、近隣の居宅支援事業所からの依頼もあり、新規利用者の獲得、訪問件数を増やすことができた。2024 年度は職員や登録ヘルパーの確保、育成に取り組んでいく。

	介護給付			予防・総合事業		自立支援		単 価			職員数 (常勤換算)
	月間 利用者数	月間 訪問数	年間 訪問数	月間 訪問数	年間 訪問数	月間 訪問数	年間 訪問数	介護給付 (回)	予防総合 事業(人)	自立支援 (回)	
実績	34.3 名	421.2 件	5,054 件	102.1 件	1,225 件	277.8 件	3,333 件	4,297 円	22,184 円	3,760 円	5.2 名

【聖隷ケアプランセンター藤沢】

2023 年度は新規利用者を継続して受け入れ、藤沢市やその他各市町村からの依頼で認定調査等の協力を年間通して行うことができた。また、市民センターを中心とする湘南大庭地区の拠点施設「ななつ星」に参加し、地域への意見交換会を定期的に行った。2024 年度は高齢化率の高い周辺地域の利用者に対して在宅生活支援のケアマネジメントを引き続き行い、エデンの園一番館の入居者に対して各部門と連携しながらスムーズな支援が行える体制の構築を目指していく。

	年間請求件数		単 価		訪問調査		職員数 (常勤換算)
	介護	予防・ 総合事業	介護	予防・ 総合事業	件数	単価	
実績	1,491 件	438 件	17,064 円	4,231 円	129 件	4,419 円	4.1 名

【聖隷デイサービスセンター藤沢】

利用者の在宅生活に沿った個別性の高い機能訓練を重視し、個別の機能訓練プログラムと歩行分析 AI ソフト「トルト」を連動させ、その機能評価を本人・家族に書面で渡して効果を実感することにつながった。2024 年度は現状を継続しながら、より効果的に機能し、利用者には選ばれるデイサービスとして発展していく。

	介護給付			予防・総合事業		単 価		職員数 (常勤換算)
	一日 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	介護給付(回)	予防総合 事業(人)	
一日	22.7 件	584 件	7,002 件	9.3 件	111 件	11,648 円	33,410 円	10.8 名
半日	2.8 件	71 件	855 件			7,258 円		

ウェル・エイジング・プラザ奈良ニッセイエデンの園

2023年5月に新型コロナウイルスが5類へ移行し、入居者の意向、感染リスクを鑑みながら慎重に生活における制限緩和とサービスの再開を検討した。4年ぶりの夏祭り開催が実現し、入居者、利用者、地域の方々が待ち望んでいたことを実感することができた。

また、地域イベント等も徐々に再開され、委員会活動等をつうじて地域貢献に寄与することができた。しかしながら事業の特性上、施設内における一時的な感染者の増加は避けることはできず、引き続き重症化予防へ力点をおいた方針を継続した。

安定した経営基盤の確立において、電気、燃料費の高騰の影響を危惧していたが、単価への補助制度および事業所への補助金交付が継続され最終損益における大きなプラス要素となったため、結果的に管理費見直し等の機運が高まらなかった。

開園30年を経過し顕在化した課題※に対し、解決に導く具体的な取り組みの検討について、「誰一人取り残さない、その人らしく最期まで支える体制」の構築のため、人生会議の対象者を一般居室入居者まで拡大した。また、要介護認定を受けていない入居者における、表面化しない生活や心理的な問題をキャッチできるきっかけ作りとして、職員からのアクション向上を目指し日常生活における接触頻度の可視化と介護予防室（仮称）の開設計画に着手した。

また、終末期における意向を尊重するための取り組みとして人生会議手帳を全入居者に配布し回収を継続している。（回収率約68%）

クリニックではベテルホームや在宅部門と連携し地域住民のレスパイト入院の受け入れを実現した。今後も地域医療のニーズに対応していく足がかりとしたい。

ベテルホームでは新型コロナのクラスター発生による減収もあったが、近隣リハビリテーション病院の病床再編の影響もあり、利用者数、収益ともに過去最高の実績となった。

一方、在宅部門では訪問介護事業の収支が苦戦するなか、訪問看護は順調に推移している。ベテルホームも含め、超高齢化が進む近隣市町村の社会情勢も一因と考えられる。

また、ケアプランセンターでは複雑化する社会課題に対しケアマネジャーに求められる役割が増大し、解決にむけた具体的な支援につなげる困難さが浮き彫りになっている。

ICT化においては、見守りシステムを介護居室、ベテルホームで導入（ベテルホームは試験運用中）。業務効率化をケアの質へとつなげる下地が整備された。3月にはクリニックに電子カルテを導入。当初は多少の混乱はあったが、今後、職員がICT化を前向きに受け止める風土醸成につなげていきたい。

職員教育においては、施設の強みを職員自身が認識する機会を作ることを念頭に職場間の交換研修を推進した。今後は強みを体現し業務に活かす仕組みづくりが課題である。

各施設別の取り組みについては、以下の通り報告する。

※①入居者・利用者の孤立防止 ②身元引受人の高齢化 ③介護保険サービスの狭間

④職員年齢構成の偏在をふまえた採用・育成計画 ⑤選ばれる施設であるための接遇強化など

◆有料老人ホーム「奈良ニッセイエデンの園」

1. 聖隷理念の継承とトータルケアサービスの実践

(ア) 人生会議に対する理解を深め、その人らしさを支えるケアを推進する

①人生会議を 11 件開催。ターミナルケアや医療、葬儀の意向や情報を共有することができ、その人らしさに寄り添えるよう努めた。遺族から感謝の言葉をいただくこともあった。

②人生会議手帳を作成し全入居者に配付。意向確認とデータベース化および意向の更新について職場横断的なプロジェクトとして取り組んだ。

(イ) エデン版・地域包括ケアシステムによる

「誰一人取り残さない、その人らしさを最期まで支えるケア」への取り組み

①「誰一人取り残さない」取り組みとして、有料・CL 部門の職場長が話し合う場を設けた。職場単位でも具体的取り組みとして共有し、入居者の軽微な変化等を話し合う場を設けた。

(ウ) 認知症になっても安心して生活できるエデンづくり

①認知症ケア委員会主催の職員向け認知症理解のための講座を 3 回シリーズで開催。延べ 126 名が参加。

(エ) 食事をトータルで楽しむ企画・運営と満足度向上と喫食率 UP

①ご意見や食事満足度調査等を踏まえ、2024 年度から価格・献立の改定を決定した。

2. 安定した経営基盤の確立

(ア) 燃料費・原材料費等の高騰をふまえた具体的対策と事業運営の見直し

①ボイラーやエアコンの運用基準（台数、期間、時間）を気温等により見直しを検討した

(イ) 安心・安全なサービスを提供するための適切な住み替え

①職場間、多職種連携により適切に要介護認定および住み替えを実施することができた。

介護保険の新規契約者は 22 名（予算 20 名）、住み替え 11 名（予算 10 名）であった。

②リフォーム工期を一般居室は 3 ヶ月以内、介護居室は逝去からリフォーム、住み替えまでの期間を 2 ヶ月以内とし、職場間連携によりスムーズな住み替えを実施することができた。

(ウ) 防災・防犯対策および自然災害における BCP(事業継続計画)に基づく職員の実践力向上

①BCP における初めての実践訓練として非常電源設備の操作訓練を実施した。

(エ) 入居募集活動への協力と連携

(オ) “住んでみたい”と思える空間作りと修繕・設備整備

①1F 居室の雑排水配管について総点検の計画をすすめ、安心な住環境の維持に努めた。

②入居募集のための園内駐車場増設計画は入居者からの反対意見が多く、外部駐車場を活用する方針となった。

③募集広報室と連携し、募集活動目線での修繕希望箇所について臨時修繕等を実施した。

3. 人財の育成・活用・定着の強化

(ア) 多様な働き方に対応した採用・定着向上への取り組み

(イ) 障がい者・外国人など多様性を支える職場風土づくりの推進

①外国人留学生の新卒採用 5 名。賃貸物件の探しや保証人の設定について、総務担当者がサポートしスムーズな就労に寄与している。

②就労困難者の支援として、就労支援事業所の担当者等や職場長、総務担当者を交え面談等を実施。心身両面でのサポートを継続し、定着率の向上に努めている。

(ウ) 職場の魅力・強みを語ることが出来る職員の育成

(エ) 交換研修等の実施と職場還元による活性化

①交換研修について有料部門から各職場へは19名実施（全職場より24名実施）。

職場間の相互理解と職員が自職場の強みを認識する機会を作った。

(オ) 職員の心理的安全性への取り組み

①職場長会で心理的安全性の講義およびアンケートを実施。マネジャーレベルへの概念の浸透を図った。

4. サービスの質・安全・効率の向上

(ア) 感染BCP（事業継続計画）に基づく実践力強化による集団感染防止

①介護居室1Fでの感染拡大はあったが、過去の事例を活かしシフト固定化などの運用、業務手順変更を迅速に行い、他フロアや他課に拡大することなく収束することができた。

(イ) 身体拘束、虐待防止への取り組み

(ウ) 接遇マナー改善の取り組みによる施設全体の接遇力向上

①「虐待・不適切ケア0ミッション」を掲げ、組織としてのメッセージを明確にし今後、取り組む具体的内容を検討した。

②2022年度接遇取組「e-あいさつ宣言」を継続。園接遇目標の項目を基準に、誰にでも思いやりをもって対応できるフロントを目指した。

(エ) リスク分析能力向上と対策評価の徹底による再発事故防止

①委員会主催のP-mSHELLおよび福祉用具の勉強会を開催し、事故発生抑止に努めた。

(オ) 業務全般へのICT導入の推進と効率化の検証

①大食堂での顔認証システム運用を開始した。業務負担軽減までには至っていないが、カード持参不要となり入居者至便に寄与している。また、より直近の写真がシステムに更新されるため、今後、離園者検索やイベント時の自動参加確認等への活用が期待できる。

②トルト（歩行解析アプリ）を全入居者に実施。今後、分析データを活用しケアプランとの連動を検討している。

③見守りシステム導入により、巡視回数を2時間に1回から4時間に1回へと変更し、業務効率化がすすんだ。事故カンファレンスにもデータを活用できるよう取り組んでいる。

5. 地域における公益的な取り組み

(ア) WAC施設としての地域貢献・交流

(イ) 地域との災害時の協力体制の強化

(ウ) 地域支援事業への積極的な参画と「学び」の拠点となるための活動

①財団本部の協力により、日本生命女子卓球部「レッドエルフ」から選手・監督を招聘し、「ふれあい卓球教室」を開催。入居者と地域会員でつくるエデン卓球クラブ20名・河合第2中学校女子卓球部の生徒25名が参加し卓球を通じた地域交流・世代間交流を図った。

②地域遺産「亀の瀬トンネル」・近隣古墳を巡る「ご墳印巡り」など近隣町の観光ボランティアが地域遺産を紹介する企画が今年度も好評を得ている（各月38.6人）。

③虹のわの活動として、かがやきの森幼稚園、河合第一、第二小学校との交流を継続した。

④4年ぶりに開催の大和川清掃河合町エリアにボランティアとして参加した（職員12名）。

■入居者募集活動状況

新規契約戸数は21戸で、(対前年+3戸)その内、11戸が2人入居であった。また、退去が34人(一般27人、介護居室7人)、介護居室への住替えが8戸(対前年比±0戸)あった。その結果、年度末の入居状況は一般居室351戸(対前年比-3戸)、介護居室48戸(対前年比+2戸)となり、入居率は一般居室97.0%、介護居室96.0%、全体で96.8%であった。

■介護保険状況

介護保険認定者は2023年3月31日現在で要支援1:14名(含介護居室0名)、要支援2:29名(同0名)、要介護1:23名(同5名)、要介護2:18名(同5名)、要介護3:16名(同12名)、要介護4:16名(同15名)、要介護5:13名(同12名)、合計:129名(同49名)となった。

【数値実績】

■表1:契約状況

(3月末現在)

	居室数	契約数(内複数入居)	入居率
一般居室	362	351(115)	97.0%
介護居室	50	48(1)	96.0%
合 計	412	399(116)	96.8%

(3月末現在)

男 性	女 性	全 体
164	351	515
31.8%	68.2%	100.0%

■表2:地域別契約状況

(3月末現在)

	近畿	関東	中国	東海	北陸	四国	九州	北海道	合計
件 数	352	18	1	21	2	4	1	0	399
構成比	88.2%	4.5%	0.3%	5.3%	0.5%	1.0%	0.3%	0.0%	100.0%

■表3:年齢構成

(3月末現在)

	～60	～64	～69	～74	～79	～84	～89	～94	95～	合計
人 数	0	1	23	64	93	125	85	83	41	515
構成比	0.0%	0.2%	4.5%	12.4%	18.1%	24.3%	16.5%	16.1%	8.0%	100.0%

■表4:平均年齢

(3月末現在)

男 性	女 性	全 体
81.8歳	83.3歳	82.8歳

■表5:入・退居状況

(3月末現在)

	入居	退去(内死亡退去)
男性	16	12(10)
女性	18	22(19)
合計	34	34(29)

■表6:介護保険利用者(介護保険請求者数)

(3月末現在)

	合 計	内 訳						
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
期首人数	127人	13人	26人	31人	13人	13人	20人	11人
期末人数	129人	14人	29人	23人	18人	16人	16人	13人
月平均人数※	127.3人	14.2人	27.5人	25.7人	14.7人	14.5人	17.3人	13.4人

◆高齢者総合福祉センター「ふれあいプラザ」

2023 年度は、収容人数に制限を設けるなど感染症対策に十分に配慮した上で、園内共用棟でのイベント開催を再開した。

新規講師を招聘しリニューアルした「大人のぬり絵講座」については、受講者の入れ替わりを経て定員 20 名に近い運営を継続している。旧ぬり絵講座においては、健康状態や天候などにより欠席される方が多く、受講料収益にも影響があった為、リニューアル講座は半期（5～6 講座）毎の申込み及び受講料前納制を採用した。受講者からも継続受講権の確保と都度の手間減少から評価をいただいている。

およそ 4 年ぶりに開催した外出企画「宝塚観劇」、園内大ホールコンサート「世界一の口笛とマリンコンサート」については大きな反響があった。

◆ニッセイ聖隷クリニック

2023 年度は、4 月からは新所長体制となったが、問題なく移行が完了した。新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが 5 類へ移行後も発熱外来を継続。延べ人数で約 400 名の患者受入れを行った。新型コロナワクチン接種は、春秋の追加接種を実施し、ご入居者、職員、地域住民で約 2000 回の接種を行った。入院ではエデンの園と連携のうえ、医療ニーズが高い患者の受入れを積極的に行った。また、ケアプランセンター西大和や奈良ベテルホームとも連携のうえ、入院受入れを積極的に行った。健診では、宝塚エデンの園職員向けに交通費キャッシュバックキャンペーンを実施、その他キャンペーンを実施のうえ、受診者獲得に努めた。

◆奈良ベテルホーム

2023 年度は、新型コロナウイルス感染症が感染症法上 5 類に移行し感染対応は行政から施設の判断に委ねられる形となった。社会が日常を取り戻しつつあるなか、全居室の 8 割が多床室で構成され、基礎疾患等で重症化リスクが高い方、自ら感染予防ができない方が多く入所されている当施設では、ひとたび感染が拡大すれば深刻な事態となる状況に変わりはなく、5 類移行後も危機感と緊張感を全職員で持ち続け、安心・安全なサービス提供に取り組んだ。また、長引くコロナ禍により悪化した経営状況の改善に取り組んだ。

◆ニッセイせいいい在宅介護サービスセンター・ベル西大和店

2023 年度は、新型コロナ感染症の影響からこれまで施設入所や入院・デイサービスを控えておられた利用者や家族の在宅離れが顕著に現れた。訪問回数の多い長期利用者のケア終了が続いた事で収益全体はマイナスとなった。他事業所のヘルパー不足や事業所の閉鎖によるケア依頼もあり、新規利用者は前年度より増加したが訪問回数が少ないため収益にはつながっていない。

◆訪問看護ステーション西大和

2023 年度は人員不足の中、介護保険の需要増を断ることなく対応した。新規医療保険の需要が減少したが医療処置での連日訪問は増加、少ない人員で週末訪問にも対応することもできた

◆ニッセイせいいけアプランセンター西大和

2023年度新型コロナの5類移行により、活動を控えていた高齢者の相談が増え、各市町村の動きを確認しながら継続的に新規依頼を受け、大幅に利用者数が減少することなく推移できた。地域のニーズに答えられるよう常勤の職員を1名増員し、医療・介護・地域との連携強化を図り、利用者の想いに寄り添い対応をしたことで経常利益の予算は未達であったが黒字を確保することができた。

◆その他公益的な取り組み

- (ア) 実習生受入(実人数 18 名 延べ日数 116 日)
- (イ) ボランティア受入(外部 6 名/ベテル、行事 22 名)
- (ウ) 文化教養講座(開催数 40 回：参加者 693 名)
- (エ) 地域住民、入居者を対象としたコンサート・講演会(開催数 1 回 参加者 128 名)
- (オ) 献血(実人数 14 名)
- (カ) 日本生命女子卓球部「ふれあい教室」開催
参加者/河合第2中学校卓球部 25 名、地域サークル 2 名、入居者 20 名：エデン
- (キ) こども園、小学校への入居者手作りの文具入れ(巾着)の寄贈：エデン
- (ク) 小学校4年生向け高齢者疑似体験実施(参加者 40 名)：ベテルホーム
- (ケ) 古着回収によるポリオワクチン寄贈(古着 de ワクチン)：ベテルホーム
- (コ) 使い捨てカイロの回収と利用企業への寄贈(土壌改良剤への転換)：ベテルホーム
- (サ) 使用済み切手回収と国際医療団体への寄贈(1150 枚)：ベテルホーム
- (シ) 河合町主催福祉交流会での車いす体験・歩行分析体験実施
参加者/車いす体験 31 名、歩行分析 21 名：地域連携グループ
- (ス) 自治体による大和川一斉清掃への参加(職員 12 名)

ウェル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園

2023年度は園内行事やサークル活動などをコロナ前の状況に近づけることができた。一方で介護居室にてコロナクラスターが発生し、引き続き感染対策の充実を図っていく必要がある。また、開園から26年を経過し、外壁修繕など、計画的な大規模修繕工事を開始することができた。経営面では光熱費、人件費等の上昇を受け、管理費の改定を実施した。ハラスメントに対する対応に努め、周知活動を積極的に行った。

【2023 年度事業の振り返り】

1. 有料老人ホーム「松戸ニッセイエデンの園」

(ア) サービスの質の向上

ロビーコンサート、新入居者懇談会など園内行事やコーラスなどのサークル活動を再開できた。依頼伝票の書式を工夫し、アフターフォローを仕組化した。食事サービスの紹介リーフレットを作成した。

(イ) 人材の育成

ノーリフトケア®の定着に向け習熟を進めた。接遇向上のためホテル業界から講師を招聘し、職員向け講演会を開催した。一般居室サービス課と介護居室サービス課、ヘルパーステーション間で交換研修を実施した。

※「ノーリフト®」「ノーリフトケア®」は日本ノーリフト協会の登録商標です。

(ウ) 経営基盤の安定

EQC で 56 件を承認し標準化に努めた。外壁の第 1 期改修工事、機械式駐車場の埋戻し工事を実施した。10 月より管理費改定（値上）を実施した。厚生労働省政務官、エコナビスタ社の視察や取材を受入れ、厚生労働省ホームページ等に掲載された。

(エ) リスク管理体制の強化

防災備蓄や非常用簡易トイレの更新。階段用に布担架の設置などの整備を行った。感染と災害の BCP を更新。BCP やマニュアルを元に訓練を実施し、課題抽出を行った。

(オ) 地域社会と連携した事業展開

近隣住民のコンサート等への参加再開。入居者と共同で年 2 回近隣清掃活動の実施。

(カ) 地域における公益的な取組

松戸市社会福祉協議会と連携した SDGs の取り組みとしてフードバンク活動を実施した。松戸市との災害時における避難所等の提供に関する協定の継続。

2. 松戸ニッセイ聖隷クリニック

入居者および職員への新型コロナウイルスワクチン接種 7 回目を実施した。PCR 検査、抗原検査等の検査体制は継続し、新型コロナウイルス陽性者累計 31 名の入院を受け入れた。発熱外来を設置し、地域からも利用をいただいた。「断続的な宿直又は日直勤務許可書」を得て当クリニックで宿直・日直で勤務される非常勤医師へ勤務体制を整えた。隣接する東松戸病院の閉院に備え大野中央病院を指定病院として追加し、専門科紹介、MRI/骨密度測定の依頼できる体制とした。

3. 高齢者総合福祉センター

アカデミー教室で、コロナで休講中だった2教室のうち人気の1教室が再開となり、最後の1教室も再開の目途がたった。イベントでは、本館ロビーでのコンサートを再開し、別館大ホールでは参加が難しかった認定者の参加が増え来場者数が100名近くにのぼるなど、多くの方に楽しんでもいただくことができた。

4. ニッセイエデンヘルパーステーション（訪問介護）

特定事業所加算取得準備のため、毎月のヘルパー会議開催や全スタッフの勉強会を開催。アプリケーションの導入に向けて業務の見直しを進めた。職員の退職や持病による傷病休暇があり、職員の欠員により新規利用者の受け入れ制限を余儀なくされた。さらに利用者がご逝去されることも多く、実績を伸ばすことができなかった。しかしながら、在宅での看取りケアの事例を重ね新年度の加算取得への条件をクリアすることができた。

【数値実績】

表1：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	331 戸（81 戸）	129 名	283 名	412 名

表2：地域別契約状況

	関東	東海	東北	近畿	信越	北陸	中国	四国	合計
人数	392 名	8 名	1 名	4 名	2 名	2 名	2 名	1 名	412 名
構成比	95.2%	1.9%	0.2%	1.0%	0.5%	0.5%	0.5%	0.2%	100.0%

表3：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	45 名	90 名	79 名	71 名	63 名	41 名	15 名	8 名	0 名	412 名
構成比	10.9%	21.9%	19.2%	17.2%	15.3%	10.0%	3.6%	1.9%	0.0%	100.0%

表4：平均年齢

平均	男性	女性
84.1 歳	82.4 歳	84.9 歳

表5：入・退去状況

	入居	退去	（死亡退去）
男	17 名	11 名	（10 名）
女	18 名	25 名	（24 名）
計	35 名	36 名	（34 名）

表6：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合 計	内 訳						
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
期首人数	119 名	28 名	20 名	21 名	20 名	8 名	17 名	5 名
期末人数	114 名	28 名	19 名	19 名	20 名	6 名	14 名	8 名
月平均人数	114.0 名	28.0 名	19.5 名	19.3 名	20.4 名	5.4 名	15.3 名	6.1 名

ケア付き高齢者住宅 明日見らいふ南大沢

2023 年度、明日見らいふ南大沢(東京都住宅供給公社からの運営受託事業)は開設して 27 年が経過し、275 世帯、入居者 298 名、平均年齢が 88.0 歳で終えることとなった。施設としては 5 月の連休明けに新型コロナウイルスの感染症分類が 5 類に移行し、感染対策を緩和して行事やイベント活動を再開する 1 年となった。入居者と職員、また入居者同士のコミュニケーションを図る機会を増やす事で徐々にではあるがコロナ禍前の生活を取り戻す事ができた。また 2023 年度は複数年契約の初年度であったが、特に業務移管された募集業務では思うような成果が得られず、厳しい結果となった。2024 年度は募集活動を強化するため人員を増員し、全職員一丸となって募集活動に注力していく。2023 年度事業の結果・成果について、以下のとおり報告する。

【 事業・運営計画 】

1. 入居から看取りまでその人らしく生活することを支えるサービスの提供
 - (ア) 誰もがいきいき暮らせるためのプログラムづくり
 - (イ) 生活利便サービスの充実に向けた取り組みの継続
 - ①食堂業者の見直しを検討し、2024 年 4 月からの業者変更に向けて準備を整えた
 - (ウ) 介護未認定者やサービスにつながりにくいケースに対する支援の実践
 - (エ) 入居時からシームレスな情報共有の仕組みづくり
 - (オ) サービス充実のための新しい福祉用具・ICT 機器導入の検討
 - ①懸案事項となっている見守りシステムについては、2024 年度中の導入に向けて公社との調整を進める事ができた。職員の勤務表作成ツール“シフトメーション”の導入に向けて準備を進めた。
2. 人材の育成
 - (ア) 次世代の育成・専門性の向上
 - (イ) 接遇向上への継続的な取り組み
 - (ウ) 権利擁護・リスクマネジメント能力の向上
3. 地域との交流・協力関係づくり
 - (ア) 行事等を通じて開かれた施設づくり
 - ①納涼祭は、2022 年度より暑さ対策を踏まえて秋開催の『あすみ祭』に移行し、地域で活動しているキッチンカーによる飲食販売を継続したことで入居者にも好評であった。
 - (イ) 明日見らいふ南大沢の特徴を活かした地域との交流への取り組み
 - (ウ) 地域活動への参加
 - ①夏の南大沢まつりの準備や、冬の南大沢クリーンデーに明日見職員が参加をして地域活動に貢献する事ができた。
4. 環境・エコ活動への取り組み
 - (ア) 入居者と共同・協働による環境活動の実施
 - (イ) 省エネへの取り組みの継続
 - (ウ) 防災対策・ハードの見直し

5. 入居者募集

(ア) 全職員参加の募集活動の実践

①9月より施設のイベントへ入居検討者を招待する企画を実施した。

(イ) 入居検討者目線で企画するセミナー・イベントの開催

①フレイル予防（健康）や外部講師を招いての任意後見制度の説明会を開催した。また、入居者との懇談会を開催して入居検討者に生の声を聴いてもらう事ができた。

(ウ) 高齢者公益事業部・各直営施設と連携し効果的な広報活動の実施

①紹介業者主催の合同セミナーに直営エデンとともに参加するなど、事業部や直営施設と連携した広報活動を実施する事ができた。

○公益的事業について

- ・フードロス対策として、地域のNPO法人へ消費期限が短くなった備蓄食料の寄付を行った。
- ・入居者とともに施設周辺までエリアを拡大した地域環境デー（ゴミ拾い）を継続した。

■2024年3月31日時点

【数値実績】

表1：契約状況

	戸数（複数入居）	男 性	女 性	計
人 数	275 戸（23 戸）	74 名	224 名	298 名

表2：地域別契約状況

（単位：名・％）

	関東	近畿	東海	九州	北海道	甲信越	東北	中国	計
人 数	280 名	5 名	7 名	1 名	1 名	1 名	2 名	1 名	298 名
構成比	93.9%	1.7%	2.4%	0.3%	0.3%	0.3%	0.7%	0.3%	100%

表3：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人 数	36 名	99 名	82 名	49 名	29 名	3 名	0 名	0 名	0 名	298 名
構成比	12.1%	33.3%	27.5%	16.4%	9.7%	1.0%	0%	0%	0%	100%

表4：平均年齢

全 体	男 性	女 性
88.0 歳	87.8 歳	88.1 歳

表5：入・退去状況

		入居	退去	（死亡退去）
	男 性	4 名	8 名	（7 名）
	女 性	11 名	16 名	（14 名）
	計	15 名	24 名	（21 名）

表6：介護保険利用者（介護保険請求）

	合 計	内 訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	102 名	15 名	12 名	28 名	26 名	12 名	8 名	1 名
期末人数	113 名	15 名	18 名	32 名	22 名	8 名	11 名	7 名
月平均人数	108.0 名	13.5 名	17.5 名	29.7 名	24.3 名	8.0 名	10.0 名	5.0 名

表7：職員数

職員数（常勤換算）	97.15 名
-----------	---------

法人本部

新型コロナウイルス感染症が感染症区分 5 類に移行され、平時の運営に戻ったが、各地域、各施設では断続的に発生する感染による運営制限や、新型コロナウイルス関連補助金の減額、急激な円安を背景とする物価の高騰等難しい経営を強いられた。法人本部では組織、業務効率化、人材確保の推進、施設の運営支援等を行い法人全体の安定的な経営に努めた。

7 月より在宅・福祉サービス事業部を静岡、関東、関西、奄美の 4 ブロックに分ける組織改編を実施した。労務・経理・企画業務等共通業務の一部を法人本部に移管しスムーズな移行と着実な業務執行ができるよう調整、支援を行った。

Vison2025 に掲げる「聖隷 DX」を推進する中、SEIREI アプリを開始し初年度目標の 10,000 件ダウンロードを達成した。セキュリティ強化としては EDR※の導入や CSIRT(セキュリティインシデント対応チーム)を構築し迅速に対応できる体制を整えた。また各事業部の推進する次期電子カルテの更新計画策定、次期介護記録システムの選定、見守りシステム等の導入支援を行った、職員に対しても身上異動届の全事業部での WEB 化、ペーパーレス化を行った。

深刻な人材難の中、人事企画部では SNS 等を利用した新しい募集ツールの開発、障害者法定雇用率の向上、外国人人材の確保推進、エルダー職員の待遇改善等、人材の確保維持向上を総合的に実施した。健康経営においては、一部施設の長時間労働に起因して健康経営優良法人ホワイト 500 を返納することとなったが、引き続きコンプライアンスを遵守し健康経営に努める。また、職員の財産形成支援の為、企業型 DC(確定拠出年金)制度を導入した。法人創立 100 周年に向けた「聖隷みらい創造プロジェクト」については、実行フェーズに移り、2030 年度の到達目標の設定と実行スケジュールの策定を行った。

能登半島地震では、各事業部が行う DMAT(災害派遣医療チーム)や DWAT(災害派遣福祉チーム)に加え NPO や民間団体による派遣要請にも応えられるよう調整を行った。

2023 年度は、新型コロナ対応の変化、人材不足、物価の高騰、自然災害等、社会情勢が大きく変動した年度であり難しい経営環境であったが、堅実な結果を残し、地域社会のセーフティーネットとしての役割を継続できた。

※EDR(Endpoint Detection and Response) : パソコンやサーバーでの不正な動きを検知し、対応を支援するサービス。

【各部の報告】

《総務部》

2023 年度は、静岡県による社会福祉法人指導監査や浜松地区の労働基準監督署による一斉監査があり、法人運営の基礎となる社会福祉法や労働安全衛生法などの法令遵守を改めて見直しする 1 年であった。

大規模広域法人としての強みを活かした仕組化の推進については、2023 年 7 月に在宅・福祉サービス事業部を地域制 4 ブロックに再編する大きな組織改編を行うなか、各ブロック運営管理室、シェアードサービスセンターと業務整理、役割分担を明確にした。

ディーセント・ワーク（人生と両立できる働きがいのある仕事）の推進としては、新たな福利厚生制度として選択制確定拠出年金（DC）を 12 月の賞与より開始することができた。加入率は約 20%であり、引き続き加入促進を行う。また、人事院勧告による処遇改善を実施し、さらに各種専門資格手当の改善を実施し、専門職の処遇改善を実施した。

聖隷 DX（デジタル・トランスフォーメーション）の推進については、4 月より職員の身上異動届の WEB 申請を全事業部実施、現況確認の WEB 化（7 月）、給与明細の紙面配布廃止（1 月）、就業規則等の紙面配布廃止等（2024 年度入職者）を実施した。

《人事企画部》

2023 年度は新型コロナウイルス感染症が二類感染症から五類感染症に変更され、社会全体の感染対策が緩和された。社会情勢が変化する中で、医療や介護現場では状況に応じて感染対策を継続しており、各施設の対応を確認しながら役割を遂行した 1 年であった。

職員の新卒・中途採用は、例年同様、各施設の人員充足に注力した。学生に直接説明する機会を重視し、学内説明会の回数を増やした。また、事業団の認知度を高めるために SNS を運用するとともに、介護系インフルエンサーを活用した動画を作成した。障がい者雇用は、聖隷の就労支援施設と連携して 17 名（就労 A 含）を雇用し、事業団の障がい者法定雇用率 2.3%を達成（実績 2.489%）した。また今後の障がい者法定雇用率の引き上げ（2025 年 2.5%、2026 年 2.7%）を見据え、障害者雇用率制度における特例子会社制度の事業所を視察した。

外国人材の採用では EPA 介護福祉士候補者は 4 名を迎え入れ、さらに 2024 年度入職予定のインドネシア EPA 介護福祉士候補者 6 名とのマッチングが成立した。また EPA 介護福祉士候補者が国家試験に合格できない場合、特定技能 1 号に切り替えて就労が継続できる環境を整えた。2023 年度に国家試験を受験した対象者から在留資格を切り替える。留学生は、2028 年度入職予定の 12 名の留学生（ベトナム、ミャンマー）とのマッチングが成立した。

制度・処遇面では職員が働きやすい環境づくりを推進するため、様々な改定を行った。エルダー職員規則および再雇用職員規則は、検証の結果、「全職員におけるエルダー A 職員の割合の拡大」と「エルダー時の賃金が定年時賃金の 7 割」は達成した。しかし役職経験者や長年勤務した職員が処遇変更を理由として離職していることが明らかになり、シニア人材が長く働くことができるよう再雇用制度の改訂を行い、処遇を改善した。その他、公認心理士俸給表の改訂や在宅看護師の新たな手当の策定など、職員の声と経営状況のバランスを考慮して制度設計を行った。

職員の育成は、年間計画通りに階層別研修を実施した。外部研修事業では、地域の介護施設の外国人介護職員の日本語学習支援を目的とした日本語研修を新たに開講した。また社会的な課題である「地域包括ケアシステム」を実現するため、事業団の看護師特定行為研修受講と各領域での活躍を推進するしくみを運用し、静岡地域の在宅領域における特定行為研修修了者の活躍が推進した。外部研修には研修管理システム「manaable（マナブル）」を活用し、研修運営の効率化を超過勤務時間が削減した。

少子・高齢化の進展により、医療・福祉人材の確保は極めて重要な社会課題である。また近年の景気回復に伴い、他の産業分野における採用意欲も増大している。人事企画部では職員の採用拡大や定着に向けて一層取り組みを強化する。また事業団の中の育てる文化を継承し、より育成

に注力できる組織のしくみを再考し、社会や地域の人々へ貢献できるよう努める。

《財務部》

物価高騰、金利上昇など不安定な経済環境の中、経営基盤の強化、経理業務の効率化、集約化に注力した一年であった。

経営基盤の強化としては、「投資管理委員会」における運営内規の整理、様式の統一化などを行い、引き続き、事前検証、事後検証を実施した。また、「生産性指標」として、超過勤務時間や派遣職員を人員換算する新しい指標を導入した。今後、施設レベル、職場レベルでの省力化、効率化、労務管理や健康経営の指標として活用出来るよう、その活用方法を具体化していきたい。資金管理としては、物価高騰に対応する形で、短・中・長期のバランスを意識しながら、安全で効果的な資金運用を実施し、また積立金についても運用を開始し、一定の成果を上げる事が出来た。

経理業務の効率化、集約化については、組織再編に伴い、奄美地区、横須賀愛光園の記帳業務集約化を実施した。今後、更なる集約化を進めていく予定であり、経理業務の効率化や経理職員育成にも繋げていけるよう、効果検証を進めていきたい。今年度、導入完了を目指していた経費精算システムについては、導入率90%に留まり、目標を達成する事は出来なかった。キャッシュレス化や現金業務省力化、リスク管理において、一定の効果は出せているので、導入完了を達成していくとともに、使い易さの向上にも努めていきたい。

最後に、今年度実施された適格請求書等保存方式（いわゆるインボイス制度）や電子帳簿保存法改正といった税制改正については、大きな問題なく対応を実施する事が出来た。今後、外部環境において、経理業務の電子化、ペーパーレス化はますます進められていく中、それに事業団としてきちんと対応出来るよう、推し進めていきたい。

《総合情報システム部》

医療・介護の情報システム領域において、ランサムウェアなどによるサイバー攻撃が拡大傾向であるため、その対策として2022年度よりEDR（Endpoint Detection and Response）システムを導入している。2024年3月現在、事業団全端末の90%以上をカバーしており、今後もカバー率の向上を目指していく。そして万が一、ランサムウェアに感染した場合でもバックアップデータを保持できる仕組みを各病院の電子カルテシステムに導入した。

職員のITリテラシー向上を目的に、本部内でのフィッシングメール訓練や病院向けのセキュリティ研修会を開催した。組織体制としても、事業団内でのCSIRT（セキュリティインシデント対応チーム）を構築し、セキュリティインシデント発生時に迅速に対応・情報共有する体制を整えた。今後は、この体制を適切に運用できるよう、職員向け訓練の実施などを検討したい。

事業団内放射線画像データ集約化システムVNA（Vendor Neutral Archive）に、保健事業部も参加することになり、浜松地区での放射線画像の施設間共有が推進された。また、画像データの伝送が増え、情報システム利用が集中する時間帯での、通信量の増加によるレスポンス悪化が問題となっていたが、回線強化を実施し、解消することができた。来年度はインターネット環境の更新を予定しており、業務に影響が出ることがないように、抜本的な改善を目指す。

近年、高レベルな情報技術を持つ職員の採用確保・離職防止が課題となっている。その対策として、処遇面での新たな制度を検討するとともに、既存職員によるリスクリングにも取り組み、OJT を通した情報システム導入プロジェクトへの教育的な参画を実施した。継続して実施している情報部門職員アンケート（UISS）についても、その結果に基づく各職員のキャリア志向を情報システム責任者会で共有し、人事異動による組織力向上を検討する際の基礎資料として有効活用している。

2024 年 1 月以降、関連 2 法人を含めた 9 施設で電子カルテシステムの更新が始まり、各施設の動向を共有し、施設事情を踏まえた全体最適化の検討を進めている。各事業部が期待する将来構想への支援を実施し、次期電子カルテ・PACS 統合・見守りシステム導入とそれに伴うネットワーク構築・業務改善のためのタブレット端末導入支援・次期人事給与システム・ETS2025・次期介護記録システム・聖隷アプリなどの導入を支援した。

聖隷 DX の推進を踏まえ、ペーパーレス会議用に第 1・2 会議室へ iPad40 台を整備するなど、今後、会議の電子化を進めていく。電子申請については、稟議書の電子決済を実現するため、クラウド型のワークフローサービスを契約し、2024 年 4 月から本部対象に先行稼働を予定している。AssetView（資産管理ソフト）の情報を活用し、内部監査実施時の各施設に対する資産情報等を提供した。今年度情報システム内部監査は 16 施設を実施し、監査室とも協力して対応した。

《総合企画室》

新型コロナの感染症区分が 5 類へ移行されたことに伴い、補助金の減額や終了、感染症発生時の運用変更の影響もあり、医療事業においては厳しい経営状況となった。総合企画室としては、保健事業部の新システム導入が起因して発生した運用における諸問題や関連法人の医師不足については切迫した課題であり、集中的な支援を行った。また、日本重症患者ジェット機搬送ネットワーク（JCCN）の試験運用開始支援の為、事業団内での周知を行った。

7 月には在宅・福祉事業の再編に伴い、全体に共通する業務、新規整備企画業務を総合企画室に移管した。DX、ICT に関しては補助金を活用した見守りシステムの整備（直営施設導入率 97%）、入居申込システムの導入（16 施設）、静岡ブロック全ケアプランセンターで AI ケアプランの使用が始まった。また、次期介護保険請求・記録システムの更新の選定を行った。整備事業としては 9 月に「聖隷こども発達支援センター和合」の開始、10 月に「聖隷福祉総合相談センター和合」の開設支援を行った。高齢者施設、在宅事業等の全体会議の事務局を行い、新たに医療事業部や高齢者公益事業部からも参加いただき連携が進んだ。

広報では 6 月 SEIREI アプリを導入し、さらにコンテンツの充実にも努め、10,000 ダウンロードの初年度目標を達成した。同月に事業団ホームページ、3 月には 9 年ぶりとなる法人パンフレットの全面リニューアルを行った。

2022 年度に続き「聖隷みらい創造プロジェクト」の事務局を担当し、6 つのグループの 2030 年の到達目標と工程表の策定を支援した。

理事長、各役員の秘書業務として外部団体役員業務、各種式典、講演資料等作成を行うと共に、本部役員への速やかな情報提供、意思決定や透明性のある管理機能として、ブリーフィング機能（報酬改定、法改正、各種審議会の情報収集）の継続、モニタリング会議の開催、投資管理委員会の事務局を担った。

法人本部が行う、公益的な取組として SDG s の出前事業の実施（年 4 回）、日本骨髄バンクのドナー登録協力として、語り部講演会、ドナー登録会を本部にて開催した。また、就労支援としては、総合情報システム部と協力し、在宅福祉ブロックの iPad をレンタル化し、初期設定を浜松学園に委託した。それにより、法人内 PC の初期設定作業の委託化の準備が進められた。

《健康推進室》

健康推進室は、①生産性および働きやすさを向上、②メンタルヘルス推進、③健康診断の事後措置の徹底を目標とし活動した。

生産性指標のプレゼンティーズムは、2022 年度 59.6、2023 年度 65.6 と向上した。

メンタルヘルス推進は、ストレスチェックの受検率は、2022 年度 97.6%、2023 年度 98.2%と向上したが、高ストレス者の面談実施者数は 1455 名中 135 名（9.3%）であった。高ストレス者面談実施率の向上・メンタル不調者の早期発見など一次・二次予防を強化することが課題である。

健康診断の事後措置は、再検査受診率向上、健康保険組合とコラボしながら重症化予防に力を注いだ。再検査受診率の向上にはつながらず、事業所の安全配慮義務と職員本人の自己保健義務の遂行に課題が残る結果となった。新たな取り組みとしては、健康課題の一つである「睡眠」に焦点をあてたプログラムを実施した。また、職員 50 人未満の小規模事業所に対しても労働安全衛生法等に則った産業保健活動を展開した。

2023 年度、健康経営優良法人認定制度の「ホワイト 500」は、認定申請要件に抵触し、自主返納を行った。そのため、2023 年度は改めて、健康経営の土台となる法令遵守を強化する取り組みをヘルスケア委員会等で繰り返し伝えた。

2024 年度、引き続き、健康経営を推進していく上での法令遵守という土台をしっかりと固め、組織の活性化につなげる施策を実施していく。

《監査室》

2023 年度は当初の予定通り 57 施設に対して往査を実施した。深刻なリスクを有する指摘は認められず、適切な施設運営が行われていることを確認した。

内部通報窓口においては、過去最高となった 2022 年度をさらに上回る通報件数を記録した。施設の自浄作用活性化に寄与した半面、対応する側のマンパワーに課題が残った。

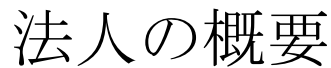
また、公平な不服審査に資するものとして、職員の懲戒等、その意に反する不利益な処分についての審査請求又は異議申立ての手続きを定めた内規を制定した。

2023年度施設整備事業報告

施設種別	病院
施設名	聖隷浜松病院
所在地	静岡県浜松市中央区住吉2丁目12-12
工事名	S棟耐震化増改築工事
事業完了年月日	2023年10月31日
施設の構造	鉄骨造・地下1階付き4階建
延床面積	9,329.00㎡
総事業費	土地購入費 -
	建築工事費 ￥3,621,178,000 (税込)
	設計監理費 ￥141,592,000 (税込)
	備品費 ￥431,743,701 (税込)
	その他費用 ￥212,717,341 (税込)
	事業費 計 ￥4,407,231,042 (税込)
財源	金融機関より借入 ￥2,200,000,000
	法定補助金 ￥244,495,000
	福祉基金繰入 0
	自己資金 ￥1,962,736,042
	財源 計 ￥4,407,231,042
備考	

2023年度施設整備事業報告

施設種別	児童発達支援センター		
施設名	聖隷こども発達支援センター和合		
所在地	浜松市中央区和合町555		
工事名	聖隷こども発達支援センターかるみあ和合増築工事		
事業完了年月日	2023年8月31日		
施設の構造	鉄筋コンクリート造・2階建て		
延床面積	1,165.51㎡		
総事業費	土地購入費		
	準備工事	42,900,000	(税込)
	建築工事費	465,594,192	(税込)
	外構工事	19,351,808	(税込)
	設計監理費	20,570,000	(税込)
	備品費	41,442,329	(税込)
	その他費用	538,700	(税込)
	事業費 計	590,397,029	(税込)
財源	金融機関より借入		
	0		
	法定補助金		
	178,500,000		
	聖隷福祉公益事業推進基金繰入		
	123,000,000		
	自己資金		
	288,897,029		
	財源 計	590,397,029	
備考			



- 190-

実施する事業の概要

【第1種社会福祉事業】

2024年3月31日現在

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
救護施設	聖隷厚生園讃栄寮	60	1978年4月1日	静岡県浜松市	久保 範	40
特別養護老人ホーム	和合愛光園	102	1999年4月1日	静岡県浜松市	弓桁 智浩	88
特別養護老人ホーム	和合愛光園和合サテライト	29	2014年4月1日	静岡県浜松市	弓桁 智浩	15
特別養護老人ホーム	和合愛光園初生サテライト	29	2012年4月1日	静岡県浜松市	弓桁 智浩	12
特別養護老人ホーム	いなさ愛光園	70	1997年4月1日	静岡県浜松市	上野 拓朗	71
特別養護老人ホーム	浜北愛光園	150	1999年4月1日	静岡県浜松市	平川 昌弘	96
特別養護老人ホーム	森町愛光園	80	1993年4月1日	静岡県周智郡	高橋 等	45
特別養護老人ホーム	森町愛光園天宮サテライト	29	2012年4月1日	静岡県周智郡	高橋 等	12
特別養護老人ホーム	浦安市特別養護老人ホーム(受託経営)	100	1999年8月1日	千葉県浦安市	副島 克行	75
特別養護老人ホーム	浦安愛光園	74	2006年4月1日	千葉県浦安市	石川 智行	37
特別養護老人ホーム	松戸愛光園	103	2003年5月1日	千葉県松戸市	森井 正孝	67
特別養護老人ホーム	横須賀愛光園	104	1992年6月1日	神奈川県横須賀市	深澤 庸一	53
特別養護老人ホーム	宝塚すみれ栄光園	100	2014年4月1日	兵庫県宝塚市	山田 精一	66
特別養護老人ホーム	宝塚栄光園	70	1979年4月1日	兵庫県宝塚市	萬雲 房美	41
特別養護老人ホーム	花屋敷栄光園	108	1999年4月1日	兵庫県宝塚市	山野井 泰裕	70
特別養護老人ホーム	聖隷カーネーションホーム	54	2014年4月1日	兵庫県淡路市	田村 健	32
特別養護老人ホーム	淡路栄光園	60	1999年4月1日	兵庫県淡路市	山浦 真佳	34
特別養護老人ホーム	奄美佳南園	80	1974年5月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	43
特別養護老人ホーム	藤沢愛光園	100	2011年4月1日	神奈川県藤沢市	林 永美	68
軽費老人ホーム	もくせい の里	50	1978年12月1日	静岡県浜松市	宮崎 弘光	10
軽費老人ホーム	浦安市ケアハウス(受託経営)	50	1999年8月1日	千葉県浦安市	伊藤 智之	4
軽費老人ホーム	ケアハウス宝塚	70	2014年4月1日	兵庫県宝塚市	山田 精一	36
軽費老人ホーム	ケアハウス花屋敷	100	1999年4月1日	兵庫県宝塚市	中西 幸子	5
障害者支援施設	障害者支援施設みんとす	20	2003年4月1日	静岡県浜松市	弓桁 智浩	10
障害者支援施設	聖隷厚生園信生寮	60	1978年4月1日	静岡県浜松市	村田 孝弘	38
障害児入所施設	聖隷おおぞら療育センター	150	2006年10月1日	静岡県浜松市	木部 哲也	171
障害児入所施設	聖隷チャレンジ工房浜松学園	60	2022年4月1日	静岡県浜松市	村田 孝弘	18

【第2種社会福祉事業】

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
医療保護施設	聖隷三方原病院	940	1942年11月9日	静岡県浜松市	山本 貴道	1,535
保育所	春日保育園	120	1972年4月1日	鹿児島県奄美市	吉山 春香	14
保育所	こうのとり保育園	120	1971年11月1日	静岡県磐田市	梶山 美里	17
保育所	野上あゆみ保育園	90	2009年4月1日	兵庫県宝塚市	小南 律子	20
保育所	逆瀬川あゆみ保育園	45	2002年4月1日	兵庫県宝塚市	辻田 紀子	10
保育所	御殿山あゆみ保育園	120	2003年4月1日	兵庫県宝塚市	岸本 正子	22
地域子育て支援拠点事業	春日保育園	—	2009年4月1日	鹿児島県奄美市	吉山 春香	14
地域子育て支援拠点事業	聖隷こども園わかば	—	2009年4月1日	静岡県浜松市	加藤 可織	24
地域子育て支援拠点事業	こうのとり保育園	—	2009年4月1日	静岡県磐田市	梶山 美里	17

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
地域子育て支援拠点事業	野上あゆみ保育園	—	2008年11月1日	兵庫県宝塚市	小南 律子	20
地域子育て支援拠点事業	逆瀬川あゆみ保育園	—	2002年4月1日	兵庫県宝塚市	辻田 紀子	10
一時預かり事業	聖隷こども園夢舞台	—	2017年4月1日	兵庫県淡路市	中野 理恵	22
一時預かり事業	春日保育園	—	2009年4月1日	鹿児島県奄美市	吉山 春香	14
一時預かり事業	聖隷こども園わかば	—	2009年4月1日	静岡県浜松市	加藤 可織	24
一時預かり事業	聖隷こども園桜ヶ丘	—	2009年4月1日	静岡県浜松市	太田 康子	17
一時預かり事業	聖隷こども園ひかりの子	—	2009年4月1日	静岡県浜松市	岡田 絵里子	22
一時預かり事業	聖隷こども園めぐみ	—	2017年4月1日	静岡県浜松市	富永 裕美	29
一時預かり事業	こうのとり保育園	—	2009年4月1日	静岡県磐田市	梶山 美里	17
一時預かり事業	聖隷こども園こうのとり東	—	2009年4月1日	静岡県磐田市	大塚 麻紀子	22
一時預かり事業	聖隷こども園こうのとり豊田	—	2011年4月1日	静岡県磐田市	平野 春江	18
一時預かり事業	聖隷こども園こうのとり富丘	—	2020年4月1日	静岡県磐田市	二村 郁枝	23
一時預かり事業	野上あゆみ保育園	—	2009年4月1日	兵庫県宝塚市	小南 律子	20
一時預かり事業	逆瀬川あゆみ保育園	—	2009年4月1日	兵庫県宝塚市	辻田 紀子	10
一時預かり事業	御殿山あゆみ保育園	—	2009年4月1日	兵庫県宝塚市	岸本 正子	22
児童厚生施設	野上児童館	—	2008年11月4日	兵庫県宝塚市	小南 律子	—
児童厚生施設	御殿山児童館	—	2003年4月1日	兵庫県宝塚市	岸本 正子	—
助産施設	聖隷三方原病院併設助産所	6	1994年9月19日	静岡県浜松市	山本 貴道	—
助産施設	聖隷浜松病院併設助産所	10	1969年6月1日	静岡県浜松市	岡 俊明	—
老人デイサービスセンター	聖隷トライサポート和合	40	2001年8月1日	静岡県浜松市	金原 智恵	12
老人デイサービスセンター	和合愛光園デイサービスセンター	62	1999年4月1日	静岡県浜松市	金原 智恵	9
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンター初生	50	2004年4月1日	静岡県浜松市	浅地 嘉紀	5
老人デイサービスセンター	聖隷リハビリプラザIN高丘	65	2007年4月1日	静岡県浜松市	室谷 健吾	4
老人デイサービスセンター	いなさ愛光園デイサービスセンター	45	1997年4月1日	静岡県浜松市	上野 拓朗	7
老人デイサービスセンター	聖隷リハビリプラザいなさ	35	2015年10月1日	静岡県浜松市	村上 和文	5
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンター三方原	65	2011年3月15日	静岡県浜松市	柴本 千晶	4
老人デイサービスセンター	浜北愛光園デイサービスセンター	40	1999年4月1日	静岡県浜松市	平川 昌弘	5
老人デイサービスセンター	森町愛光園デイサービスセンター	42	1993年4月1日	静岡県周智郡	高橋 等	7
老人デイサービスセンター	浦安市高洲高齢者デイサービスセンター(受託経営)	25	1999年8月1日	千葉県浦安市	副島 克行	3
老人デイサービスセンター	浦安市猫実高齢者デイサービスセンター(受託経営)	25	1999年10月1日	千葉県浦安市	副島 克行	3
老人デイサービスセンター	松戸愛光園デイサービスセンター	34	2003年5月1日	千葉県松戸市	森井 正孝	3
老人デイサービスセンター	横須賀愛光園デイサービスセンター	30	1992年6月1日	神奈川県横須賀市	深澤 庸一	3
老人デイサービスセンター	宝塚すみれ栄光園 デイサービスセンター	30	2014年10月1日	兵庫県宝塚市	佐藤 瑞紀	5
老人デイサービスセンター	聖隷逆瀬川デイサービスセンター	40	2000年4月1日	兵庫県宝塚市	植田 仁秀	5
老人デイサービスセンター	聖隷逆瀬台デイサービスセンター	40	1995年10月1日	兵庫県宝塚市	西垣 真一	7
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンターあゆむ	12	2010年10月1日	兵庫県宝塚市	西垣 真一	2
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンター結い	18	2013年6月3日	兵庫県宝塚市	高風 玲太	3
老人デイサービスセンター	花屋敷デイサービスセンター	59	1999年4月1日	兵庫県宝塚市	山野井 泰裕	6
老人デイサービスセンター	聖隷カーネーションホーム デイサービスセンター	37	2014年4月1日	兵庫県淡路市	田村 健	2
老人デイサービスセンター	聖隷カーネーションホーム デイサービスセンターうっとこ	12	2015年8月1日	兵庫県淡路市	田村 健	3

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
老人デイサービスセンター	淡路栄光園デイサービスセンター	35	1999年4月1日	兵庫県淡路市	山浦 真佳	2
老人デイサービスセンター	聖隷ライフサポート津名	25	2020年4月1日	兵庫県淡路市	澤田 卓也	3
老人デイサービスセンター	奄美佳南園 デイサービスセンター	20	1993年2月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	6
老人デイサービスセンター	奄美佳南園春日デイサービスセンター	15	1996年11月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	—
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンター藤沢	40	2011年4月1日	神奈川県藤沢市	金子 英里	5
老人短期入所事業	老人短期入所事業(和合愛光園)	20	1999年4月1日	静岡県浜松市	弓桁 智浩	88
老人短期入所事業	和合愛光園和合サテライト	—	2014年4月1日	静岡県浜松市	弓桁 智浩	15
老人短期入所事業	和合愛光園初生サテライト	—	2012年4月1日	静岡県浜松市	弓桁 智浩	12
老人短期入所事業	老人短期入所事業(いなさ愛光園)	20	1997年4月1日	静岡県浜松市	上野 拓朗	71
老人短期入所事業	老人短期入所事業(浜北愛光園)	40	1999年4月1日	静岡県浜松市	平川 昌弘	96
老人短期入所事業	老人短期入所事業(森町愛光園)	12	1993年4月1日	静岡県周智郡	高橋 等	45
老人短期入所事業	森町愛光園天宮サテライト	—	2012年4月1日	静岡県周智郡	高橋 等	12
老人短期入所事業	浦安市特別養護老人ホーム(受託経営)	50	1999年8月1日	千葉県浦安市	副島 克行	75
老人短期入所事業	浦安愛光園	—	2006年4月1日	千葉県浦安市	石川 智行	37
老人短期入所事業	老人短期入所事業(松戸愛光園)	21	2003年6月1日	千葉県松戸市	森井 正孝	67
老人短期入所事業	老人短期入所事業(横須賀愛光園)	16	1992年6月1日	神奈川県横須賀市	深澤 庸一	53
老人短期入所事業	老人短期入所事業(宝塚すみれ栄光園)	20	2014年4月1日	兵庫県宝塚市	山田 精一	66
老人短期入所事業	老人短期入所事業(宝塚栄光園)	15	1993年4月1日	兵庫県宝塚市	萬雲 房美	41
老人短期入所事業	老人短期入所事業(花屋敷栄光園)	12	1999年4月1日	兵庫県宝塚市	山野井 泰裕	70
老人短期入所事業	聖隷カーネーションホーム	16	2014年4月1日	兵庫県淡路市	田村 健	32
老人短期入所事業	老人短期入所事業(淡路栄光園)	19	1999年4月1日	兵庫県淡路市	山浦 真佳	34
老人短期入所事業	老人短期入所事業(奄美佳南園)	10	1999年4月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	43
老人短期入所事業	老人短期入所事業(藤沢愛光園)	20	2011年4月1日	神奈川県藤沢市	林 永美	68
老人介護支援センター	いなさ愛光園在宅介護支援センター(受託経営)	—	1997年4月1日	静岡県浜松市	上野 拓朗	71
老人介護支援センター	森町愛光園在宅介護支援センター(受託経営)	—	1998年10月1日	静岡県周智郡	高橋 等	5
老人介護支援センター	聖隷在宅介護支援センター淡路(受託経営)	—	1999年4月1日	兵庫県淡路市	新箭 幸平	1
老人介護支援センター	奄美佳南園在宅介護支援センター(受託経営)	—	1993年2月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	1
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーセンター	—	1997年4月1日	静岡県浜松市	白野 静香	7
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーセンター浜松北	—	2012年7月1日	静岡県浜松市	中野 淳	4
老人居宅介護等事業	いなさ愛光園ヘルパーステーション	—	1997年4月1日	静岡県浜松市	上野 拓朗	1
老人居宅介護等事業	森町愛光園ホームヘルパーステーション	—	1998年10月1日	静岡県周智郡	高橋 等	2
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション横須賀	—	2000年8月1日	神奈川県横須賀市	村上 理恵	4
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション宝塚	—	1997年10月1日	兵庫県宝塚市	西本 祐介	11
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション淡路	—	1999年4月1日	兵庫県淡路市	鷲尾 雅永	8
老人居宅介護等事業	奄美佳南園 ホームヘルプ事業所	—	1993年10月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	3
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション藤沢	—	2011年4月1日	神奈川県藤沢市	與五澤 幸子	3
老人居宅介護等事業	ニッセイせいいい在宅介護サービスセンターベル西大和店	—	1992年4月1日	奈良県北葛城郡	山平 光子	5
老人居宅介護等事業	ニッセイエデンヘルパーステーション	—	1998年10月1日	千葉県松戸市	金子 宏美	4
認知症対応型老人共同生活援助事業	ほのぼのケアガーデン	9	2001年4月1日	静岡県浜松市	上野 拓朗	7
障害福祉サービス事業	聖隷おおぞら療育センター	20	2006年10月1日	静岡県浜松市	木部 哲也	171

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
障害福祉サービス事業	あさひ	35	2006年10月1日	静岡県浜松市	木部 哲也	15
障害福祉サービス事業	和合愛光園	—	2014年8月1日	静岡県浜松市	弓桁 智浩	88
障害福祉サービス事業	和合愛光園和合サテライト	—	2014年8月1日	静岡県浜松市	弓桁 智浩	15
障害福祉サービス事業	障害者支援施設みとす	40	1999年4月1日	静岡県浜松市	弓桁 智浩	10
障害福祉サービス事業	聖隷トライサポート和合	共生型	2019年8月1日	静岡県浜松市	金原 智恵	12
障害福祉サービス事業	聖隷チャレンジ工房和合	10	2012年3月15日	静岡県浜松市	小野 英之	10
障害福祉サービス事業	聖隷ヘルパーセンター	—	1997年4月1日	静岡県浜松市	白野 静香	7
障害福祉サービス事業	和合愛光園初生サテライト	—	2014年8月1日	静岡県浜松市	弓桁 智浩	12
障害福祉サービス事業	聖隷リハビリプラザIN高丘	40	2021年4月1日	静岡県浜松市	室谷 健吾	4
障害福祉サービス事業	聖隷厚生園信生寮	60	1993年4月1日	静岡県浜松市	村田 孝弘	38
障害福祉サービス事業	聖隷厚生園まじわりの家	6	2011年10月1日	静岡県浜松市	石川 明彦	7
障害福祉サービス事業	聖隷ヘルパーセンター浜松北	—	2012年7月1日	静岡県浜松市	中野 淳	4
障害福祉サービス事業	聖隷厚生園讃栄寮	4	1978年4月1日	静岡県浜松市	久保 範	40
障害福祉サービス事業	生活訓練事業所ナルド	10	2011年10月1日	静岡県浜松市	松田 好弘	7
障害福祉サービス事業	福祉共同住宅 ファーストステップ	13	2019年6月1日	静岡県浜松市	松田 好弘	1
障害福祉サービス事業	聖隷厚生園ナルド工房	10	2007年4月1日	静岡県浜松市	長谷川 展之	6
障害福祉サービス事業	聖隷チャレンジ工房浜松学園	10	2019年10月1日	静岡県浜松市	村田 孝弘	18
障害福祉サービス事業	聖隷ワース工房浜松学園	15	2022年4月1日	静岡県浜松市	山本 誠	5
障害福祉サービス事業	聖隷ステップサポート	20	2022年4月1日	静岡県浜松市	原 正子	5
障害福祉サービス事業	いなさ愛光園ヘルパーステーション	—	2017年11月1日	静岡県浜松市	上野 拓朗	1
障害福祉サービス事業	聖隷デイサービスセンター三方原	共生型	2018年10月1日	静岡県浜松市	柴本 千晶	4
障害福祉サービス事業	浜北愛光園	—	2013年1月1日	静岡県浜松市	平川 昌弘	96
障害福祉サービス事業	聖隷チャレンジ工房浜北	15	2014年4月1日	静岡県浜松市	後藤 里奈	12
障害福祉サービス事業	生活介護事業所きらめき	20	2019年4月1日	静岡県浜松市	—	—
障害福祉サービス事業	森町愛光園デイサービスセンター	基準該当	2017年4月1日	静岡県周智郡	高橋 等	7
障害福祉サービス事業	森町愛光園ホームヘルパーステーション	—	2016年7月1日	静岡県周智郡	高橋 等	2
障害福祉サービス事業	聖隷チャレンジ工房磐田	6	2017年4月10日	静岡県磐田市	中道 景	7
障害福祉サービス事業	浦安愛光園	—	2018年4月1日	千葉県浦安市	石川 智行	37
障害福祉サービス事業	浦安ベテルホーム	—	2018年9月1日	千葉県浦安市	大作 昌義	54
障害福祉サービス事業	松戸愛光園	—	2018年2月1日	千葉県松戸市	森井 正孝	67
障害福祉サービス事業	松戸愛光園デイサービスセンター	共生型	2019年2月1日	千葉県松戸市	森井 正孝	3
障害福祉サービス事業	横須賀愛光園	—	2019年1月1日	神奈川県横須賀市	深澤 庸一	53
障害福祉サービス事業	横須賀愛光園デイサービスセンター	共生型	2019年10月1日	神奈川県横須賀市	深澤 庸一	3
障害福祉サービス事業	聖隷ヘルパーステーション横須賀	—	2000年8月1日	神奈川県横須賀市	村上 理恵	4
障害福祉サービス事業	宝塚すみれ栄光園	—	2017年7月1日	兵庫県宝塚市	山田 精一	66
障害福祉サービス事業	宝塚すみれ栄光園 デイサービスセンター	共生型	2018年10月1日	兵庫県宝塚市	佐藤 瑞紀	5
障害福祉サービス事業	宝塚栄光園	—	2017年7月1日	兵庫県宝塚市	萬雲 房美	41
障害福祉サービス事業	聖隷ヘルパーステーション宝塚	—	1999年4月1日	兵庫県宝塚市	西本 祐介	11
障害福祉サービス事業	聖隷逆瀬台デイサービスセンター	基準該当	2017年10月1日	兵庫県宝塚市	西垣 真一	7
障害福祉サービス事業	花屋敷栄光園	—	2017年7月1日	兵庫県宝塚市	山野井 泰裕	70

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
障害福祉サービス事業	花屋敷デイサービスセンター	基準 該当	2017年10月1日	兵庫県宝塚市	山野井 泰裕	6
障害福祉サービス事業	聖隷ヘルパーステーション淡路	—	2012年4月1日	兵庫県淡路市	鷲尾 雅永	8
障害福祉サービス事業	奄美佳南園	—	1993年2月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	43
障害福祉サービス事業	奄美佳南園 デイサービスセンター	基準 該当	1993年2月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	6
障害福祉サービス事業	奄美佳南園 ホームヘルプ事業所	—	1993年2月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	3
障害福祉サービス事業	聖隷チャレンジ工房カナン	6	2017年4月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	2
障害福祉サービス事業	のぞみ園	25	2014年1月1日	鹿児島県奄美市	福崎 充	17
障害福祉サービス事業	聖隷かがやき	20	2016年6月1日	鹿児島県大島郡	赤塚 美穂子	11
障害福祉サービス事業	聖隷ヘルパーステーション藤沢	—	2011年5月1日	神奈川県藤沢市	與五澤 幸子	3
障害福祉サービス事業	ニッセイせいい在宅介護サービス センターベル西大和店	—	2006年10月1日	奈良県北葛城郡	山平 光子	5
障害福祉サービス事業	ニッセイエデンヘルパーステーション	—	2017年7月1日	千葉県松戸市	金子 宏美	4
地域活動支援センター	地域活動支援センターナルド (受託経営)	—	2003年4月1日	静岡県浜松市	白石 知代	2
地域活動支援センター	磐田市地域活動支援センター	—	2022年10月1日	静岡県磐田市	井上 佳子	3
無料又は低額診療事業	聖隷淡路病院	152	1999年12月1日	兵庫県淡路市	黒田 勝哉	184
無料又は低額診療事業	聖隷横浜病院	300	2003年3月1日	神奈川県横浜市	大内 基史	—
無料又は低額診療事業	聖隷佐倉市民病院	400	2004年3月1日	千葉県佐倉市	鈴木 理志	—
無料又は低額介護老人保健施設	三方原ベテルホーム	150	1991年5月1日	静岡県浜松市	浅井 八多美	82
無料又は低額介護老人保健施設	浦安ベテルホーム	100	2006年4月1日	千葉県浦安市	大作 昌義	54
障害児通所支援事業	児童発達支援センターひかりの子	15	2012年4月1日	静岡県浜松市	木部 哲也	9
障害児通所支援事業	聖隷こども発達支援センター和合	50	2023年9月1日	静岡県浜松市	井上 佳子	20
障害児通所支援事業	聖隷放課後クラブはなえみ森町	20	2017年4月1日	静岡県周智郡	望月 繕子	4
障害児通所支援事業	聖隷こども発達支援センターかるみあ	30	2013年10月1日	静岡県磐田市	藤井 麻由美	13
障害児通所支援事業	聖隷放課後クラブはなえみ磐田	10	2017年4月10日	静岡県磐田市	小野田 樹	7
障害児通所支援事業	磐田市発達支援センターはあと (受託経営)	—	2007年11月1日	静岡県磐田市	猪原 裕子	6
障害児通所支援事業	のぞみ園	25	2014年1月1日	鹿児島県奄美市	福崎 充	17
障害児通所支援事業	聖隷かがやき	20	2016年6月1日	鹿児島県大島郡	赤塚 美穂子	11
障害児通所支援事業	聖隷こども発達支援事業所 かるみあ富丘	10	2016年4月1日	静岡県磐田市	大塚 美美	5
一般相談支援事業	障害者相談支援事業所ナルド	—	2013年4月1日	静岡県浜松市	松田 好弘	7
特定相談支援事業	相談支援事業所おおぞら	—	2014年10月1日	静岡県浜松市	木部 哲也	3
特定相談支援事業	指定相談支援事業所くすのき	—	2012年4月1日	静岡県浜松市	古橋 清史	5
特定相談支援事業	障害者相談支援事業所ナルド	—	2012年4月1日	静岡県浜松市	松田 好弘	7
特定相談支援事業	障害者相談支援事業所浜松東	—	2007年4月1日	静岡県浜松市	都筑 雄一	2
特定相談支援事業	聖隷相談支援事業所磐田みなみ	—	2017年4月1日	静岡県磐田市	井上 佳子	2
特定相談支援事業	磐田市南部障害者相談支援センター	—	2019年4月1日	静岡県磐田市	井上 佳子	2
特定相談支援事業	障害者相談支援事業所 聖隷はぐみ浦安	—	2018年4月1日	千葉県浦安市	渡邊 亮介	1
特定相談支援事業	障害者相談支援事業所 聖隷はぐみ松戸	—	2017年5月1日	千葉県松戸市	森井 正孝	1
特定相談支援事業	障害者相談支援事業所 聖隷はぐみ花屋敷	—	2017年4月1日	兵庫県宝塚市	田口 勇夫	4
特定相談支援事業	のぞみ園	—	2014年4月1日	鹿児島県奄美市	福崎 充	17
特定相談支援事業	聖隷かがやき	—	2019年7月1日	鹿児島県大島郡	赤塚 美穂子	11
障害児相談支援事業	相談支援事業所おおぞら	—	2014年10月1日	静岡県浜松市	木部 哲也	3

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
障害児相談支援事業	指定相談支援事業所くすのき	—	2015年4月1日	静岡県浜松市	古橋 清史	5
障害児相談支援事業	障害者相談支援事業所ナルド	—	2012年6月1日	静岡県浜松市	松田 好弘	7
障害児相談支援事業	浜松市障害者相談支援事業所浜松東	—	2013年9月1日	静岡県浜松市	都筑 雄一	2
障害児相談支援事業	聖隷相談支援事業所磐田みなみ	—	2017年4月1日	静岡県磐田市	井上 佳子	2
障害児相談支援事業	磐田市南部障害者相談支援センター	—	2019年4月1日	静岡県磐田市	井上 佳子	2
障害児相談支援事業	障害者相談支援事業所 聖隷はぐくみ浦安	—	2018年4月1日	千葉県浦安市	渡邊 亮介	1
障害児相談支援事業	障害者相談支援事業所 聖隷はぐくみ松戸	—	2017年5月1日	千葉県松戸市	森井 正孝	1
障害児相談支援事業	障害者相談支援事業所 聖隷はぐくみ花屋敷	—	2017年4月1日	兵庫県宝塚市	田口 勇夫	4
障害児相談支援事業	のぞみ園	—	2014年4月1日	鹿児島県奄美市	福崎 充	17
障害児相談支援事業	聖隷かがやき	—	2019年7月1日	鹿児島県大島郡	赤塚 美穂子	11
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園夢舞台	120	2017年4月1日	兵庫県淡路市	中野 理恵	22
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園わかば	206	1966年11月1日	静岡県浜松市	加藤 可織	24
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園桜ヶ丘	190	1975年4月1日	静岡県浜松市	太田 康子	17
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園ひかりの子	235	1976年4月1日	静岡県浜松市	岡田 絵里子	22
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園めぐみ	166	2017年4月1日	静岡県浜松市	富永 裕美	29
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園こうのとり東	215	1978年4月1日	静岡県磐田市	大塚 麻紀子	22
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園こうのとり豊田	155	2011年4月1日	静岡県磐田市	平野 春江	18
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園こうのとり富丘	129	2020年4月1日	静岡県磐田市	二村 郁枝	23
病児保育事業	聖隷こども園夢舞台	3	2019年1月1日	兵庫県淡路市	中野 理恵	22
病児保育事業	聖隷こども園わかば	4	2015年4月1日	静岡県浜松市	加藤 可織	24
病児保育事業	聖隷こども園めぐみ	4	2017年4月1日	静岡県浜松市	富永 裕美	29
病児保育事業	こうのとり保育園	6	2015年4月1日	静岡県磐田市	梶山 美里	17
病児保育事業	聖隷こども園こうのとり東	4	2015年4月1日	静岡県磐田市	大塚 麻紀子	22
病児保育事業	聖隷こども園こうのとり富丘	4	2020年4月1日	静岡県磐田市	二村 郁枝	23
放課後児童健全育成事業	オーリーブ(聖隷こども園こうのとり東)	—	2015年4月1日	静岡県磐田市	大塚 麻紀子	22
放課後児童健全育成事業	野上あゆみ保育園	19	2014年6月1日	兵庫県宝塚市	小南 律子	20
子育て援助活動支援事業	磐田市子育て支援総合センター 「のびのび」	—	2003年7月1日	静岡県磐田市	井上 佳子	2
小規模保育所	聖隷のあ保育園	19	2019年4月1日	静岡県浜松市	石川 綾乃	6
複合型サービス福祉事業	聖隷看護小規模多機能横須賀	25	2023年4月1日	神奈川県横須賀市	樋口 範子	6

【公益事業】

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
医療施設	聖隷浜松病院	750	1962年3月5日	静岡県浜松市	岡 俊明	2,168
医療施設	浜松市リハビリテーション病院 (受託経営)	225	2008年4月1日	静岡県浜松市	昆 博之	439
医療施設	袋井市立聖隷袋井市民病院 (受託経営)	150	2013年5月1日	静岡県袋井市	林 泰広	186
医療施設	聖隷浜松病院附属診療所 聖隷健康診断センター	—	1975年5月16日	静岡県浜松市	武藤 繁貴	186
医療施設	診療所聖隷予防検診センター	11	1987年4月1日	静岡県浜松市	森 厚嘉	122
医療施設	聖隷健康サポートセンター <i>Shizuoka</i>	—	2010年4月1日	静岡県静岡市	鈴木 美香	139
医療施設	聖隷静岡健診クリニック	—	2013年4月1日	静岡県静岡市	鈴木 美香	20
医療施設	地域・企業健診センター	—	2008年1月1日	静岡県静岡市	鳥羽山 滋生	152
医療施設	聖隷健康診断センター 東伊場クリニック	—	2023年5月1日	静岡県浜松市	丹羽 宏	13

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
医療施設	浜名湖エデンの園診療所	—	2000年3月15日	静岡県浜松市	日置 弥之	3
医療施設	宝塚エデンの園附属診療所	19	1979年4月1日	兵庫県宝塚市	飯田 俊博	13
医療施設	油壺エデンの園附属診療所	15	1986年11月1日	神奈川県三浦市	渡邊 弘美	12
医療施設	ニッセイ聖隷クリニック	19	1992年3月18日	奈良県北葛城郡	山本 章雄	25
医療施設	松戸ニッセイ聖隷クリニック	19	1997年3月1日	千葉県松戸市	山田 好則	23
医療施設	聖隷クリニック南大沢	—	1996年6月1日	東京都八王子市	宮城島 正行	5
有料老人ホーム	結いホーム宝塚	100	2013年11月1日	兵庫県宝塚市	中原 純平	38
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 浜名湖エデンの園	519	1973年5月1日	静岡県浜松市	溝口 壱	109
有料老人ホーム	ウエル・エイジング・コミュニティ 宝塚エデンの園	551	1979年4月1日	兵庫県宝塚市	請川 哲也	76
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 松山エデンの園	169	1980年6月20日	愛媛県松山市	橋本 美穂	38
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 油壺エデンの園	550	1986年11月1日	神奈川県三浦市	草間 千佳子	91
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 浦安エデンの園	324	2007年7月1日	千葉県浦安市	安達 美由紀	49
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 横浜エデンの園	50	2010年4月1日	神奈川県横浜市	小久保 ゆき	39
有料老人ホーム	住宅型有料老人ホーム 藤沢エデンの園一番館	418	2011年4月1日	神奈川県藤沢市	高塚 由紀子	26
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 藤沢エデンの園二番館	54	2011年4月1日	神奈川県藤沢市	江口 洋	30
有料老人ホーム	ウエル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園	598	1992年4月1日	奈良県北葛城郡	枅田 悦弘	86
有料老人ホーム	ウエル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園	456	1997年3月1日	千葉県松戸市	臼井 健太	83
有料老人ホーム	ケア付き高齢者住宅 「明日見らいふ南大沢」(運営受託)	482	1996年6月1日	東京都八王子市	鈴木 直弘	82
地域における公的介護施設等の 計画的な整備等の促進に関する 法律第2条に規定する特定民間施設	ウエル・エイジング・コミュニティ 宝塚エデンの園	551	1996年7月22日	兵庫県宝塚市	請川 哲也	76
地域における公的介護施設等の 計画的な整備等の促進に関する 法律第2条に規定する特定民間施設	高齢者総合福祉センター	—	2000年10月1日	兵庫県宝塚市	袴田 直樹	1
地域における公的介護施設等の 計画的な整備等の促進に関する 法律第2条に規定する特定民間施設	ウエル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園	598	1992年4月1日	奈良県北葛城郡	枅田 悦弘	86
地域における公的介護施設等の 計画的な整備等の促進に関する 法律第2条に規定する特定民間施設	高齢者総合福祉センター	—	1992年4月1日	奈良県北葛城郡	枅田 悦弘	5
地域における公的介護施設等の 計画的な整備等の促進に関する 法律第2条に規定する特定民間施設	ニッセイせいい在宅介護サービス センターベル西大和店	—	1992年4月1日	奈良県北葛城郡	山平 光子	5
地域における公的介護施設等の 計画的な整備等の促進に関する 法律第2条に規定する特定民間施設	ウエル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園	456	1997年3月1日	千葉県松戸市	臼井 健太	83
地域における公的介護施設等の 計画的な整備等の促進に関する 法律第2条に規定する特定民間施設	高齢者総合福祉センター	—	1997年4月1日	千葉県松戸市	臼井 健太	2
地域における公的介護施設等の 計画的な整備等の促進に関する 法律第2条に規定する特定民間施設	ニッセイエデンヘルパーステーション	—	1998年10月1日	千葉県松戸市	金子 宏美	4
医療施設、福祉サービス及び介護保険の 事業への業務支援・指導の事業	ウエル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園	598	1992年4月1日	奈良県北葛城郡	枅田 悦弘	86
医療施設、福祉サービス及び介護保険の 事業への業務支援・指導の事業	高齢者総合福祉センター	—	1992年4月1日	奈良県北葛城郡	枅田 悦弘	5
医療施設、福祉サービス及び介護保険の 事業への業務支援・指導の事業	ニッセイ聖隷クリニック	19	1992年3月18日	奈良県北葛城郡	山本 章雄	25
医療施設、福祉サービス及び介護保険の 事業への業務支援・指導の事業	奈良ベテルホーム	116	1992年4月17日	奈良県北葛城郡	井上 國晴	57
医療施設、福祉サービス及び介護保険の 事業への業務支援・指導の事業	ニッセイせいい在宅介護サービス センターベル西大和店	—	1992年4月1日	奈良県北葛城郡	山平 光子	5
医療施設、福祉サービス及び介護保険の 事業への業務支援・指導の事業	訪問看護ステーション西大和	—	1994年6月15日	奈良県北葛城郡	林 弘美	4
医療施設、福祉サービス及び介護保険の 事業への業務支援・指導の事業	ニッセイせいいケアプランセンター 西大和	—	2000年4月1日	奈良県北葛城郡	松田 俊恵	7
医療施設、福祉サービス及び介護保険の 事業への業務支援・指導の事業	ウエル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園	456	1997年3月1日	千葉県松戸市	臼井 健太	83
医療施設、福祉サービス及び介護保険の 事業への業務支援・指導の事業	高齢者総合福祉センター	—	1997年4月1日	千葉県松戸市	臼井 健太	2
医療施設、福祉サービス及び介護保険の 事業への業務支援・指導の事業	松戸ニッセイ聖隷クリニック	19	1997年3月1日	千葉県松戸市	山田 好則	23

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
医療施設、福祉サービス及び介護保険の事業への業務支援・指導の事業	ニッセイエデンヘルパーステーション	—	1998年10月1日	千葉県松戸市	金子 宏美	4
ケア付き高齢者住宅	ケア付き高齢者住宅「明日見らいふ南大沢」(運営受託)	482	1996年6月1日	東京都八王子市	鈴木 直弘	82
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	せいいい訪問看護ステーション横浜	—	2003年4月1日	神奈川県横浜市	酒井 志乃	8
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	せいいい訪問看護ステーション佐倉	—	2010年1月1日	千葉県佐倉市	竹澤 英恵	8
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	訪問看護ステーション住吉	—	1993年1月18日	静岡県浜松市	山口 美津子	18
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	訪問看護ステーション高丘	—	1997年11月1日	静岡県浜松市	水野 彰子	9
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	訪問看護ステーション住吉第二	—	2012年7月1日	静岡県浜松市	松下 麻里子	—
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	訪問看護ステーション細江	—	1995年3月1日	静岡県浜松市	尾田 優美子	9
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	訪問看護ステーション三方原	—	2011年3月15日	静岡県浜松市	藤野 有美子	9
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション三ヶ日	—	2020年10月1日	静岡県浜松市	伊藤 純子	4
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	訪問看護ステーション貴布祢	—	1997年2月1日	静岡県浜松市	松下 麻里子	8
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	訪問看護ステーション浅田	—	1995年10月1日	静岡県浜松市	河合 希代美	9
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション浦安	—	2016年3月1日	千葉県浦安市	垣野内 恵子	6
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション横須賀	—	1998年11月1日	神奈川県横須賀市	亀田 由美子	3
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション宝塚	—	1995年10月1日	兵庫県宝塚市	黒田 千晶	13
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション山本	—	2012年11月1日	兵庫県宝塚市	樋口 智恵子	13
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション北神戸	—	1997年5月1日	兵庫県神戸市	伊藤 由美子	10
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション淡路	—	2000年3月1日	兵庫県淡路市	鷲尾 雅永	15
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション富丘	—	2020年4月1日	静岡県磐田市	工藤 成美	4
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション藤沢	—	2011年4月1日	神奈川県藤沢市	米倉 直美	7
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	訪問看護ステーション西大和	—	1994年6月15日	奈良県北葛城郡	林 弘美	4
高齢者生活支援ハウス	やまぶき(受託経営)	5	1999年4月1日	静岡県浜松市	弓桁 智浩	1
居宅介護支援事業	せいいいケアプランセンター佐倉	—	2019年6月1日	千葉県佐倉市	金子 綾子	4
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター和	—	2007年2月1日	静岡県浜松市	紋谷 めぐみ	7
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター浜松	—	2000年4月1日	静岡県浜松市	市原 夏織	5
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター細江	—	2000年4月1日	静岡県浜松市	澤田石 理恵	3
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンターいなさ	—	2000年4月1日	静岡県浜松市	上野 拓朗	5
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター三ヶ日	—	2023年4月1日	静岡県浜松市	加藤 勇	4
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター三方原	—	2011年3月15日	静岡県浜松市	深澤 和弘	4
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター浜北	—	2000年4月1日	静岡県浜松市	鈴木 響子	5
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター森町	—	2000年4月1日	静岡県周智郡	高橋 等	5
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター浅田	—	2016年10月1日	静岡県浜松市	牧野 光子	4
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター浦安	—	2011年6月1日	千葉県浦安市	—	—
居宅介護支援事業	松戸愛光園ケアプランセンター	—	2004年4月1日	千葉県松戸市	森井 正孝	4
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター横須賀	—	2000年4月1日	神奈川県横須賀市	亀田 由美子	3
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンターすみれ	—	2014年10月1日	兵庫県宝塚市	高松 英理	7
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター宝塚	—	2000年4月1日	兵庫県宝塚市	大浦 有紀子	7
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター花屋敷	—	2003年10月1日	兵庫県宝塚市	筒井 裕美	8
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター北神戸	—	2000年4月1日	兵庫県神戸市	伊藤 由美子	3
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター淡路	—	2010年5月1日	兵庫県淡路市	新箭 幸平	8

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
居宅介護等事業	聖隷ケアプランセンター淡路第二	—	2016年10月1日	兵庫県淡路市	—	—
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター藤沢	—	2011年3月1日	神奈川県藤沢市	坂井 あかね	4
居宅介護支援事業	ニッセイせいいいケアプランセンター西大和	—	2000年4月1日	奈良県北葛城郡	松田 俊恵	7
訪問入浴介護事業	奄美佳南園訪問入浴事業所	—	2000年4月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	—
福祉用具貸与事業	聖隷コミュニティケアセンター	—	2000年4月1日	静岡県浜松市	林 俊之	13
福祉用具貸与事業	聖隷コミュニティケアセンター宝塚店	—	2000年10月1日	兵庫県宝塚市	藤井 謙太郎	5
福祉用具貸与事業	ニッセイせいいい在宅介護サービスセンターベル西大和店	—	2000年4月1日	奈良県北葛城郡	山平 光子	5
特定福祉用具販売事業	聖隷コミュニティケアセンター	—	1990年4月1日	静岡県浜松市	林 俊之	13
特定福祉用具販売事業	聖隷コミュニティケアセンター宝塚店	—	2000年10月1日	兵庫県宝塚市	藤井 謙太郎	5
特定福祉用具販売事業	ニッセイせいいい在宅介護サービスセンターベル西大和店	—	2000年4月1日	奈良県北葛城郡	山平 光子	5
特定介護予防福祉用具販売事業	聖隷コミュニティケアセンター	—	2006年4月1日	静岡県浜松市	林 俊之	13
特定介護予防福祉用具販売事業	聖隷コミュニティケアセンター宝塚店	—	2006年4月1日	兵庫県宝塚市	藤井 謙太郎	5
特定介護予防福祉用具販売事業	ニッセイせいいい在宅介護サービスセンターベル西大和店	—	2006年4月1日	奈良県北葛城郡	山平 光子	5
居宅療養管理指導事業	聖隷三方原病院	—	2000年4月1日	静岡県浜松市	山本 貴道	—
訪問看護事業	聖隷三方原病院	—	2000年4月1日	静岡県浜松市	山本 貴道	—
特定施設入居者生活介護事業	ケアハウス宝塚	70	2014年4月1日	兵庫県宝塚市	山田 精一	36
特定施設入居者生活介護事業	結いホーム宝塚	100	2013年11月1日	兵庫県宝塚市	中原 純平	38
特定施設入居者生活介護事業	介護付有料老人ホーム浜名湖エデンの園	519	2000年4月1日	静岡県浜松市	溝口 壱	109
特定施設入居者生活介護事業	ウェル・エイジング・コミュニティ宝塚エデンの園	551	2000年4月1日	兵庫県宝塚市	請川 哲也	76
特定施設入居者生活介護事業	介護付有料老人ホーム松山エデンの園	169	2000年4月1日	愛媛県松山市	橋本 美穂	38
特定施設入居者生活介護事業	介護付有料老人ホーム油壺エデンの園	550	2000年4月1日	神奈川県三浦市	草間 千佳子	91
特定施設入居者生活介護事業	介護付有料老人ホーム浦安エデンの園	324	2007年7月1日	千葉県浦安市	安達 美由紀	49
特定施設入居者生活介護事業	介護付有料老人ホーム横浜エデンの園	50	2010年4月1日	神奈川県横浜市	小久保 ゆき	39
特定施設入居者生活介護事業	介護付有料老人ホーム藤沢エデンの園二番館	54	2011年4月1日	神奈川県藤沢市	江口 洋	30
特定施設入居者生活介護事業	ウェル・エイジング・プラザ奈良ニッセイエデンの園	598	2000年4月1日	奈良県北葛城郡	枅田 悦弘	86
特定施設入居者生活介護事業	ウェル・エイジング・プラザ松戸ニッセイエデンの園	456	2000年4月1日	千葉県松戸市	臼井 健太	83
特定施設入居者生活介護事業	ケア付き高齢者住宅「明日見らいふ南大沢」(運営受託)	482	2000年4月1日	東京都八王子市	鈴木 直弘	82
地域包括支援センター	地域包括支援センター和合(受託経営)	—	2006年4月1日	静岡県浜松市	松山 美津代	4
地域包括支援センター	地域包括支援センター高丘(受託経営)	—	2012年10月1日	静岡県浜松市	石田 真規子	6
地域包括支援センター	地域包括支援センター細江(受託経営)	—	2006年4月1日	静岡県浜松市	前田 知恵美	7
地域包括支援センター	地域包括支援センター北浜(受託経営)	—	2007年4月1日	静岡県浜松市	鈴木 勇太	6
地域包括支援センター	磐田市南部地域包括支援センター(受託経営)	—	2019年4月1日	静岡県磐田市	松下 由紀	4
地域包括支援センター	浦安市高洲地域包括支援センター(受託経営)	—	2016年4月1日	千葉県浦安市	浅地 香織	5
地域包括支援センター	西第二地域包括支援センター(受託経営)	—	2008年4月1日	神奈川県横須賀市	深澤 庸一	5
地域包括支援センター	逆瀬川地域包括支援センター(受託経営)	—	2007年4月1日	兵庫県宝塚市	森川 亜矢子	9
地域包括支援センター	花屋敷地域包括支援センター(受託経営)	—	2006年4月1日	兵庫県宝塚市	大浦 幸生	8
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	三方原ベテルホーム	—	2000年4月1日	静岡県浜松市	浅井 八多美	—
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷淡路病院	—	2014年4月1日	兵庫県淡路市	黒田 勝哉	—
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	せいいい訪問看護ステーション横浜	—	2003年4月1日	神奈川県横浜市	酒井 志乃	8
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	せいいい訪問看護ステーション佐倉	—	2010年1月1日	千葉県佐倉市	竹澤 英恵	8

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	浜松市リハビリテーション病院	—	2017年10月1日	静岡県浜松市	昆 博之	—
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷袋井市民病院	—	2019年4月1日	静岡県袋井市	林 泰広	—
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	和合愛光園特別養護老人ホーム	20	2006年4月1日	静岡県浜松市	弓桁 智浩	88
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	和合愛光園和合サテライト	—	2014年4月1日	静岡県浜松市	弓桁 智浩	15
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷トライサポート和合	40	2006年4月1日	静岡県浜松市	金原 智恵	12
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	和合愛光園デイサービスセンター	62	2006年4月1日	静岡県浜松市	金原 智恵	9
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷ヘルパーセンター	—	2006年4月1日	静岡県浜松市	白野 静香	7
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	訪問看護ステーション住吉	—	2006年4月1日	静岡県浜松市	山口 美津子	18
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	和合愛光園初生サテライト	—	2012年4月1日	静岡県浜松市	弓桁 智浩	12
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷デイサービスセンター初生	50	2006年4月1日	静岡県浜松市	浅地 嘉紀	5
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	訪問看護ステーション高丘	—	2006年4月1日	静岡県浜松市	水野 彰子	9
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷リハビリプラザIN高丘	65	2007年4月1日	静岡県浜松市	室谷 健吾	4
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	訪問看護ステーション住吉第二	—	2012年4月1日	静岡県浜松市	松下 麻里子	—
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	訪問看護ステーション細江	—	2006年4月1日	静岡県浜松市	尾田 優美子	9
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷ヘルパーセンター浜松北	—	2012年7月1日	静岡県浜松市	中野 淳	4
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	いなさ愛光園 特別養護老人ホーム	20	2006年4月1日	静岡県浜松市	上野 拓朗	71
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	いなさ愛光園デイサービスセンター	45	2006年4月1日	静岡県浜松市	上野 拓朗	7
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	いなさ愛光園ヘルパーステーション	—	2006年4月1日	静岡県浜松市	上野 拓朗	1
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	ほのぼのケアガーデン	—	2006年4月1日	静岡県浜松市	上野 拓朗	6
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷リハビリプラザいなさ	35	2015年10月1日	静岡県浜松市	村上 和文	5
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	訪問看護ステーション三方原	—	2011年3月15日	静岡県浜松市	藤野 有美子	9
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷デイサービスセンター三方原	65	2011年3月15日	静岡県浜松市	柴本 千晶	4
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷訪問看護ステーション三ヶ日	—	2020年10月1日	静岡県浜松市	伊藤 純子	4
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	浜北愛光園 特別養護老人ホーム	40	2006年4月1日	静岡県浜松市	平川 昌弘	96
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	浜北愛光園 デイサービスセンター	40	2006年4月1日	静岡県浜松市	平川 昌弘	5
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	訪問看護ステーション貴布祢	—	2006年4月1日	静岡県浜松市	松下 麻里子	8
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	森町愛光園 特別養護老人ホーム	12	2006年4月1日	静岡県周智郡	高橋 等	45
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	森町愛光園 デイサービスセンター	42	2006年4月1日	静岡県周智郡	高橋 等	7
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	森町愛光園 ホームヘルパーステーション	—	2006年4月1日	静岡県周智郡	高橋 等	2
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	森町愛光園天宮サテライト	—	2012年4月1日	静岡県周智郡	高橋 等	12
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	訪問看護ステーション浅田	—	2006年4月1日	静岡県浜松市	河合 希代美	9
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	浦安市特別養護老人ホーム	50	2006年4月1日	千葉県浦安市	副島 克行	75
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	浦安市高洲高齢者 デイサービスセンター	25	2006年4月1日	千葉県浦安市	副島 克行	3
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	浦安市猫実高齢者 デイサービスセンター	25	2006年4月1日	千葉県浦安市	副島 克行	3
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	浦安愛光園	—	2006年4月1日	千葉県浦安市	石川 智行	37
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	浦安ベテルホーム	—	2006年4月1日	千葉県浦安市	大作 昌義	54
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷訪問看護ステーション浦安	—	2016年3月1日	千葉県浦安市	垣野内 恵子	6
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	松戸愛光園 特別養護老人ホーム	21	2006年4月1日	千葉県松戸市	森井 正孝	67
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	松戸愛光園 デイサービスセンター	34	2006年4月1日	千葉県松戸市	森井 正孝	3
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	横須賀愛光園 特別養護老人ホーム	16	2006年4月1日	神奈川県横須賀市	深澤 庸一	53

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	横須賀愛光園 デイサービスセンター	30	2006年4月1日	神奈川県横須賀市	深澤 庸一	3
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷ヘルパーステーション横須賀	—	2006年4月1日	神奈川県横須賀市	村上 理恵	4
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷訪問看護ステーション横須賀	—	2006年4月1日	神奈川県横須賀市	亀田 由美子	3
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	宝塚すみれ栄光園 特別養護老人ホーム	20	2014年4月1日	兵庫県宝塚市	山田 精一	66
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	宝塚すみれ栄光園 デイサービスセンター	30	2014年10月1日	兵庫県宝塚市	佐藤 瑞紀	5
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	ケアハウス宝塚	70	2014年4月1日	兵庫県宝塚市	山田 精一	36
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	結いホーム宝塚	100	2013年11月1日	兵庫県宝塚市	中原 純平	38
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	宝塚栄光園	15	2006年4月1日	兵庫県宝塚市	萬雲 房美	41
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷ヘルパーステーション宝塚	—	2006年4月1日	兵庫県宝塚市	西本 祐介	11
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷逆瀬川デイサービスセンター	40	2006年4月1日	兵庫県宝塚市	植田 仁秀	5
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷訪問看護ステーション宝塚	—	2006年4月1日	兵庫県宝塚市	黒田 千晶	13
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷逆瀬台デイサービスセンター	40	2006年4月1日	兵庫県宝塚市	西垣 真一	7
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷デイサービスセンターあゆむ	12	2010年10月1日	兵庫県宝塚市	西垣 真一	2
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷デイサービスセンター結い	18	2013年6月3日	兵庫県宝塚市	高風 玲太	3
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	花屋敷栄光園 特別養護老人ホーム	12	2006年4月1日	兵庫県宝塚市	山野井 泰裕	70
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	花屋敷デイサービスセンター	59	2006年4月1日	兵庫県宝塚市	山野井 泰裕	6
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷訪問看護ステーション山本	—	2012年11月1日	兵庫県宝塚市	樋口 智恵子	13
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷訪問看護ステーション北神戸	—	2006年4月1日	兵庫県神戸市	伊藤 由美子	10
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷カーネーションホーム	16	2014年4月1日	兵庫県淡路市	田村 健	32
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷カーネーションホーム デイサービスセンター	37	2014年4月1日	兵庫県淡路市	田村 健	2
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	淡路栄光園	19	2006年4月1日	兵庫県淡路市	山浦 真佳	34
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	淡路栄光園デイサービスセンター	35	2006年4月1日	兵庫県淡路市	山浦 真佳	2
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷訪問看護ステーション淡路	—	2006年4月1日	兵庫県淡路市	鷺尾 雅永	15
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷ヘルパーステーション淡路	—	2012年4月1日	兵庫県淡路市	鷺尾 雅永	8
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷ライフサポート津名	25	2020年4月1日	兵庫県淡路市	澤田 卓也	3
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	奄美佳南園 特別養護老人ホーム	10	2006年4月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	43
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	奄美佳南園 デイサービスセンター	20	2006年4月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	6
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	奄美佳南園 ホームヘルプ事業所	—	2006年4月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	3
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	奄美佳南園 訪問入浴事業所	—	2006年4月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	1
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	奄美佳南園春日デイサービスセンター	15	2006年4月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	—
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷訪問看護ステーション富丘	—	2020年4月1日	静岡県磐田市	工藤 成美	4
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	介護付有料老人ホーム 浜名湖エデンの園	519	2006年4月1日	静岡県浜松市	溝口 壺	109
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	ウェル・エイジング・コミュニティ 宝塚エデンの園	551	2006年4月1日	兵庫県宝塚市	請川 哲也	76
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	介護付有料老人ホーム 松山エデンの園	169	2006年4月1日	愛媛県松山市	橋本 美穂	38
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	介護付有料老人ホーム 油壺エデンの園	550	2006年4月1日	神奈川県三浦市	草間 千佳子	91
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	介護付有料老人ホーム 浦安エデンの園	324	2007年7月1日	千葉県浦安市	安達 美由紀	49
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	介護付有料老人ホーム 横浜エデンの園	50	2010年4月1日	神奈川県横浜市	小久保 ゆき	39
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	介護付有料老人ホーム 藤沢エデンの園二番館	54	2011年4月1日	神奈川県藤沢市	江口 洋	30
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷訪問看護ステーション藤沢	—	2011年4月1日	神奈川県藤沢市	米倉 直美	7
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷ヘルパーステーション藤沢	—	2011年4月1日	神奈川県藤沢市	與五澤 幸子	3

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	ウェル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園	598	2006年4月1日	奈良県北葛城郡	枅田 悦弘	86
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	奈良ベテルホーム	116	2006年4月1日	奈良県北葛城郡	井上 國晴	57
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	ニッセイせいい在宅介護サービス センターベル西大和店	—	2006年4月1日	奈良県北葛城郡	山平 光子	5
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	訪問看護ステーション西大和	—	2006年4月1日	奈良県北葛城郡	林 弘美	4
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	ウェル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園	456	2006年4月1日	千葉県松戸市	臼井 健太	83
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	ニッセイエデンヘルパーステーション	—	2006年4月1日	千葉県松戸市	金子 宏美	4
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	ケア付き高齢者住宅 「明日見らいふ南大沢」(運営受託)	482	2006年4月1日	東京都八王子市	鈴木 直弘	82
障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律の規定に基づく市町村地域生活支援事業	浜松市中障がい者相談支援センター (受託経営)	—	2020年4月1日	静岡県浜松市	藤川 晴海	4
障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律の規定に基づく市町村地域生活支援事業	宝塚市高齢者・障害者権利擁護支援 センター	—	2021年4月1日	兵庫県宝塚市	古結 智	3
社会福祉の増進に資する人材の育成・確保に関する事業	法人本部	—	2007年4月1日	静岡県浜松市	青木 善治	114
身体障害者向け住宅の事業	聖隷厚生園信生寮(シオンハウス)	5	1992年10月1日	静岡県浜松市	村田 孝弘	1
事業所内保育所	聖隷浜松病院ひばり保育園	200	2015年4月1日	静岡県浜松市	森下 美由紀	28
浜松市生活困窮者 自立促進支援モデル事業	浜松市生活自立相談支援センター つながり(受託事業)	—	2014年4月1日	静岡県浜松市	青柳 雄大	11
無料職業紹介事業	浜松市生活自立相談支援センター つながり(受託事業)	—	2014年4月1日	静岡県浜松市	青柳 雄大	11
訪問リハビリテーションの事業	三方原ベテルホーム	—	2020年4月1日	静岡県浜松市	浅井 八多美	82
訪問リハビリテーションの事業	聖隷淡路病院	—	2019年4月1日	兵庫県淡路市	黒田 勝哉	6
訪問リハビリテーションの事業	浜松市リハビリテーション病院	—	2017年10月1日	静岡県浜松市	昆 博之	—
訪問リハビリテーションの事業	聖隷袋井市民病院	—	2019年4月1日	静岡県袋井市	林 泰広	—
訪問リハビリテーションの事業	浦安ベテルホーム	—	2022年6月1日	千葉県浦安市	大作 昌義	54
訪問リハビリテーションの事業	奈良ベテルホーム	—	2018年10月1日	奈良県北葛城郡	井上 國晴	57
通所リハビリテーションの事業	三方原ベテルホーム	50	2000年4月1日	静岡県浜松市	浅井 八多美	82
通所リハビリテーションの事業	浜松市リハビリテーション病院	54	2019年4月1日	静岡県浜松市	昆 博之	—
通所リハビリテーションの事業	浦安ベテルホーム	45	2006年4月1日	千葉県浦安市	大作 昌義	54
通所リハビリテーションの事業	奈良ベテルホーム	47	2006年4月1日	奈良県北葛城郡	井上 國晴	57
短期入所療養介護事業	三方原ベテルホーム	—	2000年4月1日	静岡県浜松市	浅井 八多美	82
短期入所療養介護事業	浦安ベテルホーム	—	2006年4月1日	千葉県浦安市	大作 昌義	54
短期入所療養介護事業	奈良ベテルホーム	116	1992年4月17日	奈良県北葛城郡	井上 國晴	57

【収益事業】

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
貸事務所	法人本部	—	2005年1月1日	静岡県浜松市	青木 善治	114

社会福祉法人 聖隷福祉事業団 役員名簿

	氏 名	役 職 名
理事長	青木 善治	代表執行役員 (公財) ニッセイ聖隷健康福祉財団会長 (一財) 芙蓉協会理事長 (一財) 恵愛会理事長 (学) 聖隷学園理事
理事	岡 俊明	専務執行役員・聖隷浜松病院院長 (学) 聖隷学園理事
理事	鎌田 裕子	常務執行役員・人事企画部長 (福) さくま理事 (公財) ニッセイ聖隷健康福祉財団評議員 (一財) 日本老人福祉財団評議員 (一財) 恵愛会評議員 (福) 松溪
理事	服部 東洋男	常務執行役員・総合情報システム部長 (一財) 芙蓉協会評議員 (一財) 恵愛会理事 (福) 十字の園評議員
理事	彦坂 浩史	常務執行役員・総務部長 (医) 聖愛会常務理事 (一財) 恵愛会理事 (一財) 日本老人福祉財団理事 (公財) ニッセイ聖隷健康福祉財団理事 (福) 小羊学園評議員
理事	平川 健二	常務執行役員・高齢者公益事業部長 (公財) ニッセイ聖隷健康福祉財団常務理事 (一財) 日本老人福祉財団理事 (医) 聖愛会評議員
理事	福田 崇典	常務執行役員・医師キャリア支援センター長 (一財) 芙蓉協会評議員 (一財) 恵愛会評議員
理事	山本 貴道	専務執行役員・聖隷三方原病院院長 (学) 聖隷学園理事

理事会 開催日

4月 14日
4月 28日
5月 12日
5月 26日
6月 2日
6月 23日
7月 7日
7月 21日
8月 4日
8月 25日
9月 8日
9月 29日
10月 13日
10月 27日
11月 10日
11月 24日
12月 15日
1月 12日
1月 26日
2月 9日
3月 1日
3月 8日
3月 22日

	氏 名	役 職 名
監事	白木 政幸	
監事	鈴木 睦明	(一財) 日本老人福祉財団監事
監事	津幡 佳伸	(福) 松溪会理事長 (福) 神戸聖隷福祉事業団評議員 (福) 十字の園理事
監事	松下 秀也	

社会福祉法人 聖隷福祉事業団 評議員名簿

	氏 名	役 職 名
評議員	伊藤 孝	一般財団法人芙蓉協会副理事長・聖隷沼津病院院長
評議員	内山 勝徳	浜松商工会議所理事・総務企画部長
評議員	大石 一雄	社会福祉法人さくま監事
評議員	小口 明彦	一般財団法人日本老人福祉財団理事長
評議員	小野田 全宏	特定非営利法人静岡県ボランティア協会理事長
評議員	小里 俊幸	一般財団法人恵愛会副理事長・聖隷富士病院院長
評議員	小林 信昭	東京海上日動バスターライフサービス株式会社代表取締役社長
評議員	小柳 守弘	学校法人聖隷学園専務理事・法人事務局長
評議員	鈴木 貴之	公益財団法人ニッセイ聖隷健康福祉財団常務理事
評議員	豊田 泰輔	スズキ株式会社 常勤監査役

評議員会 開催日

6月 23日
10月 27日
3月 22日

(2024年3月31日時点・五十音順)

附属明細書

該当ありません。